

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和8年3月

前橋市

目次

I	調査概要	1
II	調査結果	3
1	あなたの基本的な事柄について	3
(1)	性別	3
(2)	年齢	4
(3)	職業	5
(4)	婚姻状況	6
(5)	パートナーの職業	7
(6)	世帯状況	9
(7)	こどもの有無	10
(8)	こどもの人数	10
2	男女平等について	11
(1)	今の生活や社会の状況に関する意識	11
3	結婚・家庭生活について	20
(1)	結婚に関する考え方	20
(2)	「男は仕事、女は家庭」という考え方	33
(3)	こどもの頃の家庭内の状況	36
(4)	家庭内の役割分担の現状	38
4	子育て・介護について	51
(1)	男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得への意識	51
(2)	男性が育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない理由	55
(3)	男性の介護休業、介護休暇等取得への意識	57
(4)	男性が介護休業、介護休暇等を取得しない理由	61
(5)	男性が参加するのに必要なこと	63
5	職業や働き方について	67
(1)	女性の働き方の意識	67
(2)	女性が働く上で、問題となること	70
(3)	進路・職業選択の際の性別意識	73
(4)	職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと	75

(5) 職場での男女差について.....	79
(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況.....	85
(7) 職場で、女性管理職への登用に必要なこと.....	87
(8) 就労意向.....	90
6 女性の社会参画について.....	93
(1) 女性の社会参画で大切なこと.....	93
7 男女共同参画を進めるための取組について.....	96
(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度.....	96
(2) 男女共同参画推進のために市が力を入れるべきこと.....	102
8 防災について.....	106
(1) 防災分野での男女共同参画の視点.....	106
9 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について.....	108
(1) 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）取得状況.....	108
(2) 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に必要なこと.....	110
10 DV（配偶者等からの暴力）について.....	112
(1) 配偶者や交際相手からの暴力の有無.....	112
(2) 暴力を受けた時の相談状況.....	120
(3) 暴力を受けた時の相談先.....	121
(4) 相談しなかった（できなかった）理由.....	122
(5) DVを相談する窓口における必要な配慮.....	123
(6) DVを解決するために必要な支援等.....	125
11 困難な問題を抱える方への支援について.....	128
(1) 抱えている困難や悩みの有無.....	128
(2) 抱えている困難や悩みの相談先.....	144
(3) 相談しない・しなかった理由.....	147
12 自由記述.....	149
(1) 男女共同参画等について感じること.....	149
III 資料編 調査票.....	151

I 調査概要

1 調査の目的

本市では、市民一人ひとりがお互いを大切に、性別にかかわらず個性を輝かせて生き生きと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指して、男女共同参画基本計画（第5次）を策定し、様々な取組を進めています。男女共同参画に関する市民の意識や行政へのニーズを把握し、今後の男女共同参画推進施策の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2 調査の設計

項目	内容
調査期間	令和7年9月1日(月)~9月26日(金)
調査対象	市内在住の18歳以上の方から無作為に選んだ3,000名
抽出方法	住民基本台帳登録者から性別・年齢階層別の人口割合に応じた無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収・二次元コードにてWEB回答

3 回収結果

配布数	回収数	有効回収数※	有効回収率
3,000	1,606	1,605 (内WEB636)	53.5%

※すべて無回答の調査票が1件あったため、集計から除外しています。

4 調査内容

- 1 あなたの基本的な事柄について
- 2 男女平等について
- 3 結婚・家庭生活について
- 4 子育て・介護について
- 5 職業や働き方について
- 6 女性の社会参画について
- 7 男女共同参画を進めるための取組について
- 8 防災について
- 9 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について
- 10 DV（配偶者等からの暴力）について
- 11 困難な問題を抱える方への支援について

5 報告書の見方

- ①回答者の実数を度数と表記しています。
- ②単数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数（「n」で表す当該設問での該当者数）を基数とした百分率(%)で示しています。
- ③各数値は、小数点以下第二位を四捨五入して算出しているため、比率の合計は 100%にならない場合があります。
- ④複数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数（「n」で表す当該設問での該当者数）を基数とした百分率(%)で示しています。したがって、比率の合計値は 100%以上となります。
- ⑤図や表、本文では、選択肢の一部や数値の一部を省略している場合があります。
- ⑥性別集計や年代別集計で回答者数が 50 未満の項目については、参考数値として、コメントには含めない場合があります。

6 前回調査及び群馬県調査、全国調査との比較

本報告書における比較分析に用いた調査は、以下の通りです。

調査名（実施機関）	実施年月	調査概要	備考
男女共同参画に関する 市民意識調査（前橋市）	令和2年 9月	・住民基本台帳より18歳以上の 3,000人住民基本台帳登録者から 性別・年齢階層別の人口割合に応 じた無作為抽出 ・郵送配布・郵送回収+WEB回答	前回調査と表記
男女共同参画社会に関する 県民意識調査（群馬県）	令和6年 12月	・県内在住の18歳以上の男女個人 2,000人 ・インターネットを利用した調査	群馬県調査と表記
男女共同参画社会に関する 世論調査（内閣府）	令和6年 9月	・全国18歳以上の5,000人を 層化2段無作為抽出法 ・郵送配布・郵送回収+WEB回答	全国調査と表記

※それぞれの調査については、選択肢や設問が一致していない設問もありますが、参考として掲載しています。

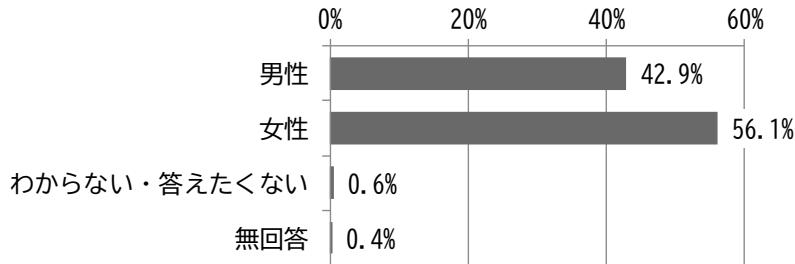
II 調査結果

1 あなたの基本的な事柄について

(1) 性別

A あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

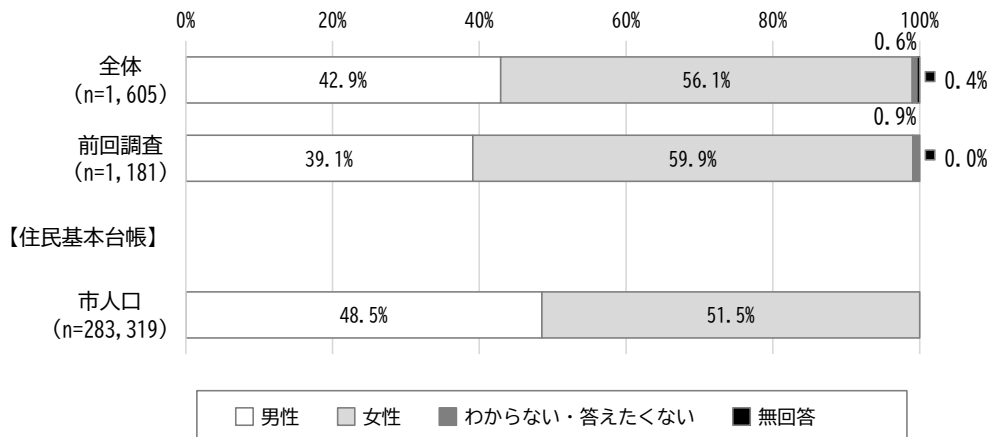
性別については、「男性」が42.9%、「女性」が56.1%となっています。



項目	度数	比率
男性	689	42.9%
女性	900	56.1%
わからない・答えたくない	10	0.6%
無回答	6	0.4%
合計	1,605	100.0%

【前回調査比較・前橋市人口比】

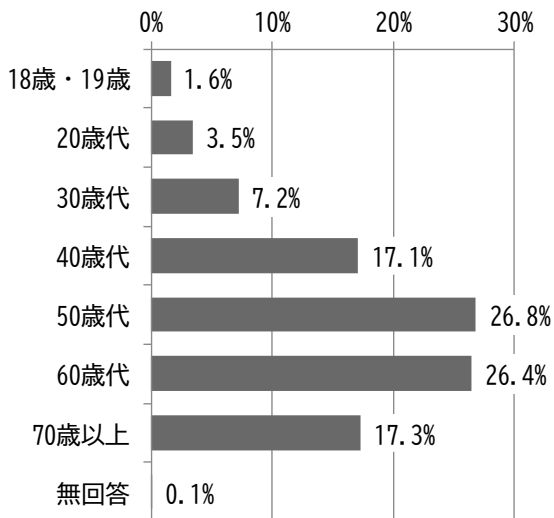
性別について、前回調査と比較すると男性がやや増加し、女性がやや減少しています。また、市の人口と比較すると男性の回答割合が低く、女性の回答割合が高くなっています。



(2) 年齢

B あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

年齢については、「50歳代」が26.8%と最も多く、次いで「60歳代」が26.4%、「70歳以上」が17.3%、「40歳代」が17.1%となっています。



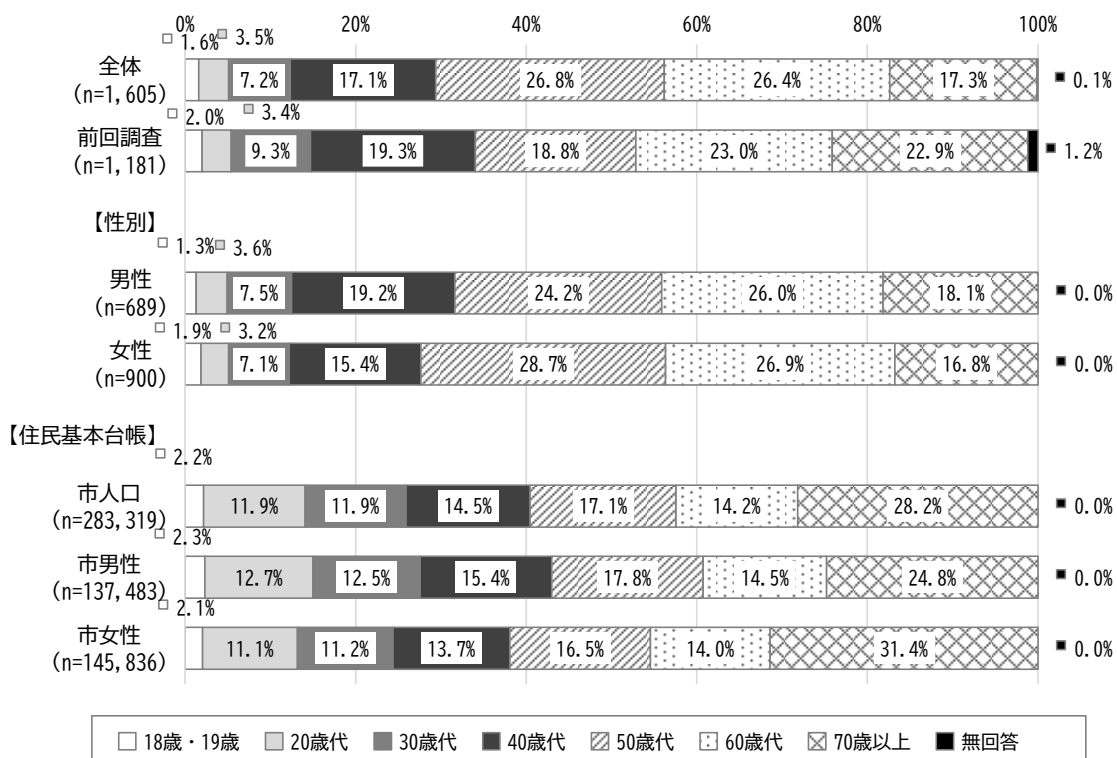
項目	度数	比率
18歳・19歳	26	1.6%
20歳代	56	3.5%
30歳代	116	7.2%
40歳代	274	17.1%
50歳代	430	26.8%
60歳代	424	26.4%
70歳以上	277	17.3%
無回答	2	0.1%
合計	1,605	100.0%

【前回調査比較・性別集計・市人口比】

年代について、前回調査と比較すると今回調査で50歳代、60歳代がやや増加し、70歳以上がやや減少しています。

性別では、40歳代で女性より男性が多く、50歳代で男性より女性が多くなっています。

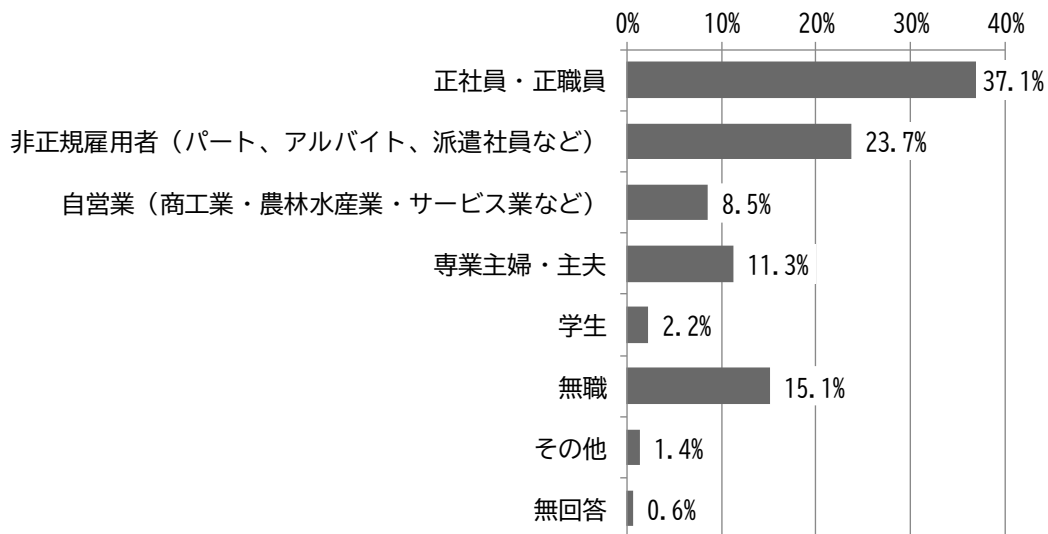
また、市の人口と比較すると20歳代、30歳代、70歳以上の回答割合が低く、40歳代、50歳代、60歳代の回答割合が高くなっています。



(3) 職業

C あなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

職業については、「正社員・正職員」が 37.1%と最も多く、次いで「非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣社員など）」が 23.7%、「無職」が 15.1%となっています。

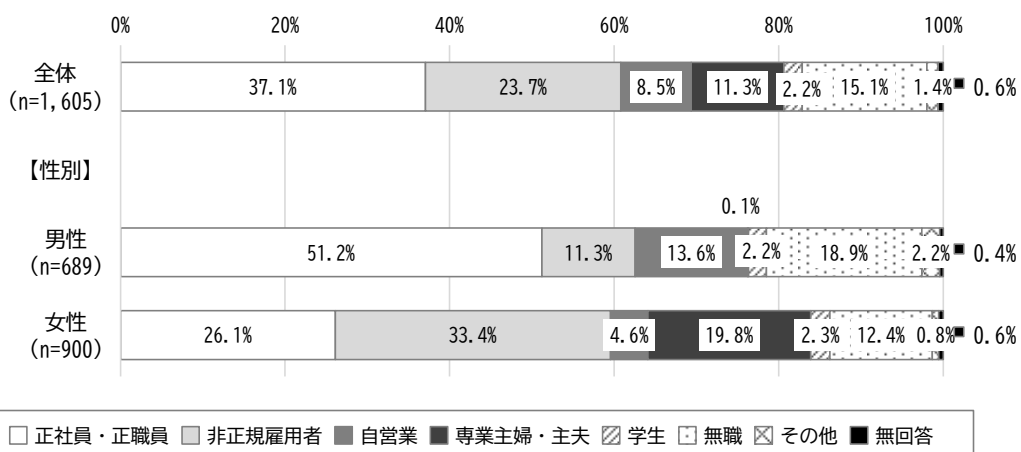


項目	度数	比率
正社員・正職員	595	37.1%
非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣社員など）	381	23.7%
自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）	137	8.5%
専業主婦・主夫	181	11.3%
学生	36	2.2%
無職	243	15.1%
その他	22	1.4%
無回答	10	0.6%
合計	1,605	100.0%

「その他」…会社役員、公務員、嘱託職員など

【性別集計】

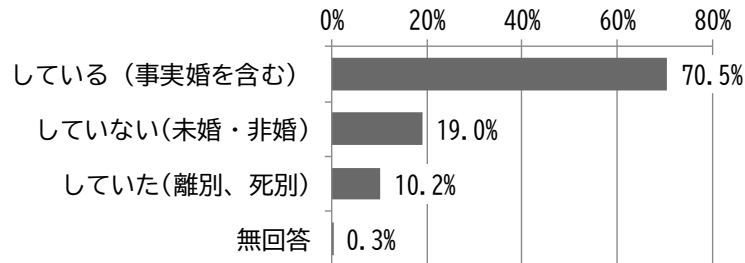
職業について、性別でみると、「正社員・正職員」で女性より男性が 25.1 ポイント多く、「非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣社員など）」で男性より女性が 22.1 ポイント多くなっています。



(4) 婚姻状況

D あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

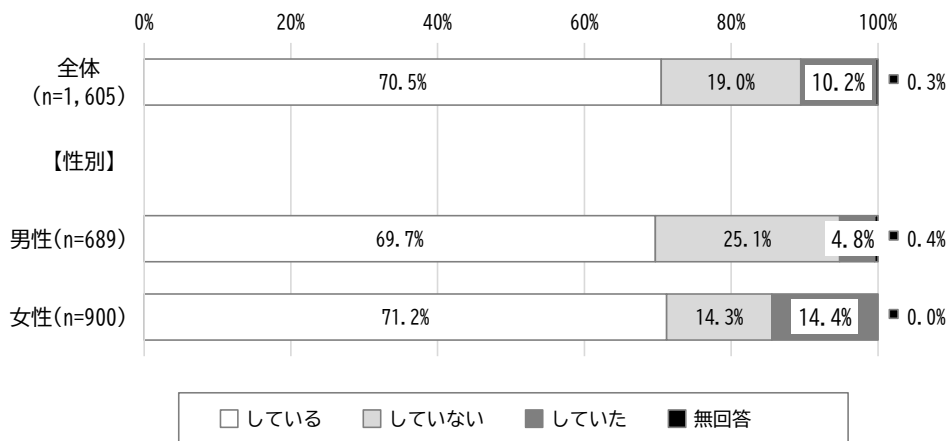
結婚の有無については、「している(事実婚を含む)」が70.5%、「していない(未婚・非婚)」が19.0%、「していた(離別、死別)」が10.2%となっています。



項目	度数	比率
している(事実婚を含む)	1,131	70.5%
していない(未婚・非婚)	305	19.0%
していた(離別、死別)	164	10.2%
無回答	5	0.3%
合計	1,605	100.0%

【性別集計】

結婚について、性別で見ると「していない(未婚・非婚)」で女性より男性が10.8ポイント多く、「していた(離別、死別)」で男性より女性が9.6ポイント多くなっています。

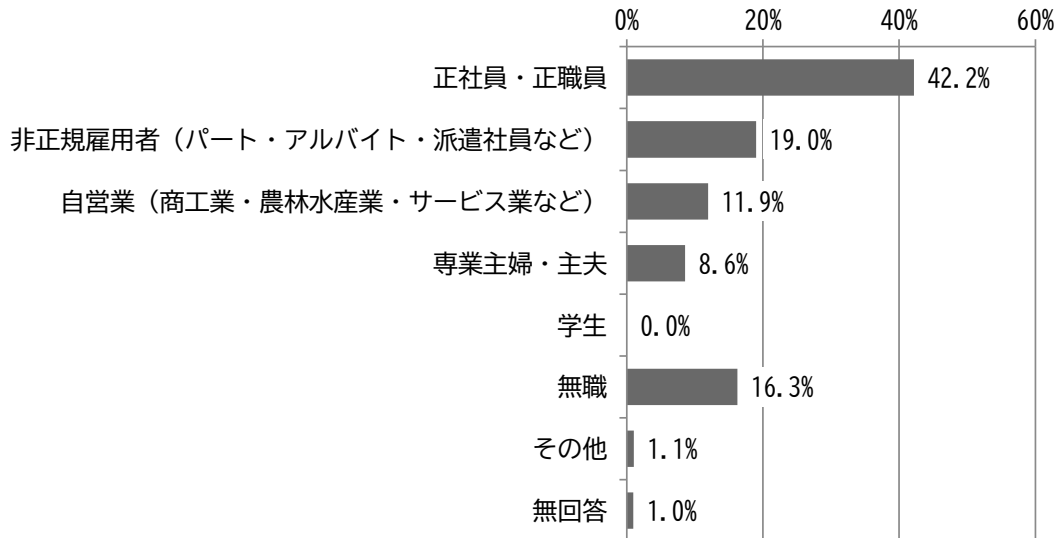


(5) パートナーの職業

Dで「している(事実婚を含む)」とお答えした方にもお聞きします。

D-1 あなたの配偶者・パートナーの職業はどれですか。(○は1つ)

配偶者・パートナーの職業については、「正社員・正職員」が42.2%と最も多く、次いで「非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣社員など）」が19.0%、「無職」が16.3%となっています。

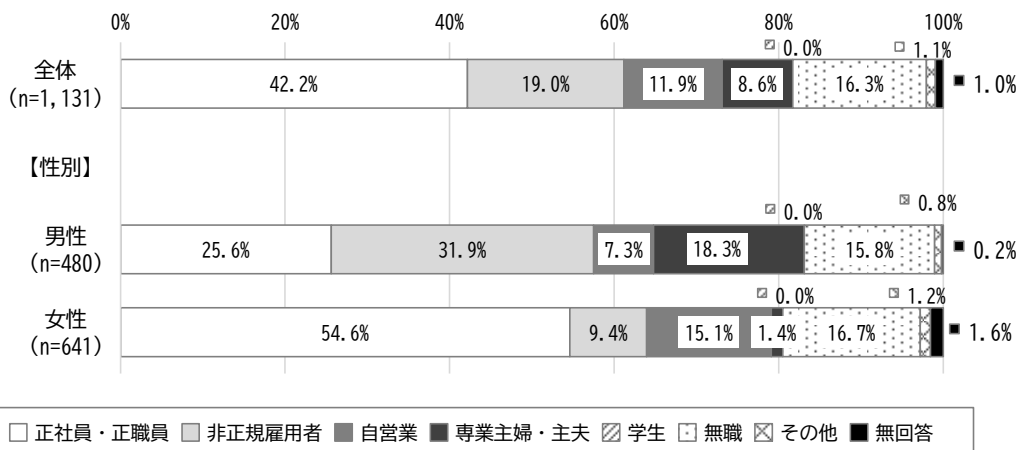


項目	度数	比率
正社員・正職員	477	42.2%
非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣社員など）	215	19.0%
自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）	135	11.9%
専業主婦・主夫	97	8.6%
学生	0	0.0%
無職	184	16.3%
その他	12	1.1%
無回答	11	1.0%
回答者数	1,131	100.0%

「その他」・・・会社役員、公務員、嘱託職員など

【性別集計】

配偶者・パートナーの職業については、「正社員・正職員」で男性の配偶者より女性の配偶者が29.0ポイント多く、「非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣社員など）」で女性の配偶者より男性の配偶者が22.5ポイント多くなっています。



■共働き状況について

回答者本人と回答者の配偶者（パートナー）の職業の組み合わせによって、「A 共働き家庭」「B 準共働き」「C 非共働き」「D その他」に分類し、分析に用いています。

また、「B 準共働き」と「C 非共働き」については、更に分類し、次のとおり分類して用いています。

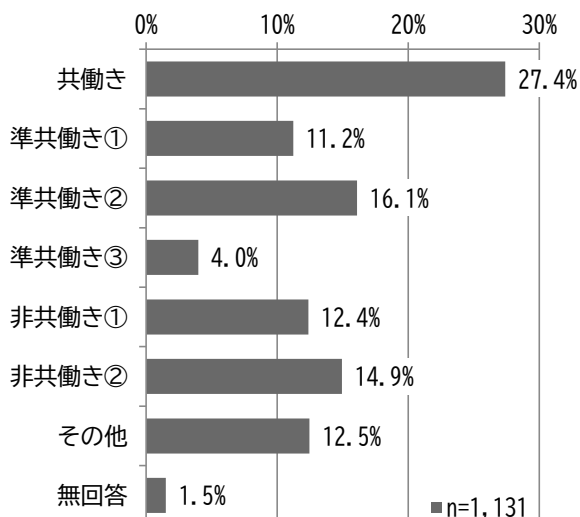
A	共働き	回答者、配偶者とも常勤的な就業形態
B-1	準共働き①	回答者が常勤的、配偶者が非常勤的な就業形態
B-2	準共働き②	回答者が非常勤的、配偶者が常勤的な就業形態
B-3	準共働き③	回答者、配偶者とも非常勤的な就業形態
C-1	非共働き①	回答者のみ就業している形態
C-2	非共働き②	配偶者のみ就業している形態
D	その他	回答者、配偶者とも就業していない

■共働きの定義

回答者 \ 配偶者		会社員 団体職員 公務員	自 営 業	パート アルバイト 派遣など	学 生	家 事 専 業	無 職	そ の 他
		常勤的な 就業形態		非常勤的な 就業形態				
会社員 団体職員 公務員	常勤的な 就業形態	A 共働き		B-1 準共働き①		C-1 非共働き①		
		自 営 業						
パート アルバイト 派遣など	非常勤的な 就業形態	B-2 準共働き②		B-3 準共働き③				
学 生		C-2 非共働き③		D その他				
家 事 専 業								
無 職								
そ の 他								

■共働きの集計

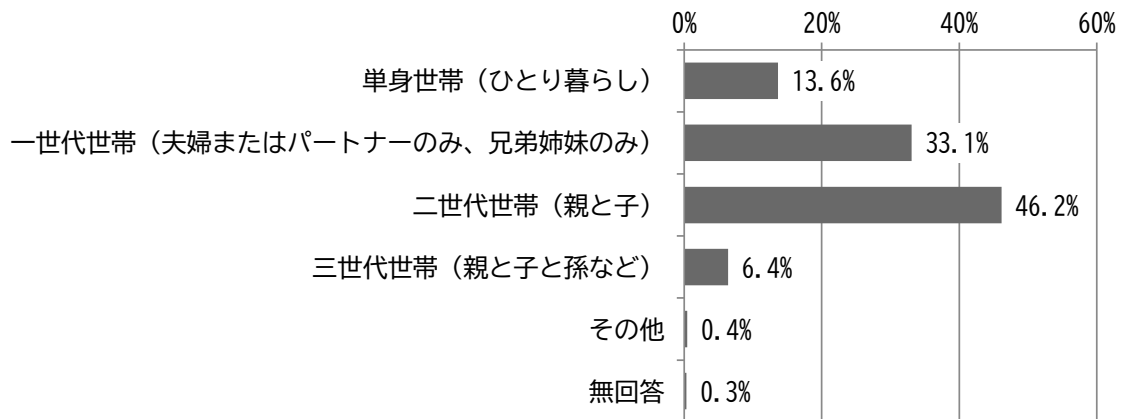
共働きを分類すると、「共働き」が27.4%、『準共働き』が合わせて31.3%、『非共働き』が合わせて27.3%となっています。（以下、この分類でクロス集計している設問があります）



(6) 世帯状況

E あなたの世帯状況はどれですか。(○は1つ)

世帯状況については、「二世帯世帯（親と子）」が46.2%と最も多く、次いで「一世帯世帯（夫婦またはパートナーのみ、兄弟姉妹のみ）」が33.1%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が13.6%となっています。



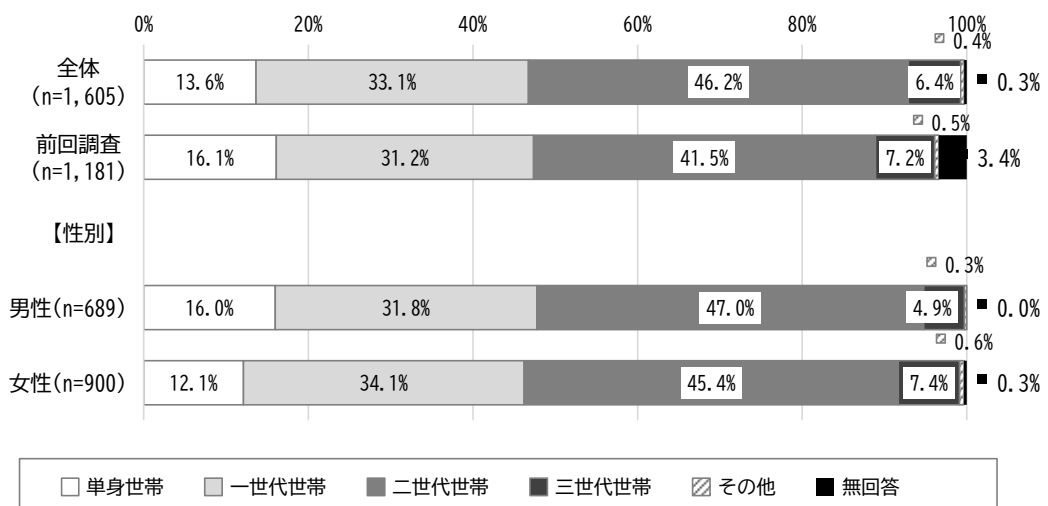
項目	度数	比率
単身世帯（ひとり暮らし）	219	13.6%
一世帯世帯（夫婦またはパートナーのみ、兄弟姉妹のみ）	531	33.1%
二世帯世帯（親と子）	741	46.2%
三世帯世帯（親と子と孫など）	102	6.4%
その他	7	0.4%
無回答	5	0.3%
合計	1,605	100.0%

「その他」・・・兄夫婦、夫の義妹と二世帯など

【前回調査比較・性別集計】

世帯状況について、前回調査と比較すると「単身世帯（ひとり暮らし）」がやや減り、「二世帯世帯（親と子）」がやや多くなっています。

性別で見ると、「単身世帯（ひとり暮らし）」で女性より男性がやや多くなっています。

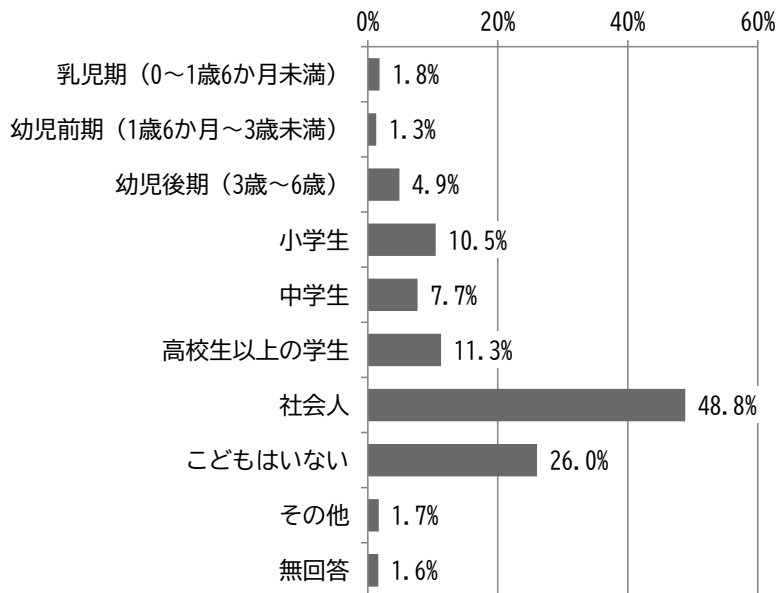


(7) こどもの有無

F あなたは、以下のようなお子さんがいますか。同居していないお子さんも含めます。(あてはまるものすべてに○)

お子さんについては、「社会人」が 48.8%と最も多く、次いで、「高校生以上の学生」が 11.3%となっています。

一方、「こどもはいない」が 26.0%となっています。



項目	度数	比率
乳児期 (0~1歳6か月未満)	29	1.8%
幼児前期 (1歳6か月~3歳未満)	21	1.3%
幼児後期 (3歳~6歳)	78	4.9%
小学生	168	10.5%
中学生	123	7.7%
高校生以上の学生	181	11.3%
社会人	784	48.8%
こどもはいない	418	26.0%
その他	27	1.7%
無回答	26	1.6%
回答者数	1,605	

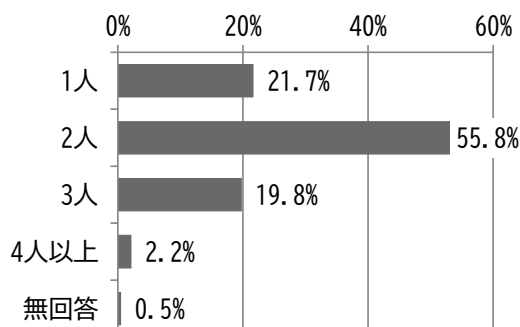
「その他」・・・主婦・パート、無職など

(8) こどもの人数

お子さんがいる方にお聞きします。

G あなたのお子さんは何人ですか。同居していないお子さんも含めます。(○は1つ)

お子さんの人数については、「2人」が 55.8%と最も多く、次いで「1人」が 21.7%、「3人」が 19.8%となっています。



項目	度数	比率
1人	252	21.7%
2人	648	55.8%
3人	230	19.8%
4人以上	25	2.2%
無回答	6	0.5%
合計	1,161	100.0%

2 男女平等について

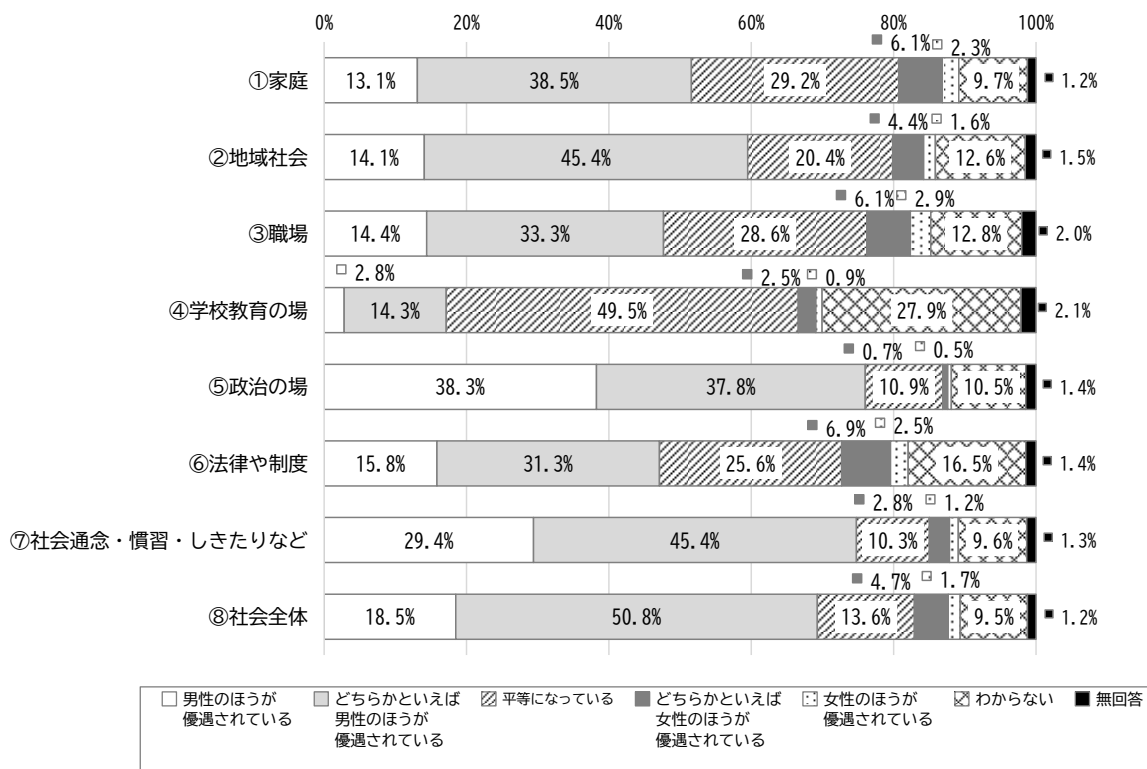
(1) 今の生活や社会の状況に関する意識

問1 あなたは、今の生活や社会の状況は、男女平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

■ 「⑤政治の場」で『男性のほうが優遇されている』が8割弱

今の生活や社会の状況が男女平等になっているかについての「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた『男性のほうが優遇されている』では、「⑤政治の場」が76.1%と最も多く、次いで「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」が74.8%、「⑧社会全体」が69.3%となっています。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合わせた『女性のほうが優遇されている』では、「⑥法律や制度」が9.4%と最も多く、次いで「③職場」が9.0%、「①家庭」が8.4%となっています。



項目	優男		平	優女		わ	無	合
	遇性	遇性		等	女			
	さの	さの	等	性	性	か	回	計
	れほ	れほ	な	さの	さの	ら	答	
	てう	てう	っ	れほ	れほ	な		
	いが	いが	て	てう	てう	い		
	る	る	い	いが	いが	が		
	が	が	い	る	る	ら		
	る	ら	い	る	る	な		
	か	か	い	か	か	い		
	い	い	い	い	い	が		
	が	が	い	が	が	ら		
	る	ら	い	る	る	な		
	る	ら	い	る	る	な		
①家庭	210	618	468	98	37	155	19	1,605
	13.1%	38.5%	29.2%	6.1%	2.3%	9.7%	1.2%	100.0%
②地域社会	226	729	327	70	26	203	24	1,605
	14.1%	45.4%	20.4%	4.4%	1.6%	12.6%	1.5%	100.0%
③職場	231	534	459	98	46	205	32	1,605
	14.4%	33.3%	28.6%	6.1%	2.9%	12.8%	2.0%	100.0%
④学校教育の場	45	230	794	40	14	448	34	1,605
	2.8%	14.3%	49.5%	2.5%	0.9%	27.9%	2.1%	100.0%
⑤政治の場	614	606	175	11	8	168	23	1,605
	38.3%	37.8%	10.9%	0.7%	0.5%	10.5%	1.4%	100.0%
⑥法律や制度	254	502	411	110	40	265	23	1,605
	15.8%	31.3%	25.6%	6.9%	2.5%	16.5%	1.4%	100.0%
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	472	728	165	45	20	154	21	1,605
	29.4%	45.4%	10.3%	2.8%	1.2%	9.6%	1.3%	100.0%
⑧社会全体	297	815	219	76	27	152	19	1,605
	18.5%	50.8%	13.6%	4.7%	1.7%	9.5%	1.2%	100.0%

【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

① 家庭

■ 家庭生活は、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が19.9ポイント多い

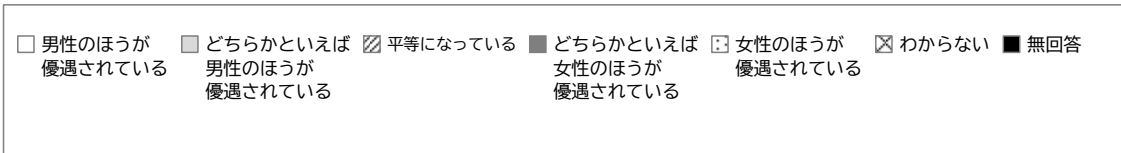
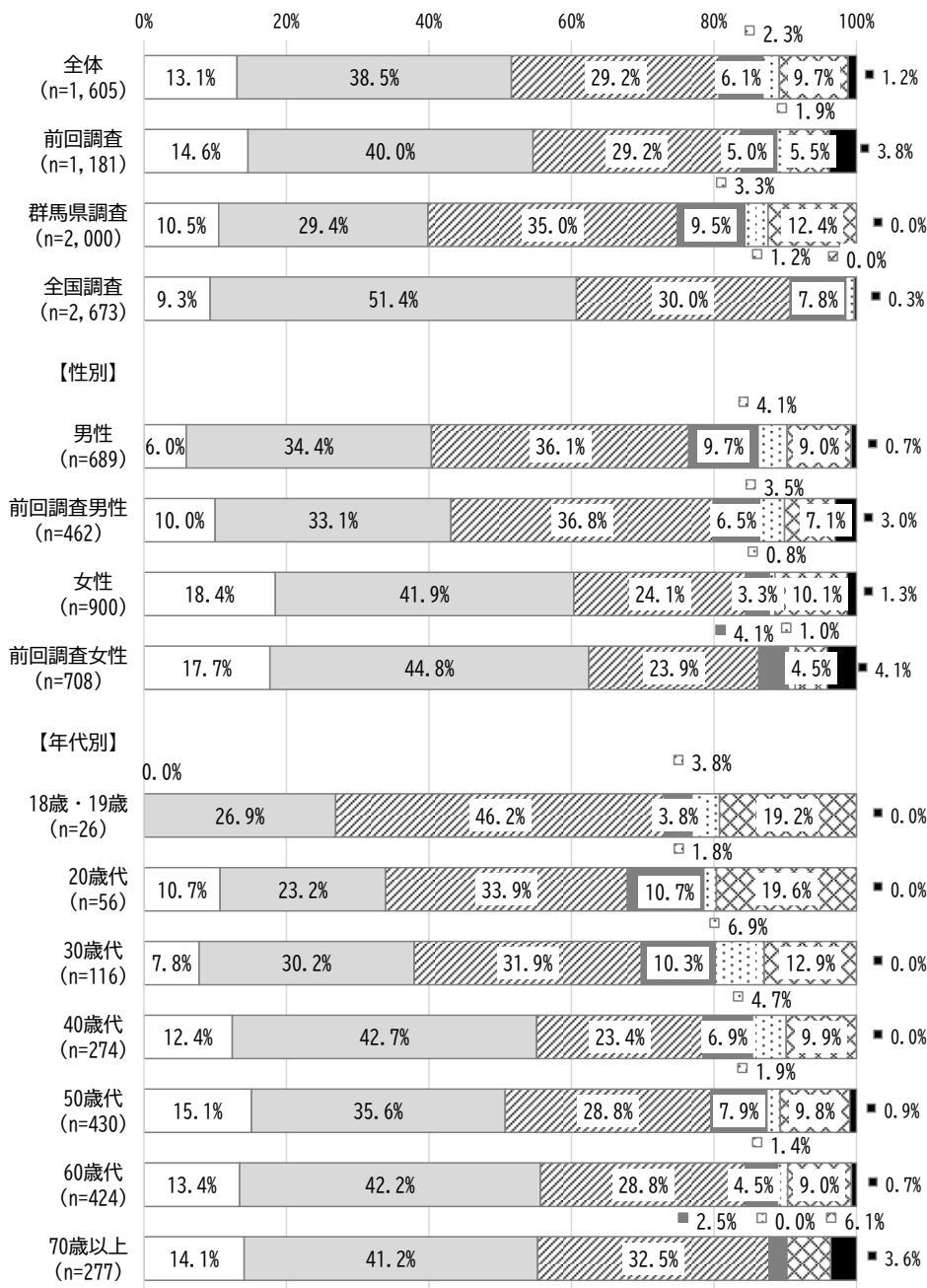
家庭生活の男女平等については、前回調査より『男性のほうが優遇されている』が減っています。群馬県調査より、「平等になっている」が少なく、『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』が少なくなっています。(全国調査では「わからない」がないため、参考数値(以下同様))

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が19.9ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると『男性のほうが優遇されている』が男性女性ともに前回調査よりやや少なくなっています。

年代で見ると、『男性のほうが優遇されている』が30歳代以下で少なく、40歳代以上で5割を超えています。



【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

② 地域社会

■ 地域社会は、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が17.3ポイント多い

地域社会の男女平等については、前回調査より『男性のほうが優遇されている』がやや増えてい

ます。

群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。

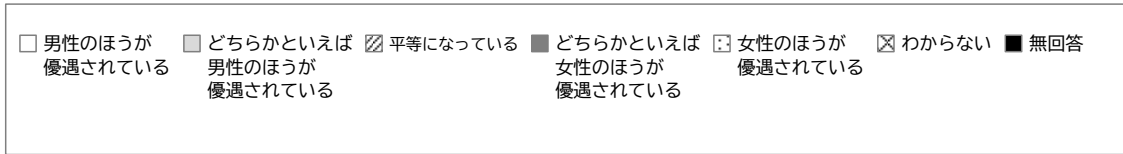
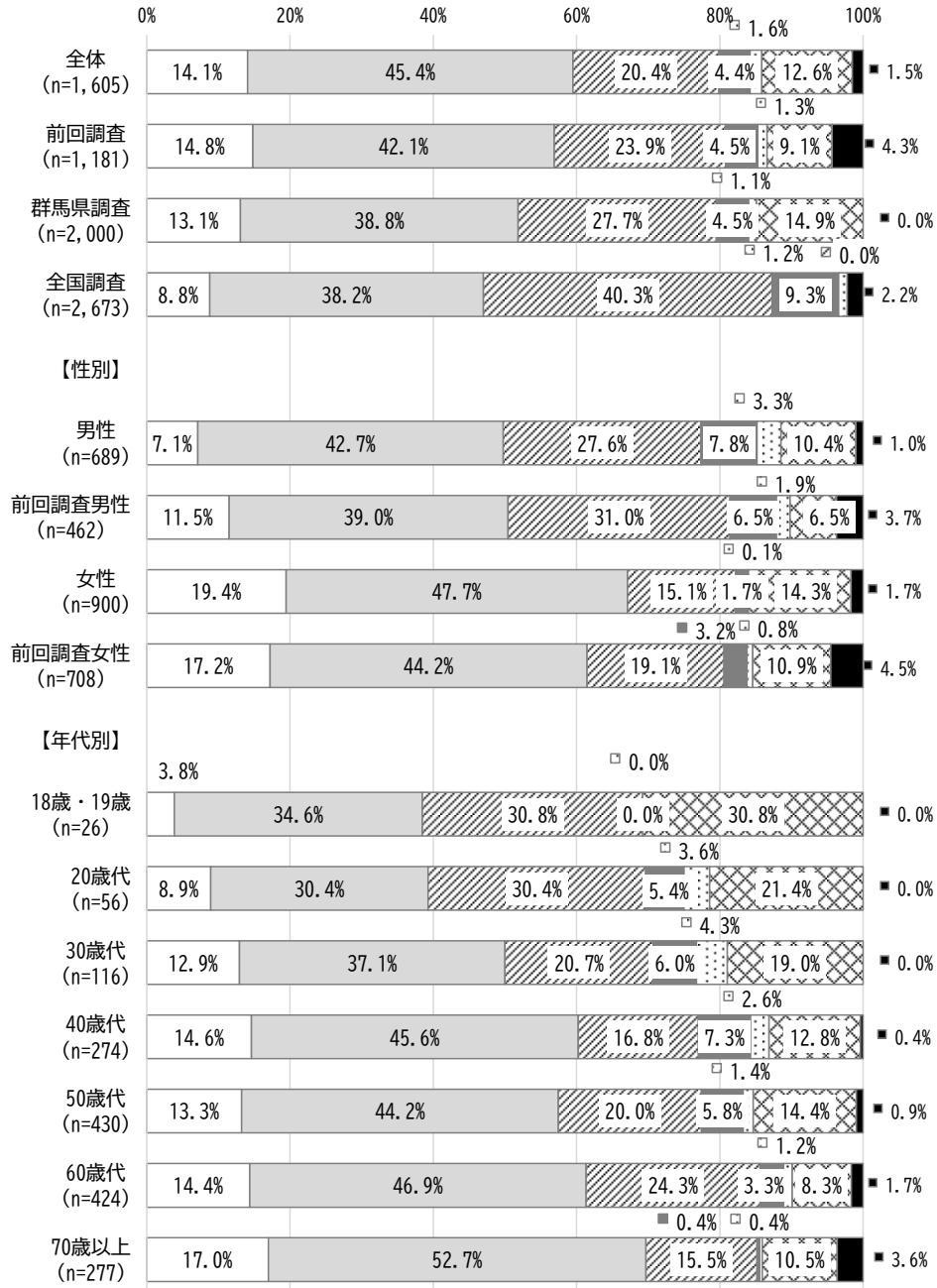
全国調査より、『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が17.3ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると男性では『男性のほうが優遇されている』が前回同様となっていますが、女

性では今回調査でやや多くなっています。

年代で見ると、年代が上がるにつれて『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。



【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

③ 職場

■ 職場では、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が9.9ポイント多い

職場生活の男女平等については、前回調査より『男性のほうが優遇されている』が8.3ポイント減っています。

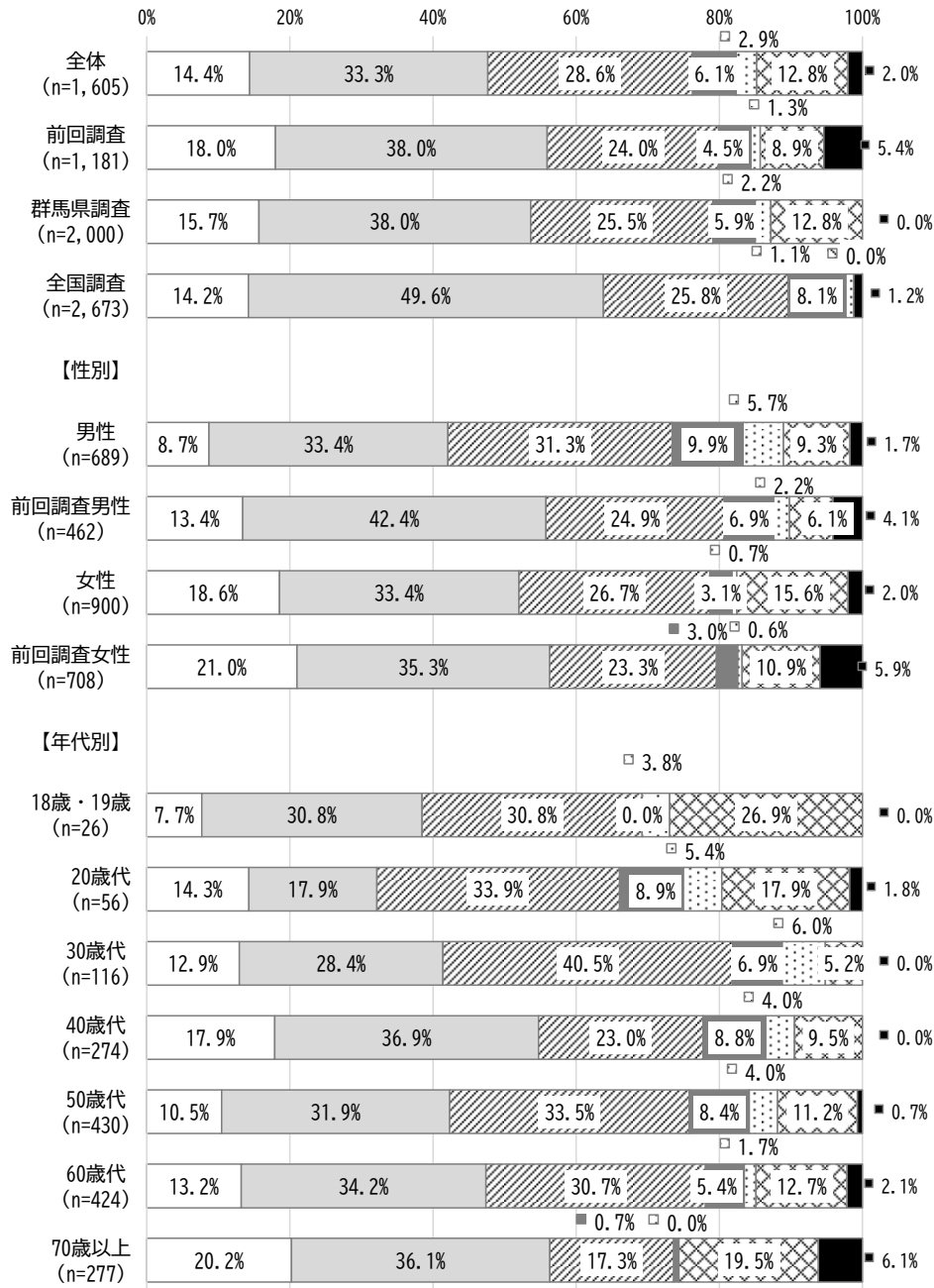
群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』が少なくなっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』が少なくなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が9.9ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性のほうが優遇されている』と回答した男性が前回調査より13.7ポイント少なくなっています。

年代で見ると、『男性のほうが優遇されている』で40歳代、70歳以上が高くなっています。



男性のほうが優遇されている
 どちらかといえば男性のほうが優遇されている
 平等になっている
 どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 女性のほうが優遇されている
 わからない
 無回答

【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

④ 学校教育の場

■ 学校教育の場では、「平等になっている」で、女性より男性が10.4ポイント多い

学校教育の場で男女平等については、前回調査より『男性のほうが優遇されている』がやや減少しましたが、ほぼ同様の回答となっています。

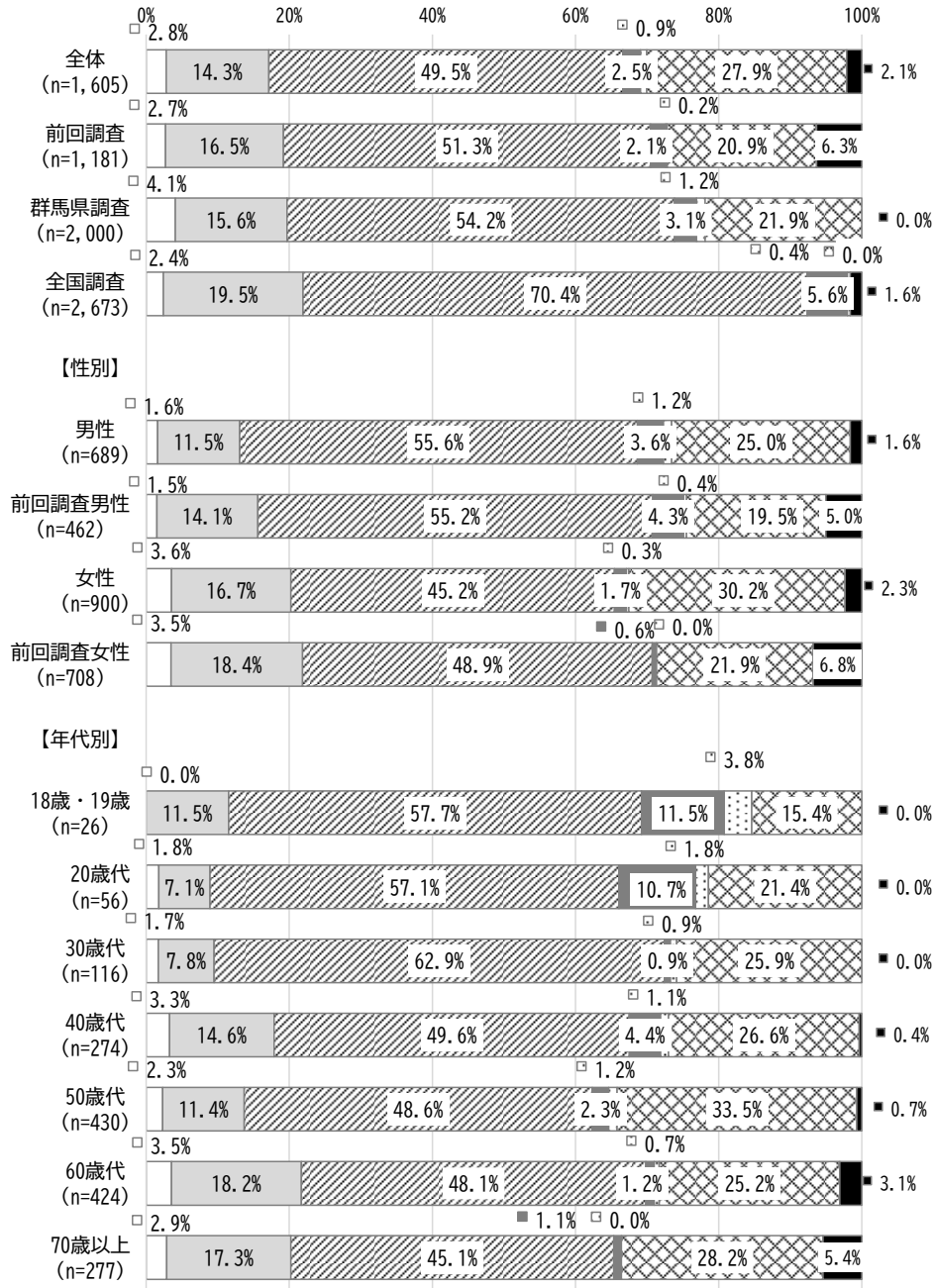
群馬県調査より、「平等になっている」がやや少なくなっています。

全国調査より、「平等になっている」が少なくなっています。

性別で見ると、「平等になっている」で女性より男性が10.4ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性のほうが優遇されている』で男女ともにそれぞれ少なくなっています。

年代で見ると、『男性のほうが優遇されている』で60歳代、70歳以上がやや高くなっています。



男性のほうが優遇されている
 どちらかといえば男性のほうが優遇されている
 平等になっている
 どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 女性のほうが優遇されている
 わからない
 無回答

【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

⑤ 政治の場

■ 政治の場では、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が11.9ポイント多い

政治の場で男女平等については、前回調査とほぼ同様の回答となっています。

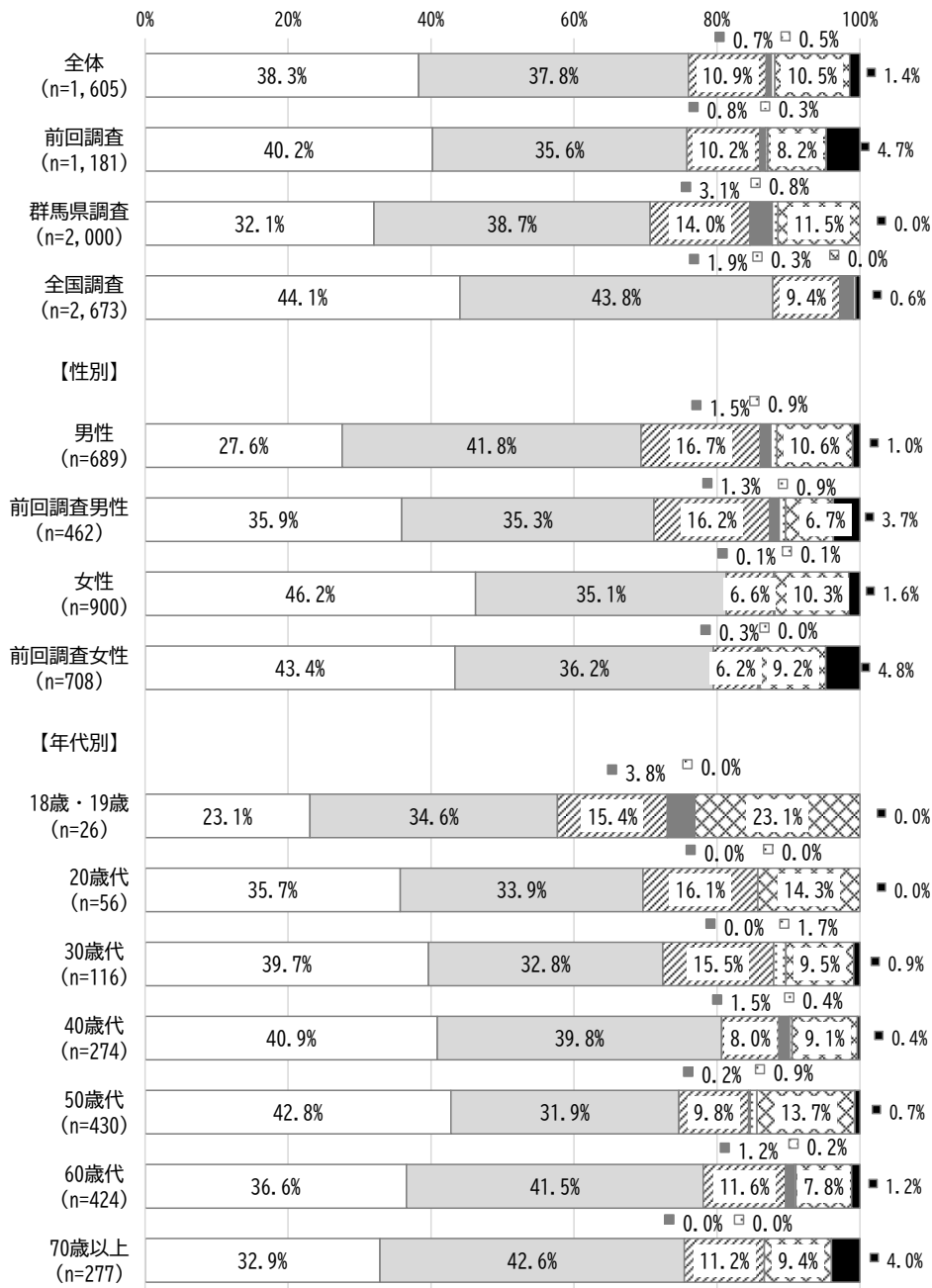
群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』が少なくなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が11.9ポイント多くなっています。

前回調査と比較するとほぼ同様の回答となっていますが、内訳で見ると「男性のほうが優遇されている」で男性が前回調査より1.8ポイント少なくなっています。

年代で見ると、『男性のほうが優遇されている』で40歳代、60歳代がやや高くなっています。



□ 男性のほうが優遇されている ■ どちらかといえば男性のほうが優遇されている ▨ 平等になっている ■ どちらかといえば女性のほうが優遇されている ▩ 女性のほうが優遇されている ⊠ わからない ■ 無回答

【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

⑥ 法律や制度

■ 法律や制度では、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が22.1ポイント多い

法律や制度で男女平等については、『男性のほうが優遇されている』が前回調査よりやや多くなっています。

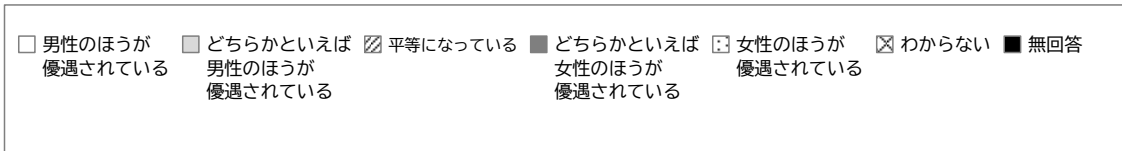
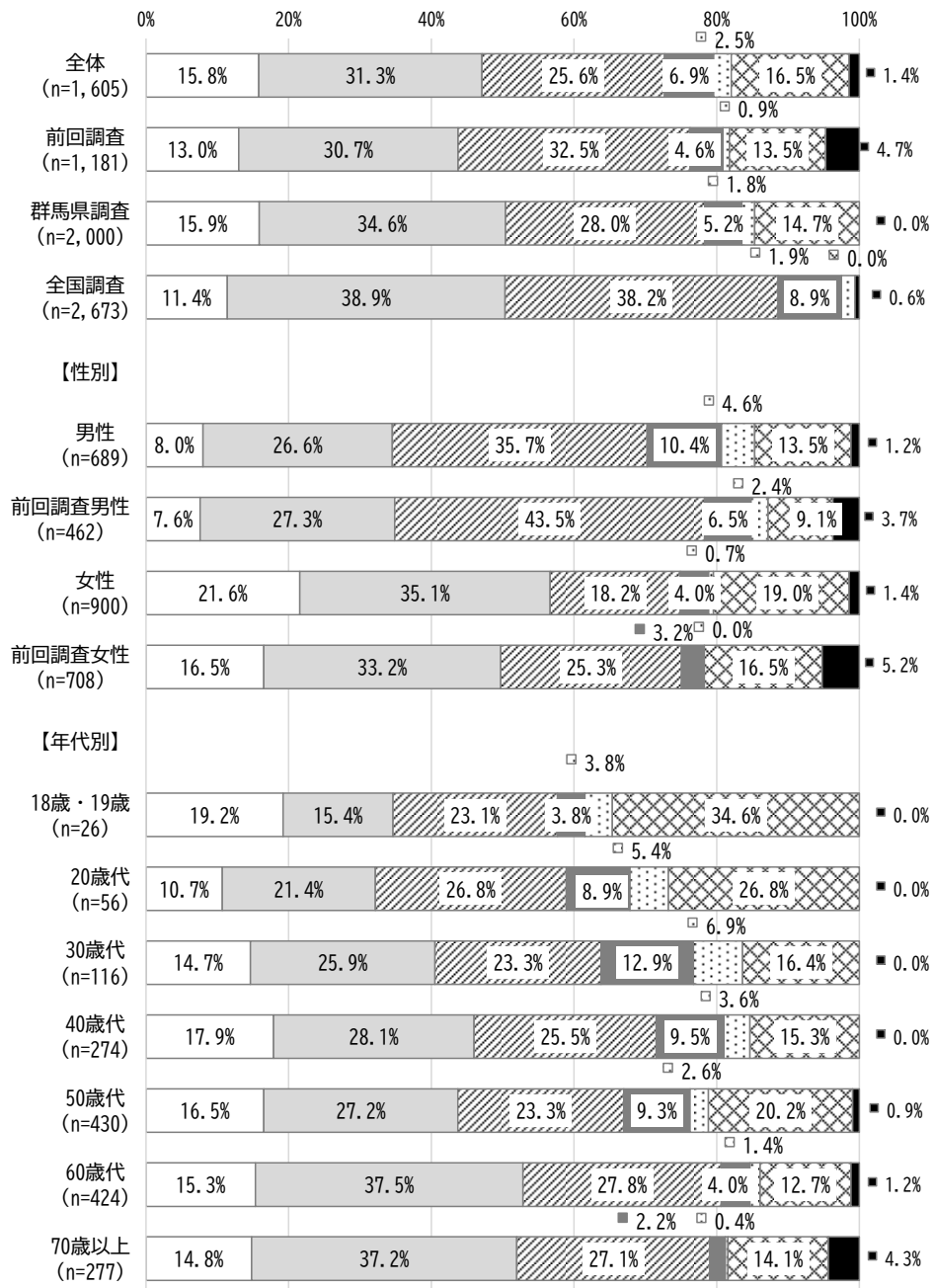
群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』がやや少ないですが、ほぼ同様の回答となっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』が少なくなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が22.1ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性のほうが優遇されている』で、女性が前回調査より7.0ポイント多くなっています。

年代で見ると、『男性のほうが優遇されている』で60歳代、70歳以上がやや高くなっています。



【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

■ 社会通念・慣習・しきたりなどでは、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が 11.5 ポイント多い

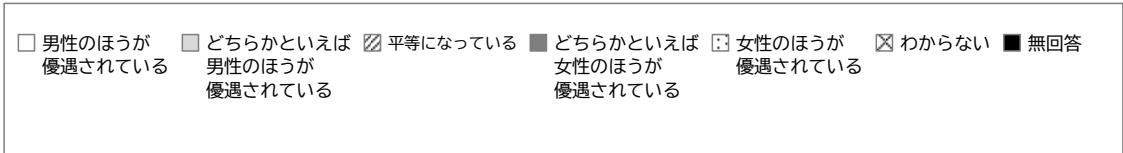
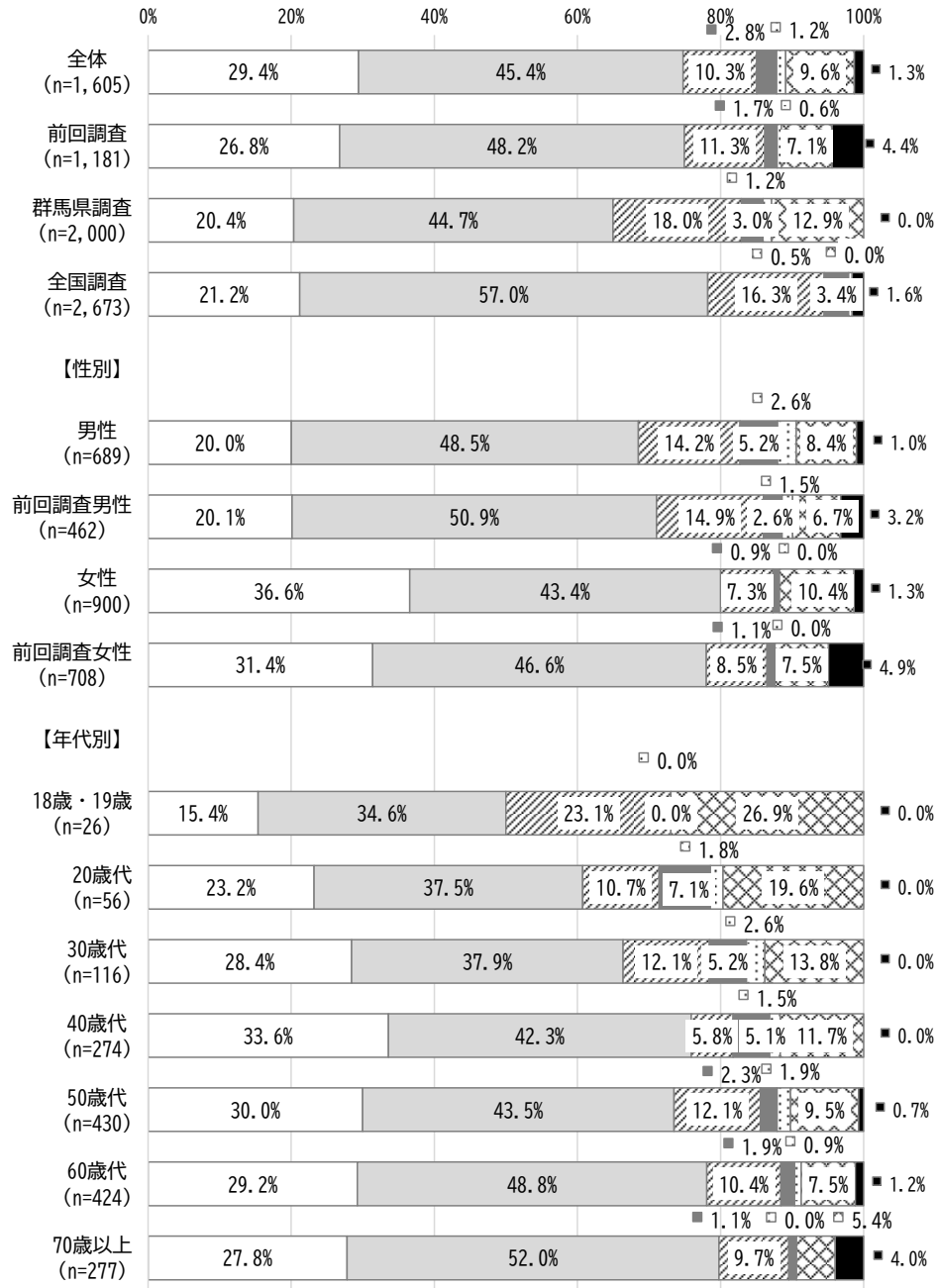
社会通念・慣習・しきたりなどで男女平等については、前回調査とほぼ同様の回答となっています。群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』が9.7ポイント多くなっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』がやや少なくなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が 11.5 ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると前回調査とほぼ同様の回答となっています。

年代で見ると、年代が上がるにつれて『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。



【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

⑧ 社会全体

■ 社会全体では、『男性のほうが優遇されている』で、男性より女性が19.6ポイント多い

社会全体で男女平等については、前回調査とほぼ同様の回答となっています。

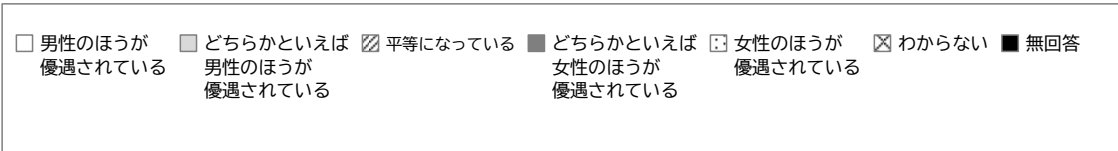
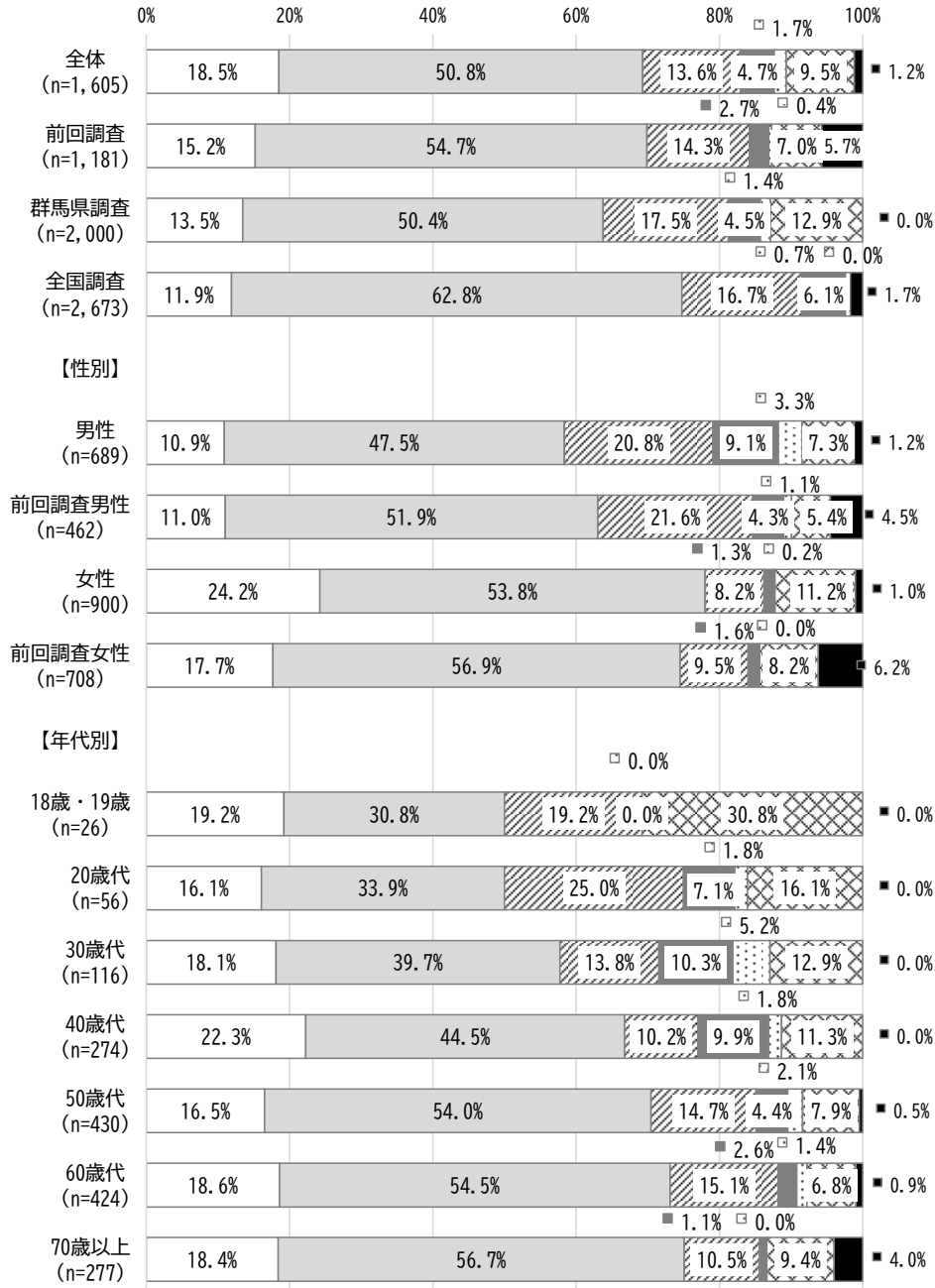
群馬県調査より、『男性のほうが優遇されている』が5.4ポイント多くなっています。

全国調査より、『男性のほうが優遇されている』がやや少なくなっています。

性別で見ると、『男性のほうが優遇されている』で男性より女性が19.6ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると『男性のほうが優遇されている』で男性ではやや少なくなり、女性ではやや多くなっています。

年代で見ると、年代が上がるにつれて『男性のほうが優遇されている』が多くなっています。



3 結婚・家庭生活について

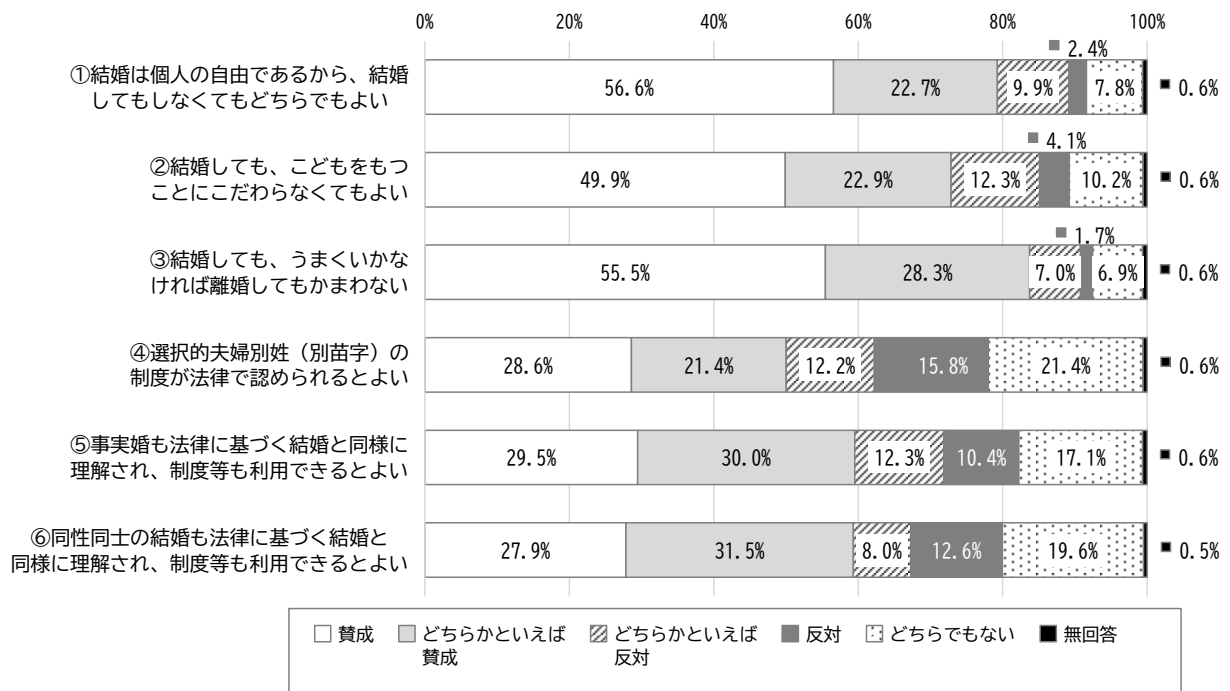
(1) 結婚に関する考え方

問2 あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

■ 「③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」が、8割を超える『賛成』

結婚に関する考え方についての「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』では、「③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」が 83.8%と最も多く、次いで「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が 79.3%、「②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい」が 72.8%となっています。

「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた『反対』では、「④選択的夫婦別姓（別苗字）の制度が法律で認められるとよい」が 28.0%と最も多く、次いで「⑤事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい」が 22.7%、「⑥同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい」が 20.6%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちら かとい え	反対	どちら でも ない	無 回 答	合 計
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	908	364	159	39	125	10	1,605
	56.6%	22.7%	9.9%	2.4%	7.8%	0.6%	100.0%
②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい	801	368	197	66	164	9	1,605
	49.9%	22.9%	12.3%	4.1%	10.2%	0.6%	100.0%
③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	890	454	113	27	111	10	1,605
	55.5%	28.3%	7.0%	1.7%	6.9%	0.6%	100.0%
④選択的夫婦別姓（別苗字）の制度が法律で認められるとよい	459	344	196	253	344	9	1,605
	28.6%	21.4%	12.2%	15.8%	21.4%	0.6%	100.0%
⑤事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	473	482	198	167	275	10	1,605
	29.5%	30.0%	12.3%	10.4%	17.1%	0.6%	100.0%
⑥同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	447	505	128	203	314	8	1,605
	27.9%	31.5%	8.0%	12.6%	19.6%	0.5%	100.0%

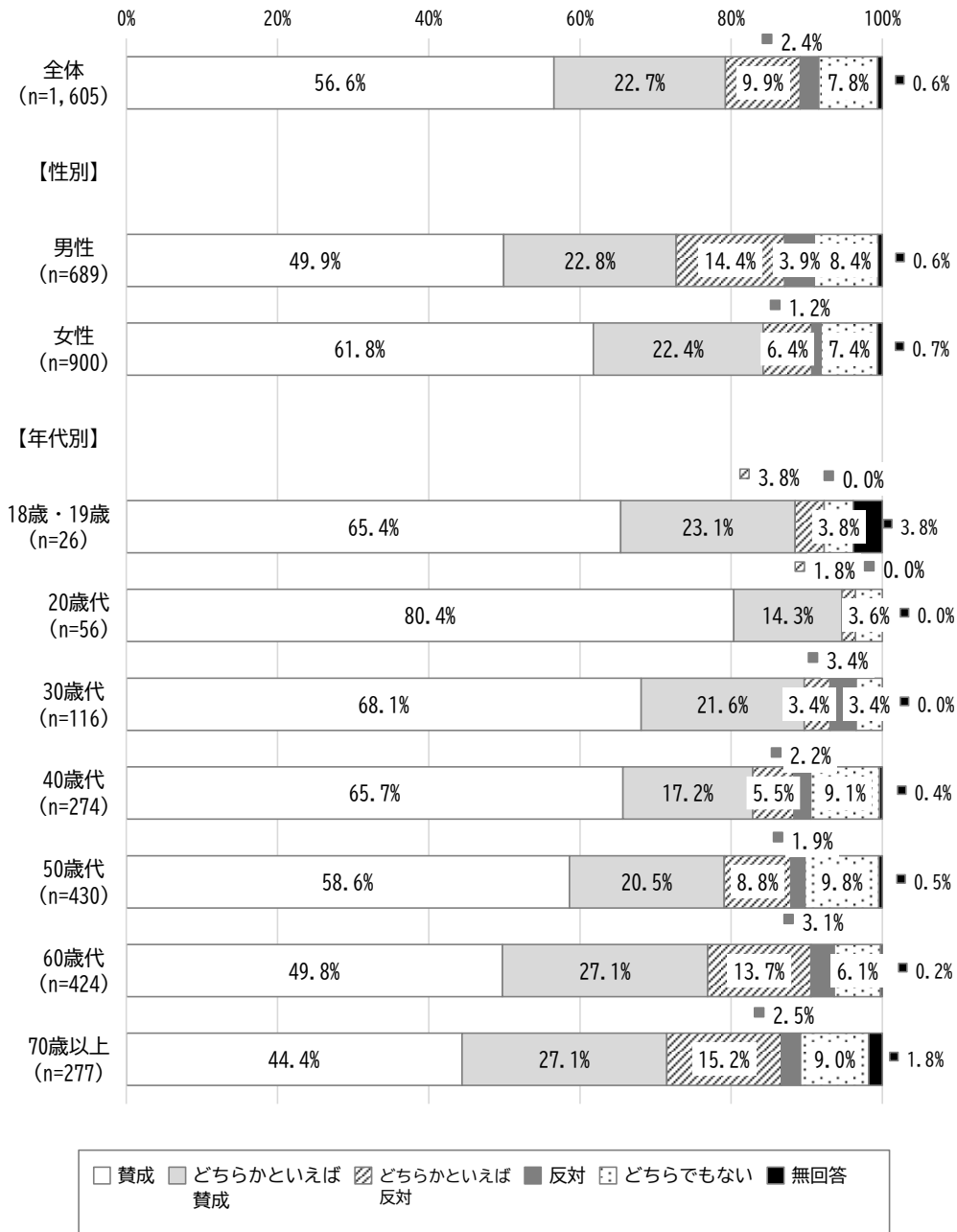
【性別・年代別集計】

① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

■ 『賛成』で男性より女性が11.5ポイント多い

結婚をしてもしなくてもどちらでもよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が11.5ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が若い人の方が『賛成』が多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

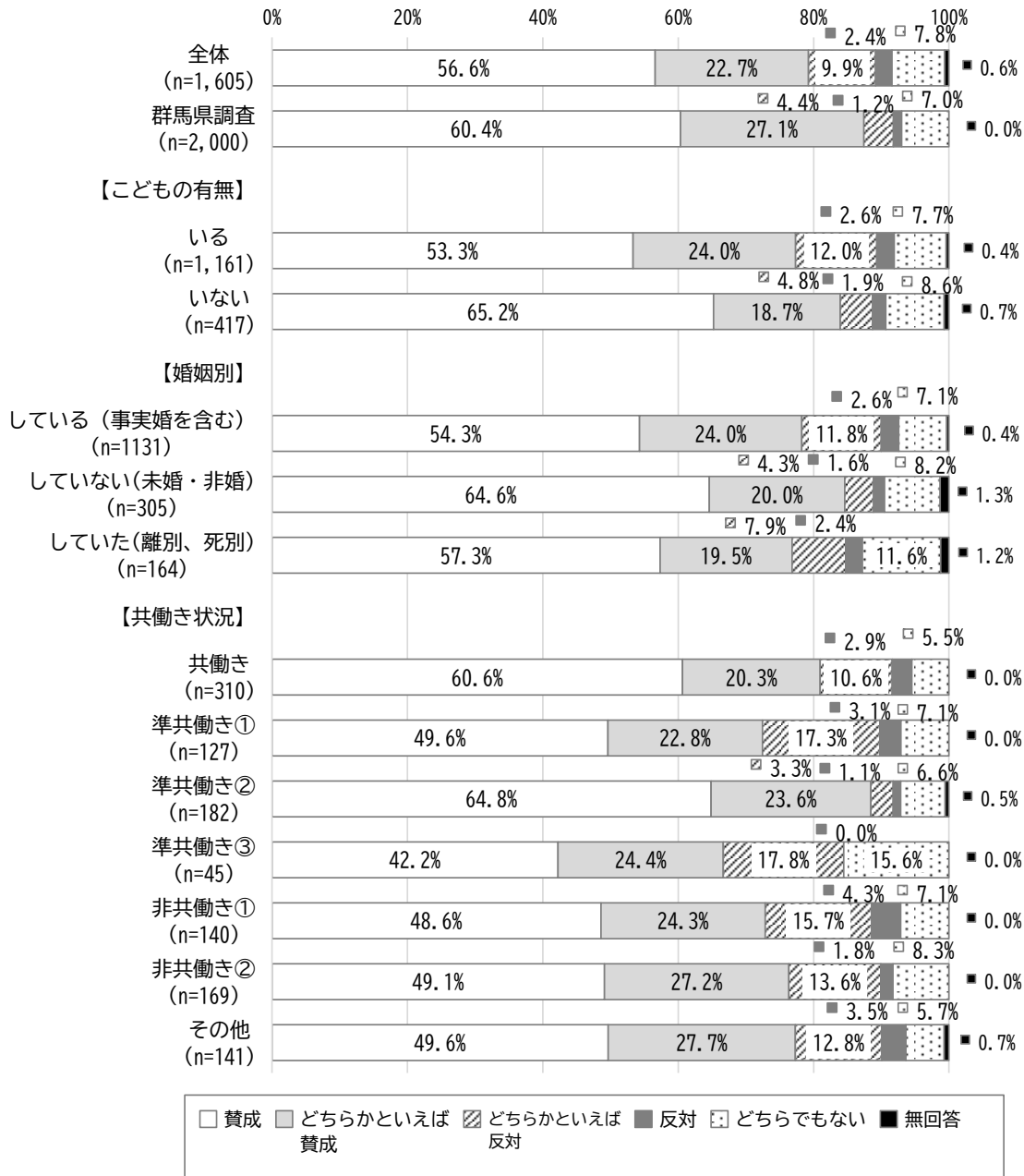
■ 群馬県調査より『賛成』が8.2ポイント少ない

結婚をしてもしなくてもどちらでもよいかについては、群馬県調査より『賛成』が8.2ポイント少なくなっています。

こどもの有無で見ると『賛成』で「いる」より「いない」が6.6ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していない(未婚・非婚)」が84.6%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「準共働き②」が88.4%と他の項目に比べ多くなっています。



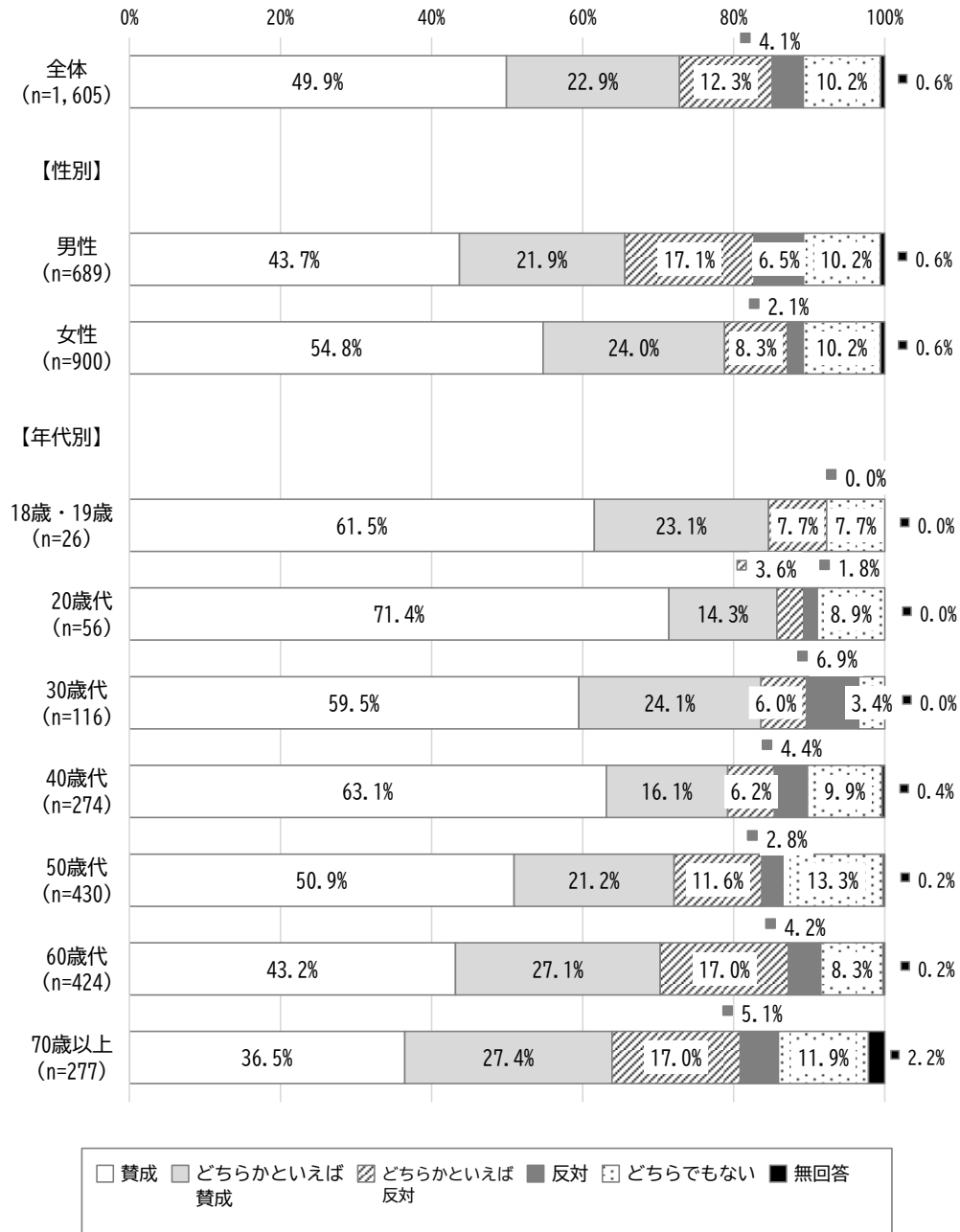
【性別・年代別集計】

② 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい

■ 『賛成』で男性より女性が13.2ポイント多い

子どもをもつことにこだわらなくてもよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が13.2ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が若い人の方が『賛成』が多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

② 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい

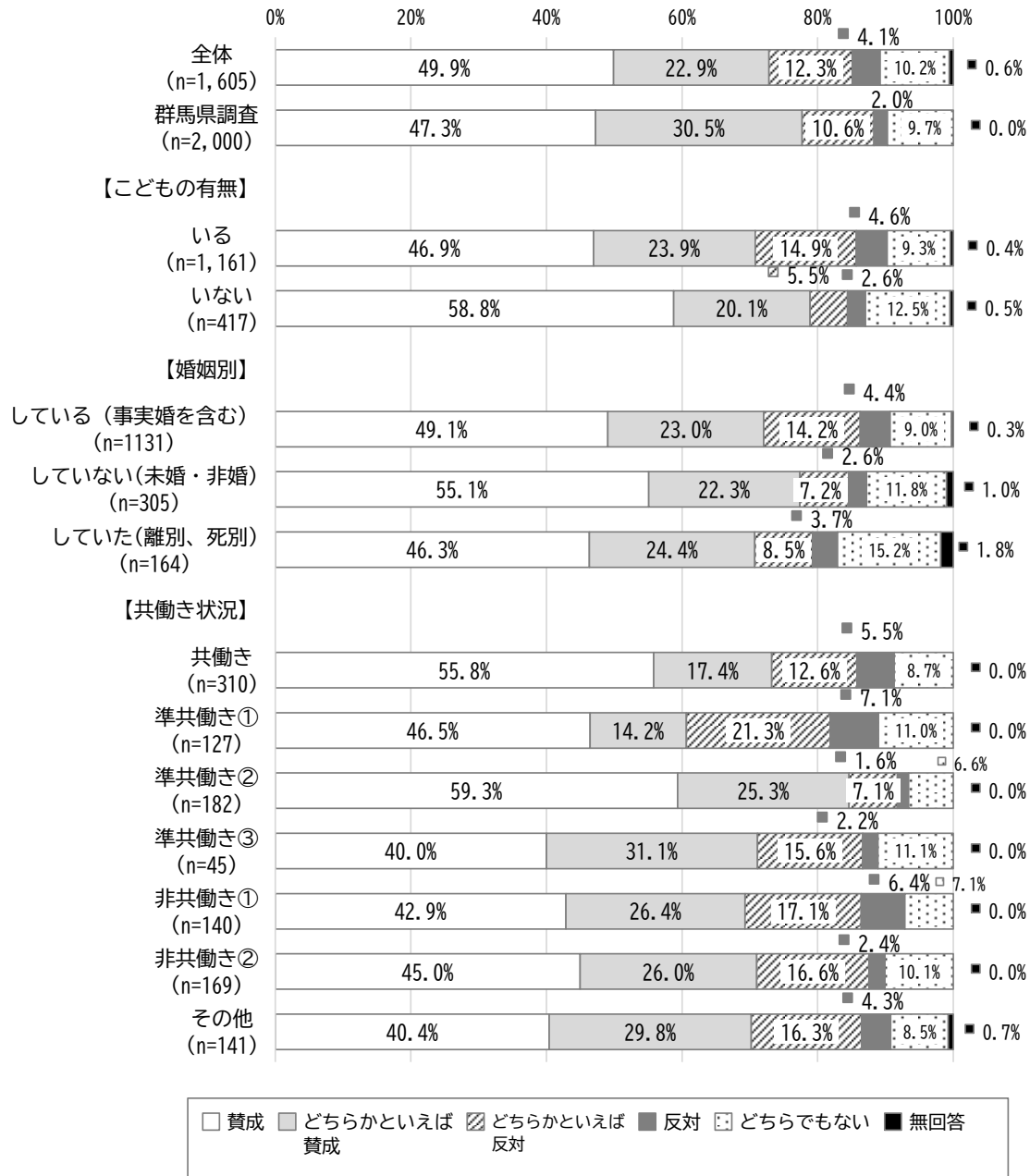
■ 群馬県調査より『賛成』が5.0ポイント少ない

結婚をしても、子どもをもつことにこだわらなくてもよいかについては、群馬県調査より『賛成』が5.0ポイント少なくなっています。

こどもの有無で見ると『賛成』で「いる」より「いない」が8.1ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していない(未婚・非婚)」が77.4%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「準共働き②」が84.6%と他の項目に比べ多くなっています。



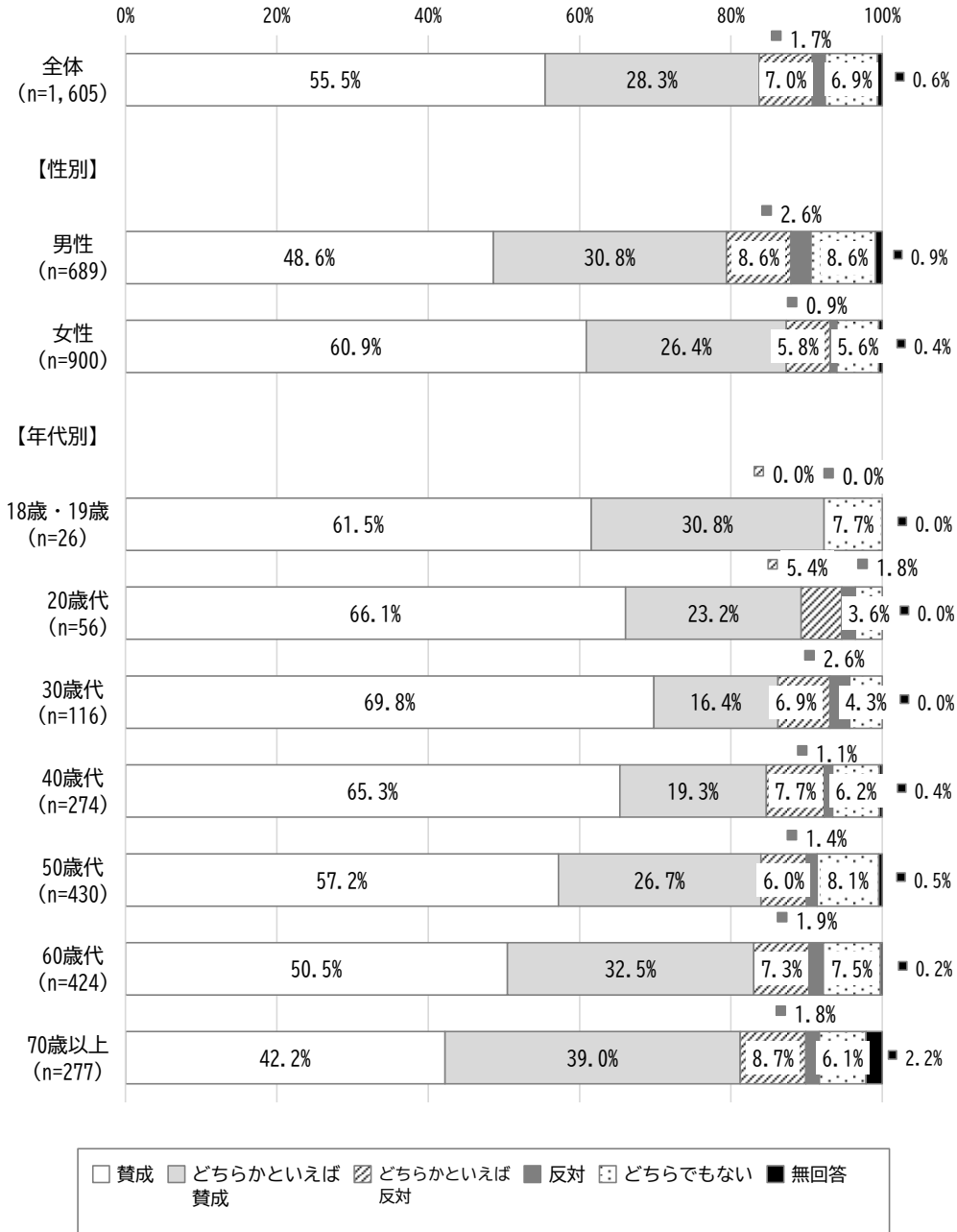
【性別・年代別集計】

③ 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない

■ 『賛成』で男性より女性が7.9ポイント多い

うまくいかなければ離婚してもかまわないかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が7.9ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が若い人の方が『賛成』が多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

③ 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない

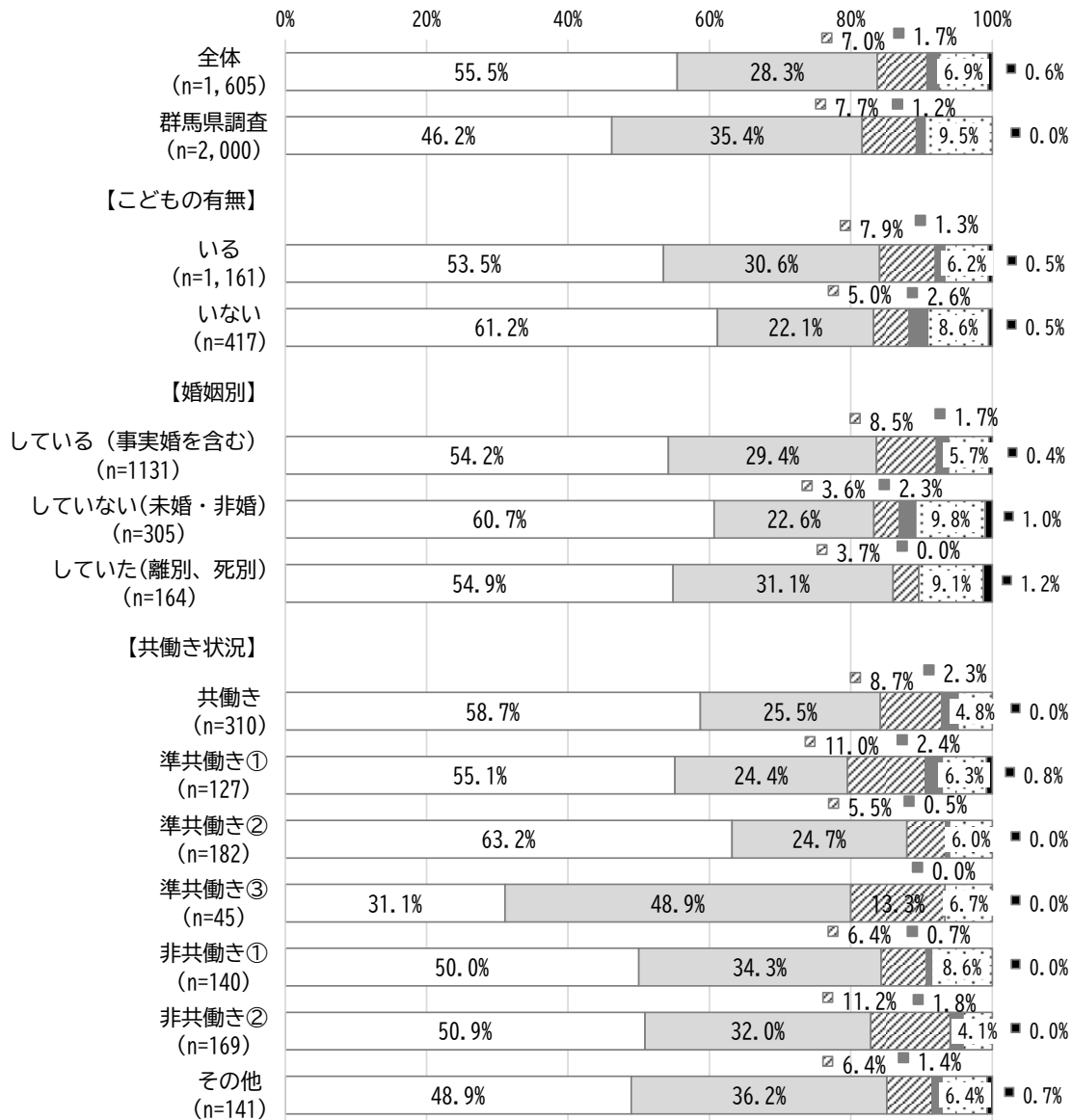
■ 群馬県調査より『賛成』が2.2ポイント多い

結婚をしても、うまくいかなければ離婚してもかまわないについては、群馬県調査より『賛成』が2.2ポイント多くなっています。

こどもの有無で見ると「賛成」のみで「いる」より「いない」が7.7ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していない(未婚・非婚)」が83.3%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「準共働き②」が87.9%と他の項目に比べ多くなっています。



□ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ▩ どちらでもない ■ 無回答

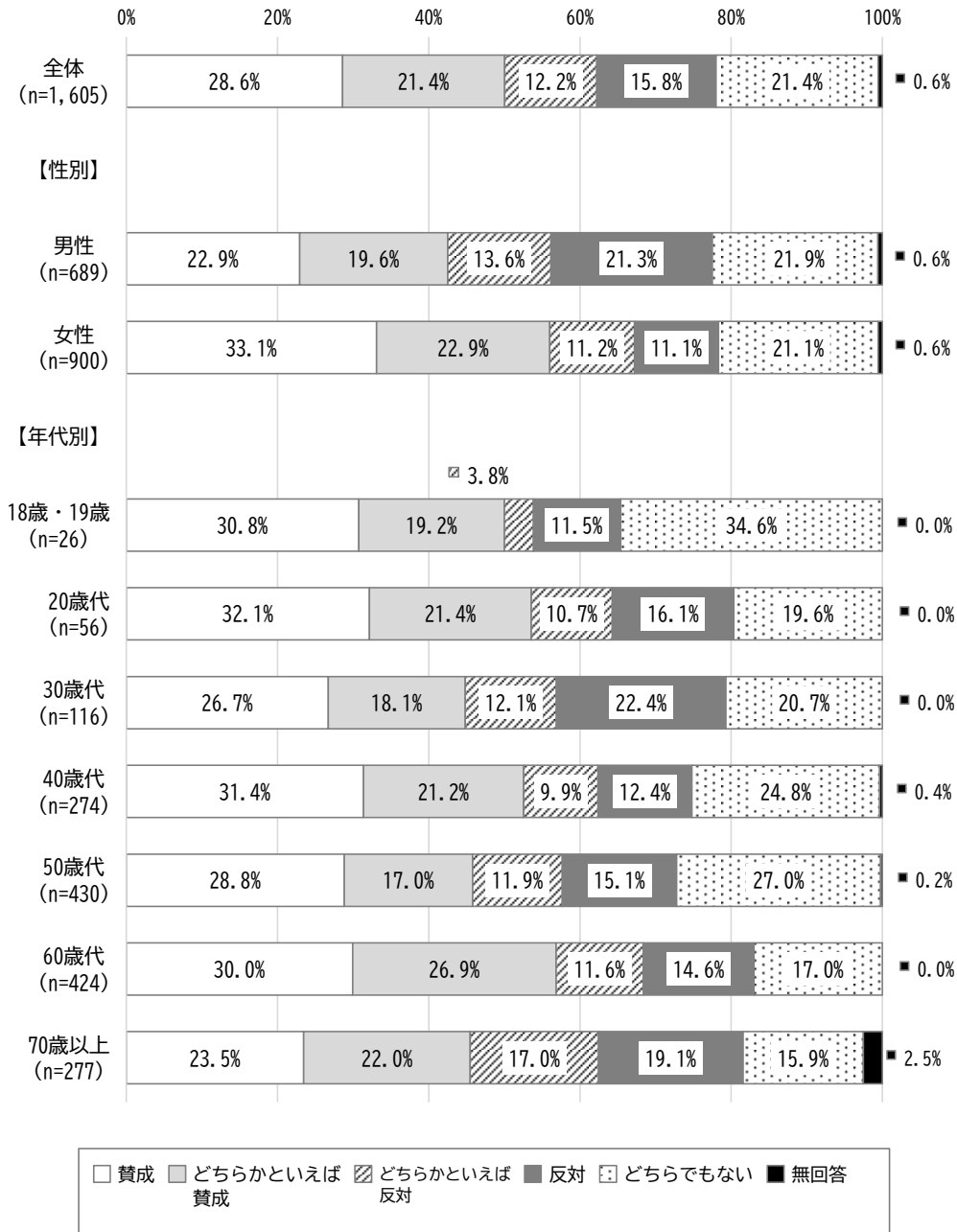
【性別・年代別集計】

④ 選択的夫婦別姓（別苗字）の制度が法律で認められるとよい

■ 『賛成』で男性より女性が13.5ポイント多い

選択的夫婦別姓の制度が法律で認められるとよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が13.5ポイント多くなっています。

年代で見ると、『賛成』が20歳代、40歳代、60歳代で多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

④ 選択的夫婦別姓（別苗字）の制度が法律で認められるとよい

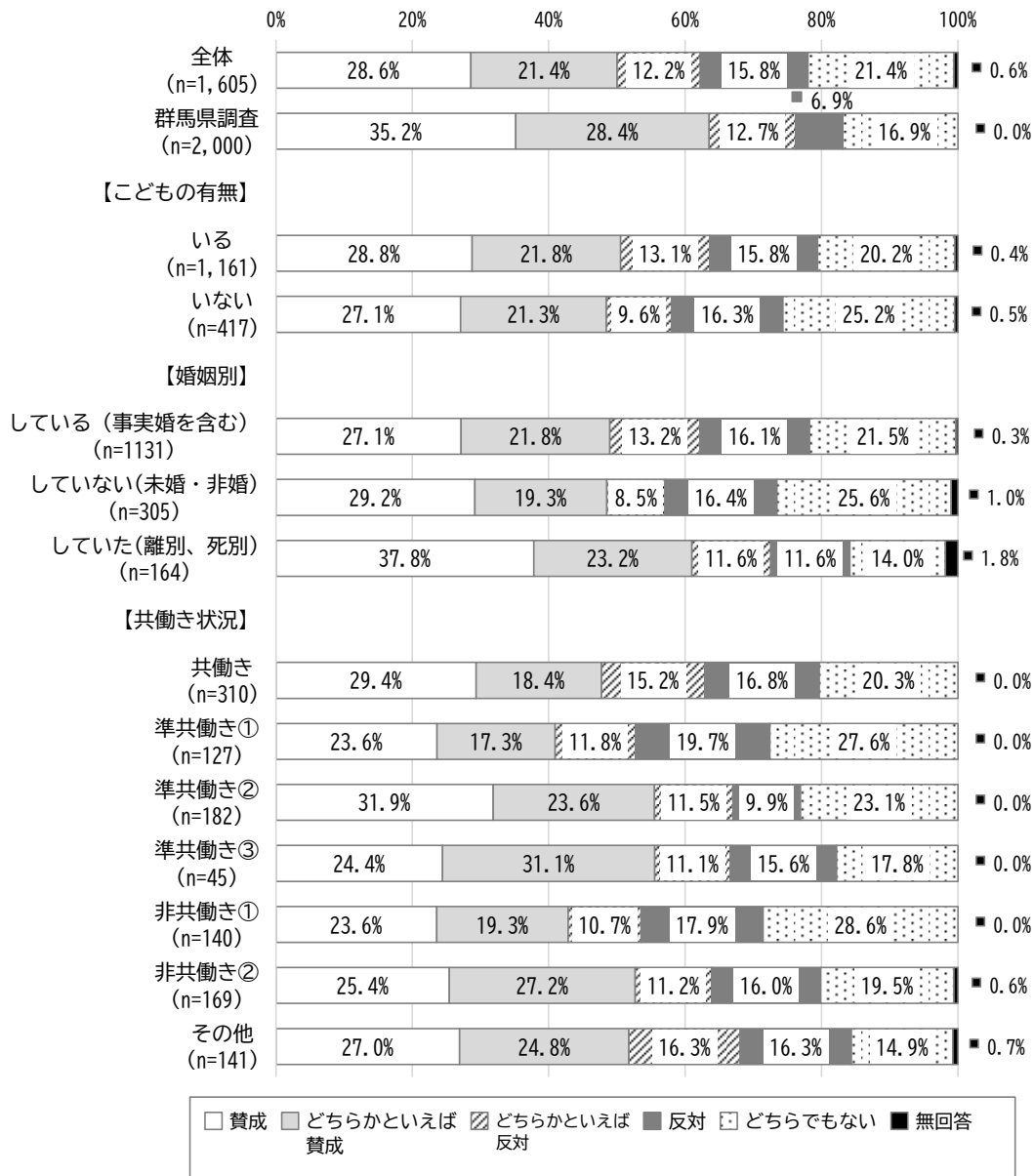
■ 群馬県調査より『賛成』が13.6ポイント少ない

選択的夫婦別姓の制度が法律で認められるとよいかについては、群馬県調査より『賛成』が13.6ポイント少なくなっています。

こどもの有無で見ると『賛成』で「いない」より「いる」が2.2ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していた(離別、死別)」が61.0%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「準共働き②」「準共働き③」がともに55.5%と他の項目に比べ多くなっています。



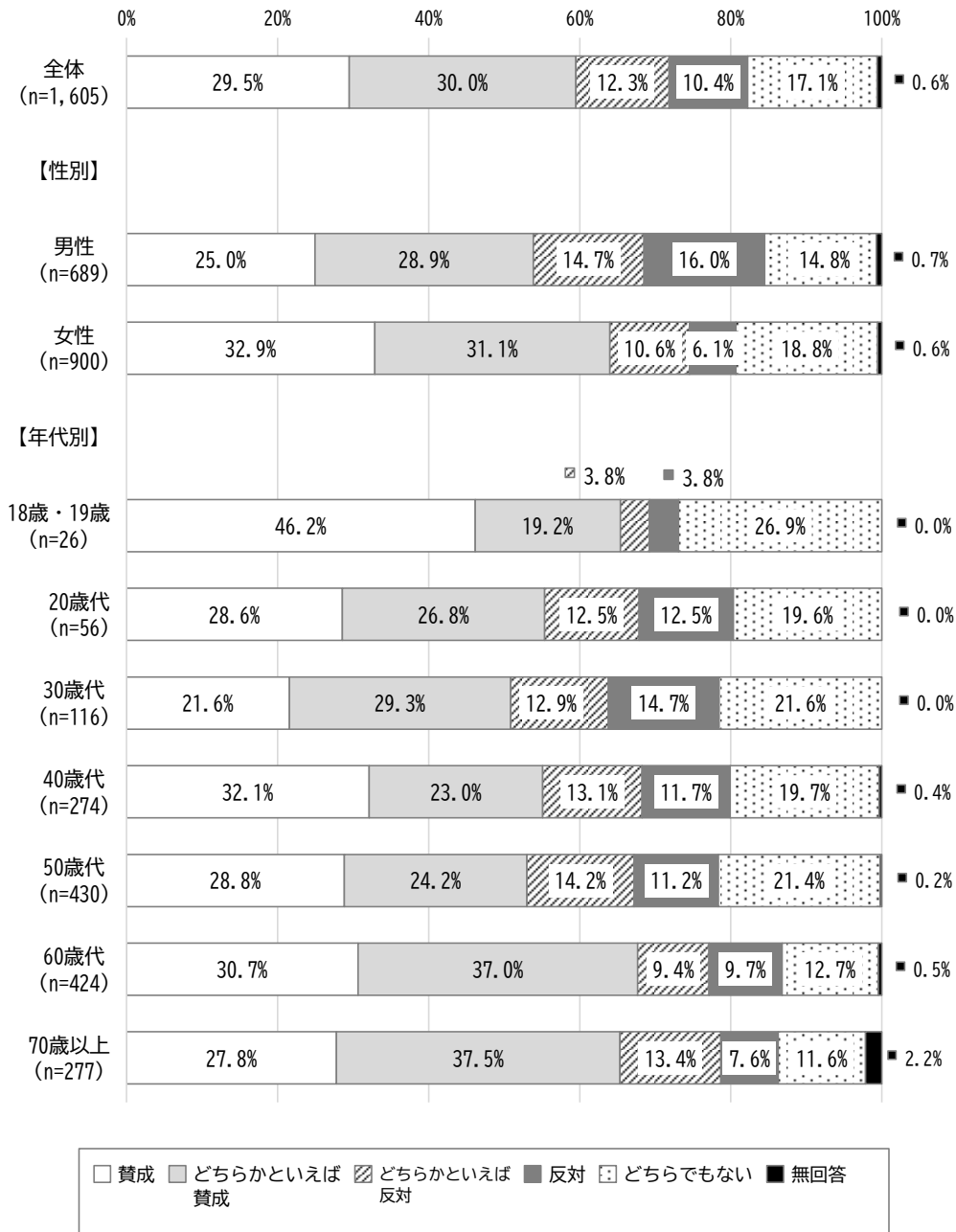
【性別・年代別集計】

⑤ 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい

■ 『賛成』で男性より女性が10.1ポイント多い

事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が10.1ポイント多くなっています。

年代で見ると、『賛成』が60歳代、70歳以上で多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

⑤ 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとうい

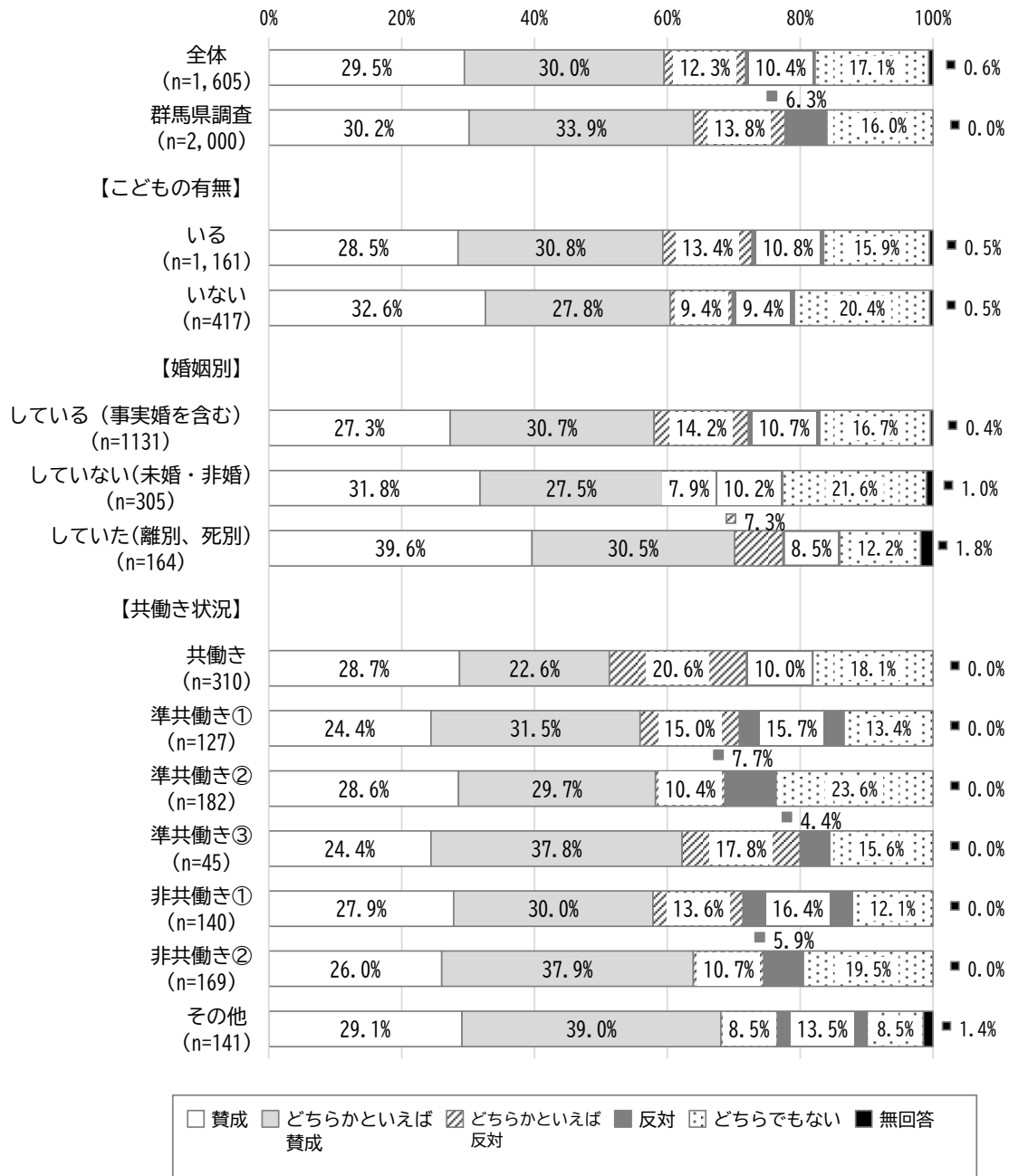
■ 群馬県調査より『賛成』が4.6ポイント少ない

事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとういについては、群馬県調査より『賛成』が4.6ポイント少なくなっています。

こどもの有無で見ると「賛成」のみで「いる」より「いない」が4.1ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していた(離別、死別)」が70.1%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「その他」の世帯が68.1%と他の項目に比べ多くなっています。



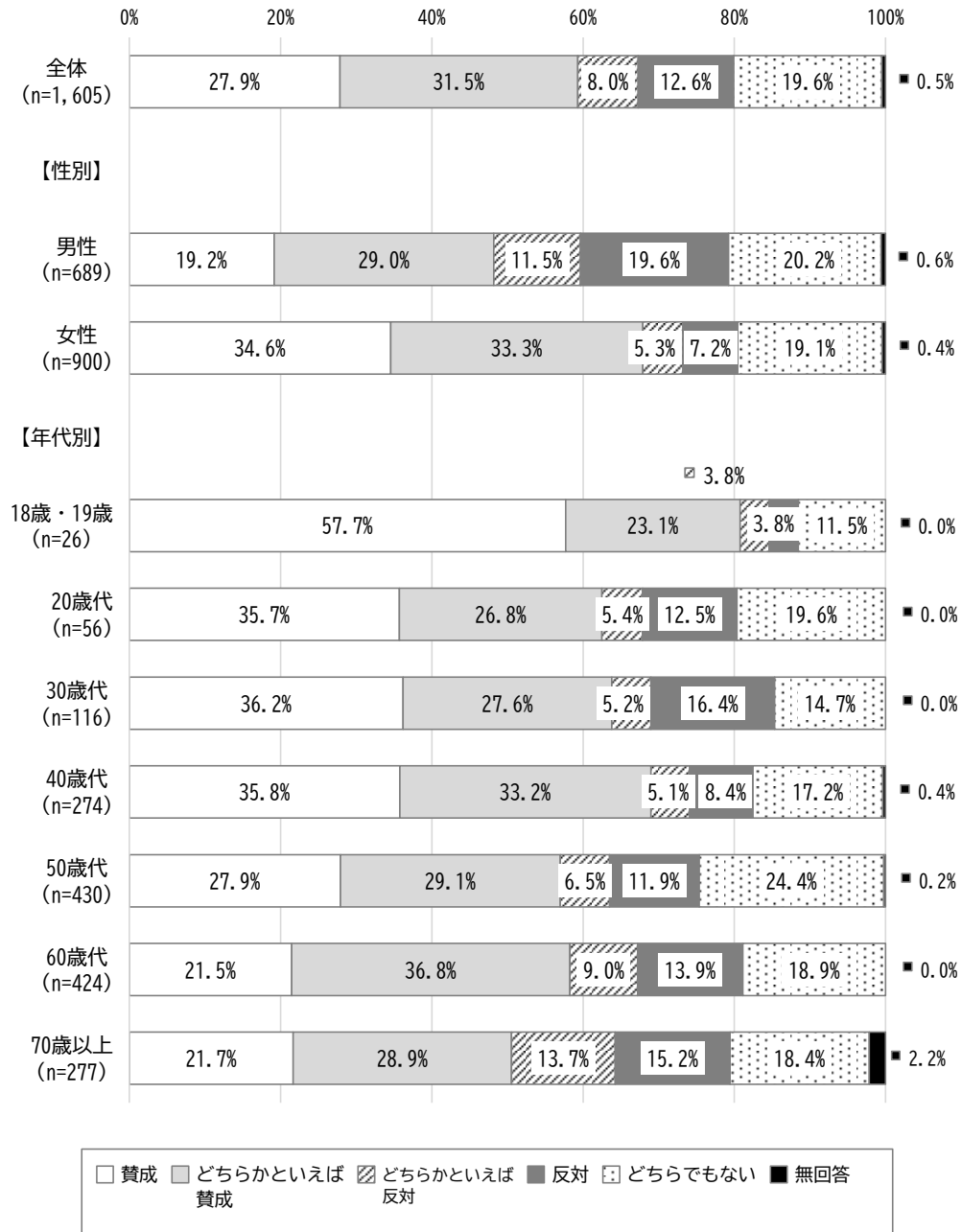
【性別・年代別集計】

⑥ 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい

■ 『賛成』で男性より女性が19.7ポイント多い

同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が19.7ポイント多くなっています。

年代で見ると、『賛成』が20歳代、30歳代、40歳代で多くなっています。



【群馬県調査・こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

⑥ 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとうい

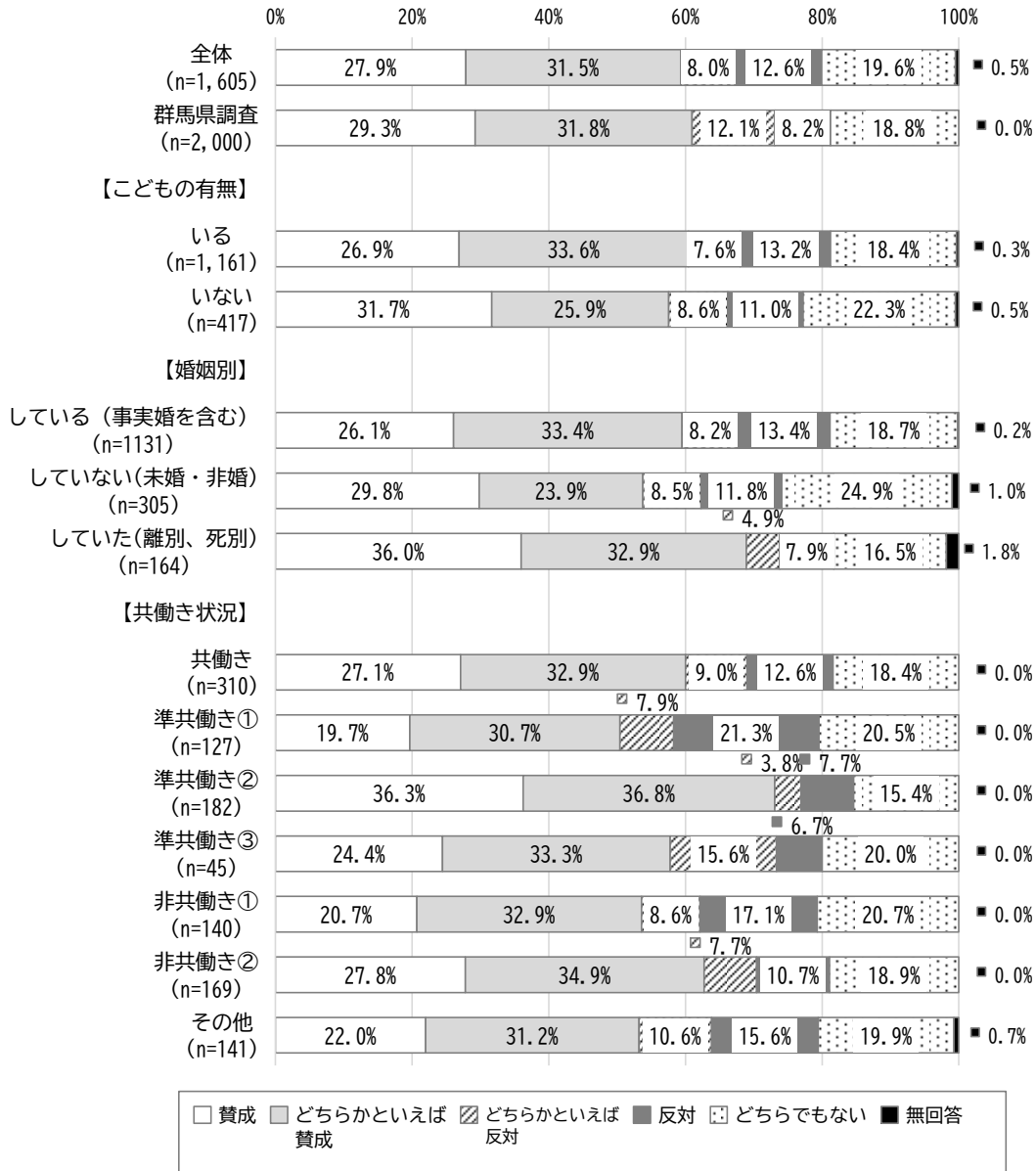
■ 群馬県調査より『賛成』が1.7ポイント少ない

同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとういかにについては、群馬県調査より『賛成』が1.7ポイント少なくなっています。

こどもの有無で見ると『賛成』で「いない」より「いる」が2.9ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『賛成』で「していた(離別、死別)」が68.9%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『賛成』で「準共働き②」が73.1%と他の項目に比べ多くなっています。



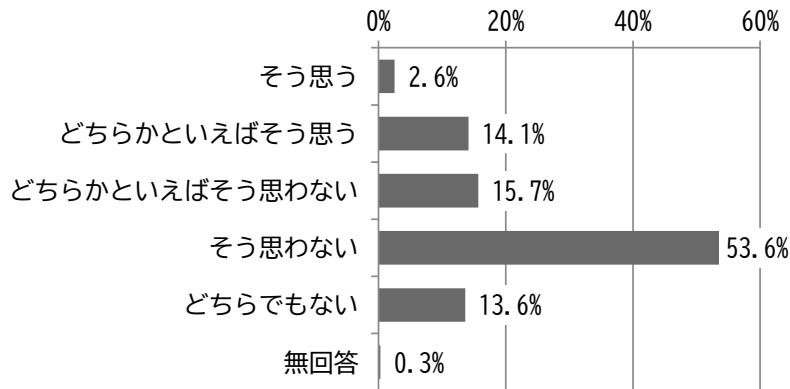
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(○は1つ)

■ 「男は仕事、女は家庭」について『そう思わない』が7割

「男は仕事、女は家庭」という考え方についての「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が16.7%となっています。

一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が69.3%となっています。



項目	度数	比率
そう思う	41	2.6%
どちらかといえばそう思う	227	14.1%
どちらかといえばそう思わない	252	15.7%
そう思わない	861	53.6%
どちらでもない	219	13.6%
無回答	5	0.3%
合計	1,605	100.0%

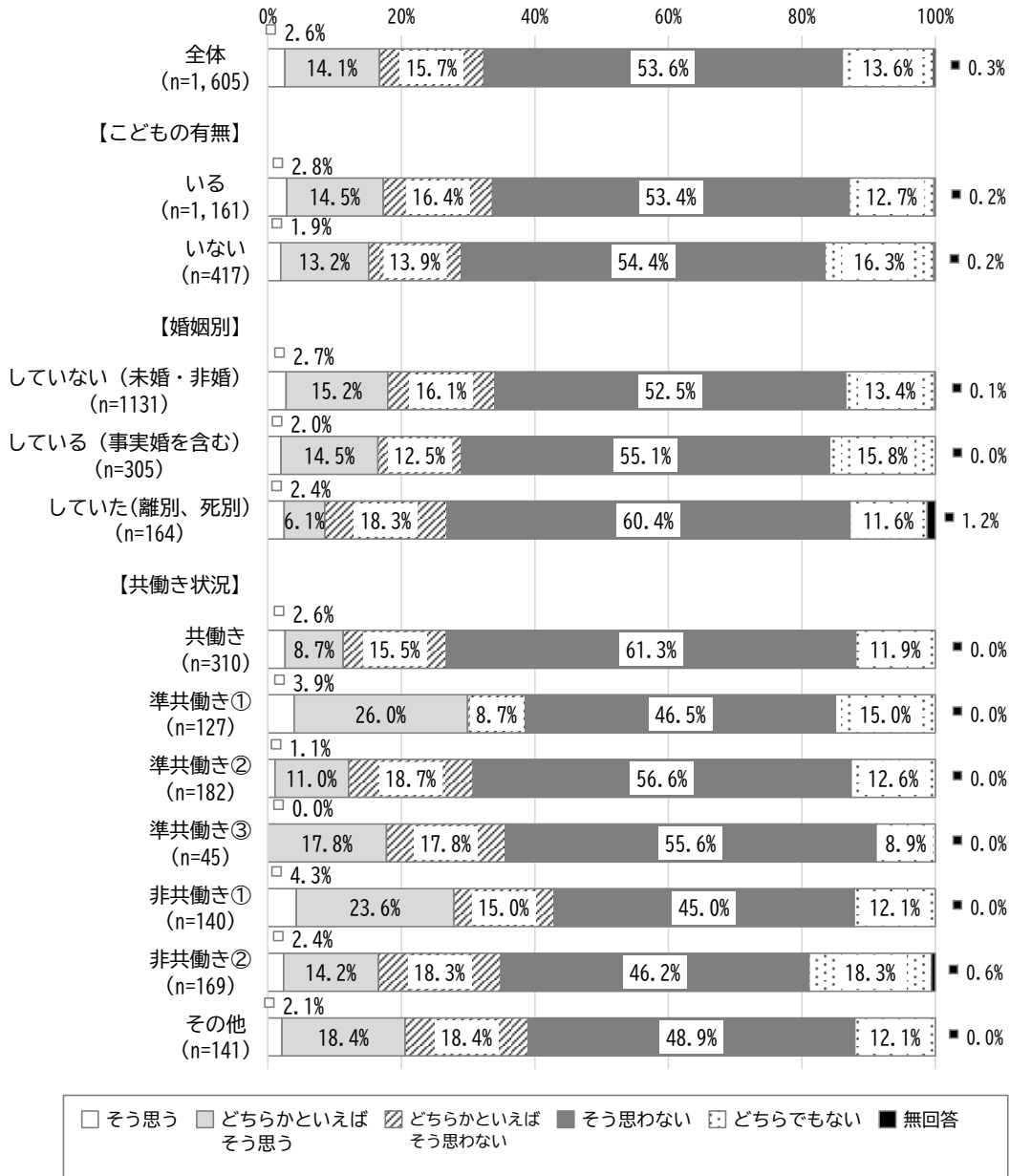
【こどもの有無・婚姻状況別・共働き状況集計】

■ 婚姻別では、「していた(離別、死別)」で約8割が『そう思わない』

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてこどもの有無で見ると『そう思う』で「いない」より「いる」が2.2ポイント多くなっています。

婚姻別で見ると、『そう思わない』で「していた(離別、死別)」が78.7%と他の項目に比べ多くなっています。

共働き状況で見ると、『そう思わない』で「共働き」が76.8%と他の項目に比べ多くなっています。



【前回調査・群馬県調査・全国調査比較・性別・年代別集計】

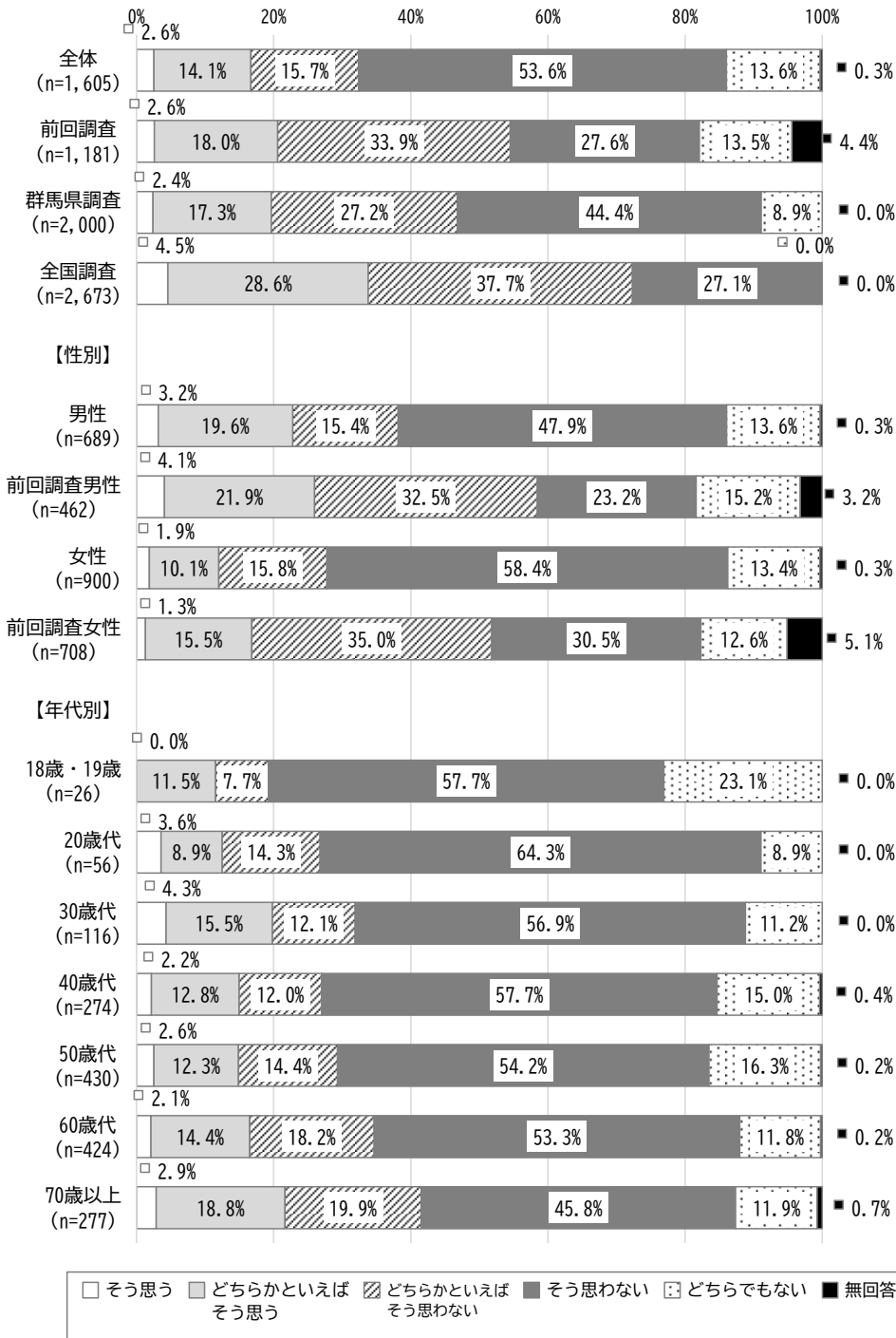
■ 男女別では、『そう思わない』で男性より女性が10.9ポイント多い

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、群馬県調査が、『そう思わない』がやや多くなっています。

性別で見ると、『そう思わない』で男性より女性が10.9ポイント多くなっています。

年代で見ると、『そう思わない』が20歳代、60歳代でやや多くなっています。

※前回調査、全国調査のこの設問は、選択肢が「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」となっており、参考数値のためコメントは掲載しません。



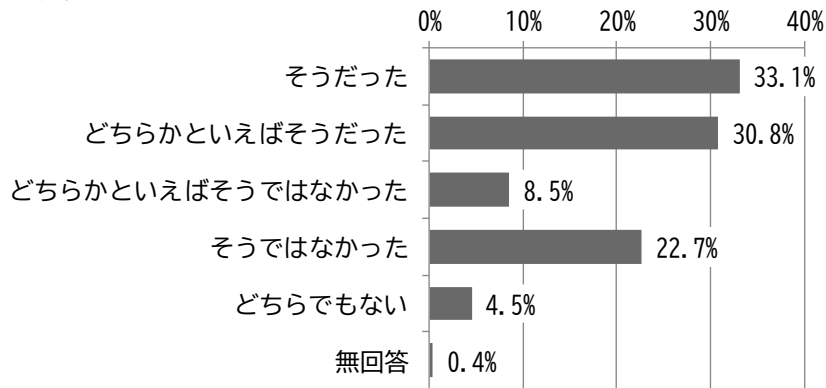
(3) こどもの頃の家庭内の状況

問4 こどもの頃、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況でしたか。(〇は1つ)

■ こどもの頃の家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況だったが6割強

こどもの頃の家庭の状況が「男は仕事、女は家庭」だったかについての「そうだった」「どちらかといえばそうだった」を合わせた『そうだった』が63.9%となっています。

一方、「どちらかといえばそうではなかった」「そうではなかった」を合わせた『そうではなかった』が31.2%となっています。



項目	度数	比率
そうだった	531	33.1%
どちらかといえばそうだった	495	30.8%
どちらかといえばそうではなかった	137	8.5%
そうではなかった	364	22.7%
どちらでもない	72	4.5%
無回答	6	0.4%
合計	1,605	100.0%

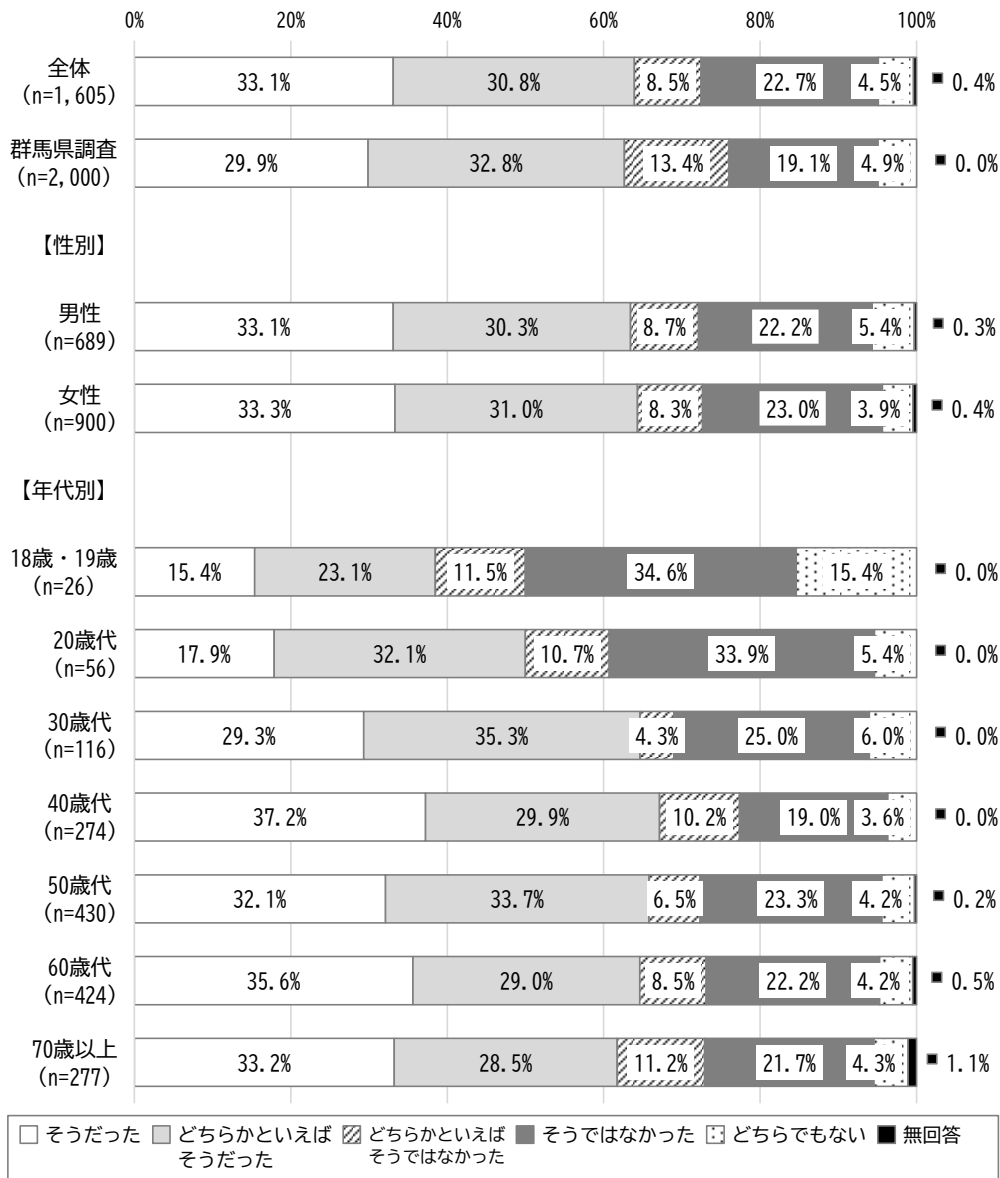
【群馬県調査比較・性別・年代別集計】

■ こどもの頃の家庭では、「40歳代」で「男は仕事、女は家庭」という状況だったが7割弱

こどもの頃の家庭の状況が「男は仕事、女は家庭」だったかについては、群馬県調査と比較して同様の回答となっています。

性別で見ても、同様の回答となっています。

年代で見ると、『そうだった』が「40歳代」で67.1%と最も多く、20歳代以下で少なくなっています。



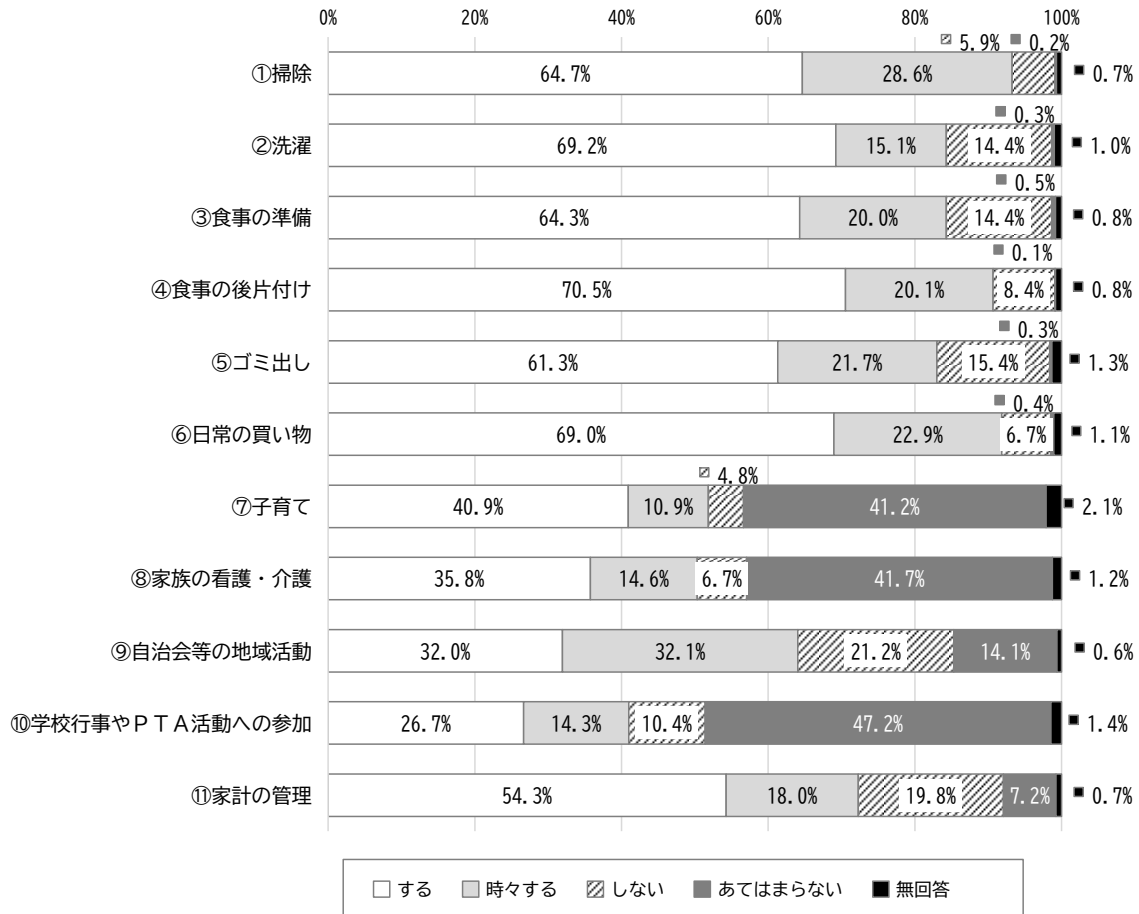
(4) 家庭内の役割分担の現状

問5 あなたは、家庭内における役割について、次のことにどのくらい関わっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

■ 家庭内における役割は、「①掃除」「⑥日常の買い物」「④食事の後片付け」で9割超

家庭内における役割についての「する」「時々する」を合わせた『する』では、「①掃除」が93.3%と最も多く、次いで「⑥日常の買い物」が91.9%、「④食事の後片付け」が90.6%となっています。

一方、「しない」では、「⑨自治会等の地域活動」が21.2%が最も多く、次いで「⑩学校行事やPTA活動への参加」が19.8%、「⑤ゴミ出し」が15.4%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	する	時々する	しない	あてはまらない	無回答	合計
①掃除	1,038	459	94	3	11	1,605
	64.7%	28.6%	5.9%	0.2%	0.7%	100.0%
②洗濯	1,111	242	231	5	16	1,605
	69.2%	15.1%	14.4%	0.3%	1.0%	100.0%
③食事の準備	1,032	321	231	8	13	1,605
	64.3%	20.0%	14.4%	0.5%	0.8%	100.0%
④食事の後片付け	1,132	323	135	2	13	1,605
	70.5%	20.1%	8.4%	0.1%	0.8%	100.0%
⑤ゴミ出し	984	348	247	5	21	1,605
	61.3%	21.7%	15.4%	0.3%	1.3%	100.0%
⑥日常の買い物	1,107	367	107	7	17	1,605
	69.0%	22.9%	6.7%	0.4%	1.1%	100.0%
⑦子育て	657	175	77	662	34	1,605
	40.9%	10.9%	4.8%	41.2%	2.1%	100.0%
⑧家族の看護・介護	574	234	108	669	20	1,605
	35.8%	14.6%	6.7%	41.7%	1.2%	100.0%
⑨自治会等の地域活動	513	515	341	226	10	1,605
	32.0%	32.1%	21.2%	14.1%	0.6%	100.0%
⑩学校行事やPTA活動への参加	428	230	167	757	23	1,605
	26.7%	14.3%	10.4%	47.2%	1.4%	100.0%
⑪家計の管理	871	289	318	115	12	1,605
	54.3%	18.0%	19.8%	7.2%	0.7%	100.0%

【前回調査比較・性別・年代別集計】

① 掃除

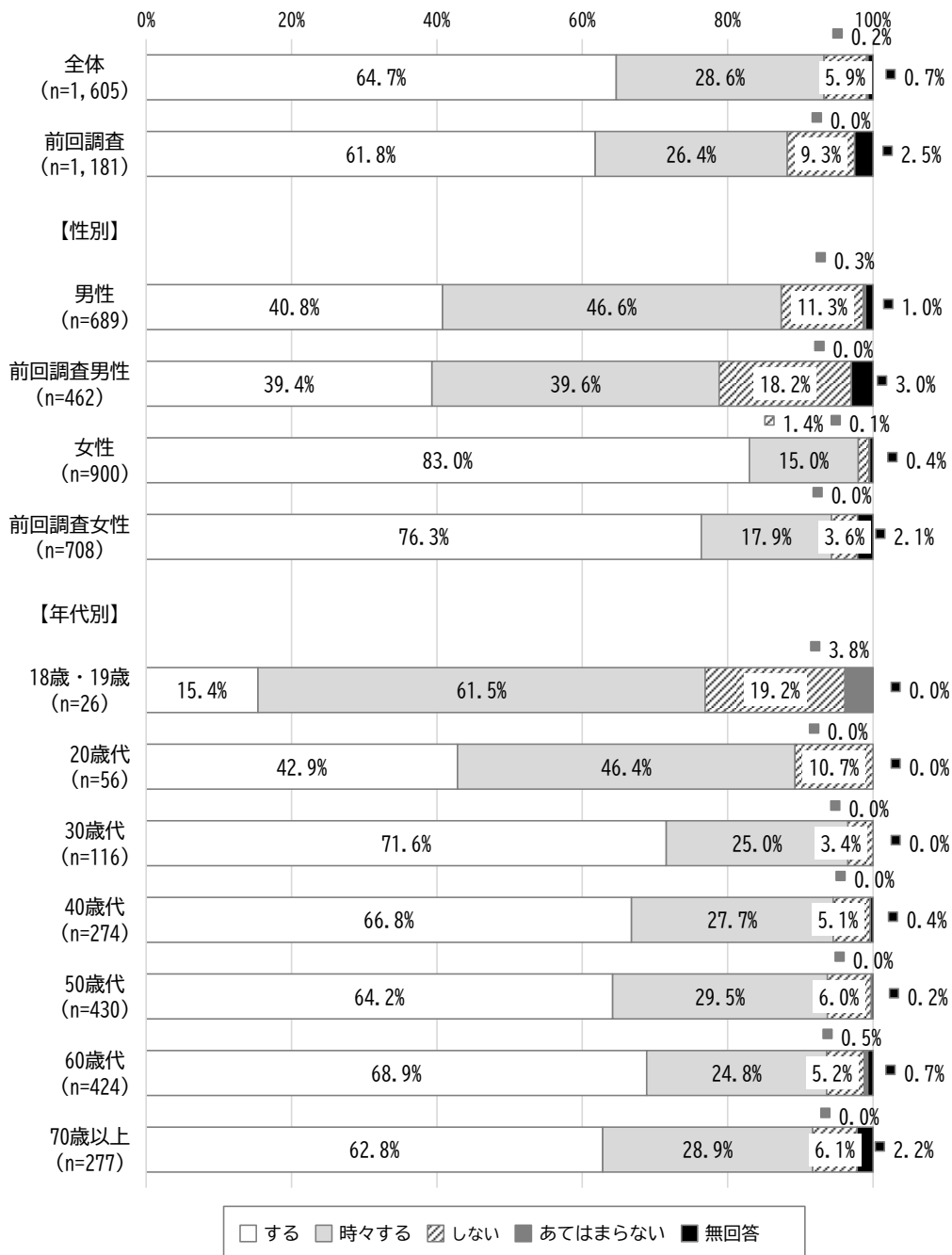
※前回調査の選択肢は「ほとんどしない」「しない」のため、合わせて『しない』で比較し、項目によって「該当なし」があったため、「あてはまらない」で比較しています。

■ 掃除は、「する」で男性より女性が42.2ポイント多い

掃除については、前回調査より『する』が5.1ポイント多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が42.2ポイント多く、男性は「時々する」が多くなっています。前回調査と比較すると、同様の回答となっています。

年代で見ると、「する」で30歳代以降で多く、20歳代以下は「時々する」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

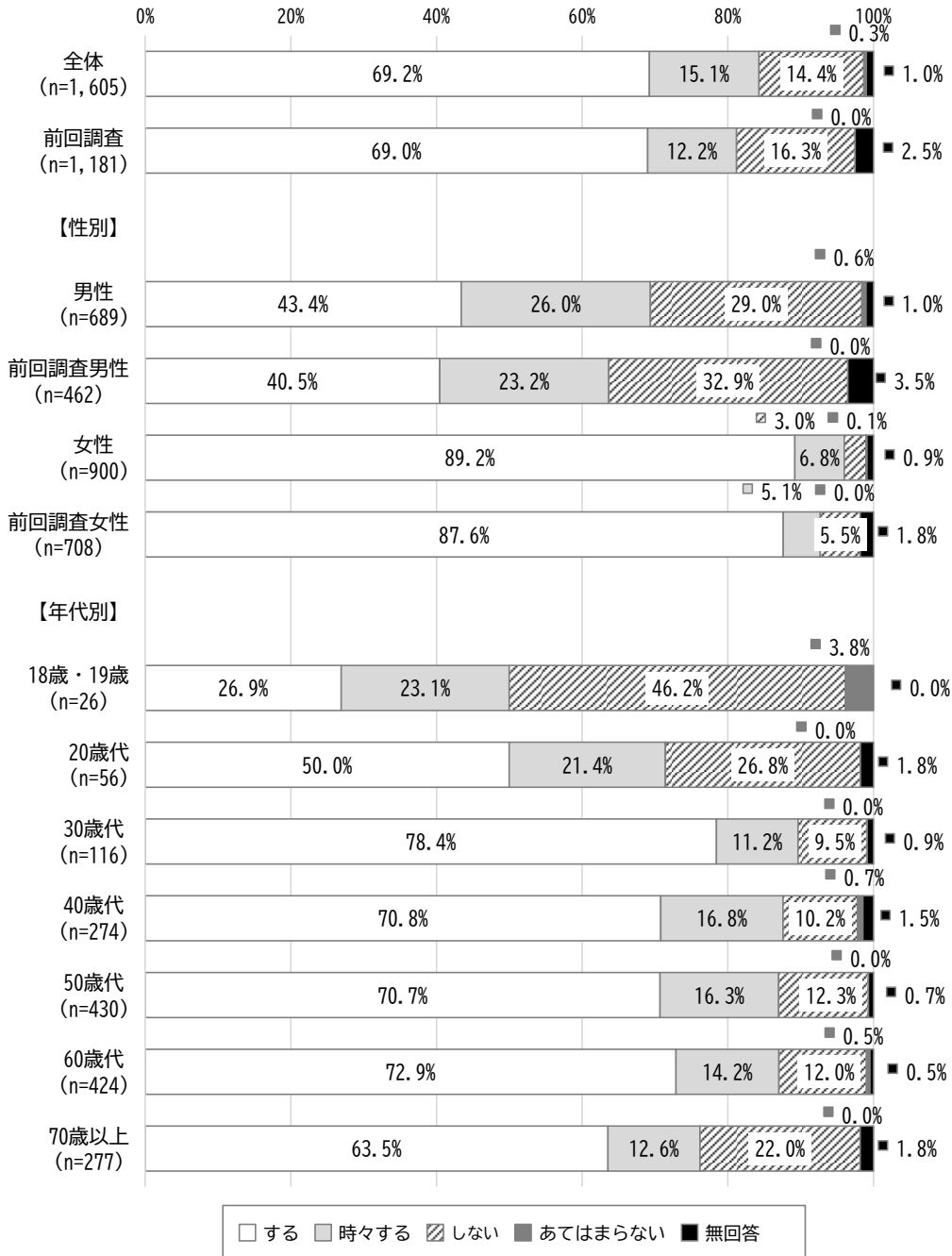
② 洗濯

■ 洗濯は、「する」で男性より女性が45.8ポイント多い

洗濯については、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が45.8ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査を男女で比較すると、男性の「時々する」がやや多くなっています。

年代で見ると、「する」で30歳代から60歳代で7割を超え多く、20歳代以下は「時々する」「しない」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

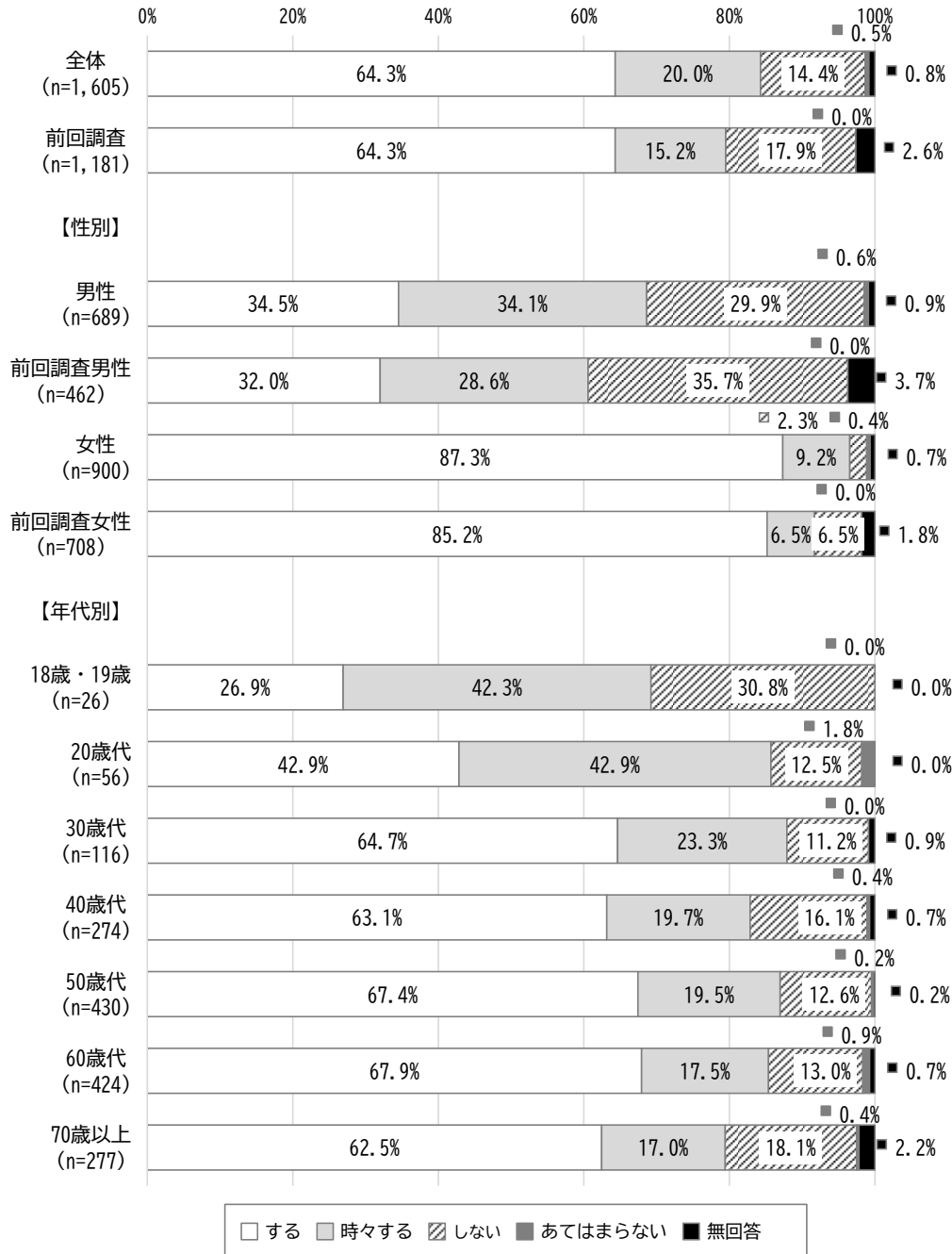
③ 食事の準備

■ 食事の準備は、「する」で男性より女性が 52.8 ポイント多い

食事の準備については、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が 52.8 ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性で『する』がやや多くなっています。

年代で見ると、「する」で 30 歳代以降で多く、20 歳代以下は「時々する」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

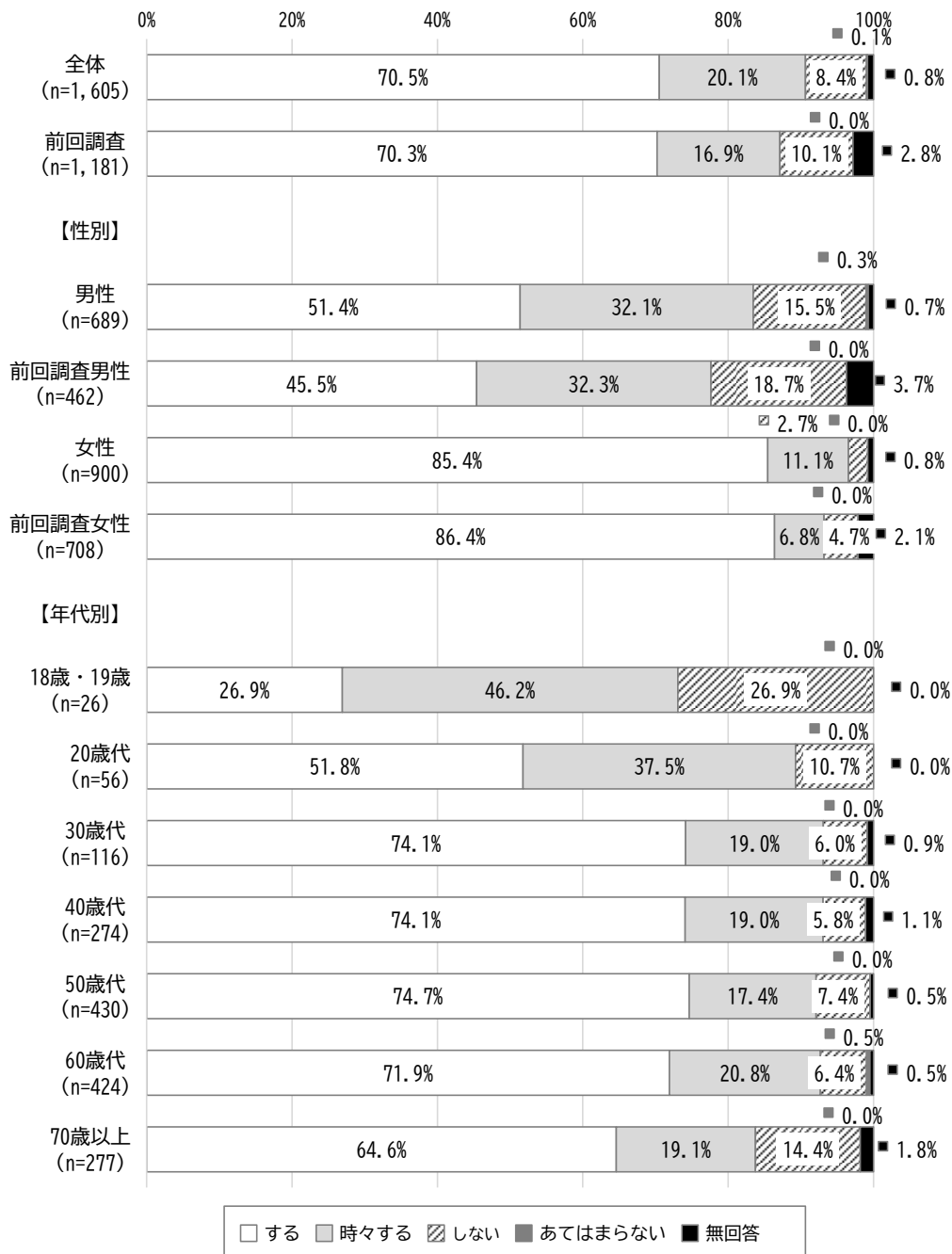
④ 食事の後片付け

■ 食事の後片付けは、「する」で男性より女性が34.0ポイント多い

食事の後片付けについては、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が34.0ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性女性ともに『する』がやや多くなっています。

年代で見ると、「する」で30歳代以降で多く、20歳代以下は「時々する」「しない」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

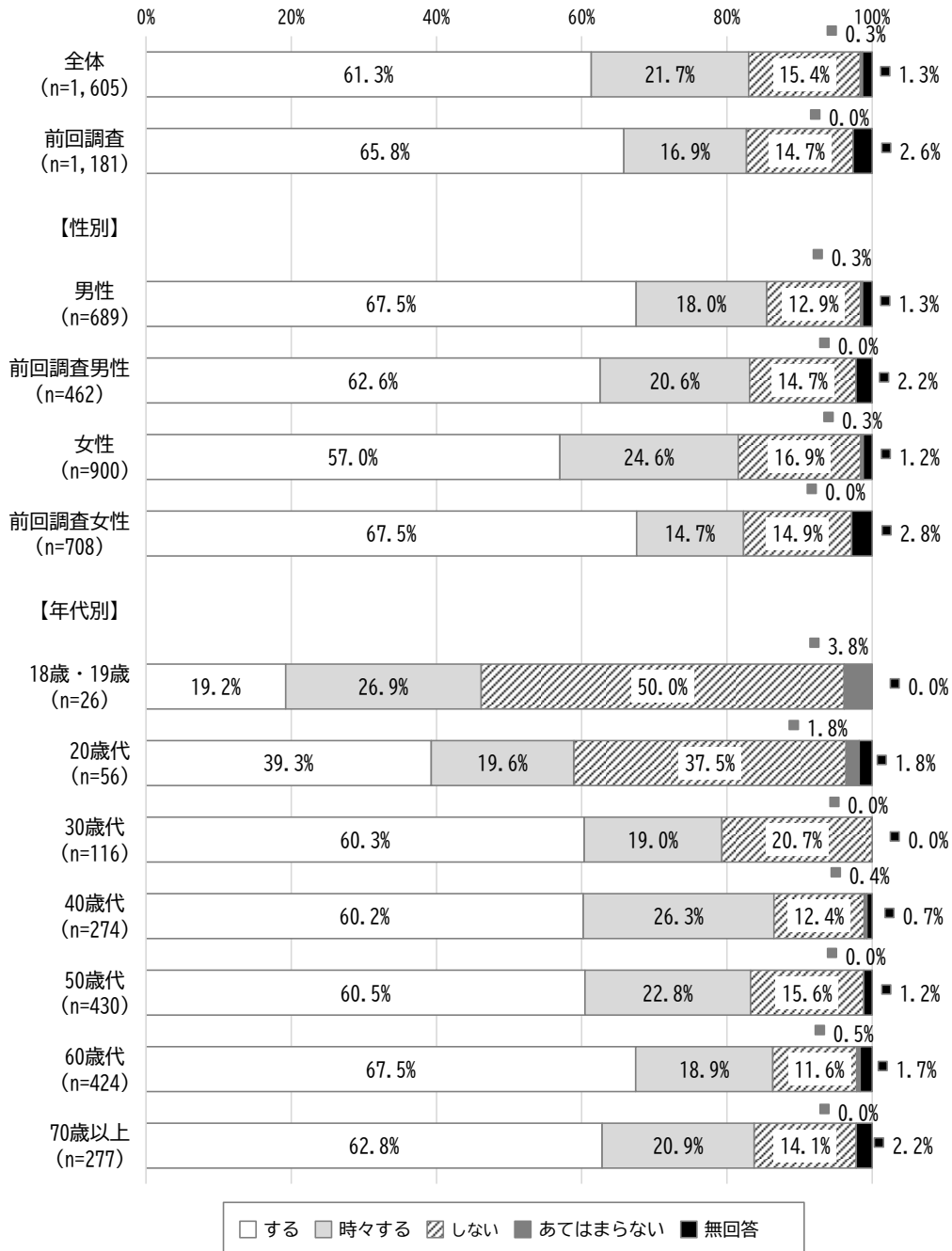
⑤ ゴミ出し

■ ゴミ出しは、「する」で女性より男性が 10.5 ポイント多い

ゴミ出しについては、前回調査とほぼ同様の回答となっています。

性別で見ると、「する」で女性より男性が 10.5 ポイント多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性で『する』がやや多くなっています。

年代で見ると、「する」で 30 歳代以降で多く、20 歳代以下は「時々する」「しない」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

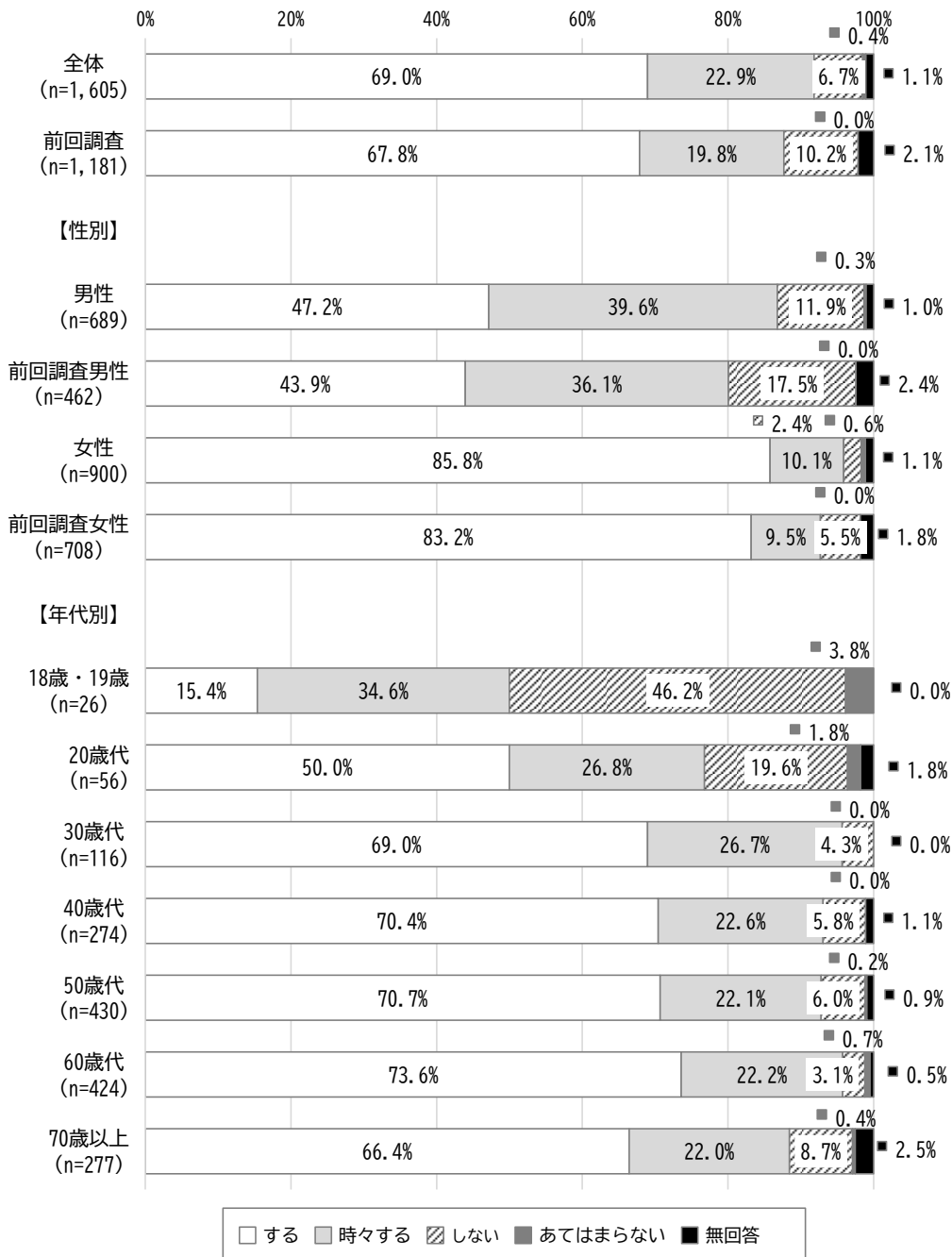
⑥ 日常の買い物

■ 日常の買い物は、「する」で男性より女性が38.6ポイント多い

日常の買い物については、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が38.6ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性女性ともに『する』がやや多くなっています。

年代で見ると、「する」で30歳代以降で多く、20歳代以下は「時々する」「しない」が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

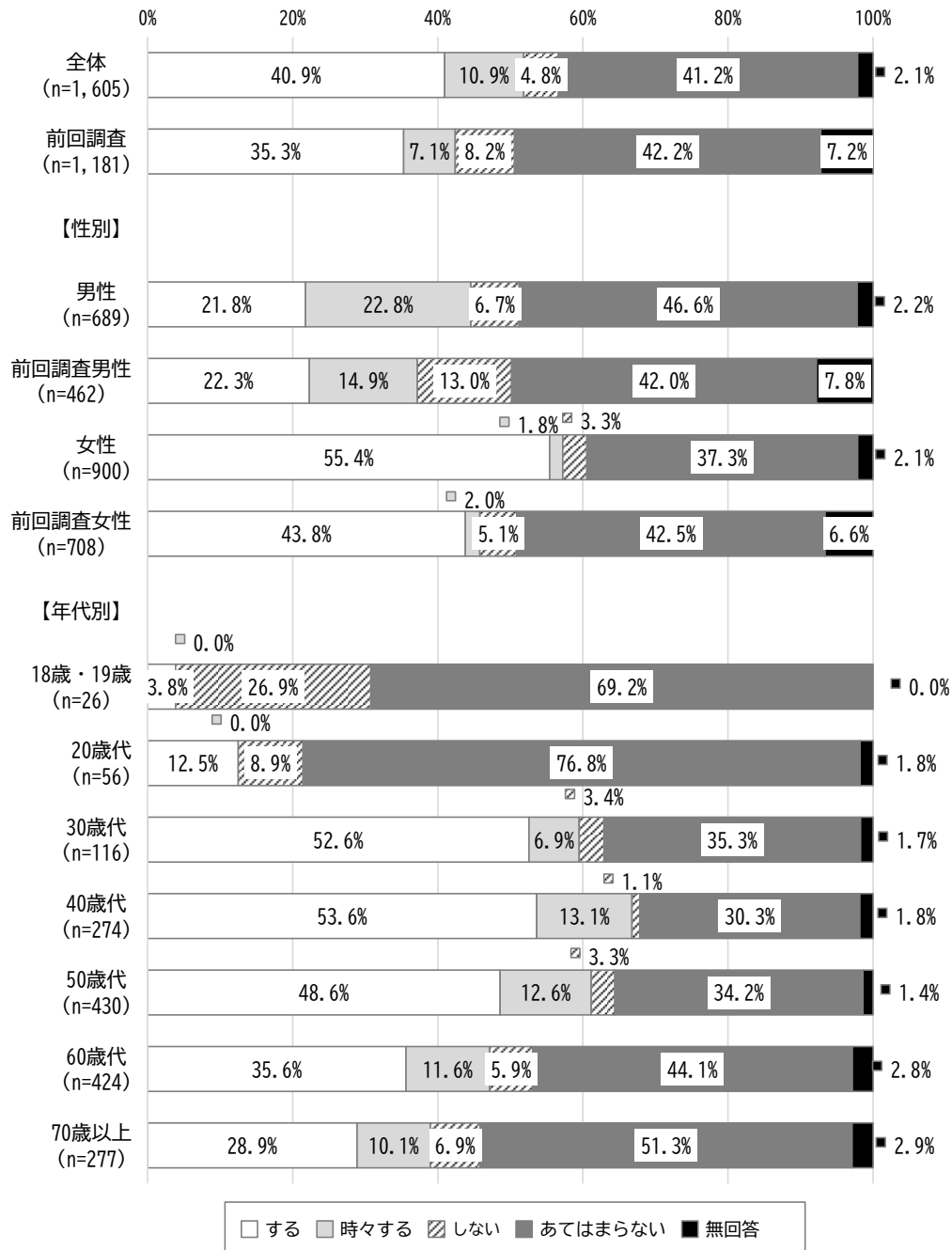
⑦ 子育て

■ 子育ては、「する」で男性より女性が33.6ポイント多い

子育てについては、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が33.6ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査と比較すると、男性女性ともに『する』が多くなっています。

年代で見ると、『する』で30歳、40歳代、50歳代で多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

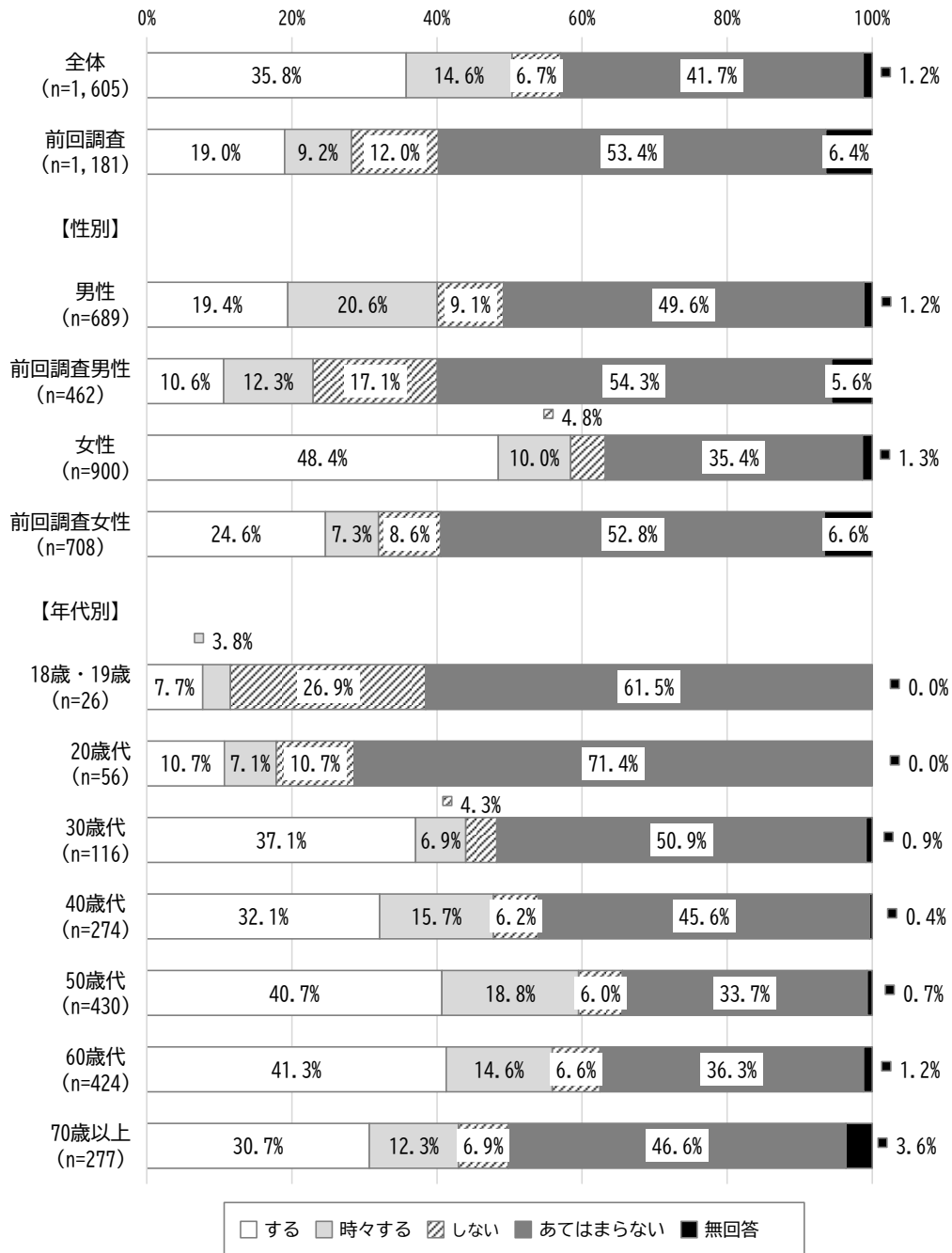
⑧ 家族の看護・介護

■ 家族の看護・介護は、「する」で男性より女性が29.0ポイント多い

家族の看護・介護については、前回調査より『する』が22.2ポイント多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が29.0ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査と比較すると、男性女性ともに『する』が多くなっています。

年代で見ると、『する』で50歳代、60歳代が多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

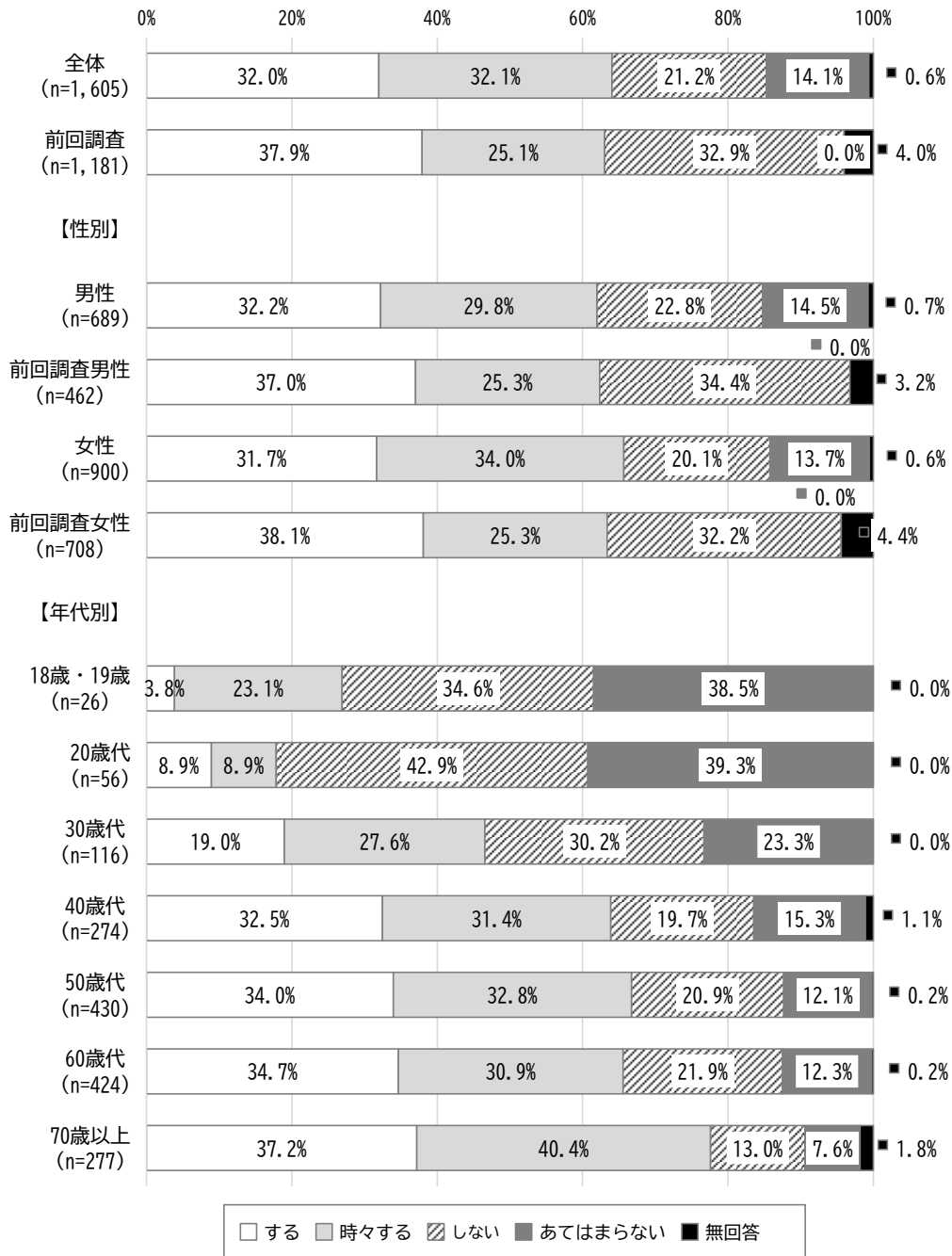
⑨ 自治会等の地域活動

■ 自治会等の地域活動は、「する」で男性より女性がやや多い

自治会等の地域活動については、ほぼ同様の回答となっています。

性別で見ると、『する』で男性より女性がやや多くなっています。前回調査の男女で比較すると、女性で『する』がやや多くなっています。

年代で見ると、『する』で70歳以上で最も多く、40歳代、50歳代、60歳代も続いて多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

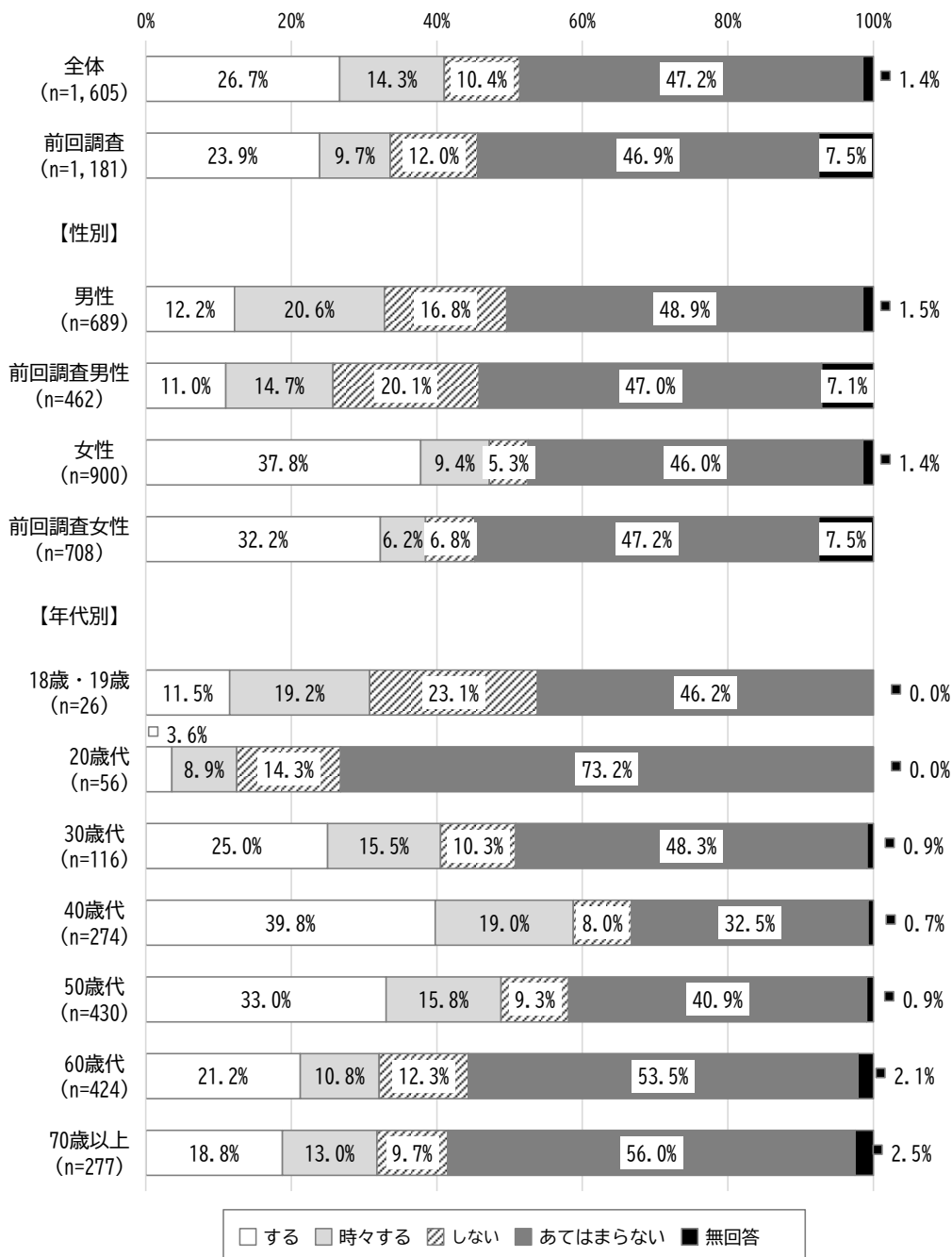
⑩ 学校行事やPTA活動への参加

■ 学校行事やPTA活動への参加は、「する」で男性より女性が25.6ポイント多い

学校行事やPTA活動への参加については、前回調査より『する』が7.4ポイント多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が25.6ポイント多く、男性は「時々する」「しない」が多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性女性ともに『する』が多くなっています。

年代で見ると、『する』で40歳代が最も多く、50歳代、30歳代が続いて多くなっています。



【前回調査比較・性別・年代別集計】

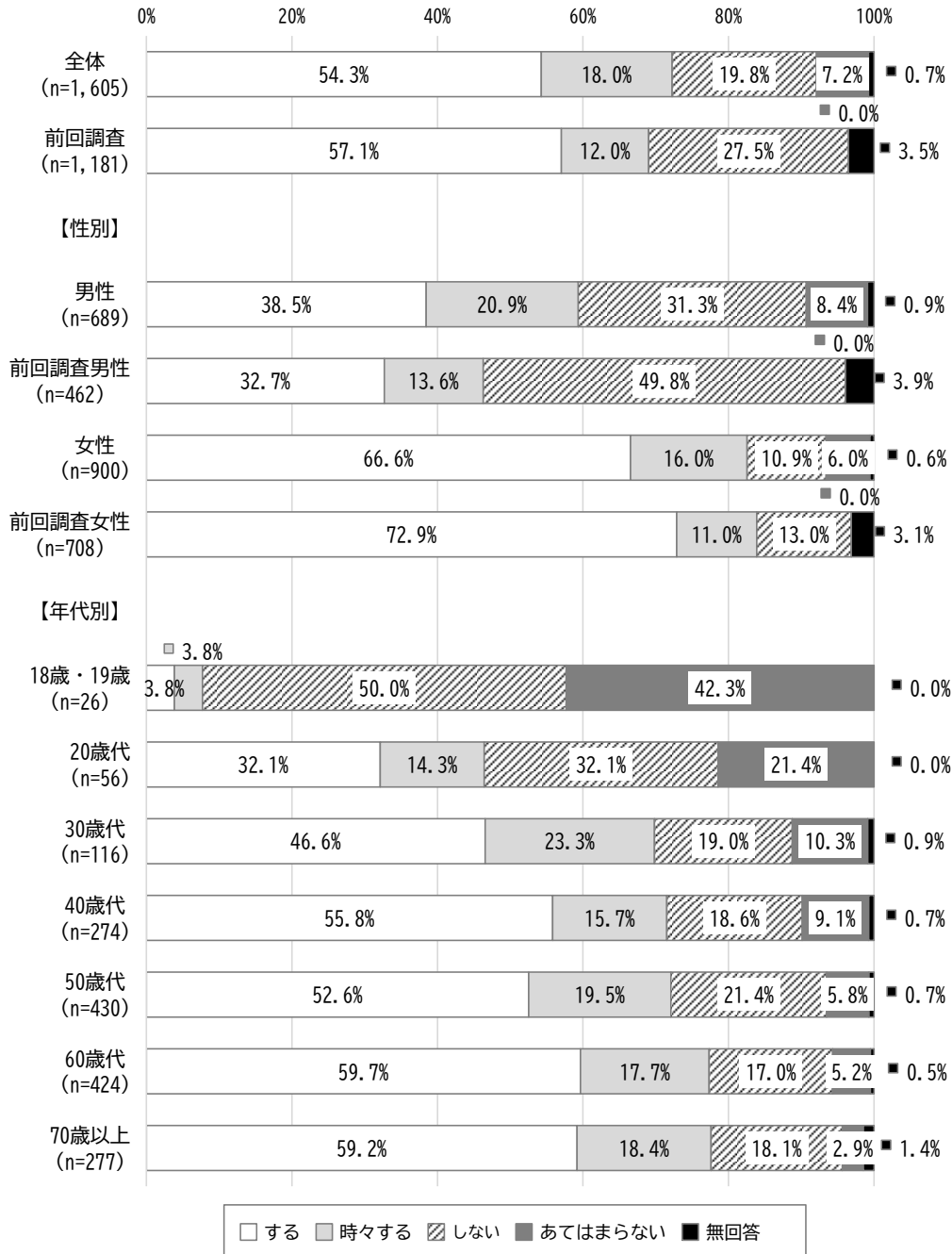
① 家計の管理

■ 家計の管理は、「する」で男性より女性が28.1ポイント多い

家計の管理については、前回調査より『する』がやや多くなっています。

性別で見ると、「する」で男性より女性が28.1ポイント多くなっています。前回調査の男女で比較すると、男性で『する』が13.1ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が上がるにつれて『する』が多くなっています。



4 子育て・介護について

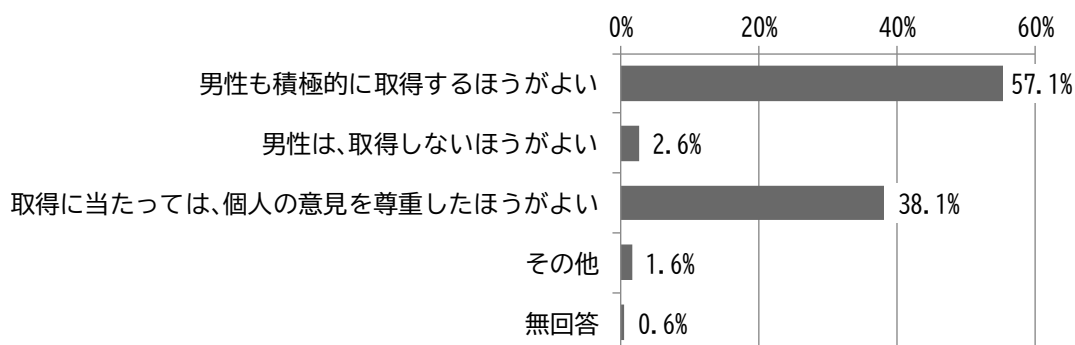
(1) 男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得への意識

問6 あなたは、男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得についてどう思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

【A男性が取得することについて】

■ 「男性も積極的に取得するほうがよい」が6割弱

男性が取得することについては、「男性も積極的に取得するほうがよい」が 57.1%と最も多く、次いで「取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい」が 38.1%、「男性は、取得しないほうがよい」が 2.6%となっています。



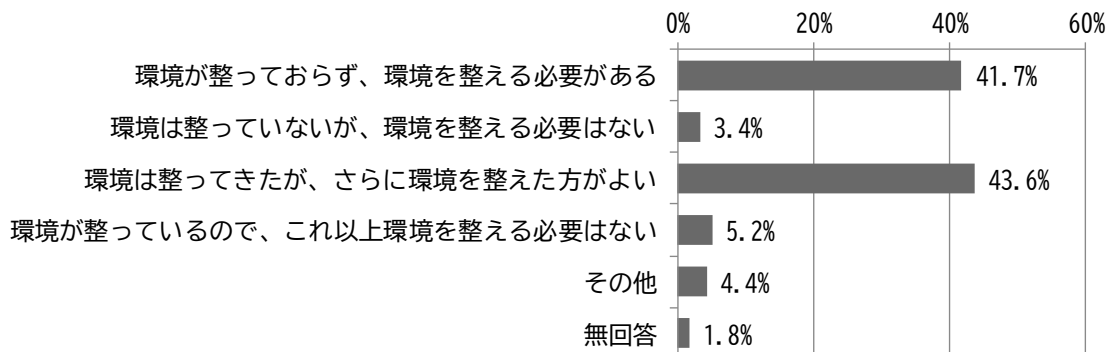
項目	度数	比率
男性も積極的に取得するほうがよい	917	57.1%
男性は、取得しないほうがよい	42	2.6%
取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい	611	38.1%
その他	26	1.6%
無回答	9	0.6%
合計	1,605	100.0%

「その他」・・・中小企業には当てはまらない
給料がちゃんともらえれば取得するほうがよい など

【B男性の育児休業等取得の環境について】

■ 「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」が4割強

男性の育児休業等取得の環境については、「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」が43.6%と最も多く、次いで「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」が41.7%、「環境が整っているのに、これ以上環境を整える必要はない」が5.2%となっています。



項目	度数	比率
環境が整っておらず、環境を整える必要がある	670	41.7%
環境は整っていないが、環境を整える必要はない	54	3.4%
環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい	699	43.6%
環境が整っているのに、これ以上環境を整える必要はない	83	5.2%
その他	70	4.4%
無回答	29	1.8%
合計	1,605	100.0%

「その他」・・・あまり規則にとらわれず必要に応じて取得すれば良い
環境は整っているが実際には執行（実現）されず など

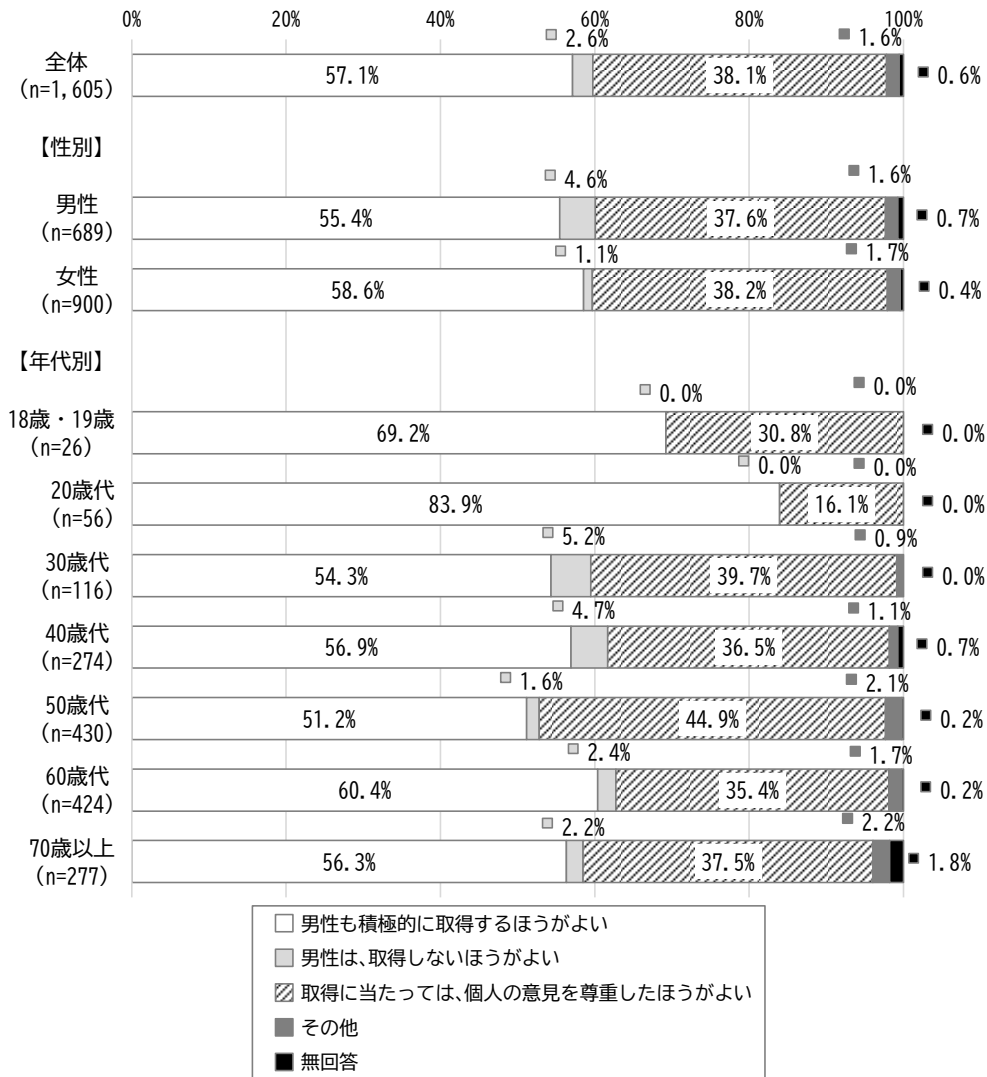
【性別・年代別集計】

【A男性が取得することについて】

■ 「男性も積極的に取得するほうがよい」で、男性より女性がやや多い

男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得について、性別で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で20歳代が83.9%と最も多く、「取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい」で50歳代が多くなっています。



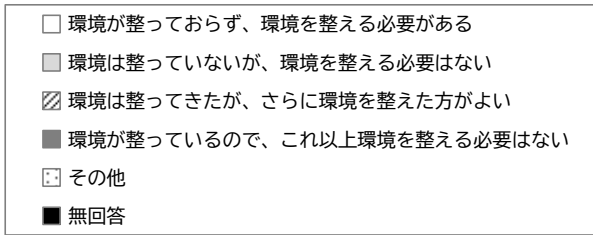
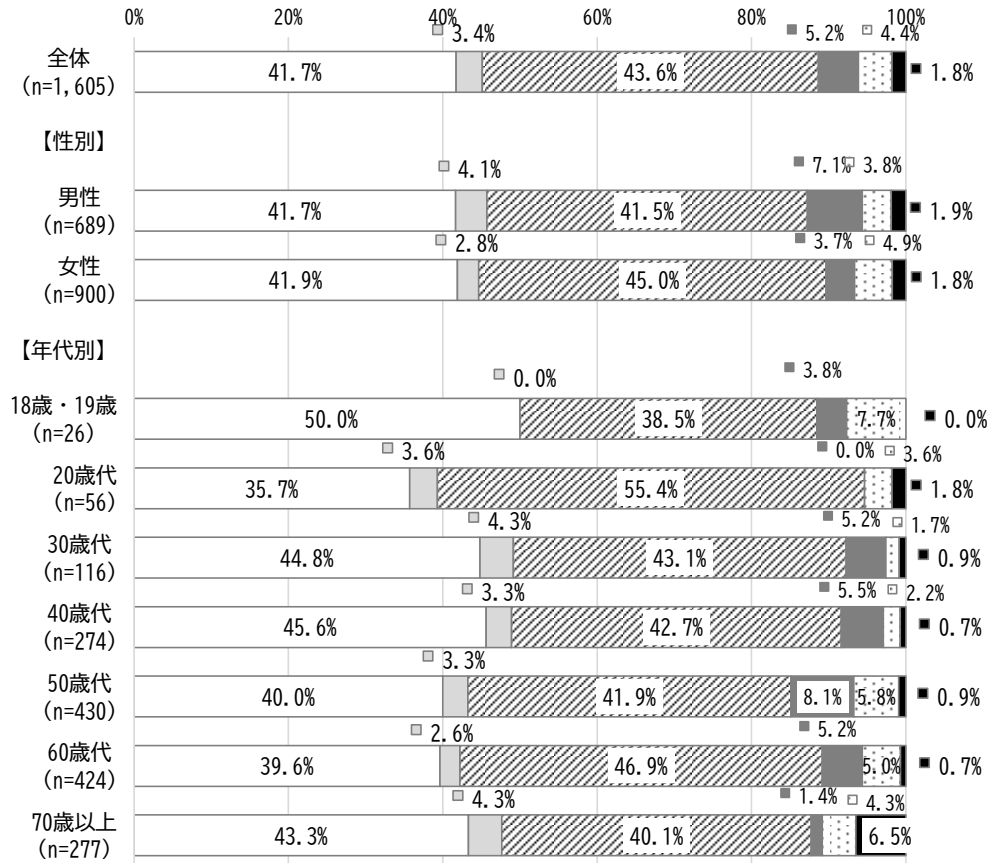
【性別・年代別集計】

【B男性の育児休業等取得の環境について】

■ 「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」で、男性より女性がやや多い

男性の育児休業取得の環境について、性別で見ると、「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると、「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」で 20 歳代が多くなっています。

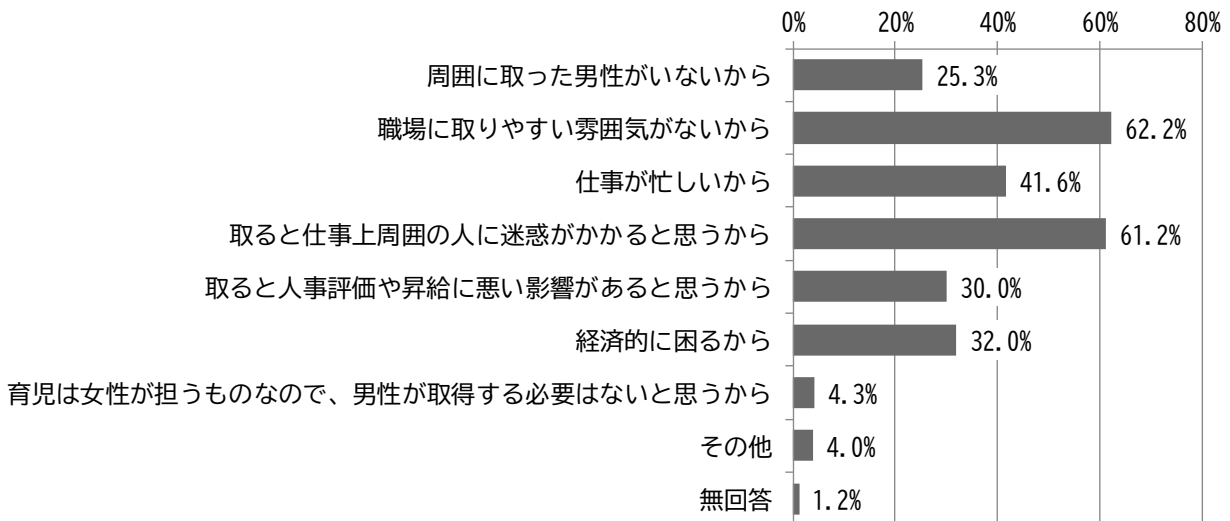


(2) 男性が育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない理由

問7 あなたは、男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない（できない）理由は何だと思えますか。（あてはまるものをすべてに○）

■ 「職場に取りやすい雰囲気がないから」「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」が6割強

男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない（できない）理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が62.2%と最も多く、次いで「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」が61.2%、「仕事が忙しいから」が41.6%となっています。



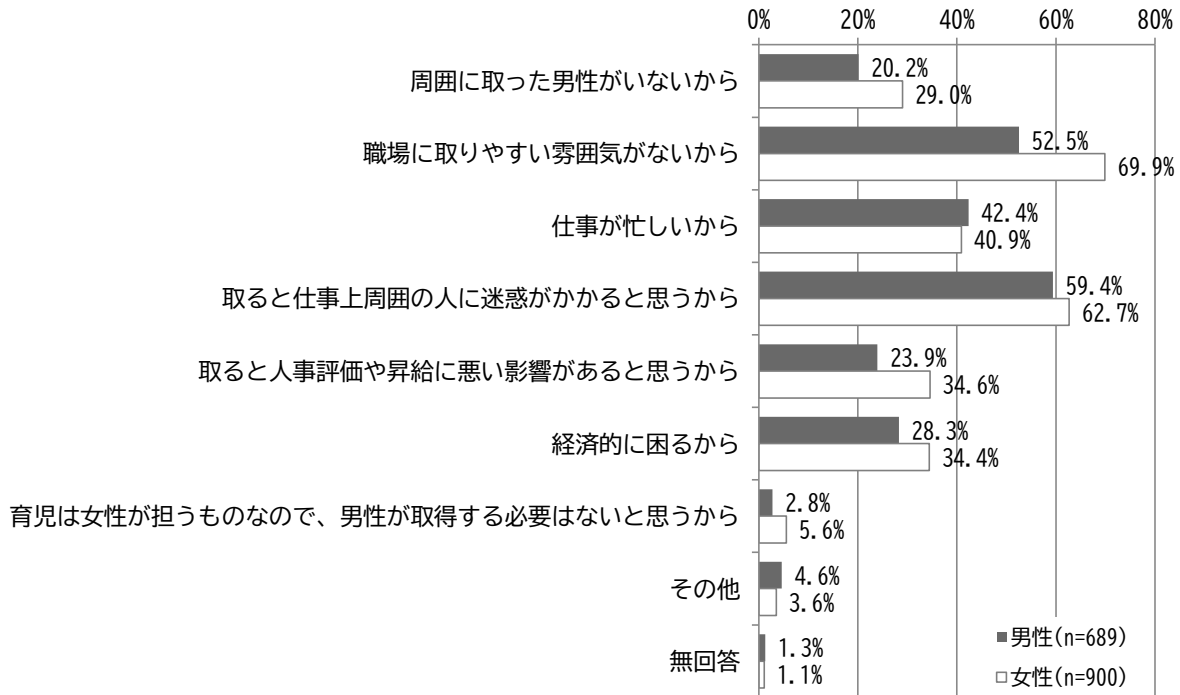
項目	度数	比率
周囲に取った男性がいないから	406	25.3%
職場に取りやすい雰囲気がないから	999	62.2%
仕事が忙しいから	668	41.6%
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから	982	61.2%
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	482	30.0%
経済的に困るから	513	32.0%
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	69	4.3%
その他	64	4.0%
無回答	19	1.2%
回答者数	1,605	

「その他」・・・上司が昭和の人なら、男は仕事、女が子育てと言う考えの人が多いと思う
家事育児の方が大変だから など

【性別集計】

■ 「職場に取りやすい雰囲気がないから」で、男性より女性が17.4ポイント多い

男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない理由について、性別で見ると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」で男性より女性が17.4ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 取得しない理由は、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」で20歳代が7割

男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない理由について、年代別で見ると、多くの項目で、年代が若い人の回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
周囲に取った男性がないから	38.5%	28.6%	31.9%	28.5%	26.5%	22.4%	19.9%
職場に取りやすい雰囲気がないから	80.8%	55.4%	65.5%	65.7%	61.2%	61.1%	61.0%
仕事が忙しいから	38.5%	64.3%	55.2%	44.9%	44.7%	40.3%	25.6%
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから	50.0%	69.6%	67.2%	59.5%	64.9%	63.4%	50.2%
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	46.2%	42.9%	37.9%	34.3%	29.3%	29.7%	20.2%
経済的に困るから	38.5%	37.5%	50.0%	34.3%	37.0%	28.3%	18.4%
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	15.4%	1.8%	8.6%	5.5%	3.5%	4.0%	2.5%
その他	0.0%	1.8%	2.6%	2.2%	4.9%	4.0%	5.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.7%	0.9%	3.6%

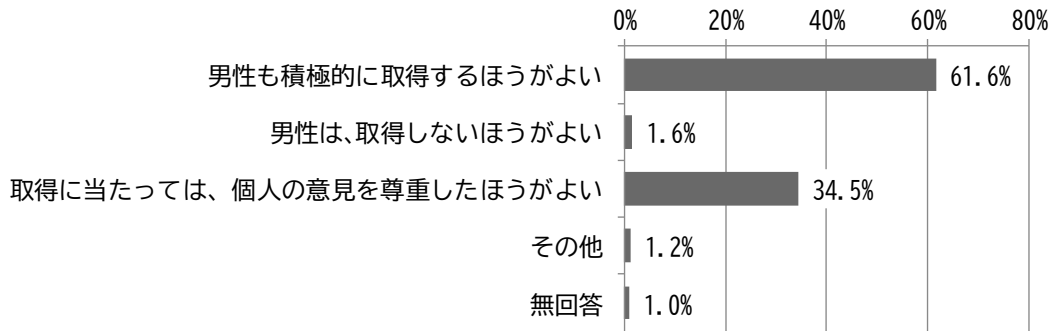
(3) 男性の介護休業、介護休暇等取得への意識

問8 あなたは、男性の介護休業、介護休暇等の取得についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

【A男性が取得することについて】

■ 「男性も積極的に取得するほうがよい」が6割強

男性が取得することについては、「男性も積極的に取得するほうがよい」が 61.6%と最も多く、次いで「取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい」が 34.5%、「男性は、取得しないほうがよい」が 1.6%となっています。



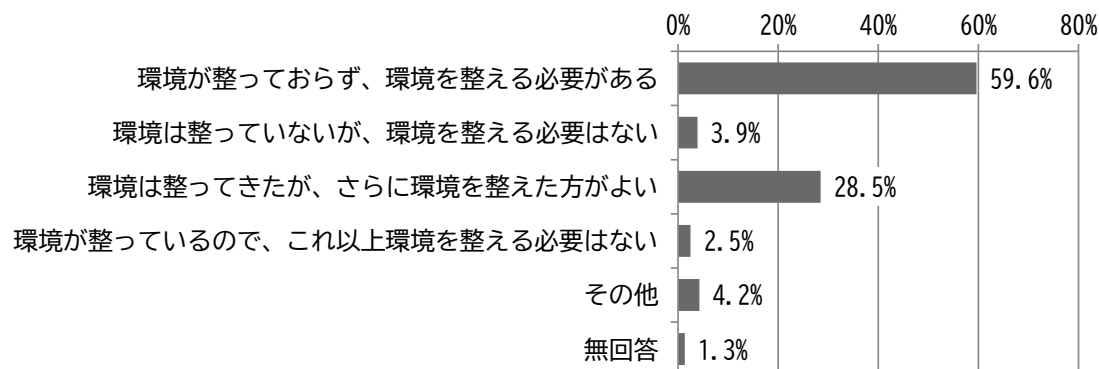
項目	度数	比率
男性も積極的に取得するほうがよい	989	61.6%
男性は、取得しないほうがよい	26	1.6%
取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい	554	34.5%
その他	20	1.2%
無回答	16	1.0%
合計	1,605	100.0%

「その他」・・・労働力が減るので取得しないでいられる環境があれば取得しないほうがよい
家庭内での問題だが、女性だけでなく男性も取得しやすい環境が必要 など

【B男性の介護休業等取得の環境について】

■ 「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」が約6割

男性の介護休業等取得の環境については、「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」が59.6%と最も多く、次いで「環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい」が28.5%、「環境は整っていないが、環境を整える必要はない」が3.9%となっています。



項目	度数	比率
環境が整っておらず、環境を整える必要がある	957	59.6%
環境は整っていないが、環境を整える必要はない	62	3.9%
環境は整ってきたが、さらに環境を整えた方がよい	457	28.5%
環境が整っているのに、これ以上環境を整える必要はない	40	2.5%
その他	68	4.2%
無回答	21	1.3%
合計	1,605	100.0%

「その他」・・・国の制度が男女平等ではない
経済的に余裕が必要 など

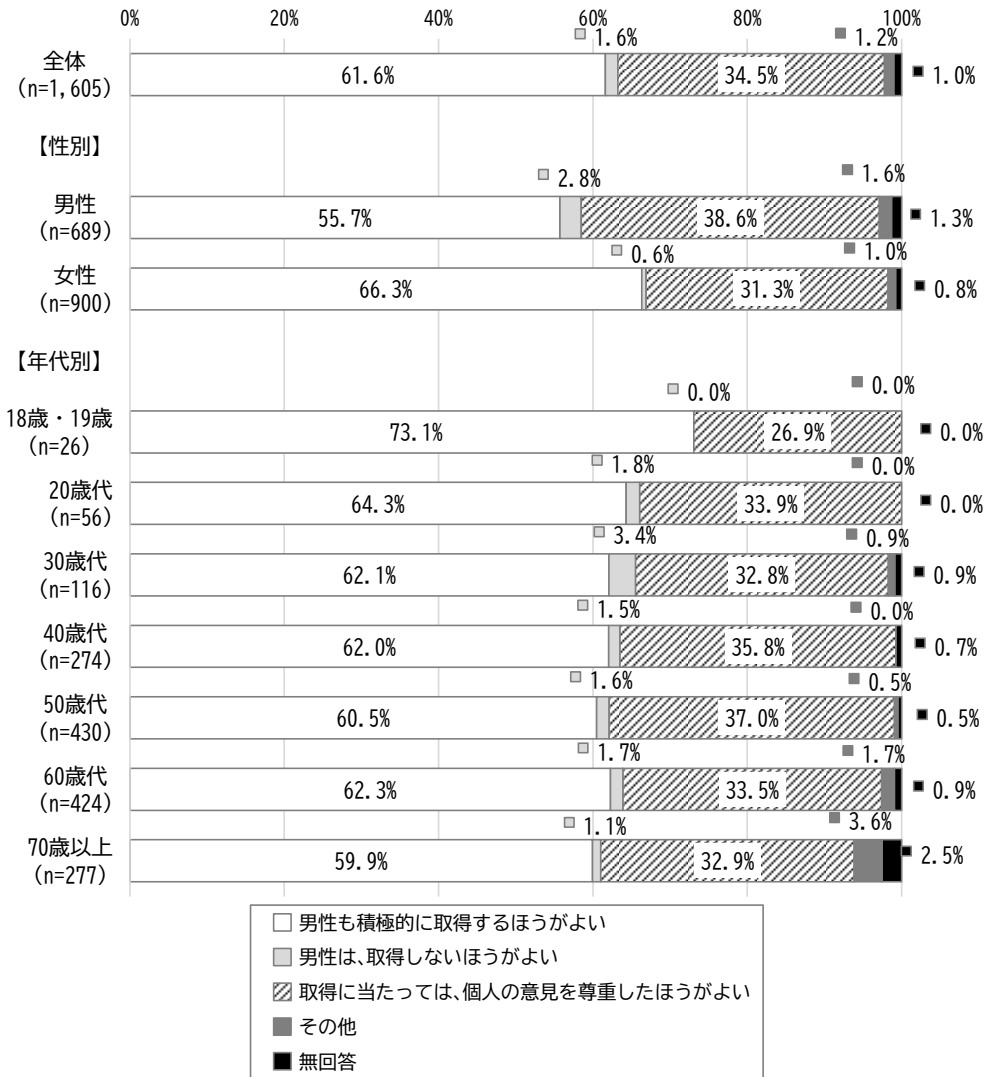
【性別・年代別集計】

【A男性が取得することについて】

■ 「男性も積極的に取得するほうがよい」で、男性より女性が10.6ポイント多い

男性の介護休業、介護休暇等の取得について、性別で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で男性より女性が10.6ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が若い人ほど「男性も積極的に取得するほうがよい」がやや多くなっています。



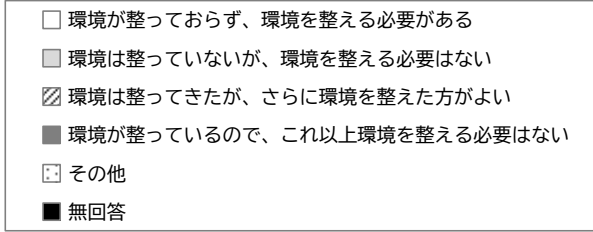
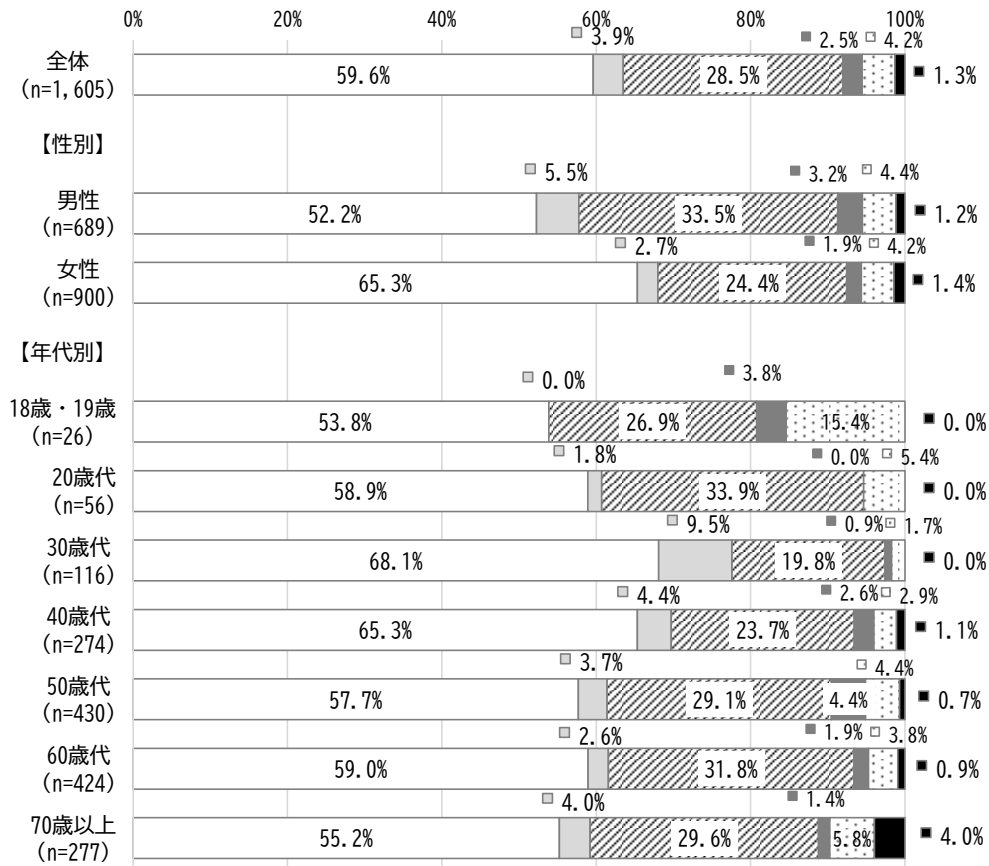
【性別・年代別集計】

【B男性の介護休業等取得の環境について】

■「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」で、男性より女性が13.1ポイント多い

男性の介護休業、介護休暇等取得の環境について、性別で見ると、「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」で男性より女性が13.1ポイント多くなっています。

年代で見ると、「環境が整っておらず、環境を整える必要がある」で30歳代が多くなっています。

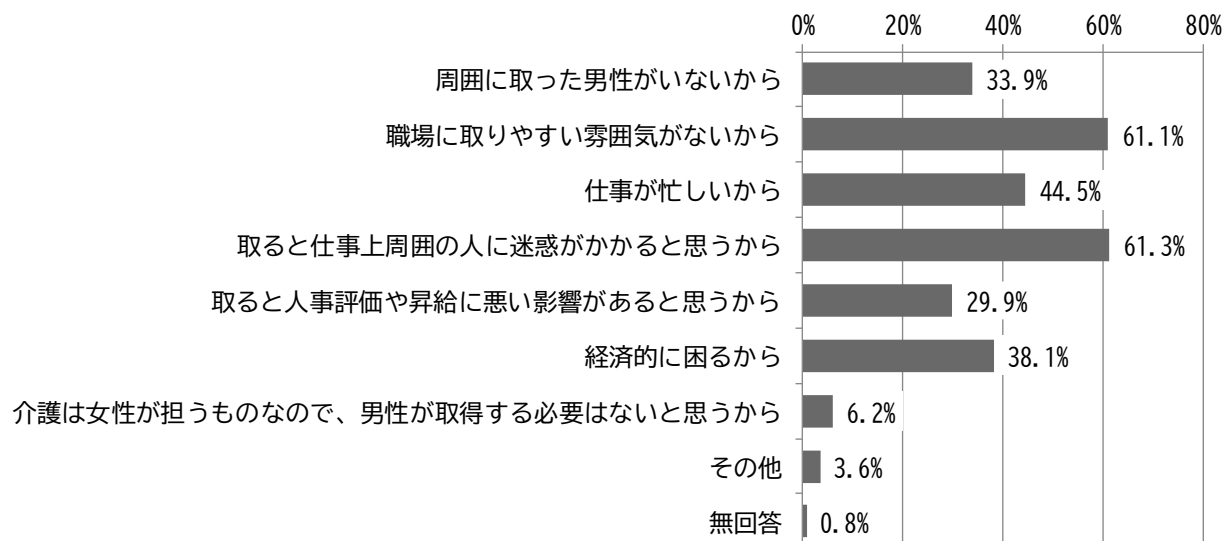


(4) 男性が介護休業、介護休暇等を取得しない理由

問9 あなたは、男性が介護休業、介護休暇等を取得しない（できない）理由は何だと思えますか。（あてはまるものをすべてに○）

■ 取得しない理由は、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」が約6割

男性が介護休業、介護休暇等を取得しない（できない）理由については、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」が 61.3%と最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 61.1%、「仕事が忙しいから」が 44.5%となっています。



項目	度数	比率
周囲に取った男性がないから	544	33.9%
職場に取りやすい雰囲気がないから	980	61.1%
仕事が忙しいから	715	44.5%
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから	984	61.3%
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	480	29.9%
経済的に困るから	612	38.1%
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	99	6.2%
その他	57	3.6%
無回答	13	0.8%
回答者数	1,605	

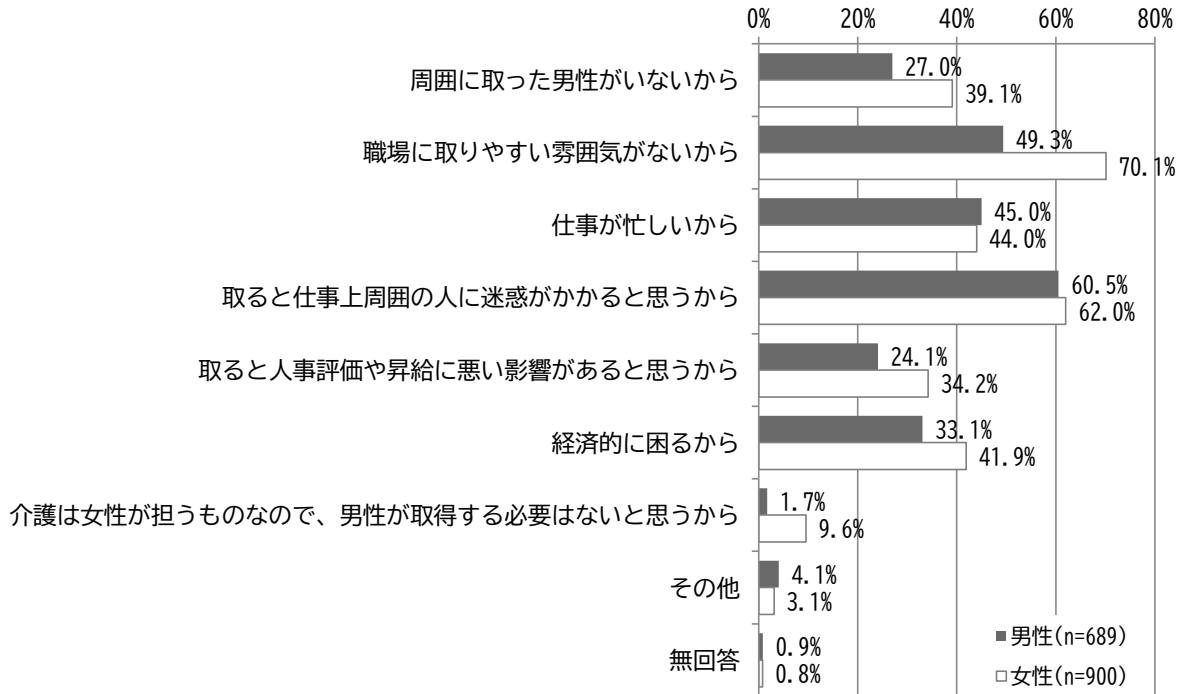
「その他」・・・男性に介護する意識がそもそもない

男性側に親の介護をするのは女性がするものだという社会通念があって、取れるのに取ろうとしないから など

【性別集計】

■ 「職場に取りやすい雰囲気がないから」で、男性より女性が 20.8 ポイント多い

男性の介護休業、介護休暇等を取得しない理由について、性別で見ると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」で男性より女性が 20.8 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 取得しない理由は、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから」で 20 歳代が7割

男性の介護休業、介護休暇等を取得しない理由について、年代別で見ると、多くの項目で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

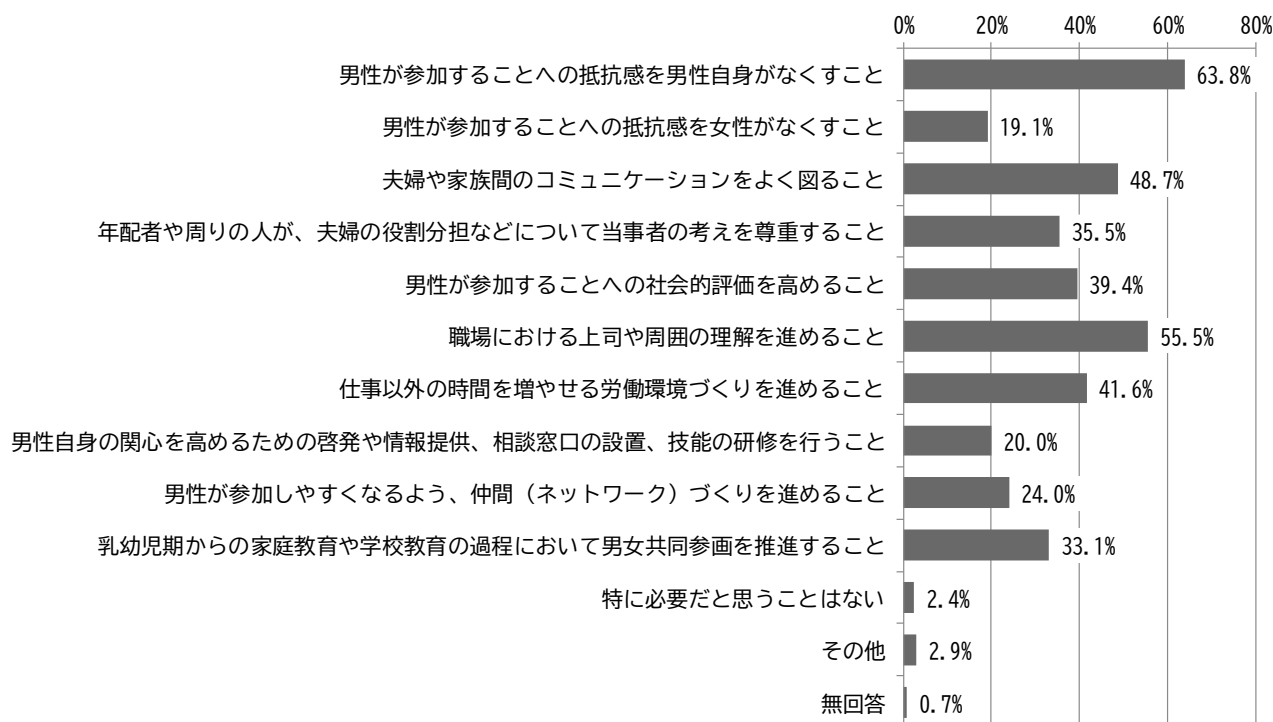
項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
周囲に取った男性がないから	42.3%	33.9%	47.4%	40.9%	34.9%	30.7%	23.8%
職場に取りやすい雰囲気がないから	65.4%	60.7%	64.7%	65.0%	58.4%	59.9%	61.7%
仕事が忙しいから	38.5%	64.3%	55.2%	47.8%	48.8%	39.6%	33.9%
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかると思うから	57.7%	71.4%	62.1%	63.5%	63.5%	60.4%	55.2%
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	53.8%	50.0%	37.9%	35.0%	27.0%	27.6%	23.5%
経済的に困るから	50.0%	44.6%	53.4%	40.5%	41.4%	35.8%	25.6%
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	11.5%	5.4%	9.5%	5.5%	7.7%	6.1%	2.9%
その他	3.8%	0.0%	2.6%	2.6%	3.7%	3.1%	6.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.5%	0.7%	2.5%

(5) 男性が参加するのに必要なこと

問 10 あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が6割強

今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要だと思うことについては、「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が 63.8%と最も多く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」が 55.5%、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」が 48.7%となっています。



項目	度数	比率
男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと	1,024	63.8%
男性が参加することへの抵抗感を女性がなくすこと	306	19.1%
夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること	781	48.7%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考えを尊重すること	570	35.5%
男性が参加することへの社会的評価を高めること	633	39.4%
職場における上司や周囲の理解を進めること	891	55.5%
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	668	41.6%
男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	321	20.0%
男性が参加しやすくなるよう、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	385	24.0%
乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること	532	33.1%
特に必要だと思うことはない	39	2.4%
その他	46	2.9%
無回答	12	0.7%
回答者数	1,605	

「その他」・・・男性も参加しなければいけないと思わせる
市や県の公共の相談窓口の強化 など

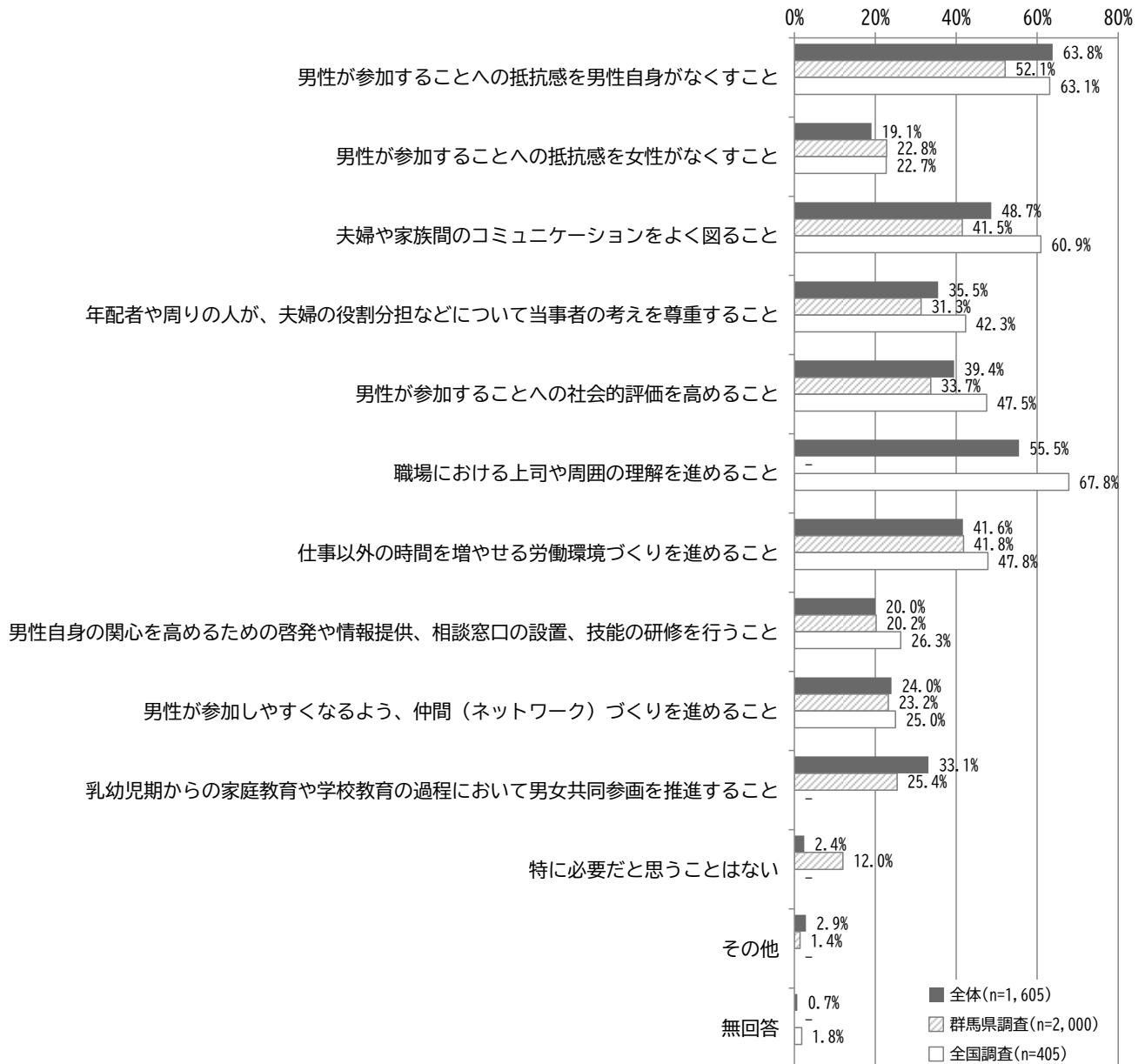
【群馬県調査・全国調査比較】

※国や県の調査では、選択肢が異なる場合や、選択肢がない項目もありますが、比較できる部分のみ掲載しています。

■ 群馬県調査より「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が、11.7ポイント多い

男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要だと思うことについては、群馬県調査より「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が 11.7ポイント多くなっています。

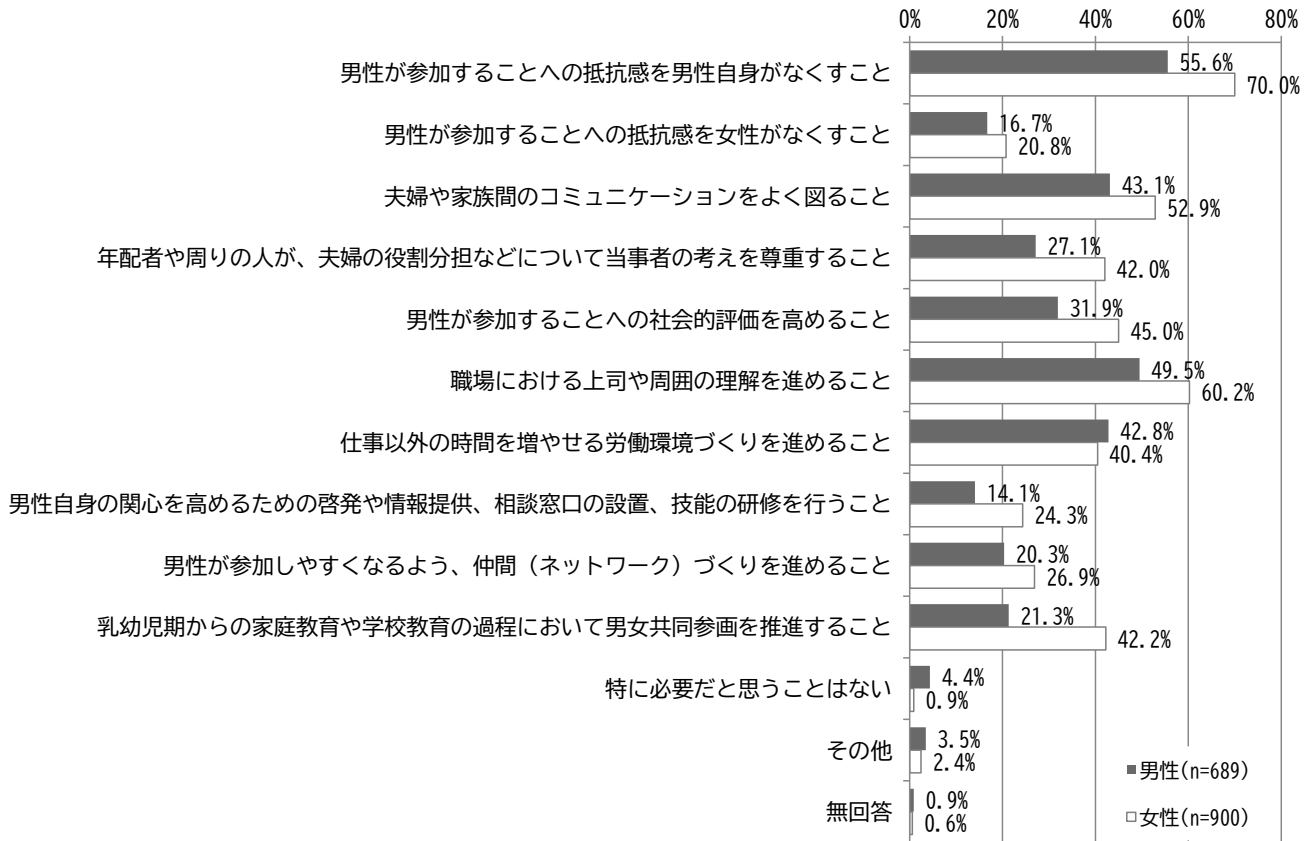
全国調査と比較すると「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」「職場における上司や周囲の理解を進めること」でそれぞれ 10ポイント以上少なくなっています。



【性別集計】

■ 「乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること」で、男性より女性が 20.9 ポイント多い

男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要だと思うことについて、性別で見ると「乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること」で、男性より女性が 20.9 ポイント多く、その他の多くの項目でも男性より女性が多くなっています。



【年代別集計】

■ 「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」で、全体が6割強

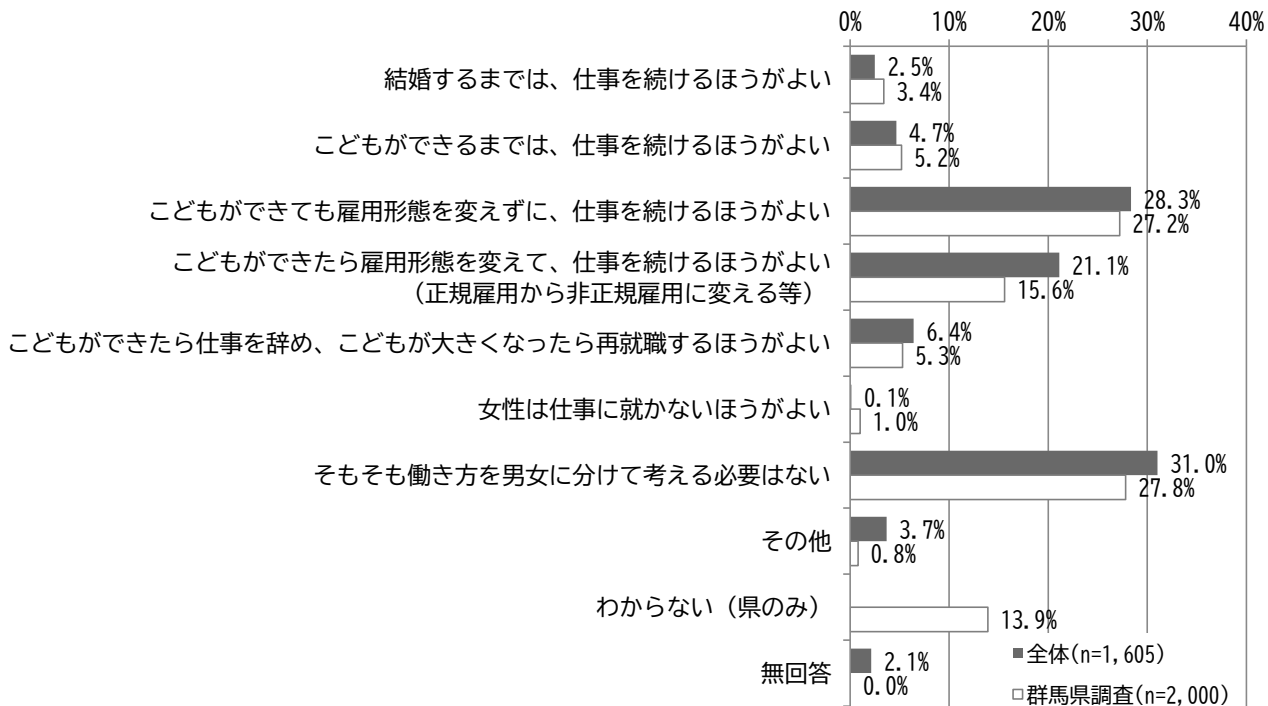
男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要だと思うことについて、年代別で見ると、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと	69.2%	64.3%	69.0%	62.8%	62.6%	65.6%	61.4%
男性が参加することへの抵抗感を女性がなくすこと	30.8%	21.4%	26.7%	17.5%	21.2%	17.0%	15.5%
夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること	53.8%	50.0%	62.1%	43.8%	42.3%	52.4%	51.3%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考えを尊重すること	46.2%	39.3%	37.1%	39.4%	34.2%	35.1%	31.8%
男性が参加することへの社会的評価を高めること	42.3%	39.3%	36.2%	39.1%	39.5%	42.2%	36.5%
職場における上司や周囲の理解を進めること	57.7%	58.9%	56.9%	59.1%	53.7%	53.8%	56.3%
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	30.8%	55.4%	56.9%	46.7%	45.8%	35.1%	32.1%
男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	42.3%	12.5%	20.7%	18.2%	17.7%	21.9%	21.3%
男性が参加しやすくなるよう、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	38.5%	30.4%	27.6%	20.4%	22.3%	23.6%	26.7%
乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること	30.8%	21.4%	31.9%	27.4%	31.2%	38.7%	36.5%
特に必要だと思うことはない	3.8%	1.8%	3.4%	2.2%	2.6%	2.4%	2.2%
その他	3.8%	0.0%	0.9%	3.6%	3.5%	3.3%	1.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%	0.5%	2.5%

【群馬県調査比較】

■ 群馬県調査より「子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい」で5.5ポイント多い

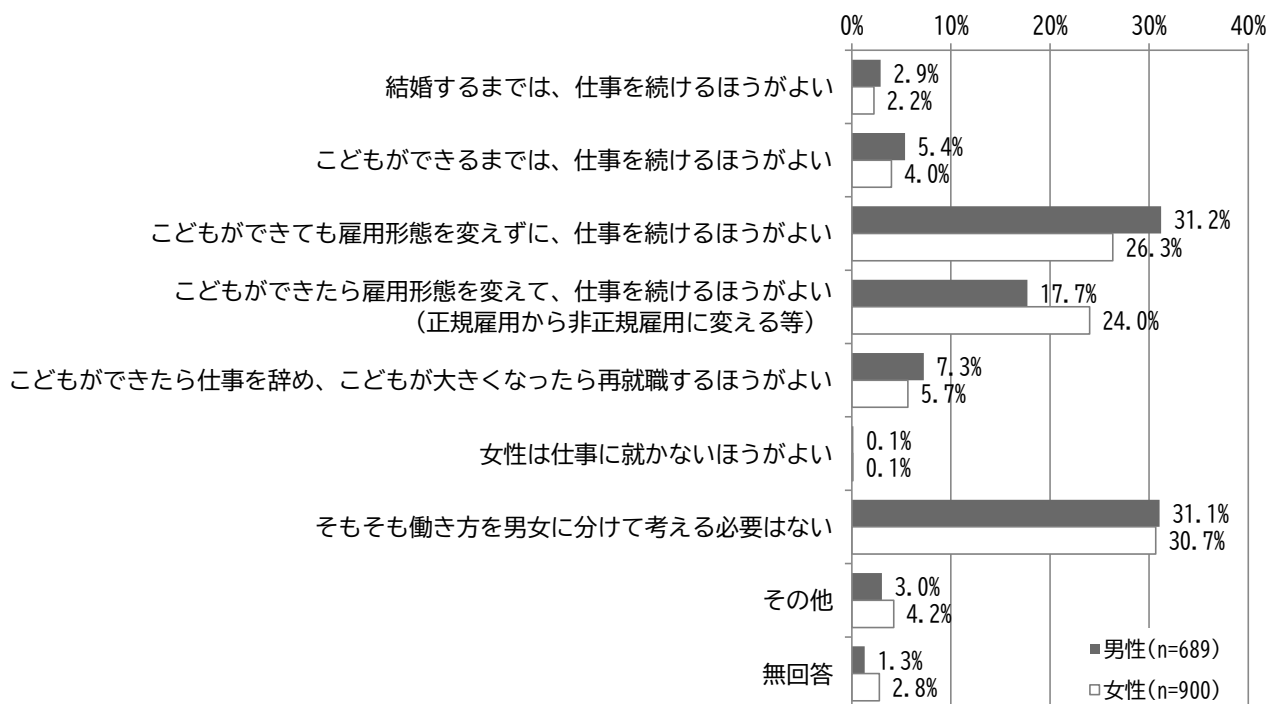
「女性の働き方」について、群馬県調査と比較すると「子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」で群馬県調査より 5.5 ポイント多くなっています。



【性別集計】

■ 「子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい」で男性より女性が6.3ポイント多い

「女性の働き方」について、性別で見ると「子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」で男性より女性が6.3ポイント多く、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」で女性より男性が4.9ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」で、40歳代が4割

「女性の働き方」について、年代で見ると「こどもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」で年代が上がるほど多く、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

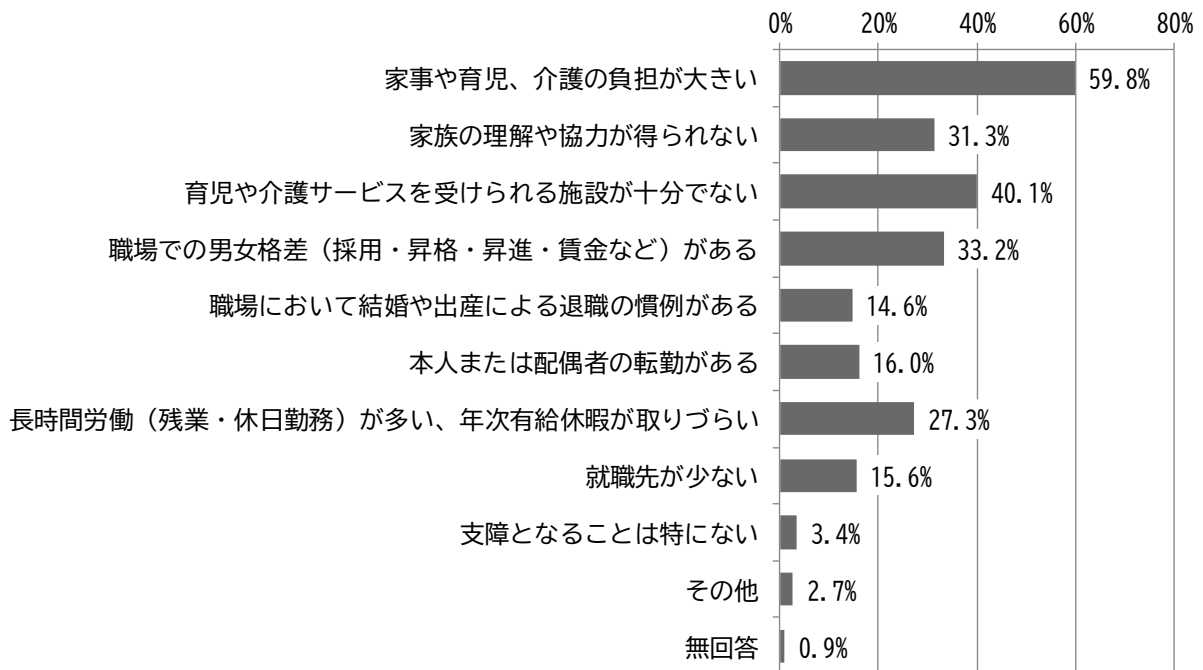
項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
結婚するまでは、仕事を続けるほうがよい	3.8%	5.4%	4.3%	1.5%	1.2%	4.2%	1.4%
こどもができるまでは、仕事を続けるほうがよい	7.7%	3.6%	6.9%	4.0%	4.4%	3.5%	6.1%
こどもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい	3.8%	21.4%	21.6%	24.8%	27.9%	33.3%	31.8%
こどもができた雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）	26.9%	26.8%	19.8%	20.4%	17.4%	23.1%	23.1%
こどもができた仕事辞め、こどもが大きくなったら再就職するほうがよい	0.0%	1.8%	7.8%	5.1%	5.6%	5.9%	10.8%
女性は仕事に就かないほうがよい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%
そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない	50.0%	37.5%	37.1%	41.2%	34.9%	24.5%	19.5%
その他	7.7%	3.6%	2.6%	2.2%	6.0%	3.3%	2.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	2.6%	1.9%	4.7%
回答者数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 女性が働く上で、問題となること

問 12 あなたは、女性が働く上で、問題となることは、主にどのようなことだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

■ 「家事や育児、介護の負担が大きい」が、6割

女性が働く上で、問題となることについては、「家事や育児、介護の負担が大きい」が 59.8%と最も多く、次いで「育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない」が 40.1%、「職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある」が 33.2%、「家族の理解や協力が得られない」が 31.3%となっています。



項目	度数	比率
家事や育児、介護の負担が大きい	960	59.8%
家族の理解や協力が得られない	502	31.3%
育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない	643	40.1%
職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある	533	33.2%
職場において結婚や出産による退職の慣例がある	235	14.6%
本人または配偶者の転勤がある	257	16.0%
長時間労働（残業・休日勤務）が多い、年次有給休暇が取りづらい	438	27.3%
就職先が少ない	250	15.6%
支障となることは特にない	55	3.4%
その他	43	2.7%
無回答	14	0.9%
回答者数	1,605	

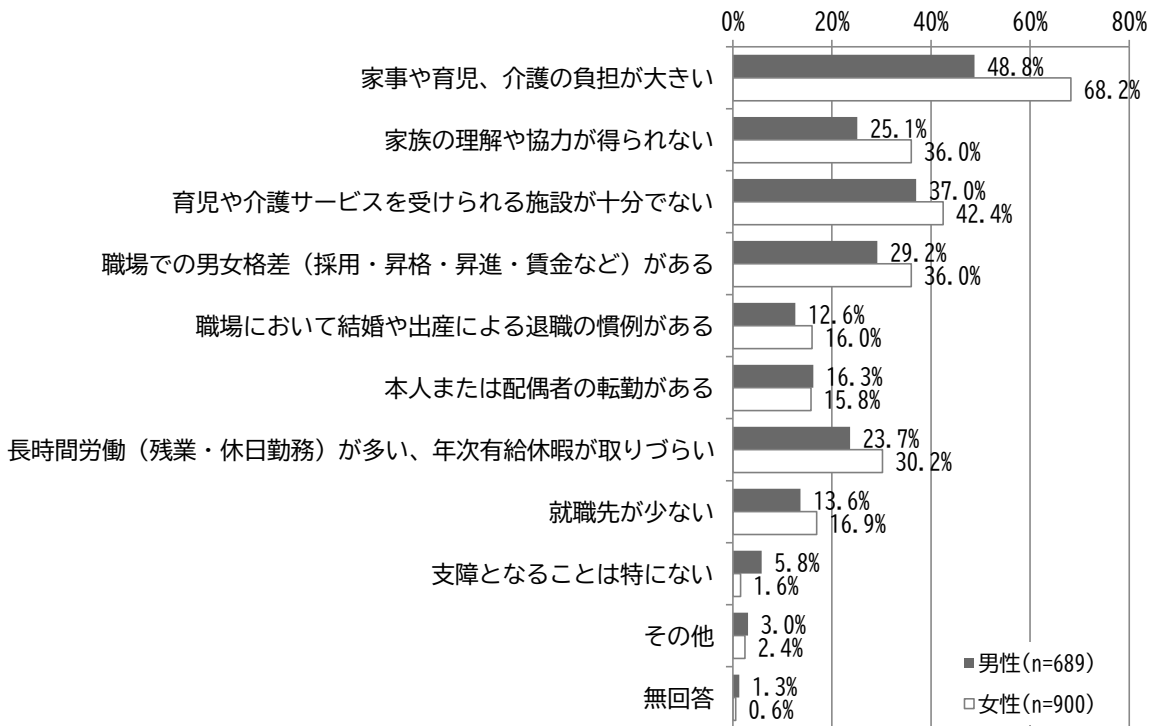
「その他」・・・育児は他人に任せられない

短時間の仕事がありません、希望の仕事が短時間でない など

【性別集計】

■ 「家事や育児、介護の負担が大きい」で、男性より女性が19.4ポイント多い

女性が働く上で、問題となることについて、性別で見ると「家事や育児、介護の負担が大きい」で男性より女性が19.4ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「家事や育児、介護の負担が大きい」で、70歳以上が7割

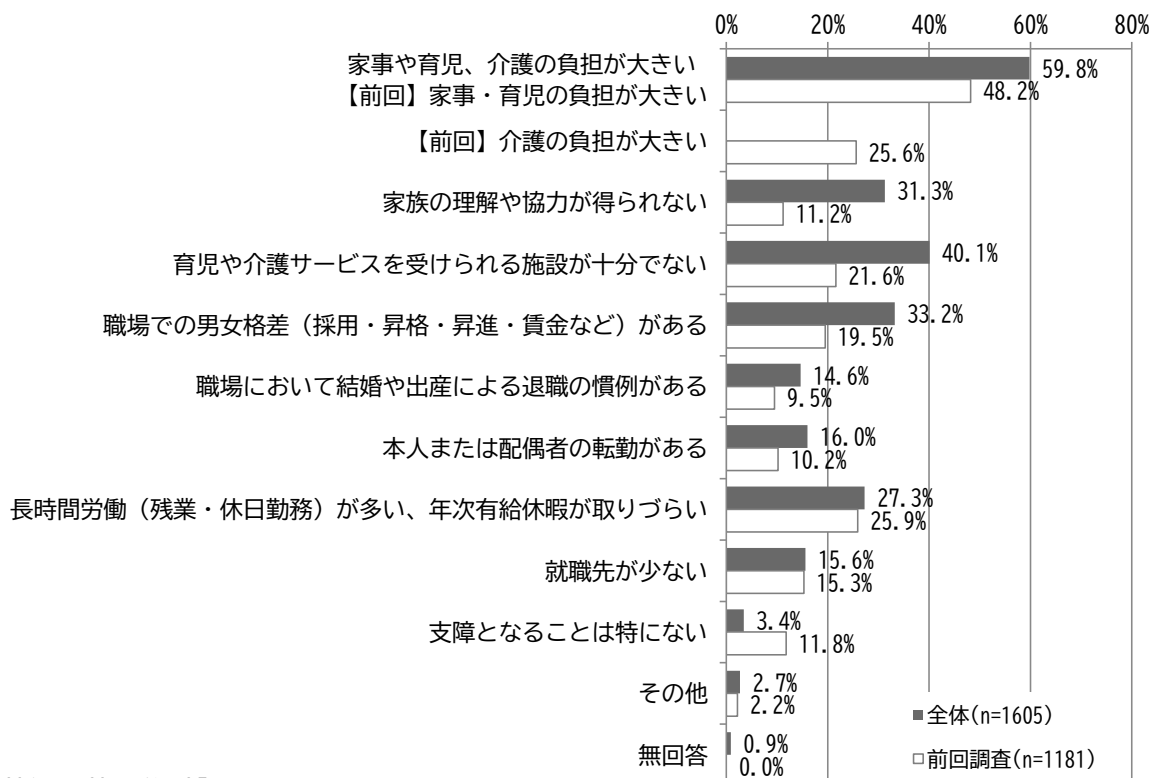
女性が働く上で、問題となることについて、年代で見ると「家事や育児、介護の負担が大きい」で年代が上がるほど多く、「職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある」「職場において結婚や出産による退職の慣例がある」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
家事や育児、介護の負担が大きい	57.7%	30.4%	48.3%	51.8%	58.4%	65.8%	71.8%
家族の理解や協力が得られない	34.6%	21.4%	36.2%	29.6%	32.6%	32.5%	28.9%
育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない	38.5%	26.8%	42.2%	35.4%	38.6%	45.5%	40.8%
職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある	42.3%	35.7%	37.1%	36.1%	31.2%	34.2%	28.9%
職場において結婚や出産による退職の慣例がある	26.9%	25.0%	19.0%	14.6%	14.0%	14.2%	11.2%
本人または配偶者の転勤がある	26.9%	28.6%	17.2%	13.9%	13.7%	18.4%	14.1%
長時間労働（残業・休日勤務）が多い、年次有給休暇が取りづらい	26.9%	32.1%	36.2%	33.6%	25.6%	25.2%	22.4%
就職先が少ない	19.2%	8.9%	18.1%	18.2%	14.9%	15.8%	13.4%
支障となることは特にない	3.8%	1.8%	5.2%	1.8%	5.3%	2.8%	2.5%
その他	3.8%	0.0%	3.4%	1.8%	3.5%	2.4%	2.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.2%	0.5%	3.2%

【前回調査比較】

■ 前回調査より「家族の理解や協力が得られない」で、20.1ポイント多い

女性が働く上で、問題となることについて、前回調査と比較すると、多くの項目で前回調査より多くなっていますが、「家族の理解や協力が得られない」で20.1ポイント多く、「育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない」で18.5ポイント多くなっています。



【共働き状況集計】

■ 「家事や育児、介護の負担が大きい」で、「準共働き③」「非共働き②」「その他」が7割強

女性が働く上で、問題となることについて、共働き状況で見ると「家事や育児、介護の負担が大きい」でどの共働き状況でも最も多くなっていますが、特に「準共働き③」「非共働き②」「その他」で70%を超えています。

	共働き (n=310)	準共働き① (n=127)	準共働き② (n=182)	準共働き③ (n=45)	非共働き① (n=140)	非共働き② (n=169)	その他 (n=141)
家事や育児、介護の負担が大きい	51.3%	44.1%	64.3%	75.6%	56.4%	75.7%	74.5%
家族の理解や協力が得られない	31.9%	24.4%	33.0%	28.9%	27.1%	32.5%	31.9%
育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない	41.0%	32.3%	36.8%	53.3%	42.9%	34.9%	45.4%
職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある	32.3%	29.1%	32.4%	26.7%	32.9%	30.2%	34.0%
職場において結婚や出産による退職の慣例がある	11.6%	12.6%	19.2%	11.1%	10.7%	17.8%	12.1%
本人または配偶者の転勤がある	16.1%	11.0%	11.0%	13.3%	11.4%	22.5%	24.8%
長時間労働（残業・休日勤務）が多い、年次有給休暇が取りづらい	30.0%	20.5%	29.7%	11.1%	19.3%	30.8%	33.3%
就職先が少ない	14.8%	14.2%	18.1%	13.3%	11.4%	20.1%	15.6%
支障となることは特にない	5.2%	4.7%	1.6%	0.0%	3.6%	3.6%	2.1%
その他	2.3%	4.7%	2.7%	0.0%	2.1%	0.6%	4.3%
無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%

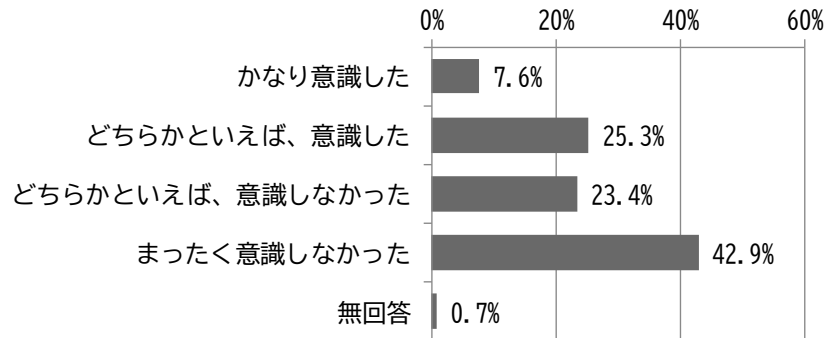
(3) 進路・職業選択の際の性別意識

問 13 あなたは、進路や職業を選択する時、自分の性別を意識したことがありますか。(○は1つ)

■ 進路や職業を選択する時、性別を『意識した』が3割強

進路や職業を選択する時、自分の性別を意識したことがあるかについての「かなり意識した」「どちらかといえば、意識した」を合わせた『意識した』が32.9%となっています。

一方、「どちらかといえば、意識しなかった」「まったく意識しなかった」を合わせた『意識しなかった』が66.3%となっています。



項目	度数	比率
かなり意識した	122	7.6%
どちらかといえば、意識した	406	25.3%
どちらかといえば、意識しなかった	376	23.4%
まったく意識しなかった	689	42.9%
無回答	12	0.7%
合計	1,605	100.0%

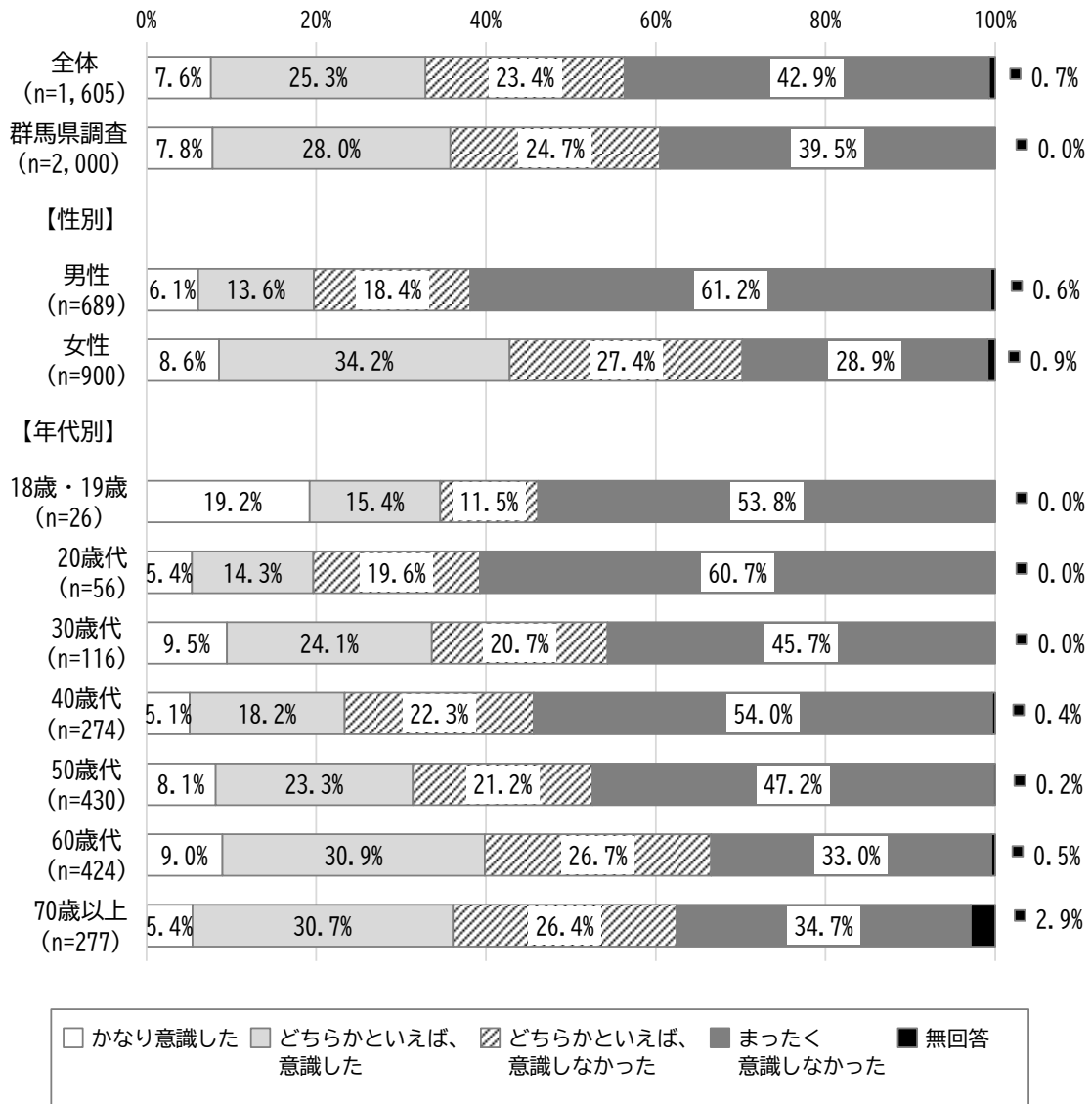
【群馬県調査比較・性別・年代別集計】

■ 『意識した』で、男性より女性が23.1ポイント多い

進路や職業を選択する時、自分の性別を意識したことがあるかについて、群馬県調査と比較すると『意識した』で群馬県調査より2.9ポイント少なくなっています。

性別で見ると『意識した』で男性より女性が23.1ポイント多くなっています。

年代で見ると『意識した』で60歳代で39.9%、70歳以上で36.1%と多くなっています。

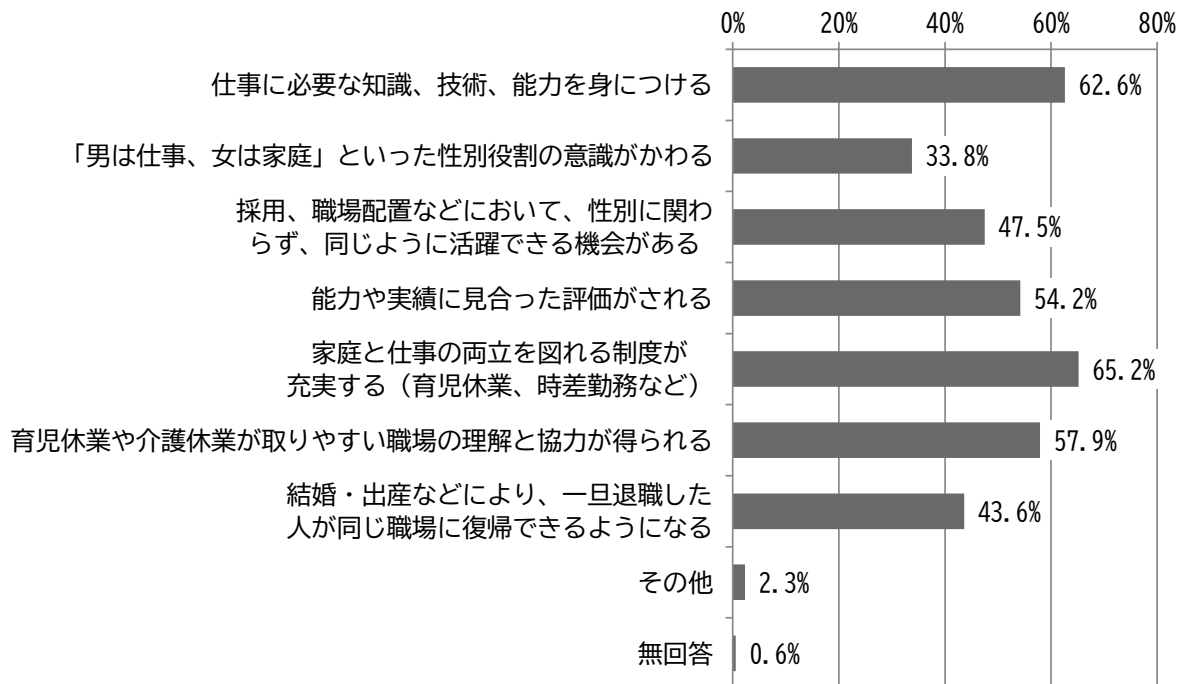


(4) 職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと

問 14 あなたは、男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるためには、主にどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 働き続けるために重要なことは、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する」が、6割強

男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるために重要だと思うことについては、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）」が 65.2%と最も多く、次いで「仕事に必要な知識、技術、能力を身につける」が 62.6%、「育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる」が 57.9%、「能力や実績に見合った評価（昇給、昇格、賃金等を含む）がされる」が 54.2%となっています。



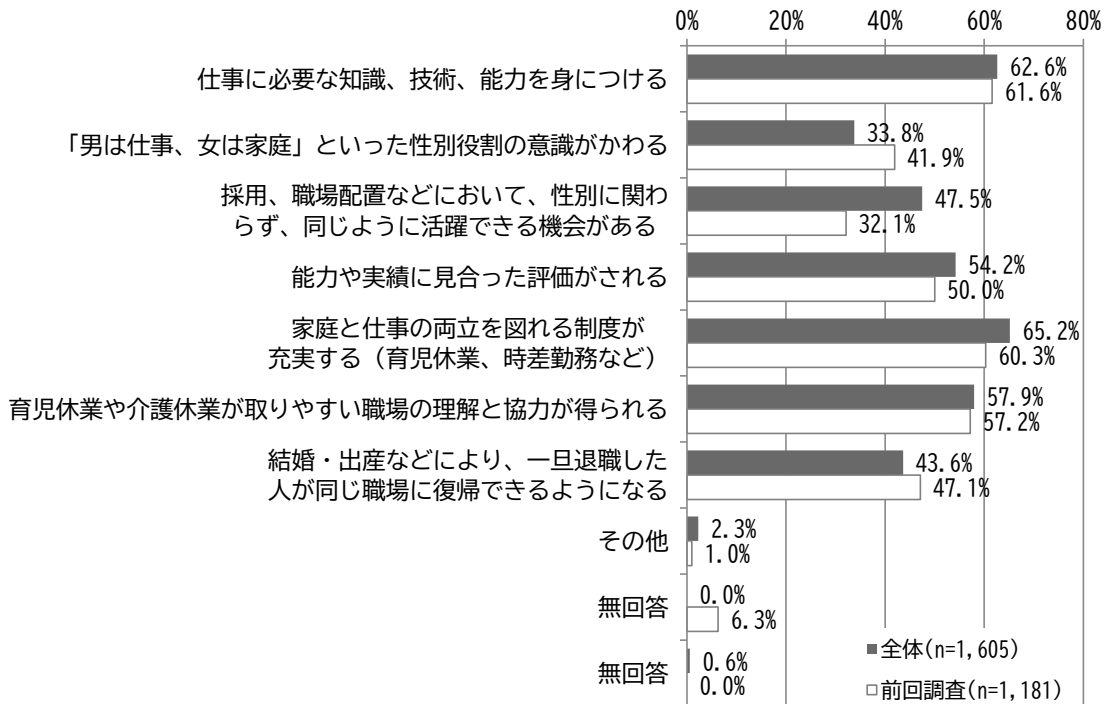
項目	度数	比率
仕事に必要な知識、技術、能力を身につける	1,005	62.6%
「男は仕事、女は家庭」といった性別役割の意識がかわる	542	33.8%
採用、職場配置などにおいて、性別に関わらず、同じように活躍できる機会がある	762	47.5%
能力や実績に見合った評価（昇給、昇格、賃金等を含む）がされる	870	54.2%
家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）	1,046	65.2%
育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる	930	57.9%
結婚・出産などにより、一旦退職した人が同じ職場に復帰できるようになる	700	43.6%
その他	37	2.3%
無回答	9	0.6%
回答者数	1,605	

「その他」・・・人が職場に合わせるんじゃなく、職場が個人に合わせられる対応がある
余裕を持った人員確保ができるような企業利益が確保できるようになる、またはその意識 など

【前回調査比較】

- 「採用、職場配置などにおいて、性別に関わらず、同じように活躍できる機会がある」が、前回調査より15.4ポイント多い

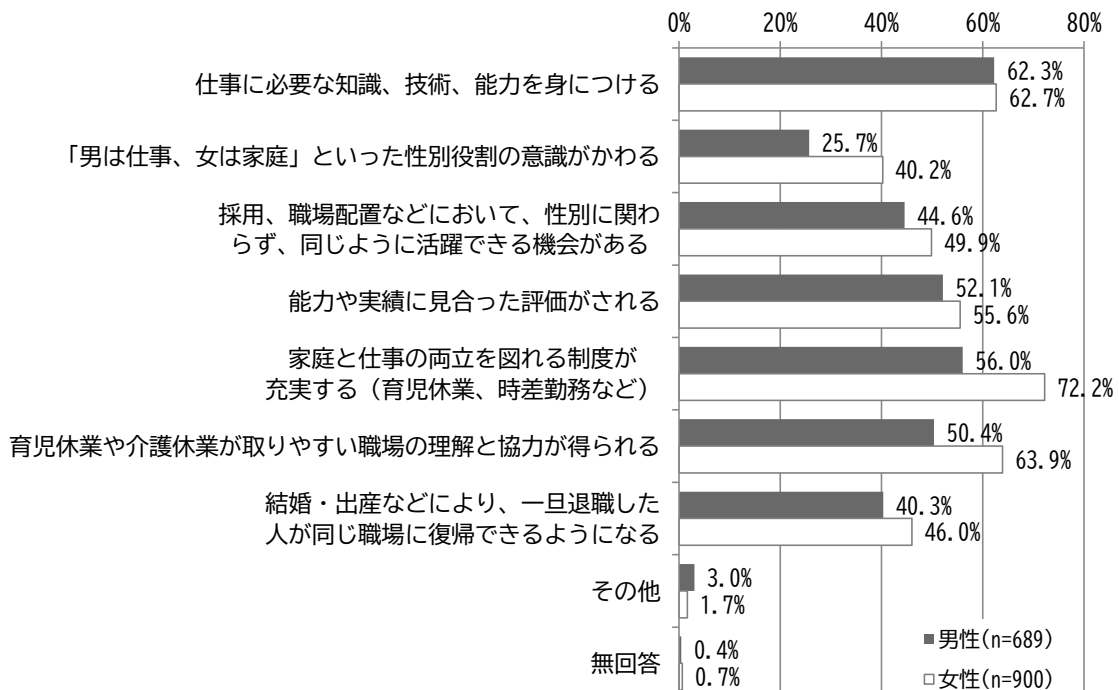
男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるために重要だと思うことについて、前回調査と比較すると「採用、職場配置などにおいて、性別に関わらず、同じように活躍できる機会がある」が前回調査より15.4ポイント多くなっています。



【性別集計】

- 「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する」で、男性より女性が16.2ポイント多い

男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるために重要だと思うことについて、性別で見ると「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）」で男性より女性が16.2ポイント多く、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割の意識がかわる」で14.5ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「仕事に必要な知識、技術、能力を身につける」で、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上で6割強

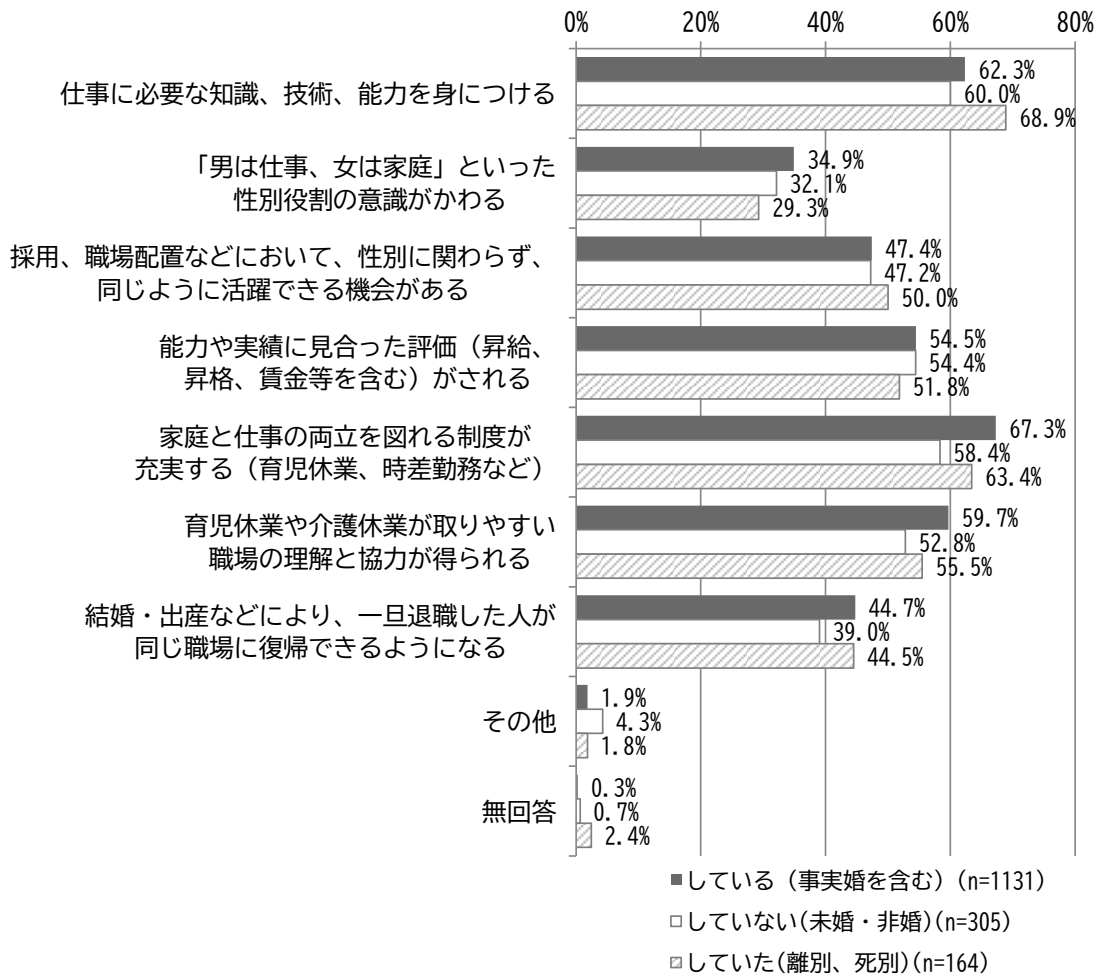
男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるために重要だと思うことについて、年代で見ると「仕事に必要な知識、技術、能力を身につける」が年代が上がるほどやや多くなる傾向があります。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
仕事に必要な知識、技術、能力を身につける	53.8%	53.6%	60.3%	56.6%	63.3%	66.3%	65.3%
「男は仕事、女は家庭」といった性別役割の意識がかわる	53.8%	23.2%	37.1%	40.1%	36.7%	30.2%	27.4%
採用、職場配置などにおいて、性別に関わらず、同じように活躍できる機会がある	57.7%	44.6%	49.1%	50.7%	47.0%	49.5%	41.2%
能力や実績に見合った評価（昇給、昇格、賃金等を含む）がされる	53.8%	60.7%	54.3%	58.8%	55.3%	53.1%	48.0%
家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）	61.5%	62.5%	65.5%	67.2%	66.5%	63.9%	63.9%
育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる	61.5%	55.4%	62.9%	58.4%	57.7%	58.3%	55.6%
結婚・出産などにより、一旦退職した人が同じ職場に復帰できるようになる	42.3%	35.7%	40.5%	44.5%	44.4%	45.8%	41.2%
その他	0.0%	0.0%	1.7%	1.8%	3.5%	2.6%	1.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.9%	1.4%

【婚姻状況別集計】

- 婚姻を「している」では、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する」「育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる」で、ともにやや多い

男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるために重要だと思うことについて、婚姻状況別で見ると「している（事実婚を含む）」では、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）」「育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる」で、他の婚姻状況よりやや多くなっています。



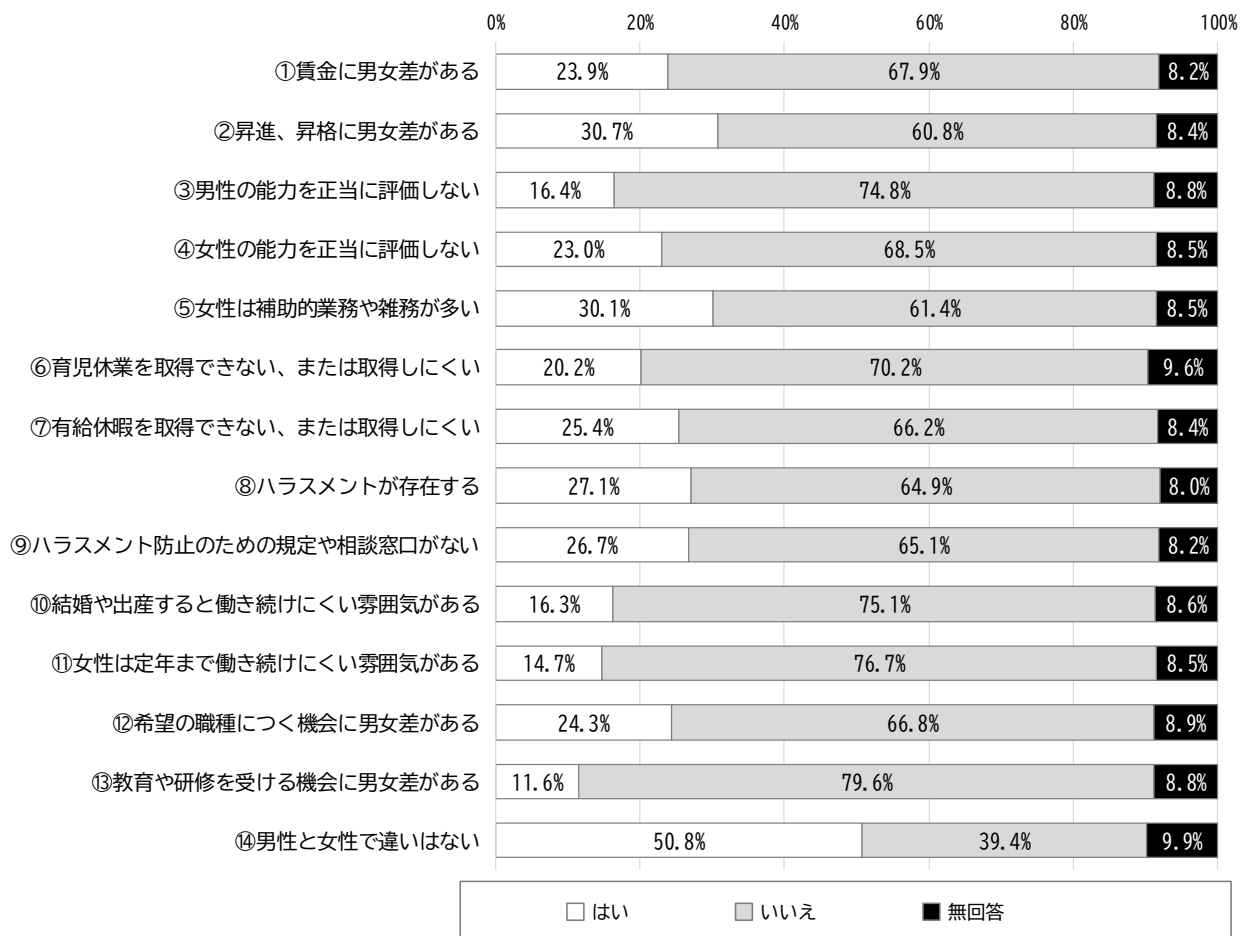
(5) 職場での男女差について
現在、働いている方にお聞きします。

問 15 あなたの職場で、次のようなことがありますか。(〇は「はい」か「いいえ」のどちらか1つずつ)

■ 職場では、「⑭男性と女性で違いはない」が、5割

職場での男女の対応についての「はい」では、「⑭男性と女性で違いはない」が50.8%と最も多く、次いで「②昇進、昇格に男女差がある」が30.7%、「⑤女性は補助的業務や雑務が多い」が30.1%となっています。

一方、「はい」が少ないものでは、「⑬教育や研修を受ける機会に男女差がある」が11.6%と最も少なく、次いで「⑪女性は定年まで働き続けにくい雰囲気がある」が14.7%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	はい	いいえ	無回答	回答者数
①賃金に男女差がある	266	756	91	1,113
	23.9%	67.9%	8.2%	100.0%
②昇進、昇格に男女差がある	342	677	94	1,113
	30.7%	60.8%	8.4%	100.0%
③男性の能力を正當に評価しない	183	832	98	1,113
	16.4%	74.8%	8.8%	100.0%
④女性の能力を正當に評価しない	256	762	95	1,113
	23.0%	68.5%	8.5%	100.0%
⑤女性は補助的業務や雑務が多い	335	683	95	1,113
	30.1%	61.4%	8.5%	100.0%
⑥育児休業を取得できない、または取得しにくい	225	781	107	1,113
	20.2%	70.2%	9.6%	100.0%
⑦有給休暇を取得できない、または取得しにくい	283	737	93	1,113
	25.4%	66.2%	8.4%	100.0%
⑧ハラスメント（セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、 パタニティ・ハラスメント※など）が存在する	302	722	89	1,113
	27.1%	64.9%	8.0%	100.0%
⑨ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない	297	725	91	1,113
	26.7%	65.1%	8.2%	100.0%
⑩結婚や出産すると働き続けにくい雰囲気がある	181	836	96	1,113
	16.3%	75.1%	8.6%	100.0%
⑪女性は定年まで働き続けにくい雰囲気がある	164	854	95	1,113
	14.7%	76.7%	8.5%	100.0%
⑫希望の職種につく機会に男女差がある	271	743	99	1,113
	24.3%	66.8%	8.9%	100.0%
⑬教育や研修を受ける機会に男女差がある	129	886	98	1,113
	11.6%	79.6%	8.8%	100.0%
⑭男性と女性で違いはない	565	438	110	1,113
	50.8%	39.4%	9.9%	100.0%

※パタニティ・ハラスメント（パタハラ）…男性が育児休業などを希望した時に職場で嫌がらせを受けること。

「その他」…体力的に男女差がある

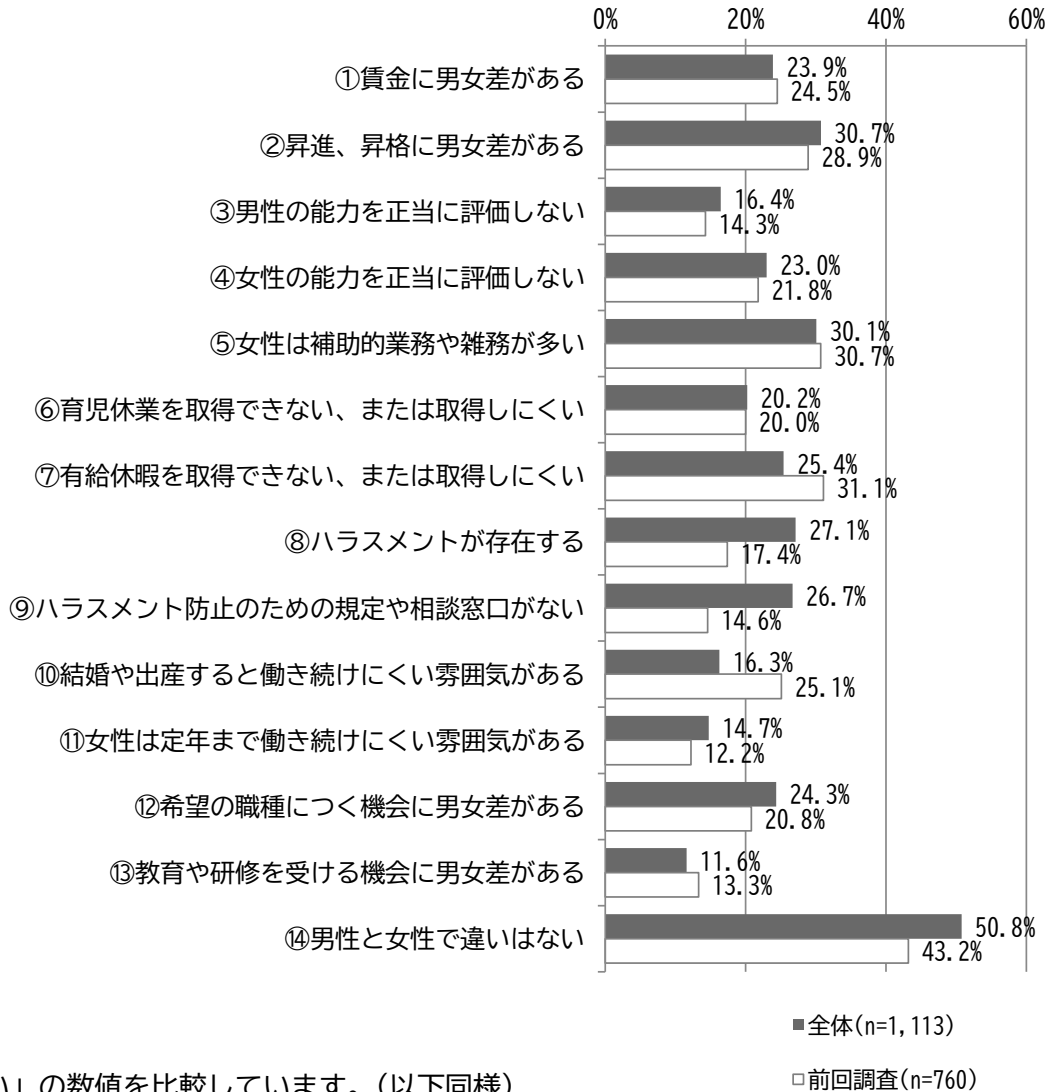
子育てをしていない職員にしわ寄せがいくような育児制度は「充実した制度」とはいえない など

【前回調査比較】

■ 「⑨ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない」で、前回調査より 12.1 ポイント多い

職場での男女の対応について、前回調査と比較すると「⑨ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない」が前回調査より 12.1 ポイント多くなっています。

一方、「⑩結婚や出産すると働き続けにくい雰囲気がある」が前回調査より 8.8 ポイント少なくなっています。

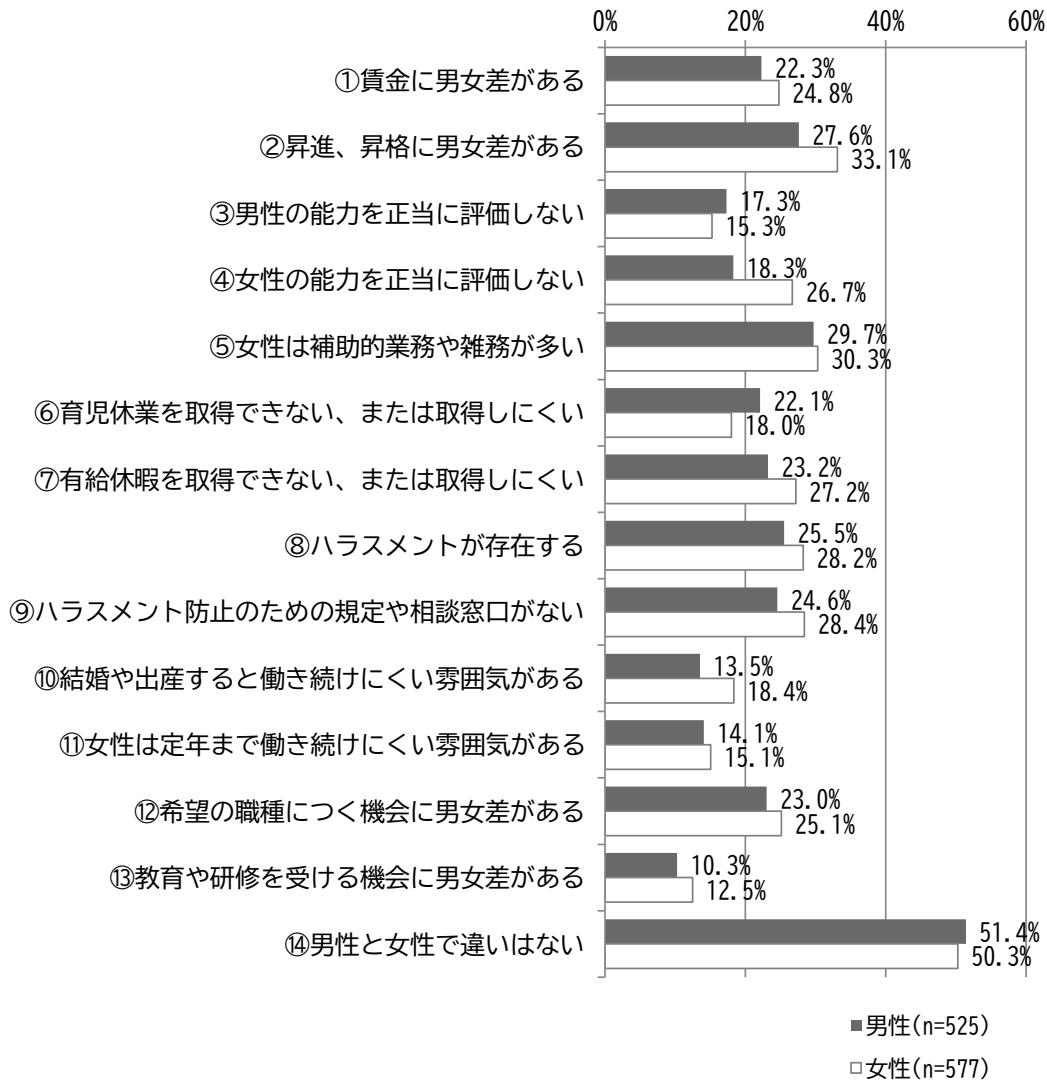


※ 「はい」の数値を比較しています。(以下同様)

【性別集計】

■ 「④女性の能力を正當に評価しない」で、男性より女性が8.4ポイント多い

職場での男女の対応について、性別で見ると「④女性の能力を正當に評価しない」で男性より女性が8.4ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「⑭男性と女性で違いはない」で、20歳代、40歳代が6割弱

職場での男女の対応について、年代で見ると「⑭男性と女性で違いはない」で若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=6)	20歳代 (n=35)	30歳代 (n=103)	40歳代 (n=251)	50歳代 (n=368)	60歳代 (n=258)	70歳以上 (n=92)
①賃金に男女差がある	16.7%	8.6%	17.5%	22.3%	22.0%	29.1%	34.8%
②昇進、昇格に男女差がある	16.7%	25.7%	34.0%	27.9%	31.8%	31.0%	32.6%
③男性の能力を正當に評価しない	0.0%	11.4%	15.5%	17.9%	17.1%	15.5%	16.3%
④女性の能力を正當に評価しない	33.3%	8.6%	23.3%	23.9%	24.7%	22.1%	20.7%
⑤女性は補助的業務や雑務が多い	33.3%	22.9%	30.1%	33.9%	29.3%	27.9%	31.5%
⑥育児休業を取得できない、または取得しにくい	16.7%	11.4%	22.3%	22.3%	18.2%	19.8%	25.0%
⑦有給休暇を取得できない、または取得しにくい	16.7%	14.3%	26.2%	25.5%	26.9%	22.9%	30.4%
⑧ハラスメントが存在する	33.3%	25.7%	25.2%	31.1%	28.0%	26.4%	17.4%
⑨ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない	33.3%	11.4%	19.4%	24.3%	25.3%	31.8%	38.0%
⑩結婚や出産すると働き続けにくい雰囲気がある	16.7%	20.0%	16.5%	15.5%	13.6%	17.4%	23.9%
⑪女性は定年まで働き続けにくい雰囲気がある	16.7%	20.0%	16.5%	13.1%	12.0%	16.3%	21.7%
⑫希望の職種につく機会に男女差がある	33.3%	28.6%	26.2%	22.3%	21.7%	27.1%	28.3%
⑬教育や研修を受ける機会に男女差がある	16.7%	5.7%	9.7%	9.6%	8.7%	17.1%	17.4%
⑭男性と女性で違いはない	66.7%	57.1%	46.6%	56.6%	50.0%	53.5%	31.5%

【共働き状況別集計】

■ 「⑭男性と女性で違いはない」で、「準共働き③」が6割強

男女が共に社会で能力を發揮しながら働き続けるために重要だと思うことについて、共働き状況で見ると「⑭男性と女性で違いはない」で、「準共働き③」が65.9%と多くなっています。

項目	共働き (n=302)	準共働き① (n=126)	準共働き② (n=181)	準共働き③ (n=44)	非共働き① (n=128)
①賃金に男女差がある	22.8%	26.2%	22.1%	31.8%	25.8%
②昇進、昇格に男女差がある	28.1%	36.5%	30.9%	34.1%	32.0%
③男性の能力を正當に評価しない	17.2%	18.3%	12.2%	15.9%	18.0%
④女性の能力を正當に評価しない	24.5%	21.4%	22.7%	25.0%	19.5%
⑤女性は補助的業務や雑務が多い	26.2%	39.7%	35.4%	22.7%	27.3%
⑥育児休業を取得できない、または取得しにくい	19.5%	19.0%	21.5%	20.5%	21.1%
⑦有給休暇を取得できない、または取得しにくい	24.8%	19.0%	27.1%	20.5%	25.0%
⑧ハラスメントが存在する	28.5%	21.4%	29.8%	31.8%	22.7%
⑨ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない	25.5%	24.6%	28.7%	25.0%	25.8%
⑩結婚や出産すると働き続けにくい雰囲気がある	12.9%	9.5%	17.7%	18.2%	20.3%
⑪女性は定年まで働き続けにくい雰囲気がある	12.6%	11.1%	15.5%	18.2%	16.4%
⑫希望の職種につく機会に男女差がある	21.2%	24.6%	23.8%	34.1%	24.2%
⑬教育や研修を受ける機会に男女差がある	7.3%	12.7%	17.1%	18.2%	12.5%
⑭男性と女性で違いはない	45.7%	53.2%	54.7%	65.9%	53.1%

※「非共働き②」「その他」は、回答者が未就労で非該当設問のため掲載なし。

(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況

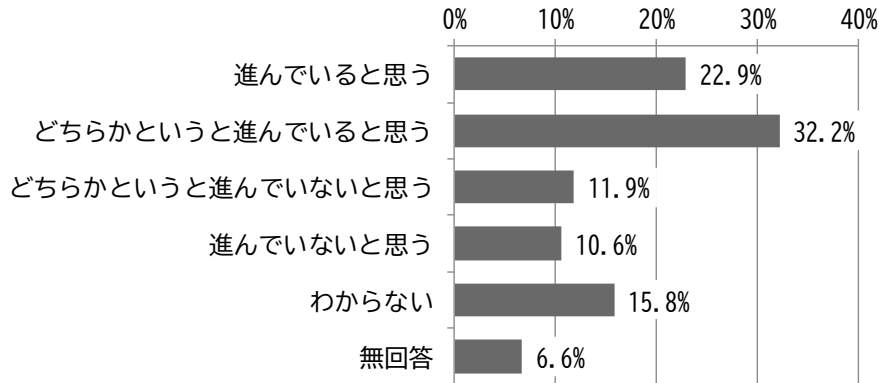
現在、働いている方にお聞きします。

問16 あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。(○は1つ)

■ 職場で女性の採用・管理職登用は、『進んでいると思う』が5割強

職場で女性の採用や管理職登用が進んでいると思うかの「進んでいると思う」「どちらかというに進んでいると思う」を合わせた『進んでいると思う』が55.1%となっています。

一方、「どちらかというに進んでいないと思う」「進んでいないと思う」を合わせた『進んでいないと思う』が22.5%となっています。



項目	度数	比率
進んでいると思う	255	22.9%
どちらかというに進んでいると思う	358	32.2%
どちらかというに進んでいないと思う	132	11.9%
進んでいないと思う	118	10.6%
わからない	176	15.8%
無回答	74	6.6%
回答者数	1,113	100.0%

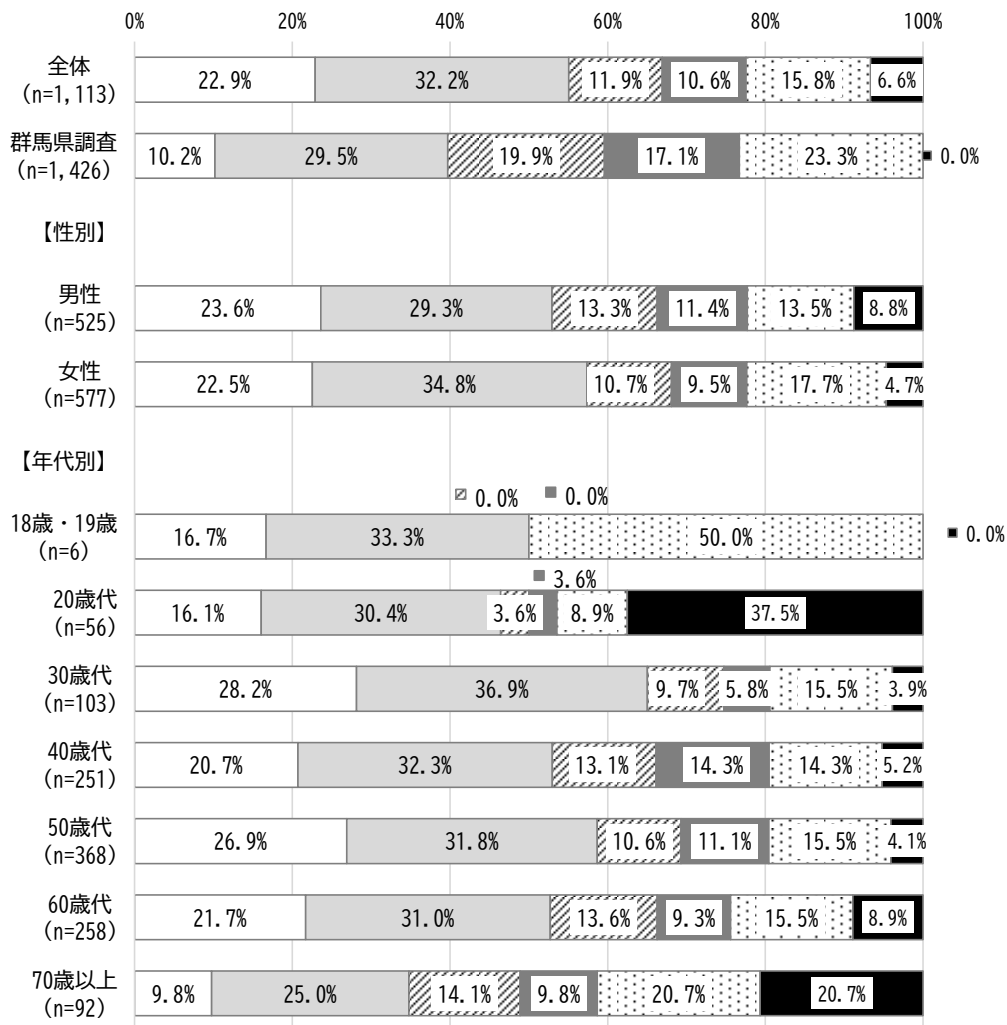
【群馬県調査比較・性別・年代別集計】

■ 群馬県調査よりも『進んでいると思う』が、15.4ポイント多い

職場で女性の採用や管理職登用が進んでいると思うかについて、群馬県調査よりも『進んでいると思う』が15.4ポイント多くなっています。

性別で見ると、『進んでいると思う』が男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると、『進んでいると思う』が30歳代、50歳代がやや多くなっています。



進んでいると思う
 どちらかというに進んでいると思う
 どちらかというに進んでいないと思う
 進んでいないと思う
 わからない
 無回答

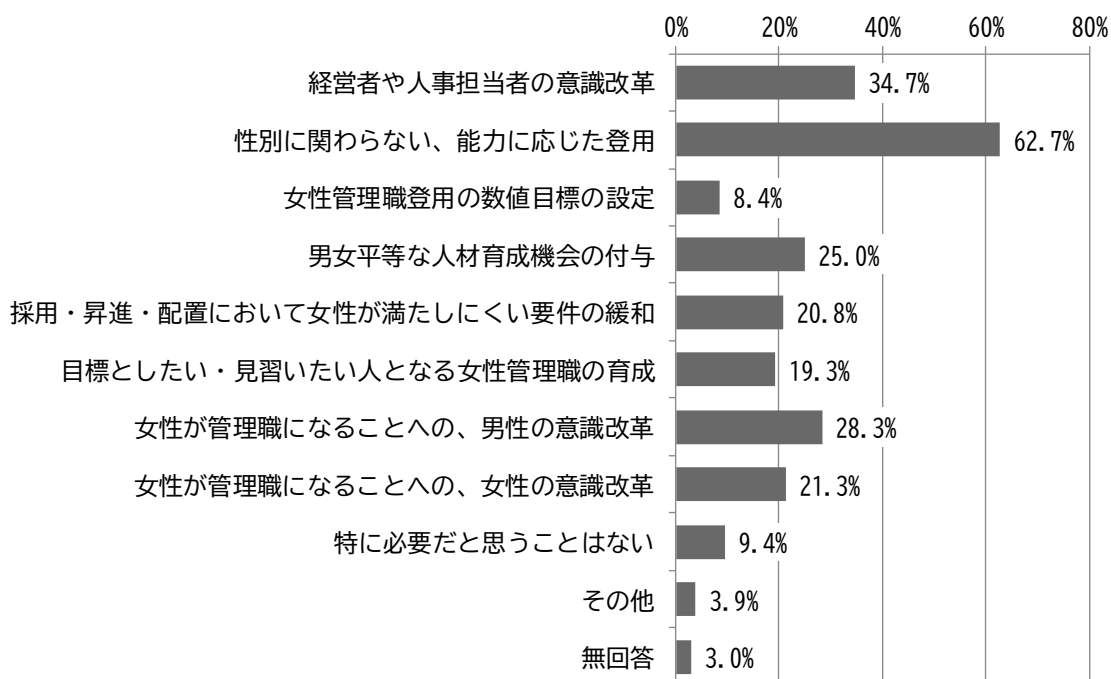
(7) 職場で、女性管理職への登用に必要なこと

現在、働いている方にお聞きします。

問 17 あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「性別に関わらない、能力に応じた登用」が6割強

職場で、女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについては、「性別に関わらない、能力に応じた登用」が62.7%と最も多く、次いで「経営者や人事担当者の意識改革」が34.7%、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」が28.3%となっています。



項目	度数	比率
経営者や人事担当者の意識改革※	386	34.7%
性別に関わらない、能力に応じた登用	698	62.7%
女性管理職登用の数値目標の設定	94	8.4%
男女平等な人材育成機会の付与	278	25.0%
採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件（転勤など）の緩和	231	20.8%
目標としたい・見習いたい人となる女性管理職の育成	215	19.3%
女性が管理職になることへの、男性の意識改革※	315	28.3%
女性が管理職になることへの、女性の意識改革※	237	21.3%
特に必要だと思うことはない	105	9.4%
その他	43	3.9%
無回答	33	3.0%
回答者数	1,113	

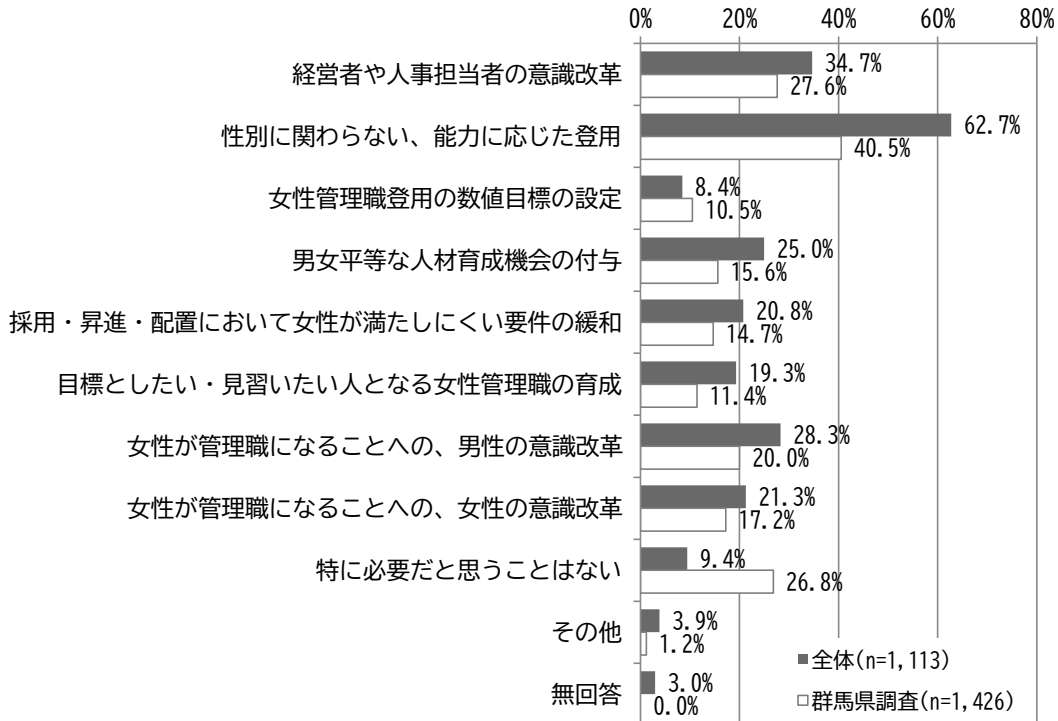
※「意識改革」とは…アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）などを解消すること。
思い込みの例：「管理職は男性が担うもの」、「女性は補助的な仕事を務める」など

「その他」…女性自身が管理職に就きたい意志を持つ
育児がキャリアとして評価されること など

【群馬県調査比較】

■ 「性別に関わらない、能力に応じた登用」で、群馬県調査より 22.2 ポイント多い

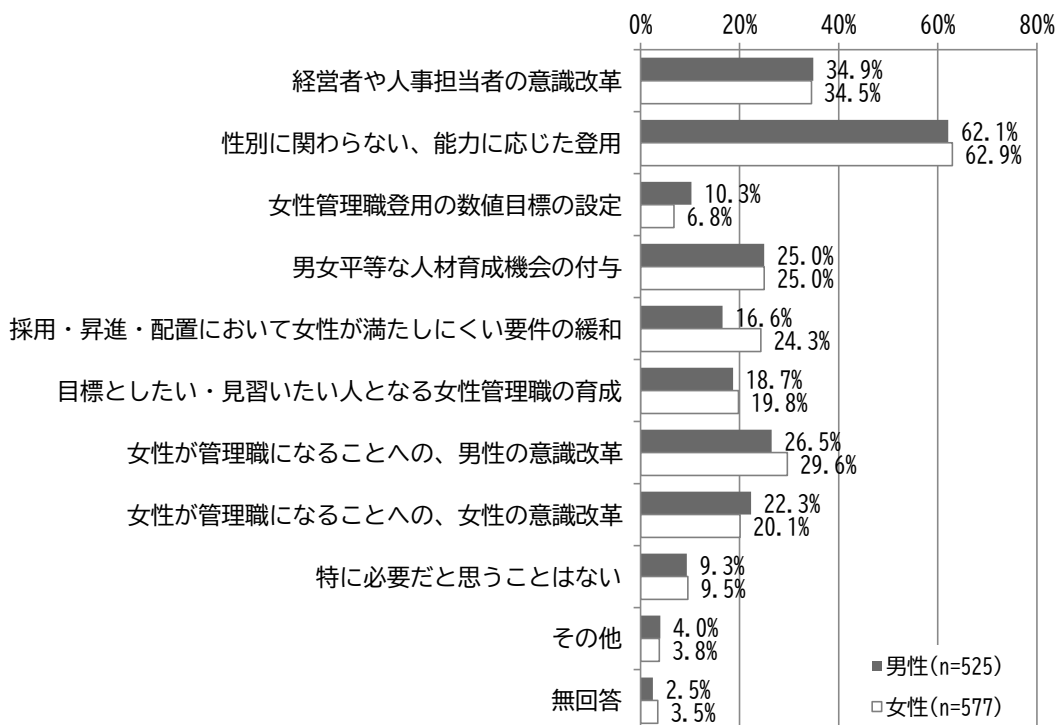
職場で、女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについて、群馬県調査より「性別に関わらない、能力に応じた登用」で 22.2 ポイント多くなっています。



【性別集計】

■ 「採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件の緩和」で、男性より女性が 7.7 ポイント多い

職場で、女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについて、性別で見ると「採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件の緩和」で男性より女性が 7.7 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「性別に関わらない、能力に応じた登用」で、20歳代で7割強

職場で、女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについて、年代で見ると「性別に関わらない、能力に応じた登用」で若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=6)	20歳代 (n=35)	30歳代 (n=103)	40歳代 (n=251)	50歳代 (n=368)	60歳代 (n=258)	70歳以上 (n=92)
経営者や人事担当者の意識改革	66.7%	20.0%	33.0%	35.1%	32.3%	40.7%	31.5%
性別に関わらない、能力に応じた登用	50.0%	74.3%	67.0%	60.2%	63.6%	62.8%	57.6%
女性管理職登用の数値目標の設定	0.0%	5.7%	8.7%	6.8%	10.1%	10.1%	3.3%
男女平等な人材育成機会の付与	16.7%	11.4%	29.1%	25.1%	23.4%	27.9%	23.9%
採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件の緩和	0.0%	14.3%	23.3%	22.3%	22.0%	22.1%	8.7%
目標としたい・見習いたい人となる女性管理職の育成	33.3%	17.1%	26.2%	21.9%	18.5%	17.4%	13.0%
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	33.3%	20.0%	36.9%	30.3%	26.4%	27.1%	27.2%
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	16.7%	17.1%	25.2%	23.5%	19.6%	22.9%	15.2%
特に必要だと思うことはない	16.7%	8.6%	9.7%	11.2%	10.6%	6.6%	7.6%
その他	16.7%	2.9%	1.0%	4.8%	3.8%	3.5%	5.4%
無回答	0.0%	0.0%	1.0%	1.6%	0.8%	3.5%	17.4%

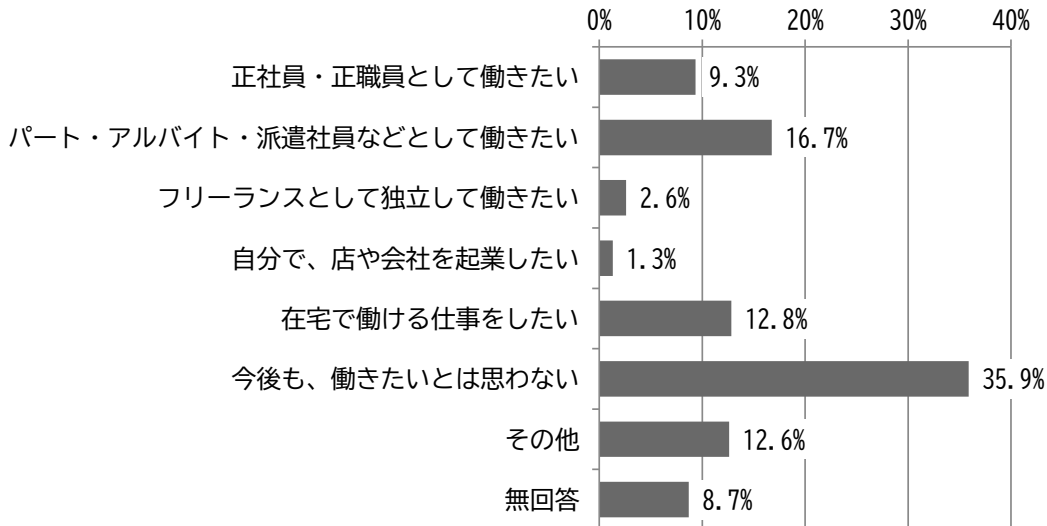
(8) 就労意向

現在、働いていない方にお聞きします。

問 18 あなたは、今後働きたいと思いますか。(○は1つ)

■「今後も、働きたいとは思わない」が、3割強

今後働きたいと思うかについては、「今後も、働きたいとは思わない」が 35.9%と最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」が 16.7%、「在宅で働ける仕事をしたい」が 12.8%となっています。



項目	度数	比率
正社員・正職員として働きたい	43	9.3%
パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい	77	16.7%
フリーランス※として独立して働きたい	12	2.6%
自分で、店や会社を起業したい	6	1.3%
在宅で働ける仕事をしたい	59	12.8%
今後も、働きたいとは思わない	165	35.9%
その他	58	12.6%
無回答	40	8.7%
回答者数	460	100.0%

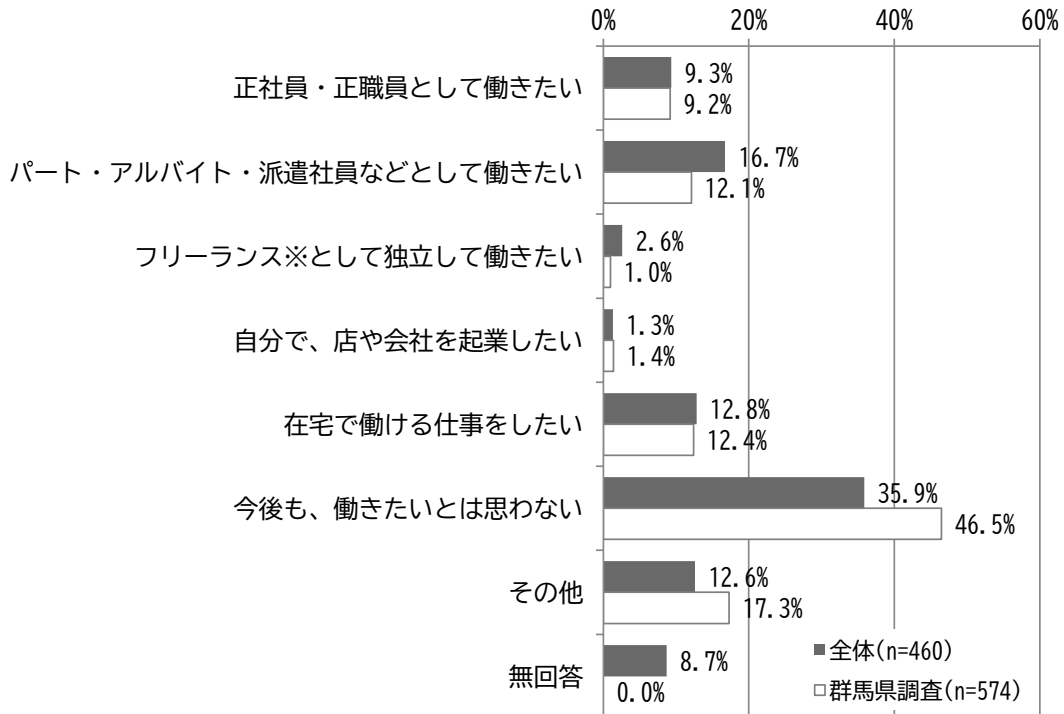
※「フリーランス」とは…会社に属さず、個人で仕事をする人

「その他」…父と娘の介護で不可能
スポット的に働きたい など

【群馬県調査比較】

■「今後も、働きたいとは思わない」で、群馬県調査より10.6ポイント少い

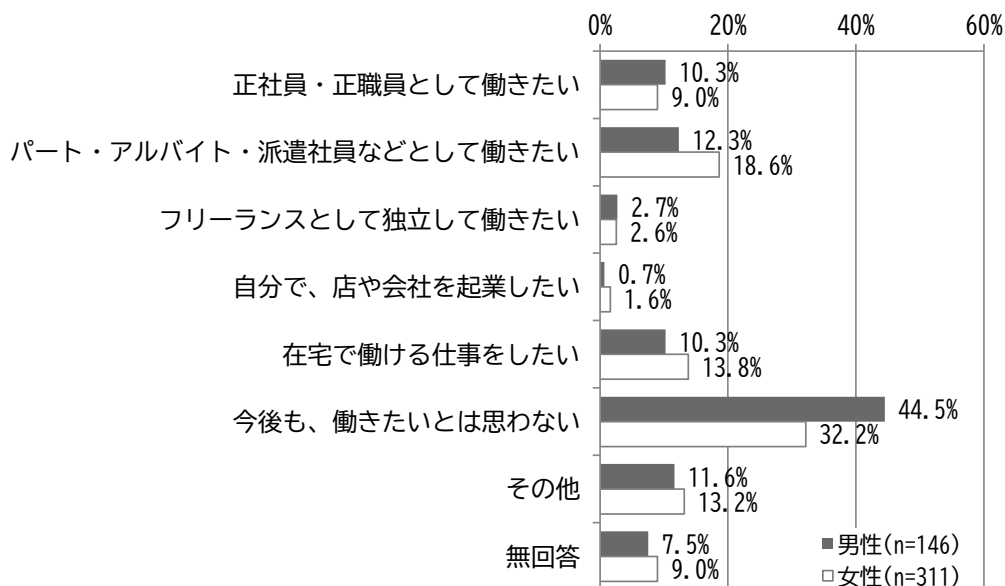
今後働きたいと思うかについて、群馬県調査と比較すると「今後も、働きたいとは思わない」で群馬県調査より10.6ポイント少なくなっています。



【性別集計】

■ 「今後も、働きたいとは思わない」で、女性より男性が 12.3 ポイント多い

今後働きたいと思うかについて、性別で見ると「今後も、働きたいとは思わない」で女性より男性が 12.3 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「今後も、働きたいとは思わない」で、70 歳以上が 5 割弱

今後働きたいと思うかについて、年代で見ると「今後も、働きたいとは思わない」で 70 歳以上が 47.2%と多くなっています。また、「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」で 30 歳代をピークに年齢が上がると回答が少なくなっています。

項目	18歳・19歳 (n=19)	20歳代 (n=19)	30歳代 (n=13)	40歳代 (n=22)	50歳代 (n=55)	60歳代 (n=154)	70歳以上 (n=178)
正社員・正職員として働きたい	73.7%	73.7%	7.7%	4.5%	10.9%	2.6%	1.7%
パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい	5.3%	10.5%	46.2%	36.4%	21.8%	16.2%	12.9%
フリーランス※として独立して働きたい	0.0%	0.0%	7.7%	13.6%	3.6%	1.9%	1.7%
自分で、店や会社を起業したい	0.0%	0.0%	7.7%	4.5%	1.8%	1.3%	0.6%
在宅で働ける仕事をしたい	0.0%	10.5%	23.1%	22.7%	16.4%	13.6%	10.7%
今後も、働きたいとは思わない	5.3%	0.0%	0.0%	4.5%	27.3%	41.6%	47.2%
その他	5.3%	0.0%	0.0%	4.5%	9.1%	14.3%	16.3%
無回答	10.5%	5.3%	7.7%	9.1%	9.1%	8.4%	9.0%
回答者数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

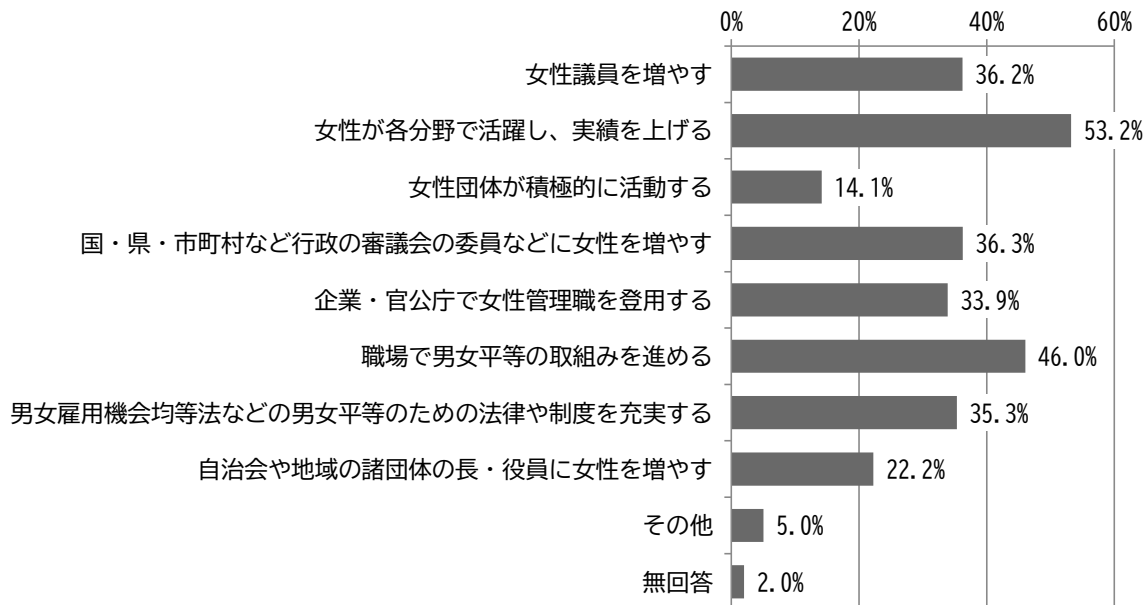
6 女性の社会参画について

(1) 女性の社会参画で大切なこと

問 19 あなたは、行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で、どのようなことが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が5割強

行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で大切なことについて、「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が 53.2%と最も多く、次いで「職場で男女平等の取組みを進める」が 46.0%、「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」が 36.3%、「女性議員を増やす」が 36.2%となっています。



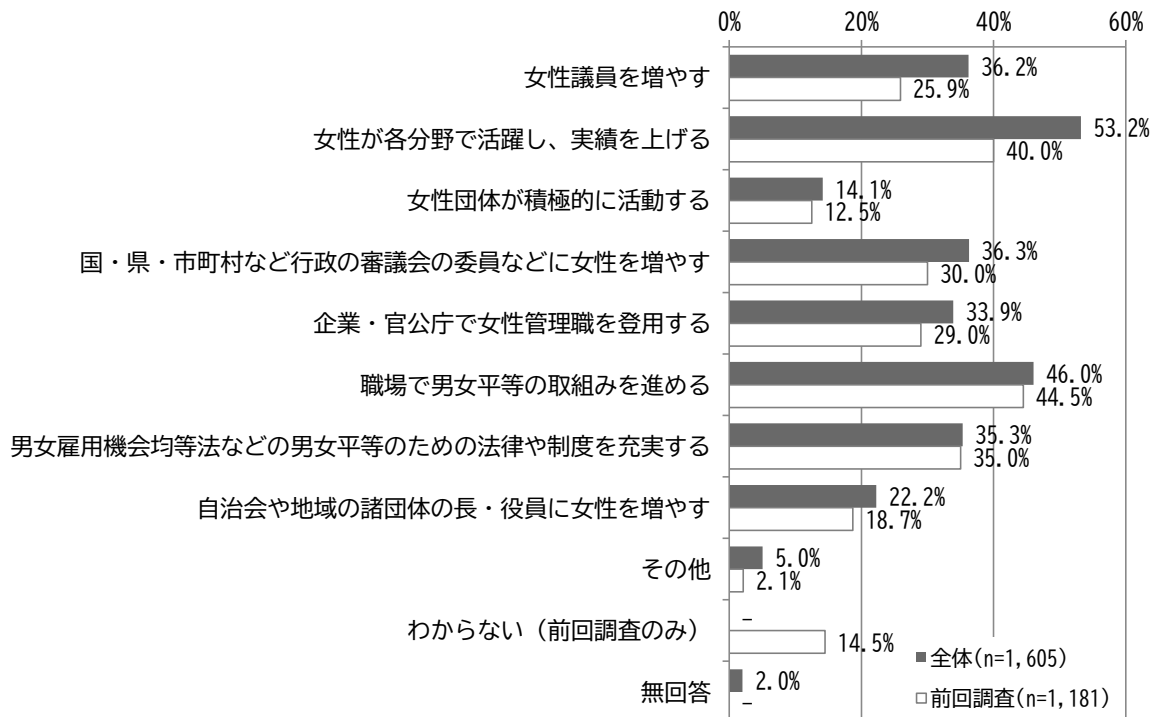
項目	度数	比率
女性議員を増やす	581	36.2%
女性が各分野で活躍し、実績を上げる	854	53.2%
女性団体が積極的に活動する	227	14.1%
国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす	582	36.3%
企業・官公庁で女性管理職を登用する	544	33.9%
職場で男女平等の取組みを進める	739	46.0%
男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する	567	35.3%
自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やす	357	22.2%
その他	81	5.0%
無回答	32	2.0%
回答者数	1,605	

「その他」・・・全ての社会参画において女性の数だけを問題にする事はないと思う
 そもそも女性は家事、育児に追われ自治会等まで手が回らないのが現状 など

【前回調査比較】

■ 「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が、前回調査より 13.2 ポイント多い

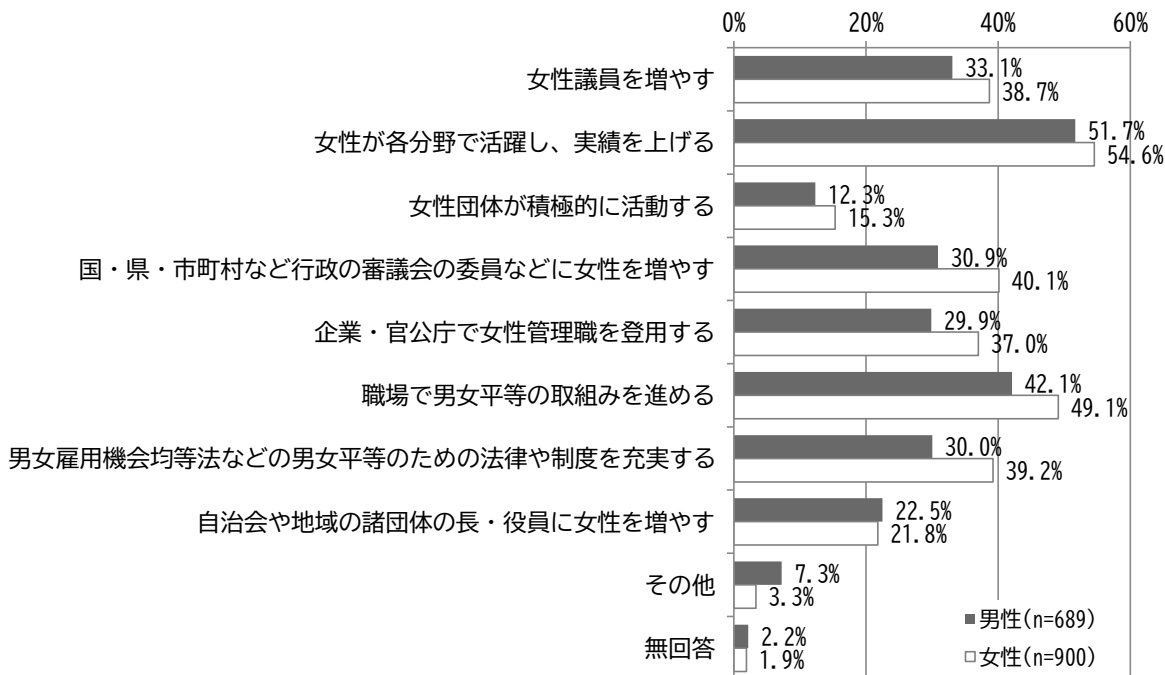
行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で大切なことについて、前回調査と比較すると「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が前回調査より 13.2 ポイント多くなっています。



【性別集計】

■ 「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する」で、男性より女性がそれぞれ 9.2 ポイント多い

行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で大切なことについて、性別で見ると「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する」で、男性より女性がそれぞれ 9.2 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」で、20歳代が6割強

行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で大切なことについて、年代で見ると「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」で20歳代が62.5%と最も多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
女性議員を増やす	53.8%	21.4%	39.7%	40.1%	33.5%	37.0%	35.4%
女性が各分野で活躍し、実績を上げる	50.0%	62.5%	51.7%	49.6%	56.3%	51.7%	53.4%
女性団体が積極的に活動する	30.8%	14.3%	16.4%	13.5%	13.7%	12.0%	15.9%
国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす	46.2%	21.4%	32.8%	36.9%	32.3%	39.9%	40.1%
企業・官公庁で女性管理職を登用する	30.8%	23.2%	30.2%	31.8%	33.7%	37.0%	35.7%
職場で男女平等の取組みを進める	53.8%	53.6%	38.8%	49.6%	41.2%	47.4%	48.7%
男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する	34.6%	25.0%	28.4%	35.8%	31.9%	38.2%	40.4%
自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やす	26.9%	12.5%	20.7%	21.2%	21.6%	21.5%	27.4%
その他	3.8%	3.6%	6.0%	6.6%	6.0%	4.7%	2.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	1.8%	1.9%	2.1%	3.6%

7 男女共同参画を進めるための取組について

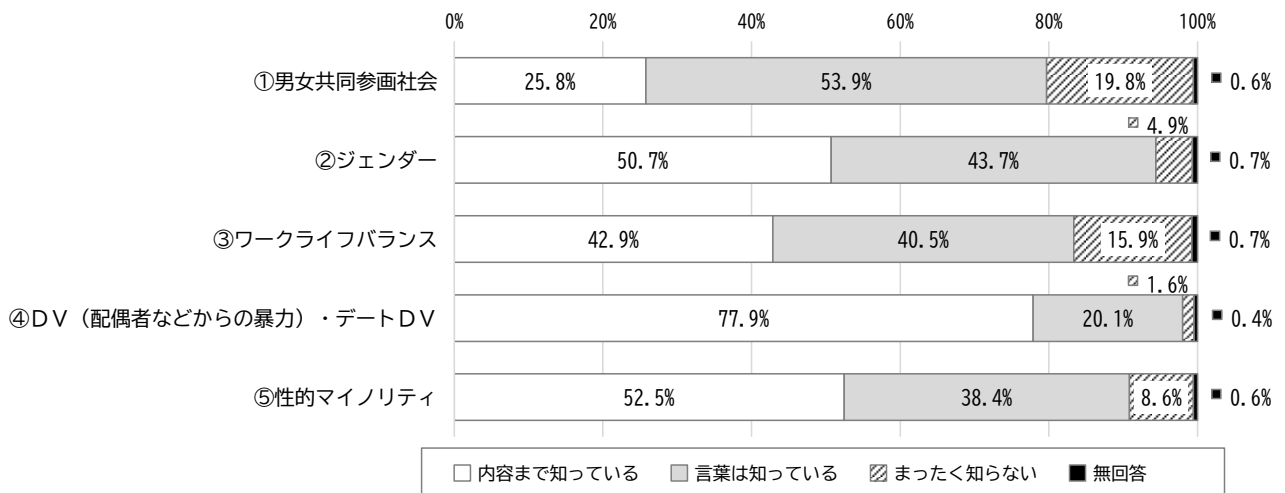
(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度

問 20 あなたは、次の用語について知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

■ 「④DV(配偶者などからの暴力)・デートDV」の認知度が98%

男女共同参画に関する用語についての「内容まで知っている」「言葉は知っている」を合わせた『知っている』では、「④DV(配偶者などからの暴力)・デートDV」が98.0%と最も多く、次いで「②ジェンダー」が94.4%、「⑤性的マイノリティ」が90.9%となっています。

一方、「まったく知らない」では、「①男女共同参画社会」が19.8%、「③ワークライフバランス」が15.9%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	内容まで知っている	言葉は知っている	まったく知らない	無回答	合計
①男女共同参画社会	414	865	317	9	1,605
	25.8%	53.9%	19.8%	0.6%	100.0%
②ジェンダー (社会的・文化的につくられた性差)	814	701	79	11	1,605
	50.7%	43.7%	4.9%	0.7%	100.0%
③ワークライフバランス (仕事と生活の調和)	688	650	255	12	1,605
	42.9%	40.5%	15.9%	0.7%	100.0%
④DV(配偶者などからの暴力)・デートDV (交際相手などからの暴力)	1,250	323	25	7	1,605
	77.9%	20.1%	1.6%	0.4%	100.0%
⑤性的マイノリティ(LGBTQ)	842	616	138	9	1,605
	52.5%	38.4%	8.6%	0.6%	100.0%

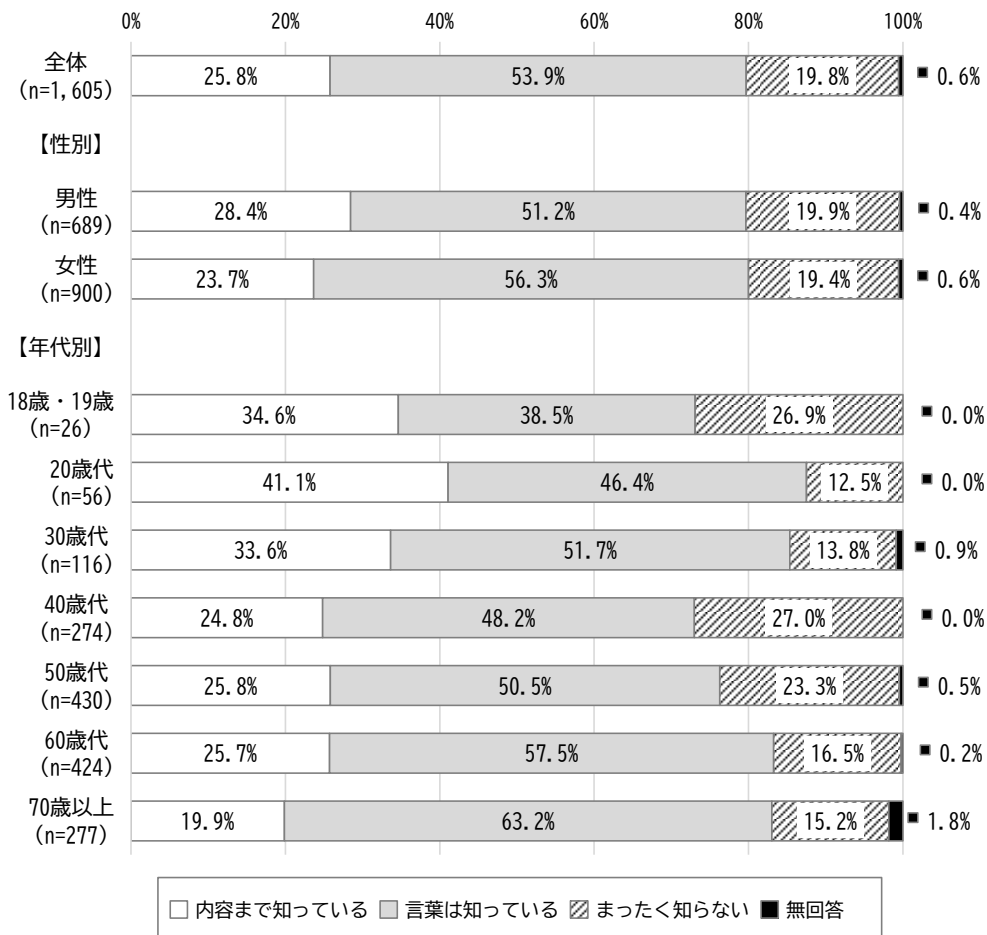
【性別・年代別集計】

① 男女共同参画社会

■ 男女共同参画社会の認知度は、「内容まで知っている」で、女性より男性がやや多い

男女共同参画社会の認知度について、性別で見ると「内容まで知っている」で女性より男性が4.7ポイント多くなっています。

年代で見ると『知っている』で20歳代、30歳代が多くなっています。



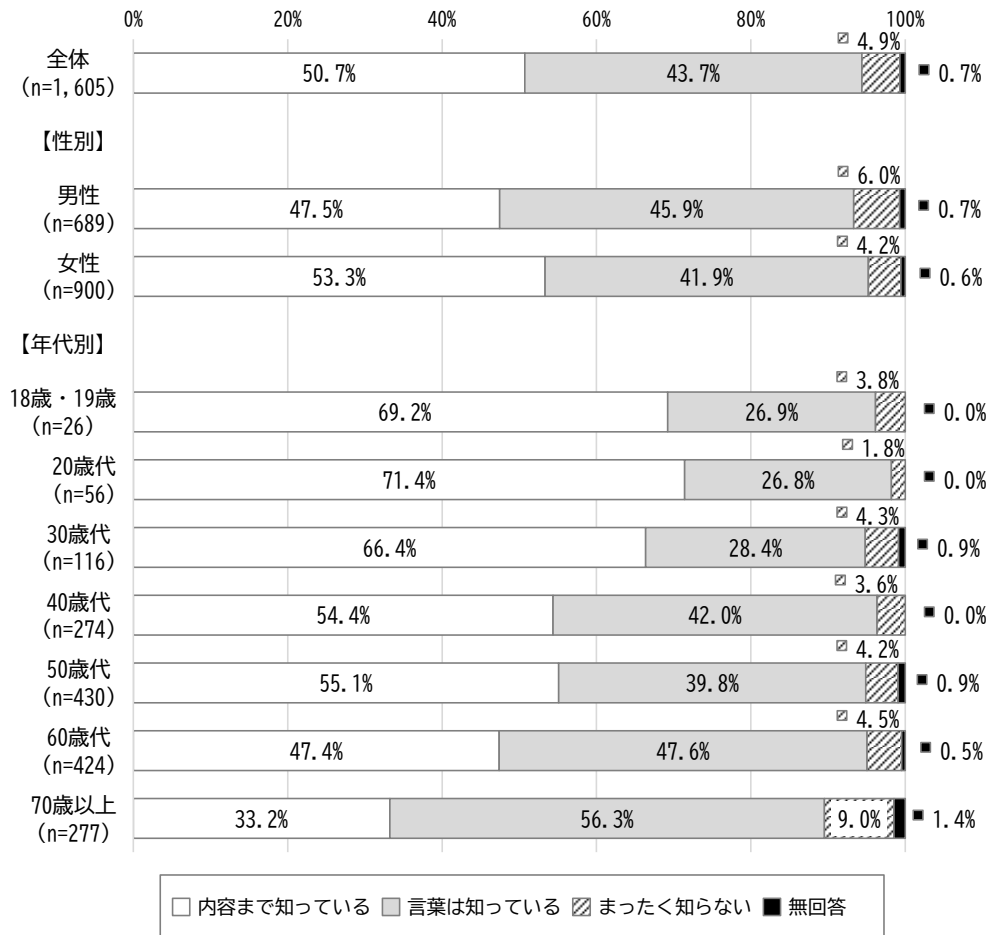
【性別・年代別集計】

② ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）

■ ジェンダーの認知度は、「内容まで知っている」で、男性より女性がやや多い

ジェンダーの認知度について、性別で見ると「内容まで知っている」で男性より女性が5.8ポイント多くなっています。

年代で見ると「内容まで知っている」で20歳代、30歳代が多くなっています。



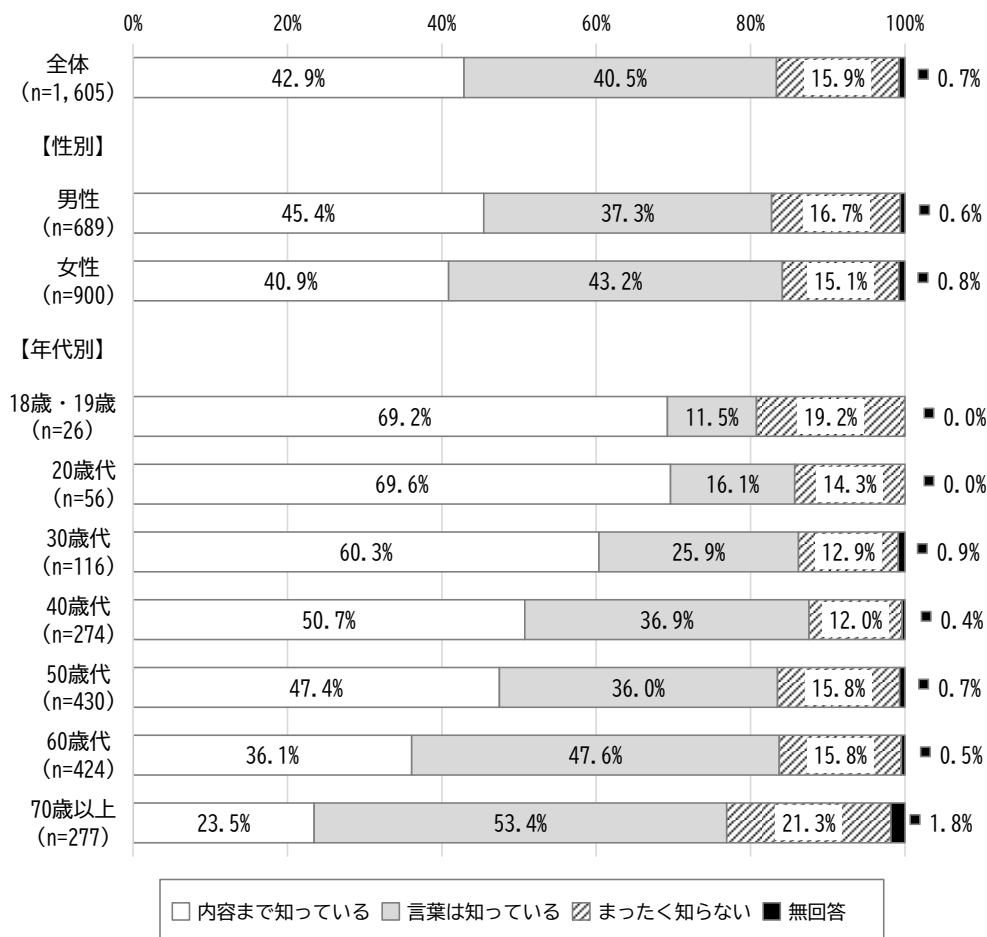
【性別・年代別集計】

③ ワークライフバランス（仕事と生活の調和）

■ ワークライフバランスの認知度は、「内容まで知っている」で、女性より男性がやや多い

ワークライフバランスの認知度について、性別で見ると「内容まで知っている」で女性より男性が4.5ポイント多くなっています。

年代で見ると「内容まで知っている」で20歳代が多くなっています。



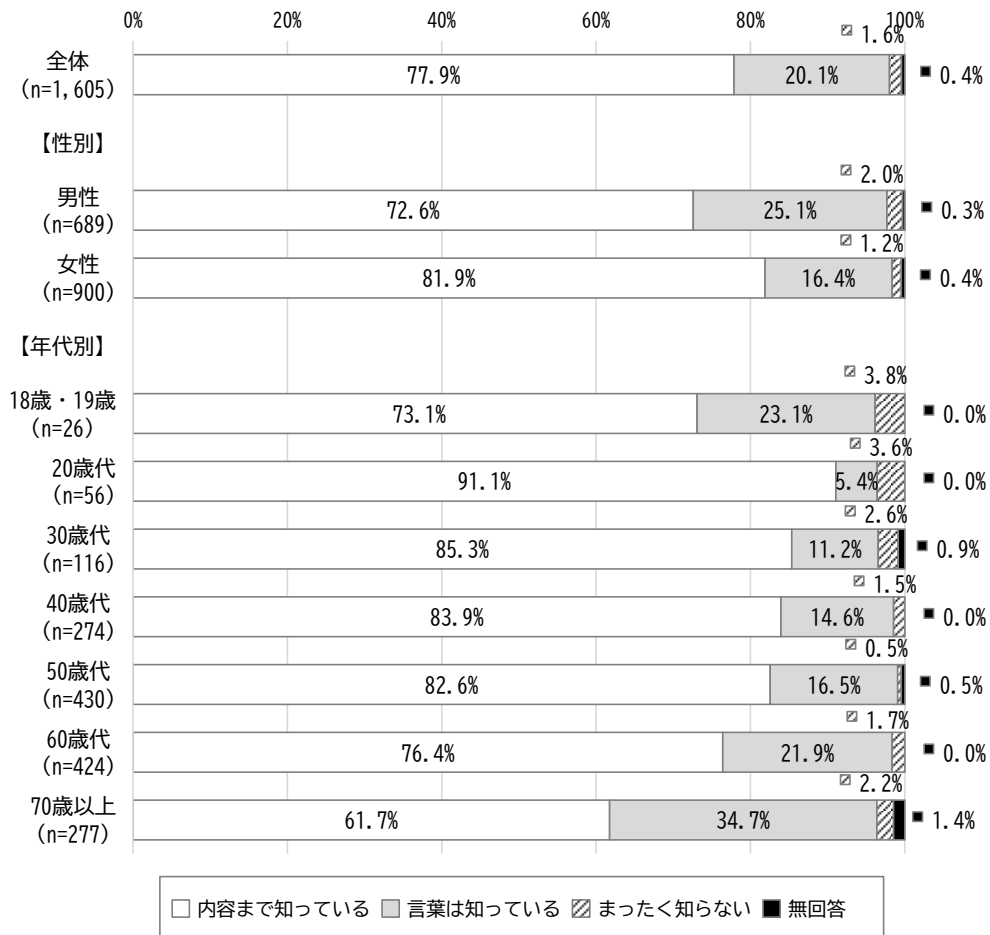
【性別・年代別集計】

④ DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（交際相手などからの暴力）

■ DV・デートDVの認知度は、「内容まで知っている」で、男性より女性が多い

DV・デートDVの認知度について、性別で見ると「内容まで知っている」で男性より女性が9.3ポイント多くなっています。

年代で見ると「内容まで知っている」で20歳代が多くなっています。



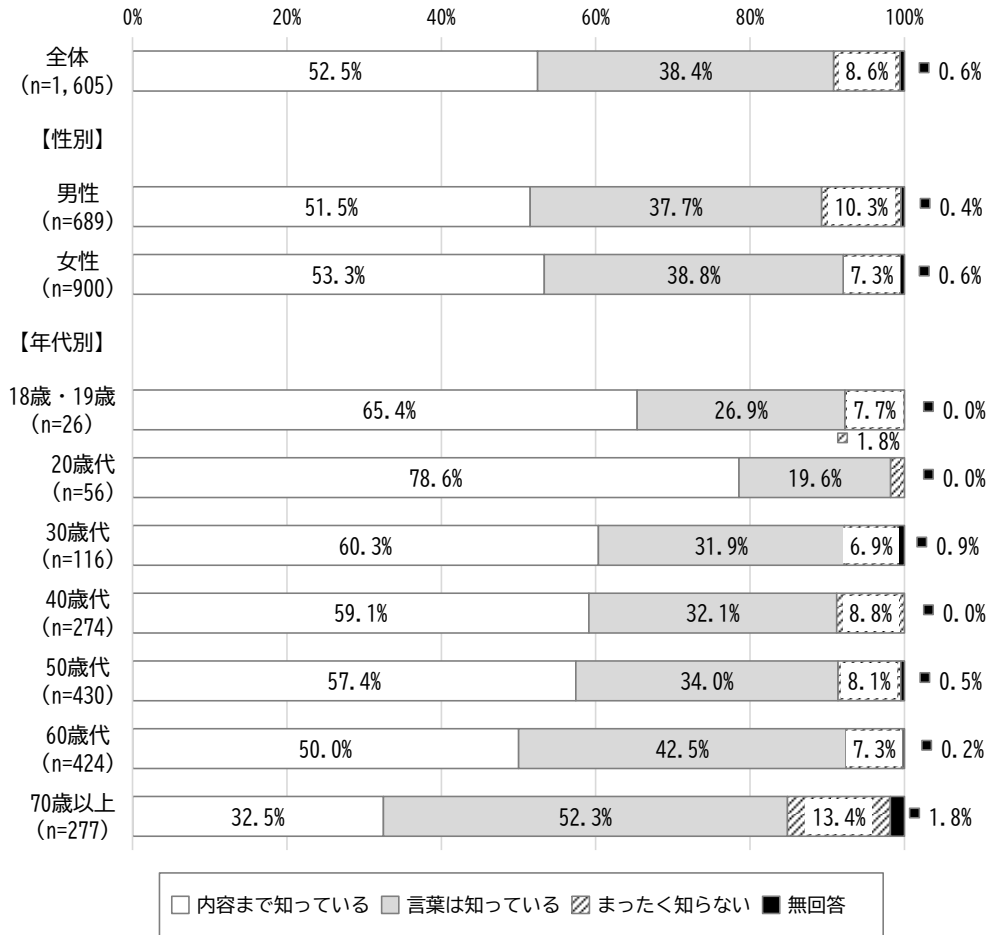
【性別・年代別集計】

⑤ 性的マイノリティ（LGBTQ）

■ 性的マイノリティの認知度は、『知っている』で、男性より女性がやや多い

性的マイノリティの認知度について、性別で見ると『知っている』で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると「内容まで知っている」で20歳代が多くなっています。

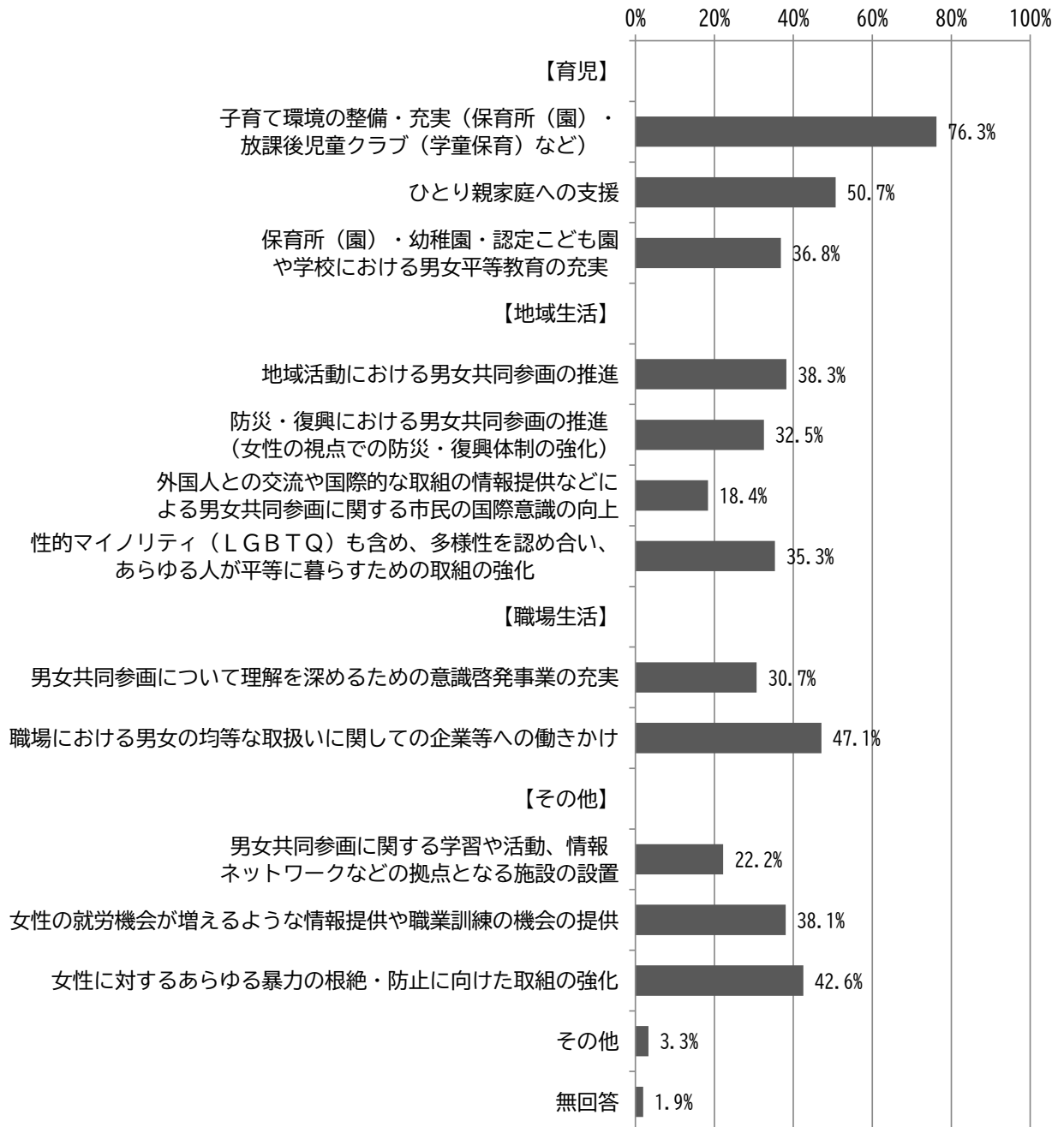


(2) 男女共同参画推進のために市が力を入れるべきこと

問 21 男女共同参画社会を進めるために、あなたは、市では今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「子育て環境の整備・充実・放課後児童クラブなど」が、8割弱

男女共同参画社会を進めるために、今後、市で力を入れたらよいと思うものについては、「子育て環境の整備・充実（保育所（園）・放課後児童クラブ（学童保育）など）」が 76.3%と最も多く、次いで「ひとり親家庭への支援」が 50.7%、「職場における男女の均等な取扱いに関する企業等への働きかけ」が 47.1%、「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」が 42.6%となっています。



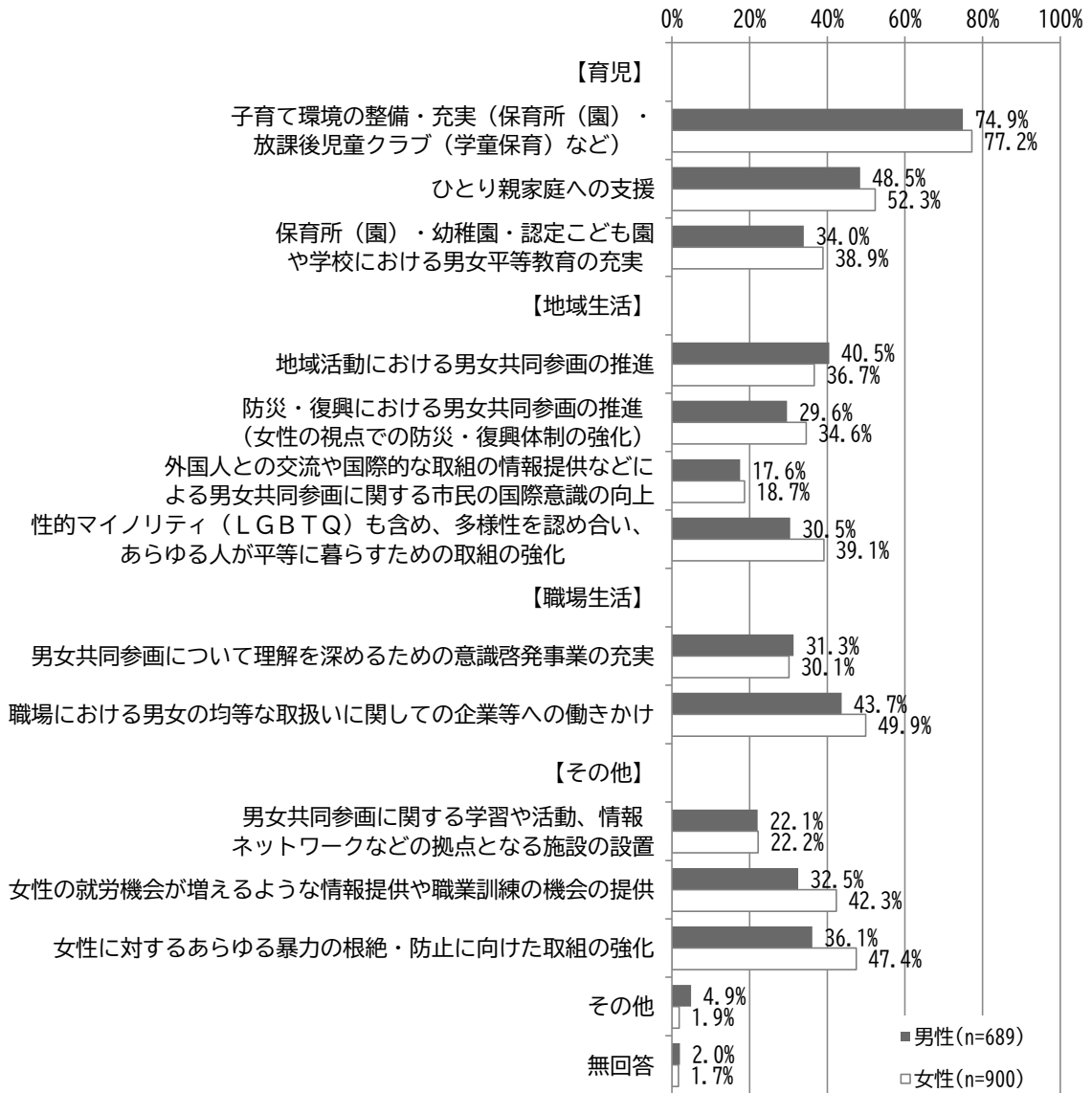
項目	度数	比率
【育児】		
子育て環境の整備・充実 (保育所(園)・放課後児童クラブ(学童保育)など)	1,224	76.3%
ひとり親家庭への支援	814	50.7%
保育所(園)・幼稚園・認定こども園や学校に おける男女平等教育の充実	591	36.8%
【地域生活】		
地域活動における男女共同参画の推進	614	38.3%
防災・復興における男女共同参画の推進 (女性の視点での防災・復興体制の強化)	522	32.5%
外国人との交流や国際的な取組の情報提供などによる 男女共同参画に関する市民の国際意識の向上	295	18.4%
性的マイノリティ(LGBTQ)も含め、多様性を認め合い、 あらゆる人が平等に暮らすための取組の強化	567	35.3%
【職場生活】		
男女共同参画について理解を深めるための意識啓発事業の充実	493	30.7%
職場における男女の均等な取扱いに関しての企業等への働きかけ	756	47.1%
【その他】		
男女共同参画に関する学習や活動、情報ネットワークなどの 拠点となる施設の設置	357	22.2%
女性の就労機会が増えるような情報提供や職業訓練の機会の提供	611	38.1%
女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化	683	42.6%
その他	53	3.3%
無回答	31	1.9%
回答者数	1,605	

「その他」…入り口は男女区別せず、男女比率は固定しない。参画意思を尊重する
国際的なレベルでの人権教育 など

【性別集計】

■「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」で、男性より女性が 11.3 ポイント多い

男女共同参画社会を進めるために、今後、市で力を入れたらよいと思うものについて、性別で見ると「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」で男性より女性が 11.3 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■「子育て環境の整備・充実・放課後児童クラブなど」で20歳代、30歳代が9割弱

男女共同参画社会を進めるために、今後、市で力を入れたらよいと思うものについて、年代で見ると、「子育て環境の整備・充実（保育所（園）・放課後児童クラブ（学童保育）など）」で若い人ほど回答が多くなっています。また、「地域活動における男女共同参画の推進」「防災・復興における男女共同参画の推進（女性の視点での防災・復興体制の強化）」では、年代が上がるにつれて回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
【育児】							
子育て環境の整備・充実（保育所（園）・放課後児童クラブ（学童保育）など）	80.8%	87.5%	86.2%	79.9%	71.2%	75.7%	74.7%
ひとり親家庭への支援	53.8%	62.5%	53.4%	51.1%	47.2%	53.8%	47.3%
保育所（園）・幼稚園・認定こども園や学校における男女平等教育の充実	42.3%	37.5%	31.9%	36.1%	33.7%	40.6%	38.3%
【地域生活】							
地域活動における男女共同参画の推進	30.8%	16.1%	25.0%	34.7%	32.3%	44.8%	51.6%
防災・復興における男女共同参画の推進（女性の視点での防災・復興体制の強化）	26.9%	8.9%	22.4%	32.1%	29.1%	36.8%	41.2%
外国人との交流や国際的な取組の情報提供などによる男女共同参画に関する市民の国際意識の向上	19.2%	3.6%	14.7%	20.4%	17.0%	19.1%	21.7%
性的マイノリティ（LGBTQ）も含め、多様性を認め合い、あらゆる人が平等に暮らすための取組の強化	53.8%	37.5%	27.6%	37.2%	36.0%	35.1%	33.9%
【職場生活】							
男女共同参画について理解を深めるための意識啓発事業の充実	34.6%	12.5%	18.1%	27.0%	28.6%	36.6%	37.2%
職場における男女の均等な取扱いに関する企業等への働きかけ	53.8%	37.5%	38.8%	46.0%	43.0%	53.1%	50.2%
【その他】							
男女共同参画に関する学習や活動、情報ネットワークなどの拠点となる施設の設置	34.6%	5.4%	15.5%	22.3%	20.0%	24.8%	26.7%
女性の就労機会が増えるような情報提供や職業訓練の機会の提供	30.8%	19.6%	30.2%	34.7%	37.0%	42.5%	44.0%
女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化	46.2%	44.6%	41.4%	43.4%	41.2%	42.2%	44.0%
その他	3.8%	1.8%	1.7%	5.8%	4.0%	3.1%	1.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	1.8%	1.9%	1.7%	3.2%

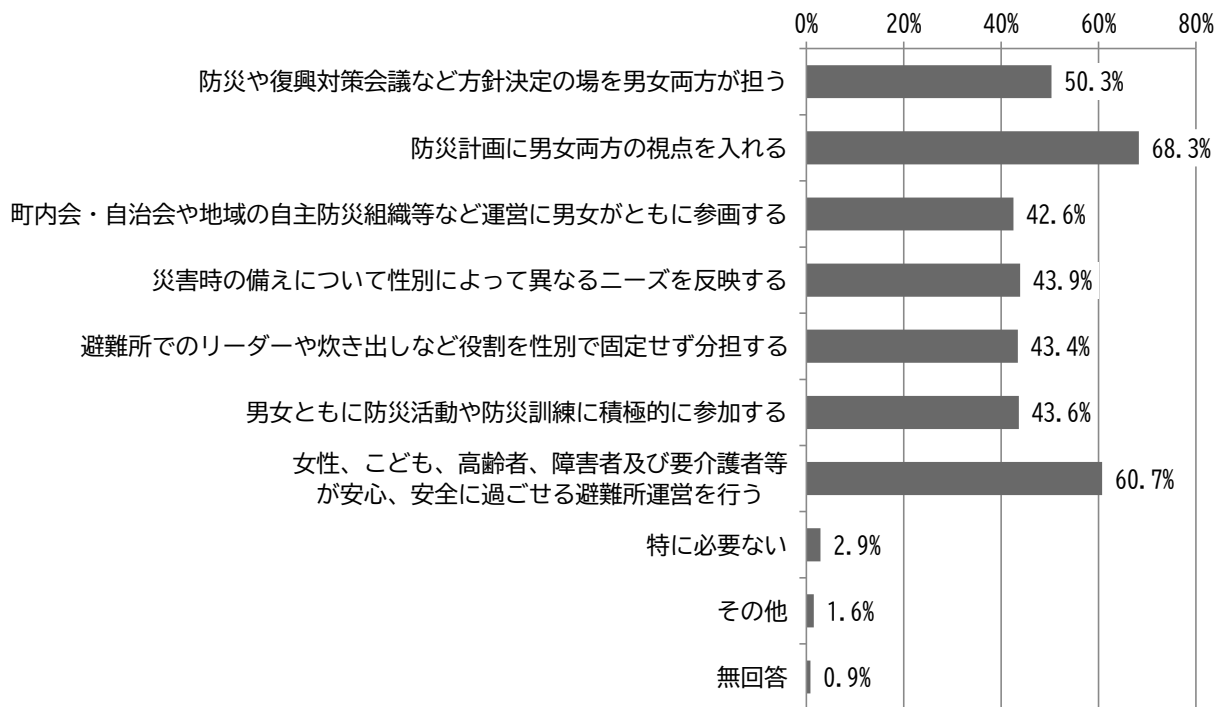
8 防災について

(1) 防災分野での男女共同参画の視点

問 22 防災活動や災害発生時の対応にも男女共同参画の視点が必要だと言われています。今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「防災計画に男女両方の視点を入れる」が、7割弱

今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすために必要だと思うことについては、「防災計画に男女両方の視点を入れる」が 68.3%と最も多く、次いで「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」が 60.7%、「防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う」が 50.3%となっています。



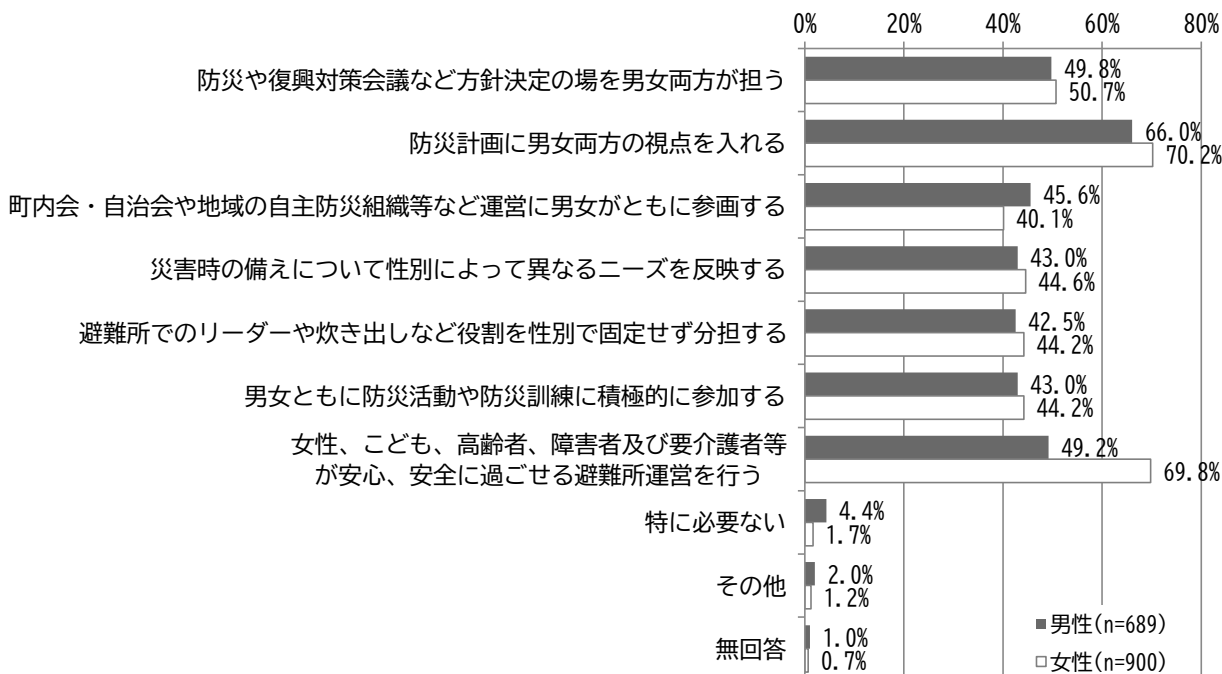
項目	度数	比率
防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う	808	50.3%
防災計画に男女両方の視点を入れる	1,096	68.3%
町内会・自治会や地域の自主防災組織など運営に男女がともに参画する	683	42.6%
災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する	705	43.9%
避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する	697	43.4%
男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する	700	43.6%
女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う	975	60.7%
特に必要ない	47	2.9%
その他	25	1.6%
無回答	14	0.9%
回答者数	1,605	

「その他」・・・家庭と育児に忙しい女性には負担なので、全て平等にというのは疑問
行政や政治家がジェンダーフリーを理解して公正な方針を示してほしい など

【性別集計】

- 「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」で、男性より女性が 20.6 ポイント多い

今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすために必要だと思うことについて、性別で見ると「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」で男性より女性が 20.6 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

- 「防災計画に男女両方の視点を入れる」で、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上で約7割

今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすために必要だと思うことについて、年代で見ると「町内会・自治会や地域の自主防災組織など運営に男女がともに参画する」「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」で年代が上がるほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う	53.8%	33.9%	48.3%	55.1%	48.6%	52.6%	48.7%
防災計画に男女両方の視点を入れる	53.8%	62.5%	69.8%	70.8%	64.2%	70.0%	71.1%
町内会・自治会や地域の自主防災組織など運営に男女がともに参画する	38.5%	21.4%	37.9%	38.3%	39.5%	45.5%	53.1%
災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する	42.3%	48.2%	50.0%	43.8%	45.3%	43.2%	39.7%
避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する	34.6%	42.9%	41.4%	43.8%	40.7%	44.3%	48.0%
男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する	30.8%	28.6%	42.2%	43.1%	43.3%	43.2%	50.2%
女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う	53.8%	44.6%	55.2%	59.1%	59.8%	64.6%	64.3%
特に必要ない	7.7%	8.9%	1.7%	4.0%	3.3%	1.7%	2.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1.6%	2.4%	0.7%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.7%	0.7%	2.2%

9 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

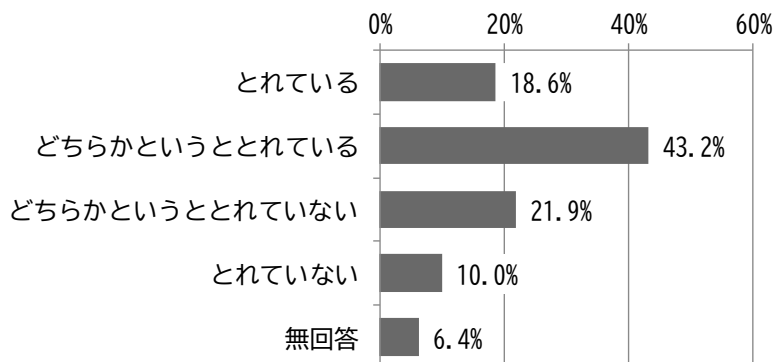
(1) 仕事と生活の調和(ワークライフバランス) 取得状況

問 23 あなたは、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)がとれていると思いますか。(〇は1つ)

■ ワークライフバランスを『とれている』が6割

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)がとれていると思うかについての「とれている」「どちらかというのとれている」を合わせた『とれている』が61.8%となっています。

一方、「どちらかというのとれていない」「とれていない」を合わせた『とれていない』が31.9%となっています。



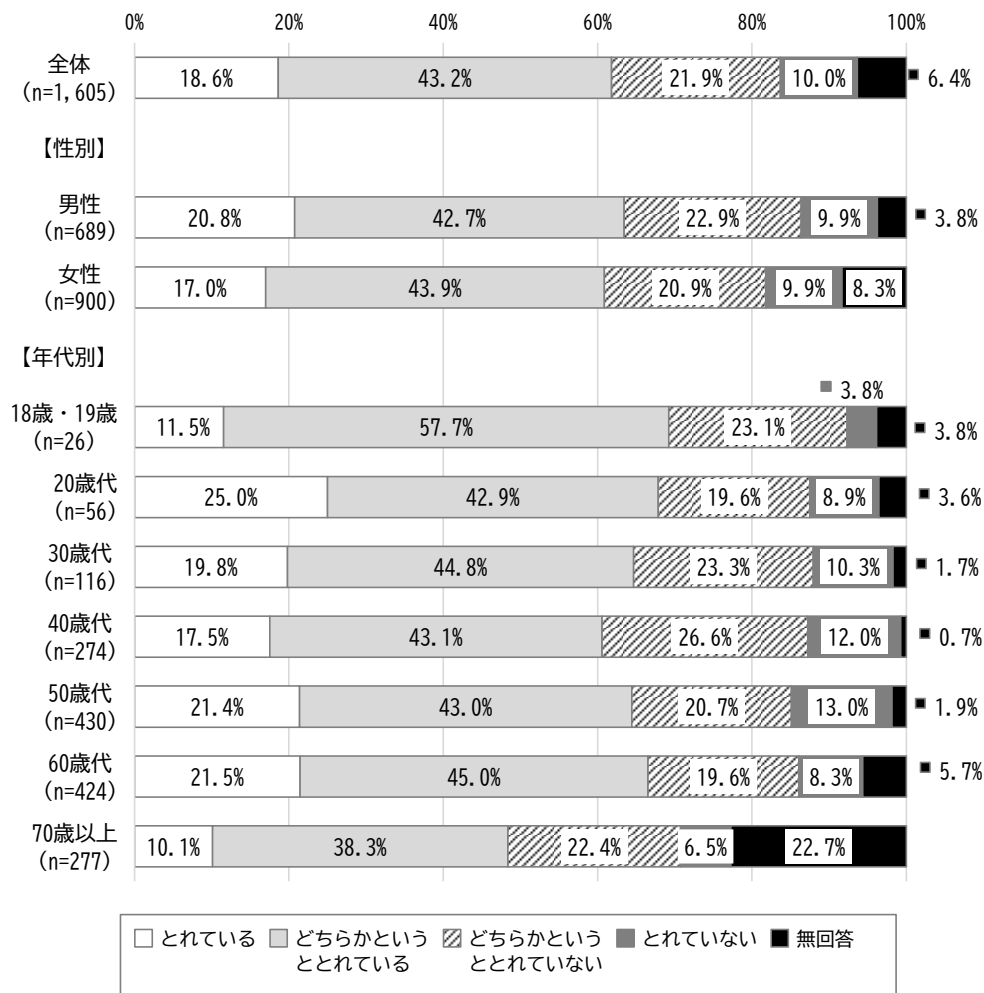
項目	度数	比率
とれている	299	18.6%
どちらかというのとれている	693	43.2%
どちらかというのとれていない	351	21.9%
とれていない	160	10.0%
無回答	102	6.4%
合計	1,605	100.0%

【性別・年代別集計】

■ ワークライフバランスが『とれている』のは、女性より男性がやや多い

仕事と生活の調和（ワークライフバランス）がとれていると思うかについて、性別で見ると、『とれている』で女性より男性がやや多くなっています。

年代で見ると、『とれている』で20歳代、30歳代、60歳代でやや多くなっています。

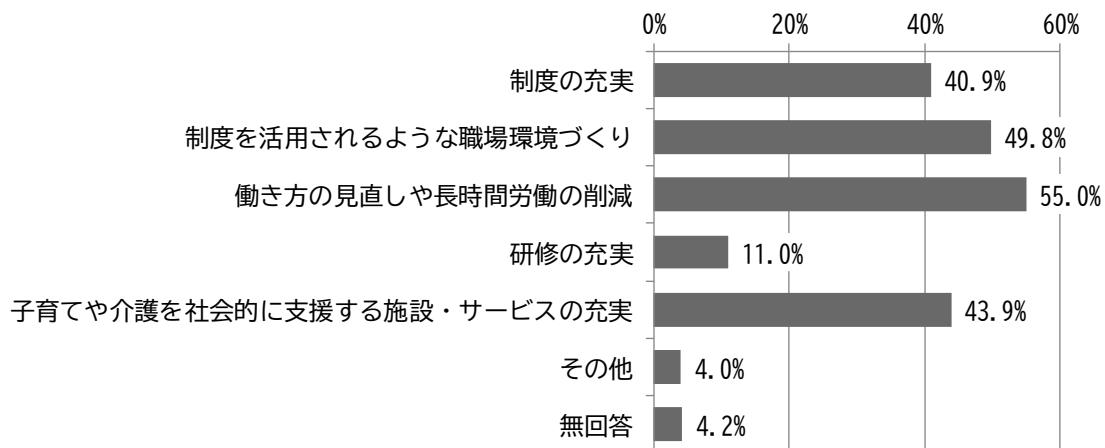


(2) 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に必要なこと

問 24 今後、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するために、必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

■ ワークライフバランスの推進には、「働き方の見直しや長時間労働の削減」が5割強

今後、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するために、必要なことについては、「働き方の見直しや長時間労働の削減」が 55.0%と最も多く、次いで「制度を活用されるような職場環境づくり」が 49.8%、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実」が 43.9%、「制度の充実（テレワーク※やフレックスタイム※など）」が 40.9%となっています。



項目	度数	比率
制度の充実（テレワーク※やフレックスタイム※など）	657	40.9%
制度を活用されるような職場環境づくり	799	49.8%
働き方の見直しや長時間労働の削減	882	55.0%
研修の充実	177	11.0%
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実	705	43.9%
その他	65	4.0%
無回答	68	4.2%
回答者数	1,605	

「その他」・・・経営者の意識改革

仕事の質的向上、仕事量の低下を補完するため など

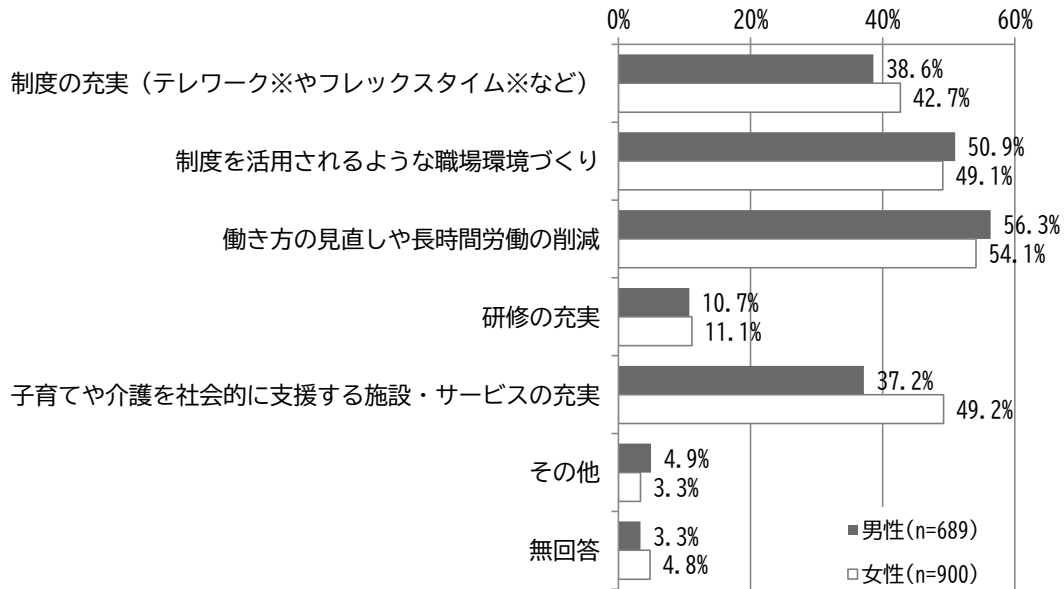
※テレワーク…自宅などで働く働き方

※フレックスタイム…働く時間を自分で調整できる制度

【性別集計】

■ 「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実」で、男性より女性が12.0ポイント多い

今後、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するために、必要なことについて、性別で見ると、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実」で男性より女性が12.0ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 「働き方の見直しや長時間労働の削減」で、30歳代が7割弱

今後、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するために、必要なことについて、年代で見ると、「働き方の見直しや長時間労働の削減」で年代が若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
制度の充実（テレワーク※やフレックスタイム※など）	42.3%	55.4%	54.3%	46.0%	37.7%	40.6%	32.9%
制度を活用されるような職場環境づくり	46.2%	41.1%	57.8%	51.1%	50.7%	49.8%	45.8%
働き方の見直しや長時間労働の削減	76.9%	62.5%	68.1%	64.6%	52.6%	53.3%	43.0%
研修の充実	15.4%	12.5%	10.3%	12.0%	10.5%	10.6%	11.2%
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実	50.0%	37.5%	50.9%	39.8%	37.7%	46.2%	52.0%
その他	3.8%	3.6%	2.6%	6.9%	4.0%	3.5%	2.9%
無回答	0.0%	1.8%	0.9%	0.7%	1.9%	4.0%	14.1%

10 DV(配偶者等からの暴力)について

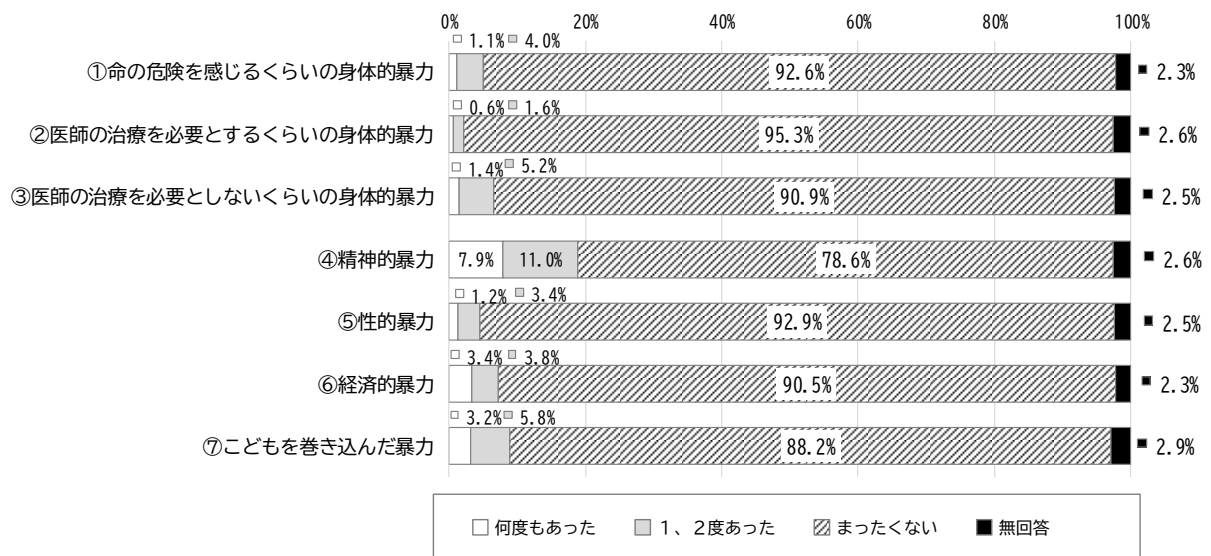
(1) 配偶者や交際相手からの暴力の有無

問 25 これまでに配偶者や交際相手などから、次にあげるような暴力を受けたことがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

■ 配偶者や交際相手などから「④精神的暴力」が『あった』で、2割弱

配偶者や交際相手などから、暴力を受けたことがあるかの「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた『あった』では、「④精神的暴力(おどす、無視する、人格を否定するような言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど)」が 18.9%、「⑦子どもを巻き込んだ暴力(子どもの目の前での暴力・暴言など)」が 9.0%「⑥経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)」が 7.2%となっています。

一方、「まったくない」では、「②医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力」が 95.3%、「⑤性的暴力(性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど)」が 92.9%、「①命の危険を感じるくらいの身体的暴力(なぐる、けるなど)」が 92.6%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	上段：度数				合計
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答	
①命の危険を感じるくらいの身体的暴力 (なぐる、けるなど)	18	64	1,486	37	1,605
	1.1%	4.0%	92.6%	2.3%	100.0%
②医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力	10	25	1,529	41	1,605
	0.6%	1.6%	95.3%	2.6%	100.0%
③医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力	23	83	1,459	40	1,605
	1.4%	5.2%	90.9%	2.5%	100.0%
④精神的暴力(おどす、無視する、人格を否定するような言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど)	126	177	1,261	41	1,605
	7.9%	11.0%	78.6%	2.6%	100.0%
⑤性的暴力(性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど)	20	54	1,491	40	1,605
	1.2%	3.4%	92.9%	2.5%	100.0%
⑥経済的暴力 (生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)	54	61	1,453	37	1,605
	3.4%	3.8%	90.5%	2.3%	100.0%
⑦子どもを巻き込んだ暴力 (子どもの目の前での暴力・暴言など)	51	93	1,415	46	1,605
	3.2%	5.8%	88.2%	2.9%	100.0%

【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

※回答割合が少ないため、「何度もあった」「1、2度あった」のみを掲載

① 命の危険を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）

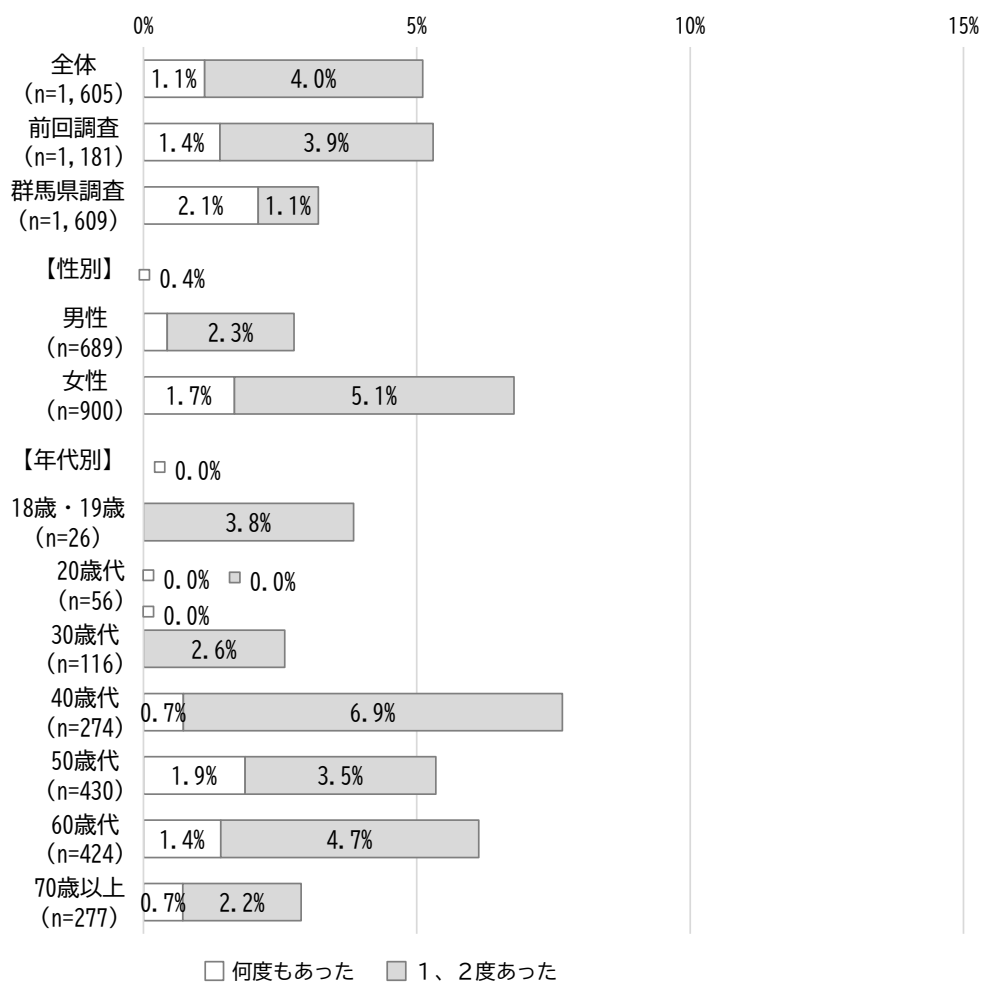
■ 『あった』で、男性より女性がやや多い

命の危険を感じるくらいの身体的暴力について、前回調査と比較するとほぼ同様の結果となっています。

群馬県調査と比較すると、『あった』で群馬県調査より多くなっています。（群馬県調査は「身体的暴力」との比較）

性別で見ると『あった』で男性より女性が4.1ポイント多くなっています。

年代で見ると『あった』で40歳代が多くなっています。



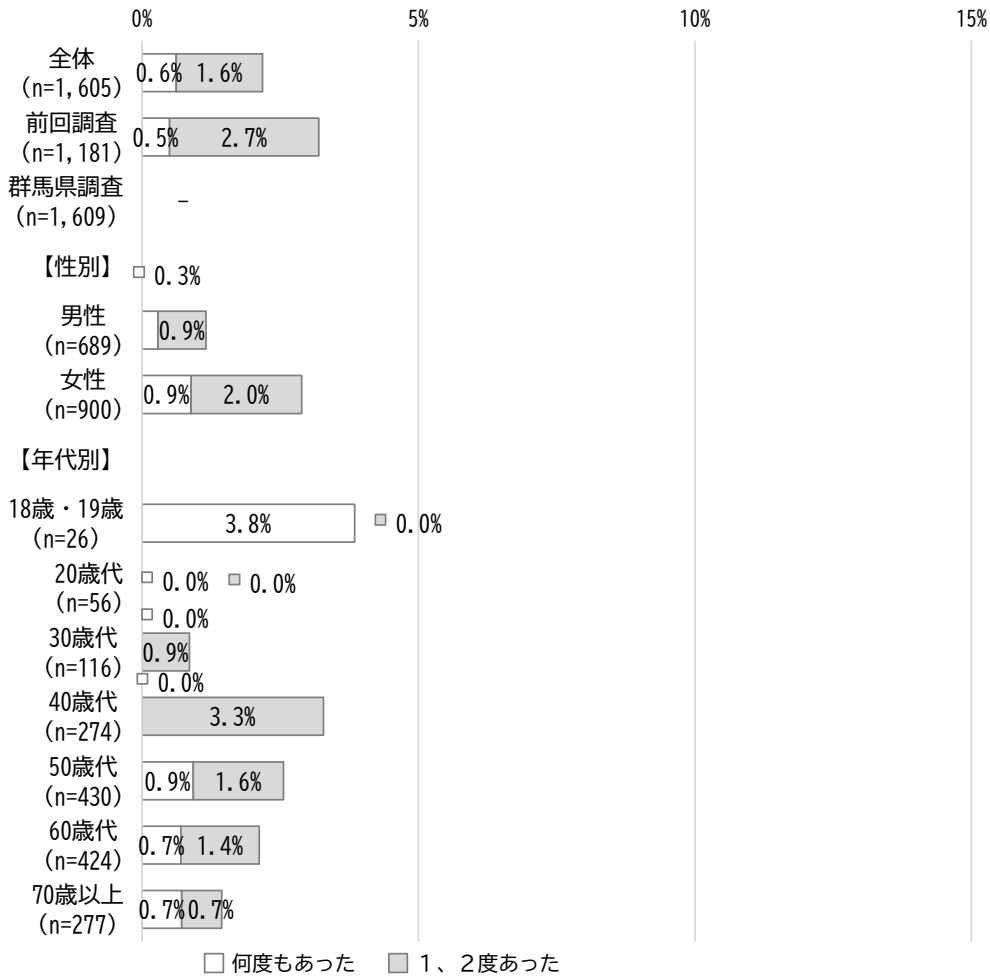
【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

② 医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力

■ 『あった』で、男性より女性がやや多い

医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや少なくなっています。

群馬県調査は、「身体的暴力」の詳細な項目はありませんでした。
性別で見ると『あった』で男性より女性がやや多くなっています。
年代で見ると『あった』で40歳代が多くなっています。



【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

③ 医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力

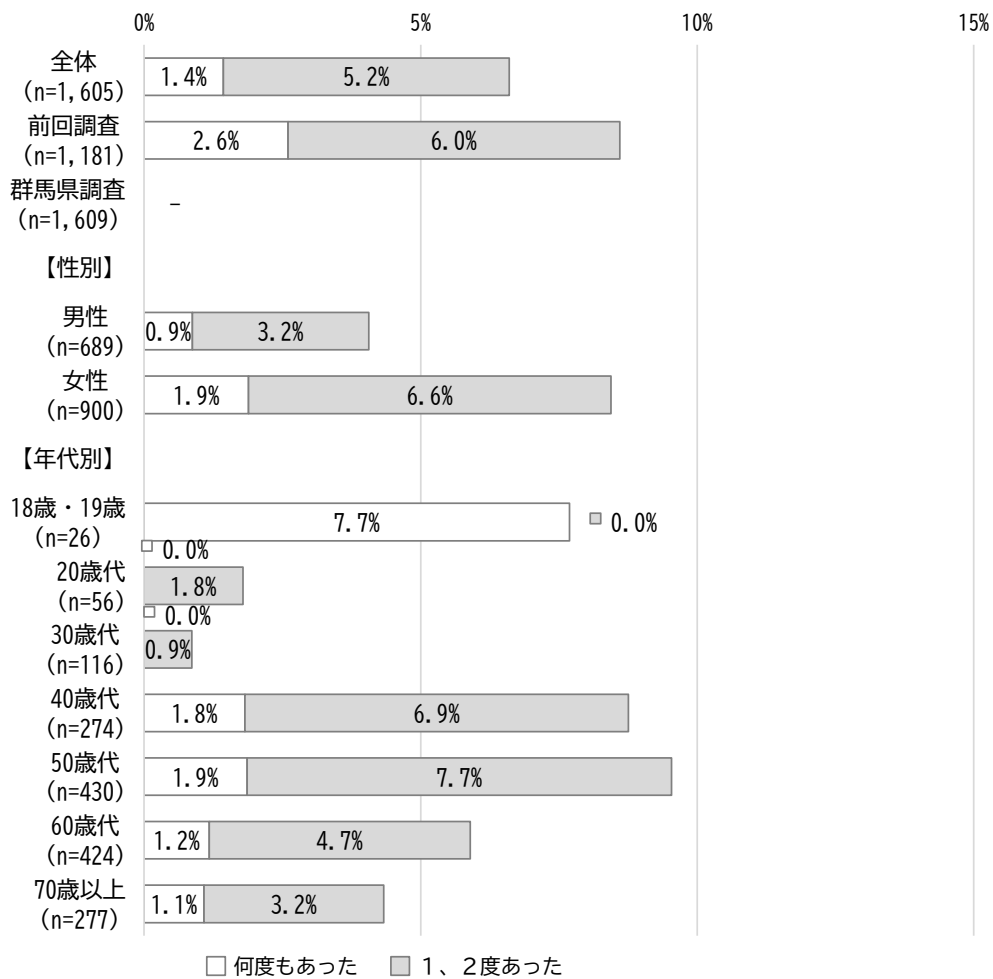
■ 『あった』で、男性より女性がやや多い

医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや少なくなっています。

群馬県調査は、「身体的暴力」の詳細な項目はありませんでした。

性別で見ると『あった』で男性より女性が4.4ポイント多くなっています。

年代で見ると『あった』で50歳代が多くなっています。



【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

④ 精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定するような言葉を使う、交友関係や行動を監視するなど）

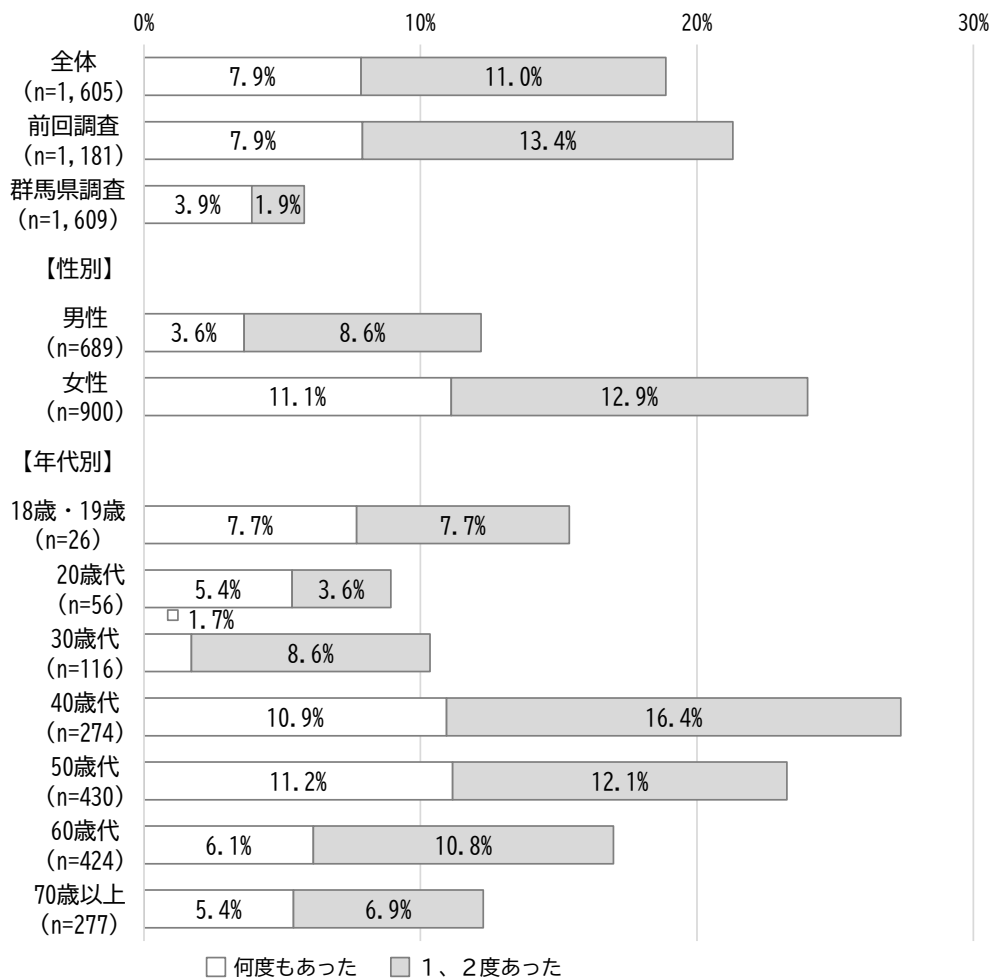
■ 『あった』で、男性より女性が多い

精神的暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや少なくなっています。

群馬県調査と比較すると『あった』で群馬県調査より 13.1 ポイント多くなっています。

性別で見ると『あった』で男性より女性が 11.8 ポイント多くなっています。

年代で見ると『あった』で 40 歳代、50 歳代が多くなっています。

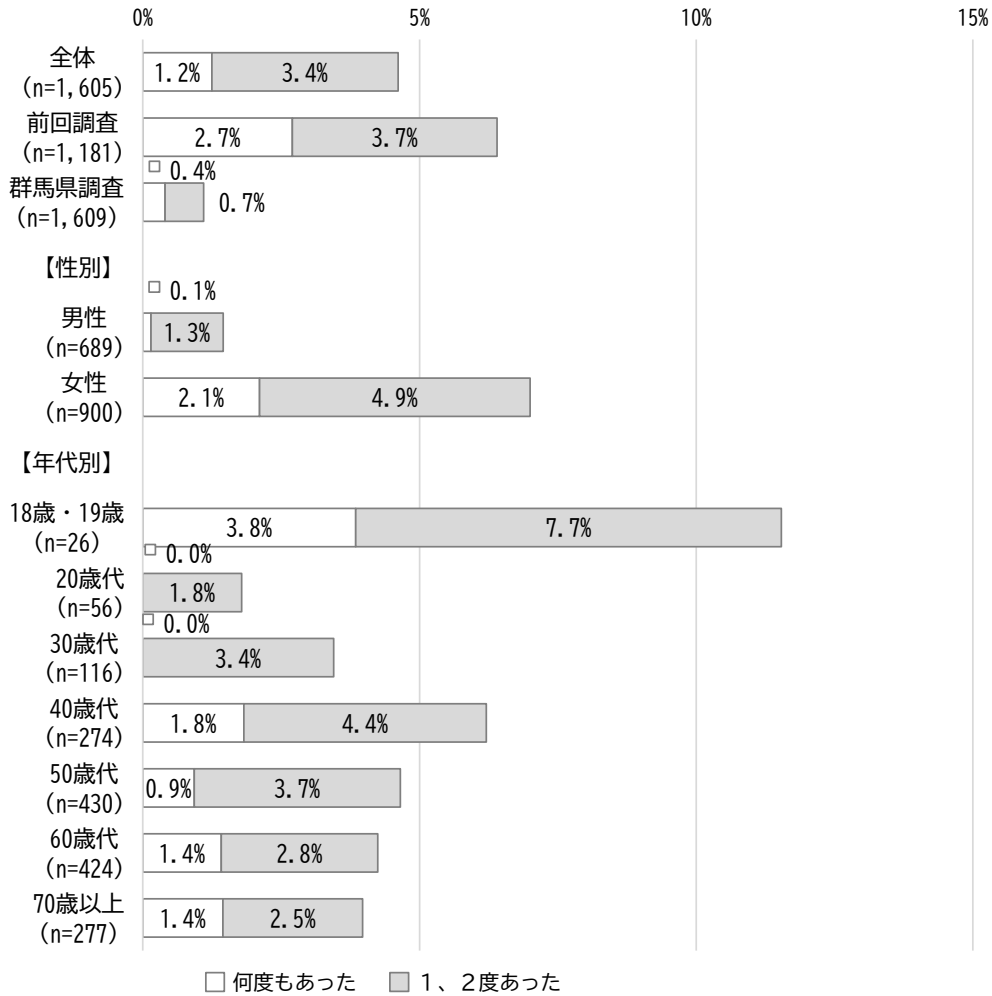


【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

⑤ 性的暴力（性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど）

■ 『あった』で、男性より女性がやや多い

性的暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや少なくなっています。群馬県調査と比較すると『あった』で群馬県調査より3.5ポイント多くなっています。性別で見ると『あった』で男性より女性が5.6ポイント多くなっています。年代で見ると『あった』で40歳代が多くなっています。

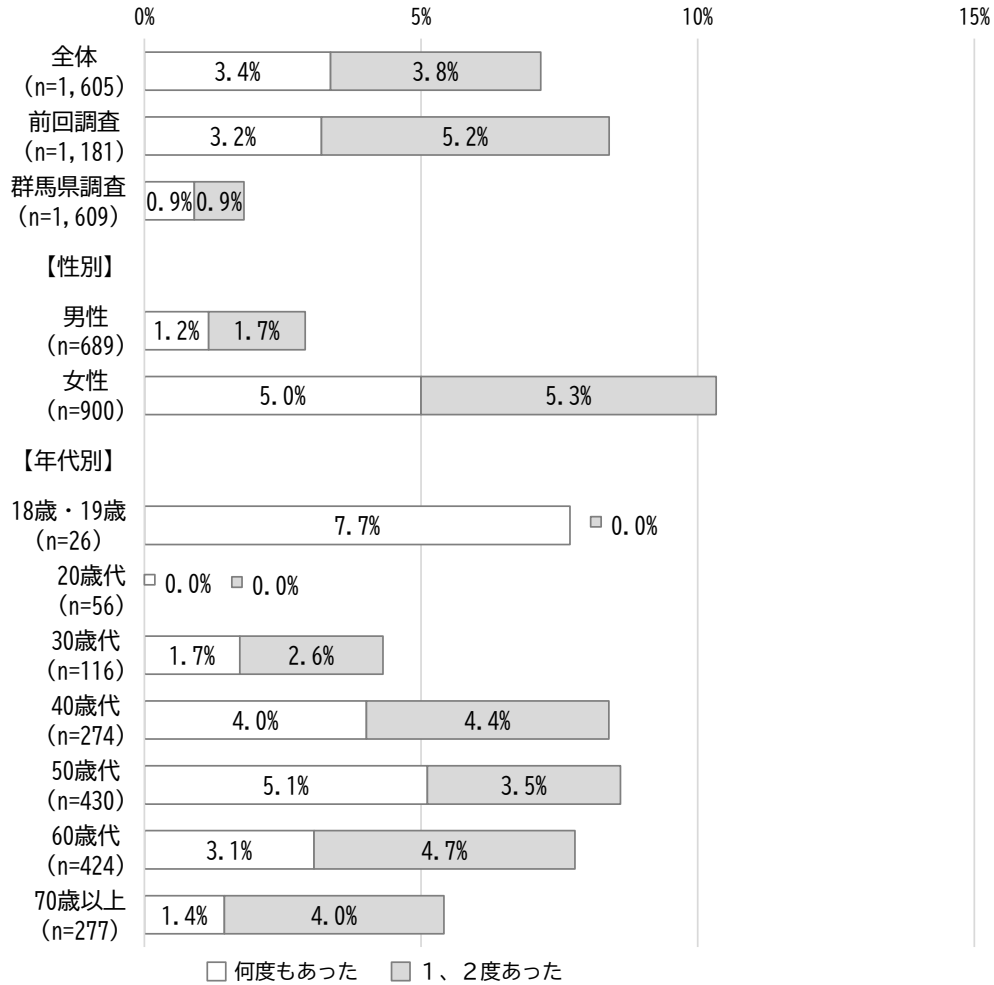


【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

⑥ 経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）

■ 『あった』で、男性より女性が多い

経済的暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや少なくなっています。群馬県調査と比較すると『あった』で群馬県調査より5.4ポイント多くなっています。性別で見ると『あった』で男性より女性が7.4ポイント多くなっています。年代で見ると『あった』で40歳代、50歳代が多くなっています。



【前回調査・群馬県調査比較・性別・年代別集計】

⑦ こどもを巻き込んだ暴力（こどもの目の前での暴力・暴言など）

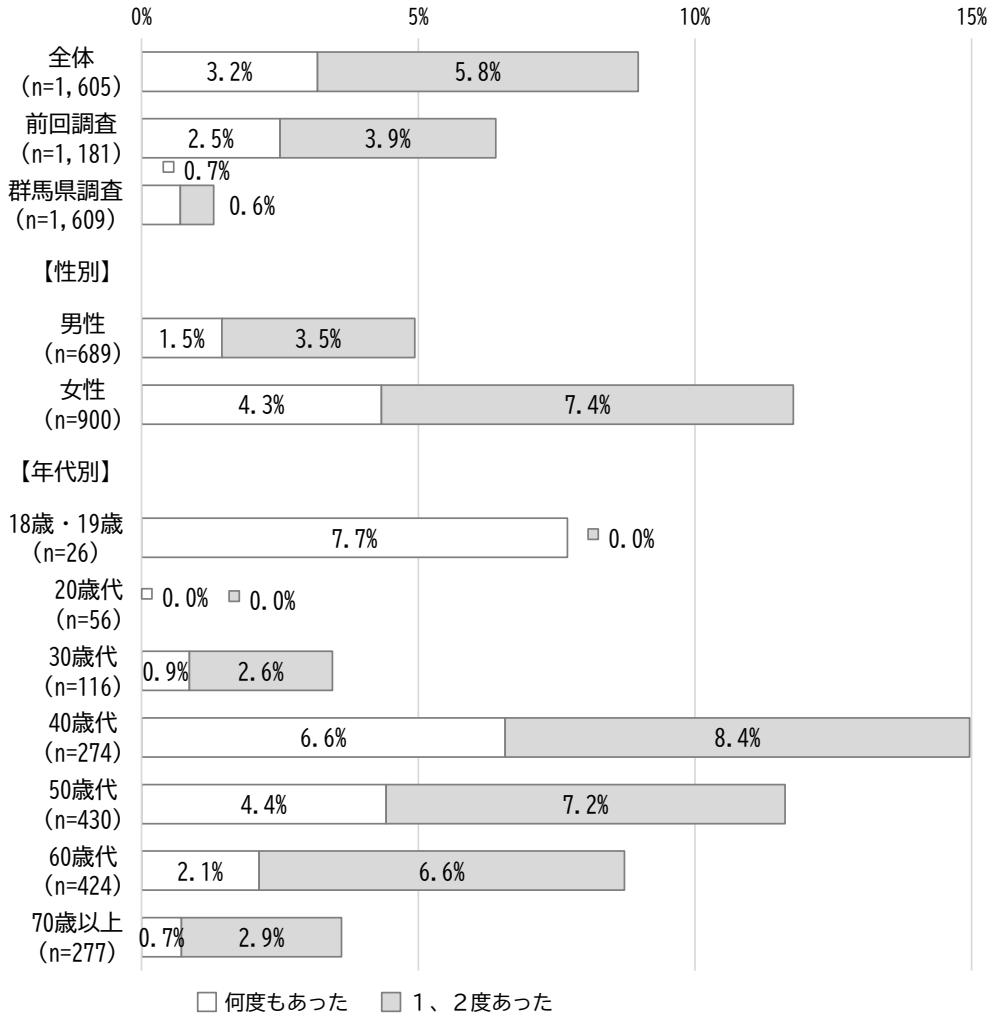
■ 『あった』で、男性より女性が多い

こどもを巻き込んだに暴力について、前回調査と比較すると『あった』で前回調査よりやや多くなっています。

群馬県調査と比較すると『あった』で群馬県調査より7.7ポイント多くなっています。

性別で見ると『あった』で男性より女性が6.7ポイント多くなっています。

年代で見ると『あった』で40歳代が多くなっています。



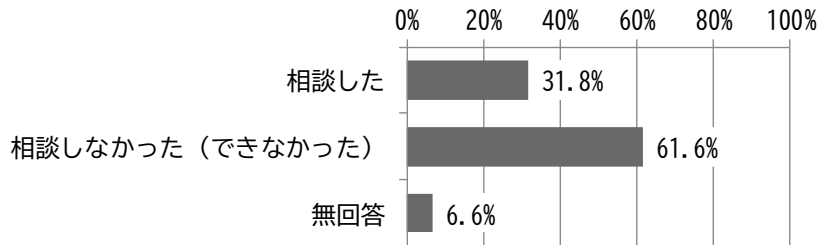
(2) 暴力を受けた時の相談状況

問25で「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方にお聞きします。

問25-1 これまでに、だれ（どこ）かに相談しましたか。（○はどちらか1つ）

■ DV被害について、「相談しなかった(できなかった)」が約6割

相談したかについては、「相談した」が31.8%、「相談しなかった(できなかった)」が61.6%となっています。



項目	度数	比率
相談した	48	31.8%
相談しなかった(できなかった)	93	61.6%
無回答	10	6.6%
回答者数	151	100.0%

【性別・年代別集計】※回答者数が少ないため、表のみ掲載

■ 「相談しなかった(できなかった)」で、女性が5割強

相談したかについて、性別で見ると女性の半数以上が「相談しなかった(できなかった)」と回答しています。

項目	相談した	(相談しなかった)	無回答	合計
全体	48 31.8%	93 61.6%	10 6.6%	151 100.0%
【性別】				
男性	2 6.9%	27 93.1%	0 0.0%	29 100.0%
女性	45 37.5%	65 54.2%	10 8.3%	120 100.0%
【年代別】				
18歳・19歳	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	3 100.0%
20歳代	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%
30歳代	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	3 100.0%
40歳代	18 47.4%	19 50.0%	1 2.6%	38 100.0%
50歳代	14 24.1%	37 63.8%	7 12.1%	58 100.0%
60歳代	11 36.7%	19 63.3%	0 0.0%	30 100.0%
70歳以上	3 18.8%	11 68.8%	2 12.5%	16 100.0%

(3) 暴力を受けた時の相談先

問 25-1 で「相談した」と答えた方にお聞きします。

問 25-2 だれ(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

■ 相談先は、「家族・親族」が多い

相談先については、「家族・親族」が 48 件中 25 件、次いで「友人・知人」が 21 件、「警察」が 9 件となっています。

項目	度数	比率
警察	9	18.8%
前橋市配偶者暴力相談支援センター	1	2.1%
群馬県女性相談支援センター	4	8.3%
弁護士等	5	10.4%
民間の機関	1	2.1%
医療関係者(医師、看護師等)	3	6.3%
家族・親族	25	52.1%
友人・知人	21	43.8%
学校関係者(教員、養護教員等)	0	0.0%
その他	1	2.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	48	

※回答者数が少ないため、表のみ掲載

「その他」・・・DV 相談

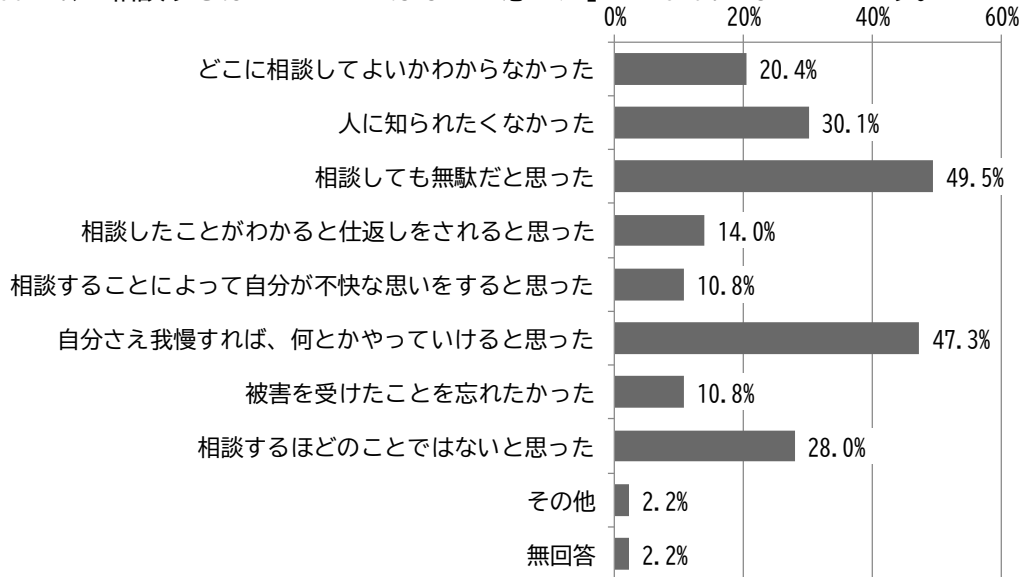
(4) 相談しなかった（できなかった）理由

問 25-1 で「相談しなかった(できなかった)」と答えた方にお聞きします。

問 25-3 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

■ 相談しない理由は、「相談しても無駄だと思った」が約5割

相談しなかった（できなかった）理由については、「相談しても無駄だと思った」が 49.5%と最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が 47.3%、「人に知られたくなかった」が 30.1%、「相談するほどのことではないと思った」が 28.0%となっています。



項目	度数	比率
どこに相談してよいかわからなかった	19	20.4%
人に知られたくなかった	28	30.1%
相談しても無駄だと思った	46	49.5%
相談したことがわかると仕返しをされると思った	13	14.0%
相談することによって自分が不快な思いをすと思った	10	10.8%
自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った	44	47.3%
被害を受けたことを忘れたかった	10	10.8%
相談するほどのことではないと思った	26	28.0%
その他	2	2.2%
無回答	2	2.2%
回答者数	93	

「その他」・・・何時の日か仇討ち、実母父を悲しませてしまうから

【性別集計】 ※回答者数が少ないため、表のみ掲載

相談しなかった（できなかった）理由について、性別で見ると女性で「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」の回答が多くなっています。

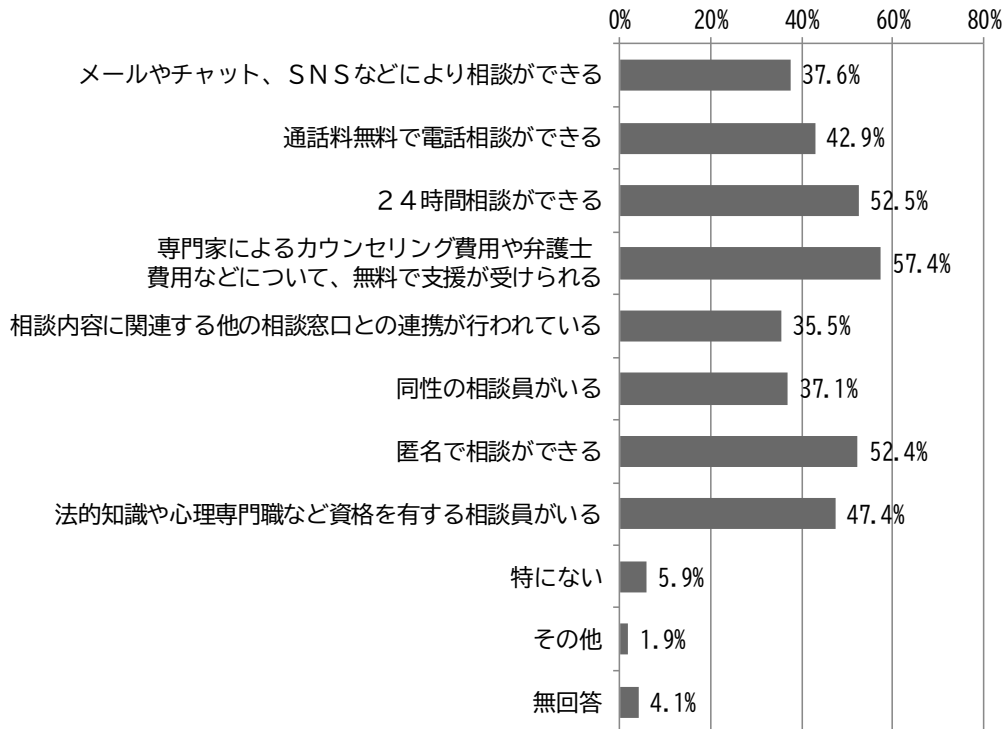
項目	男性		女性	
	度数	比率	度数	比率
どこに相談してよいかわからなかった	5	18.5%	14	21.5%
人に知られたくなかった	8	29.6%	20	30.8%
相談しても無駄だと思った	11	40.7%	35	53.8%
相談したことがわかると仕返しをされると思った	2	7.4%	11	16.9%
相談することによって自分が不快な思いをすと思った	3	11.1%	7	10.8%
自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った	9	33.3%	34	52.3%
被害を受けたことを忘れたかった	3	11.1%	7	10.8%
相談するほどのことではないと思った	8	29.6%	18	27.7%
その他	1	3.7%	1	1.5%
無回答	2	7.4%	0	0.0%
回答者数	27		65	

(5) DVを相談する窓口における必要な配慮

問 26 あなたは、DV 被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口に、今後相談するとしたら、どのような配慮をしてほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

■ 「専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が6割弱

DV被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口で今後してほしい配慮については、「専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が57.4%と最も多く、次いで「24時間相談ができる」が52.5%、「匿名で相談ができる」が52.4%となっています。



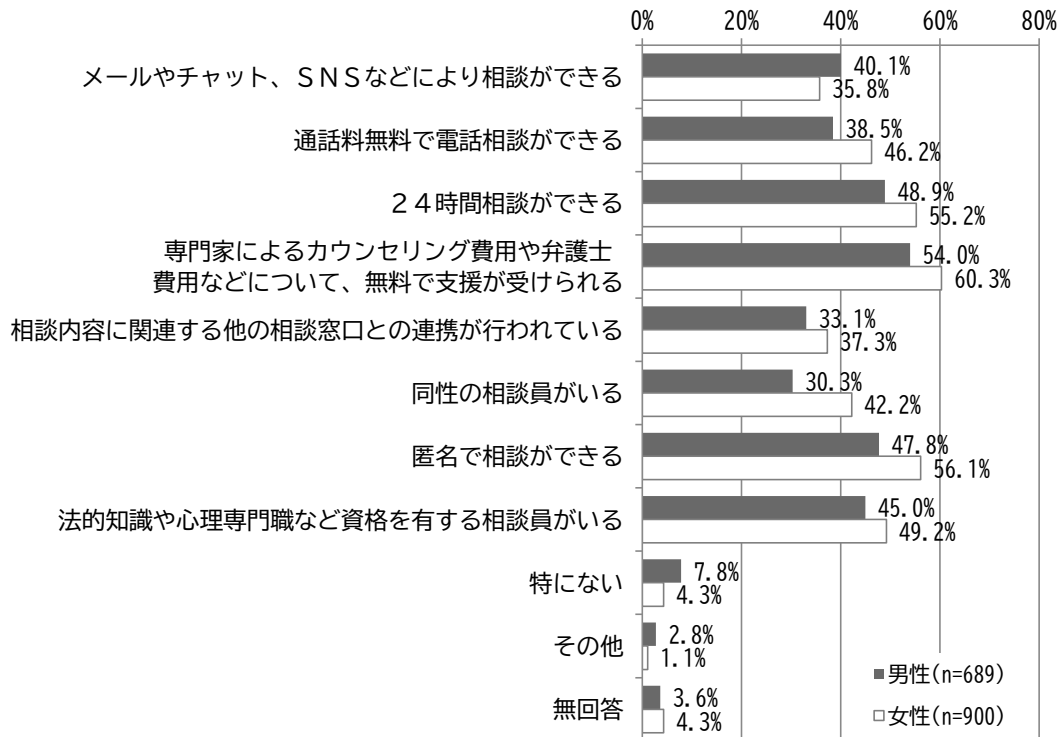
項目	度数	比率
メールやチャット、SNSなどにより相談ができる	603	37.6%
通話料無料で電話相談ができる	689	42.9%
24時間相談ができる	842	52.5%
専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	922	57.4%
相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている	570	35.5%
同性の相談員がいる	595	37.1%
匿名で相談ができる	841	52.4%
法的知識や心理専門職など資格を有する相談員がいる	760	47.4%
特にない	94	5.9%
その他	30	1.9%
無回答	66	4.1%
回答者数	1,605	

「その他」・・・相談窓口の対応力、知識力アップが必要
相談で終わらず、解決に繋がる仕組み など

【性別集計】

■ 相談に必要な配慮は、「同性の相談員がいる」で、男性より女性が11.9ポイント多い

DV被害や、困ったり悩みを抱えていることを相談する際に必要な配慮は、性別で見ると「同性の相談員がいる」で男性より女性が11.9ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 相談に必要な配慮は、「24時間相談ができる」で、20歳・30歳・40歳代が6割

DV被害や、困ったり悩みを抱えていることを相談する際に必要な配慮は、年代で見ると「24時間相談ができる」が30歳代で63.8%と多くなっています。

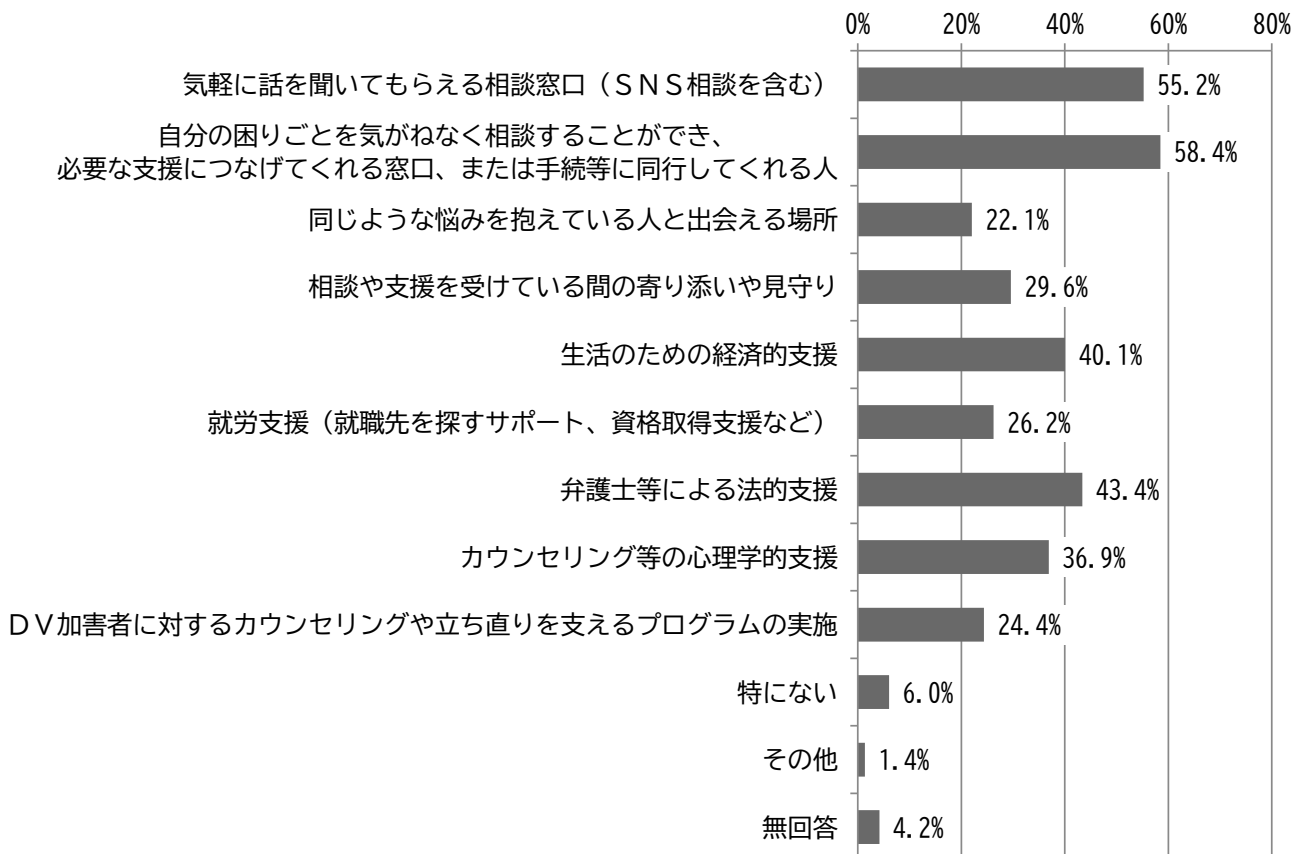
項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
メールやチャット、SNSなどにより相談ができる	50.0%	53.6%	52.6%	49.6%	41.9%	31.4%	18.1%
通話料無料で電話相談ができる	26.9%	46.4%	49.1%	46.0%	41.6%	46.0%	35.4%
24時間相談ができる	42.3%	60.7%	63.8%	62.0%	50.0%	52.6%	41.5%
専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	57.7%	37.5%	54.3%	63.5%	60.5%	60.4%	48.0%
相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている	19.2%	21.4%	31.0%	35.4%	39.8%	38.0%	31.8%
同性の相談員がいる	42.3%	42.9%	42.2%	43.8%	35.1%	36.3%	30.7%
匿名で相談ができる	61.5%	58.9%	61.2%	60.6%	54.7%	47.9%	41.9%
法的知識や心理専門職など資格を有する相談員がいる	34.6%	32.1%	43.1%	51.8%	48.4%	51.7%	41.2%
特にない	7.7%	10.7%	5.2%	4.7%	5.1%	5.0%	8.7%
その他	3.8%	1.8%	3.4%	0.7%	1.6%	2.1%	2.2%
無回答	3.8%	1.8%	2.6%	0.4%	1.9%	3.5%	13.4%

(6) DVを解決するために必要な支援等

問 27 DV 被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 「自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続き等に行き添ってくれる人」が、6割弱

DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、あるとよい環境や支援については、「自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続き等に行き添ってくれる人」が 58.4%と最も多く、次いで「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」が 55.2%、「弁護士等による法的支援」が 43.4%となっています。



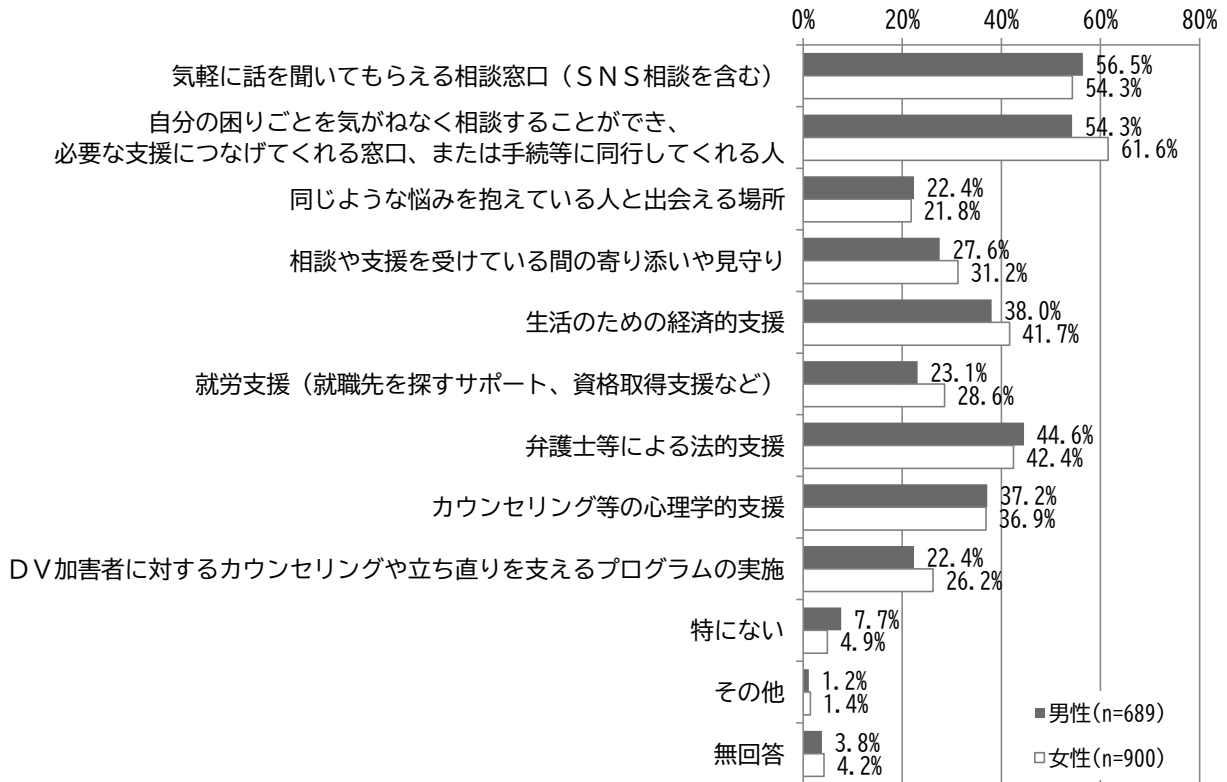
項目	度数	比率
気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）	886	55.2%
自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続き等に行き添ってくれる人	938	58.4%
同じような悩みを抱えている人と出会える場所	354	22.1%
相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り	475	29.6%
生活のための経済的支援	643	40.1%
就労支援（就職先を探すサポート、資格取得支援など）	421	26.2%
弁護士等による法的支援	696	43.4%
カウンセリング等の心理学的支援	592	36.9%
DV加害者に対するカウンセリングや立ち直りを支えるプログラムの実施	391	24.4%
特にない	97	6.0%
その他	22	1.4%
無回答	67	4.2%
回答者数	1,605	

「その他」・・・DVは犯罪であることを周知して加害者の抑止力に少しでもなればよいと思う。
 被害者も声を上げやすい環境づくり
 加害者に対する公権力(警察)の裏付けのある迅速な支援 など

【性別集計】

- 解決によい環境や支援は、「自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」で、男性より女性がやや多い

DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、あるとよい環境や支援について、性別で見ると、「自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」で男性より女性がやや多くなっています。



【年代別集計】

■ 解決によい環境や支援は、「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口」で、40歳代が6割強

DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、あるとよい環境や支援について、年代で見ると、「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」で40歳代が65.7%と多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）	53.8%	62.5%	62.9%	65.7%	57.7%	53.5%	39.4%
自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人	50.0%	33.9%	56.0%	58.0%	60.2%	62.7%	56.7%
同じような悩みを抱えている人と出会える場所	26.9%	28.6%	31.0%	24.1%	20.5%	22.4%	16.6%
相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り	30.8%	21.4%	33.6%	32.8%	29.8%	28.8%	27.4%
生活のための経済的支援	46.2%	39.3%	44.0%	46.4%	39.5%	39.4%	33.6%
就労支援（就職先を探すサポート、資格取得支援など）	19.2%	17.9%	30.2%	33.6%	26.7%	25.9%	19.1%
弁護士等による法的支援	38.5%	28.6%	45.7%	46.7%	49.1%	46.2%	29.2%
カウンセリング等の心理学的支援	38.5%	37.5%	41.4%	42.3%	38.8%	38.2%	24.5%
DV加害者に対するカウンセリングや立ち直りを支えるプログラムの実施	15.4%	21.4%	24.1%	27.7%	25.1%	25.9%	19.1%
特にない	7.7%	12.5%	4.3%	5.1%	5.1%	5.4%	8.7%
その他	3.8%	0.0%	0.9%	1.5%	1.2%	1.4%	1.8%
無回答	3.8%	1.8%	1.7%	0.7%	2.3%	3.5%	12.6%

11 困難な問題を抱える方への支援について

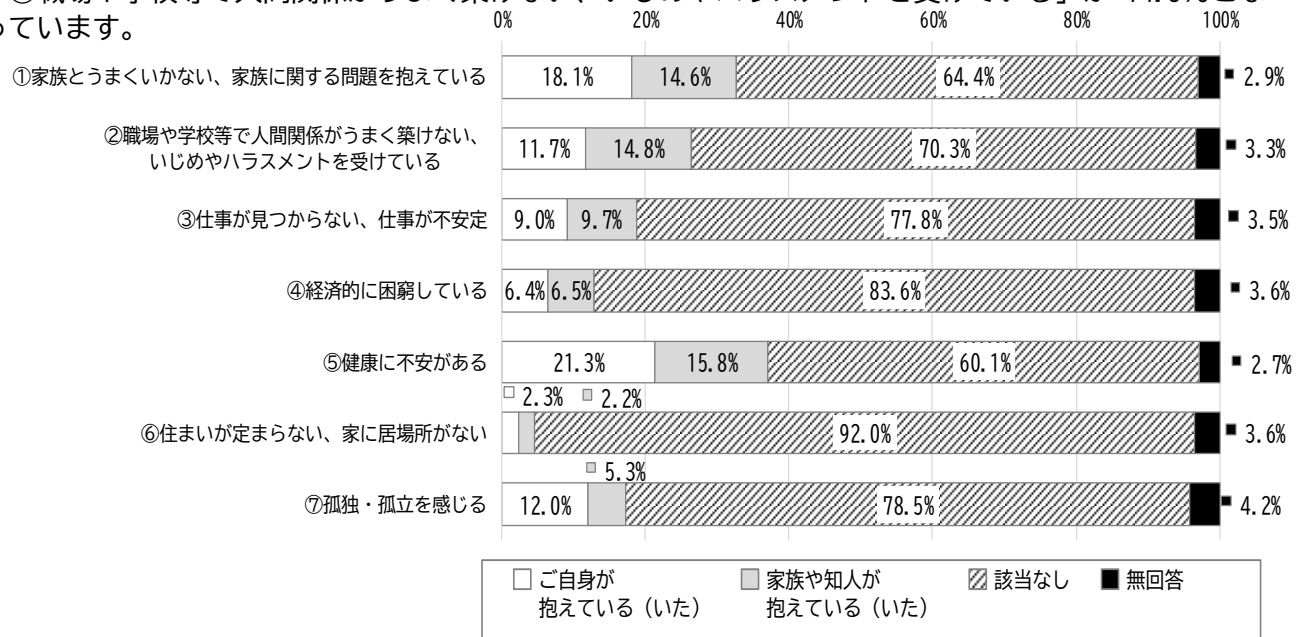
(1) 抱えている困難や悩みの有無

問 28 あなたは、次のようなことで困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことはありますか。または、家族や知人が抱えている悩みとして、見たり聞いたり相談されたりしたことがあるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 悩みや困難は、「ご自身が抱えている(いた)」では、「⑤健康に不安がある」が、約2割

困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことについての「ご自身が抱えている(いた)」では、「⑤健康に不安がある」が21.3%と最も多く、次いで「①家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」が18.1%となっています。

「家族や知人が抱えている(いた)」では、「⑤健康に不安がある」が15.8%と最も多く、次いで「②職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている」が14.8%となっています。



上段：度数 下段：比率

項目	抱えて いる が る (いた)	抱え て い る 人 が (いた)	該 当 な し	無 回 答	合 計
①家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	291	234	1,033	47	1,605
	18.1%	14.6%	64.4%	2.9%	100.0%
②職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	187	237	1,128	53	1,605
	11.7%	14.8%	70.3%	3.3%	100.0%
③仕事が見つからない、仕事が不安定	145	155	1,249	56	1,605
	9.0%	9.7%	77.8%	3.5%	100.0%
④経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	102	105	1,341	57	1,605
	6.4%	6.5%	83.6%	3.6%	100.0%
⑤健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	342	254	965	44	1,605
	21.3%	15.8%	60.1%	2.7%	100.0%
⑥住まいが定まらない、家に居場所がない	37	35	1,476	57	1,605
	2.3%	2.2%	92.0%	3.6%	100.0%
⑦孤独・孤立を感じる	192	85	1,260	68	1,605
	12.0%	5.3%	78.5%	4.2%	100.0%

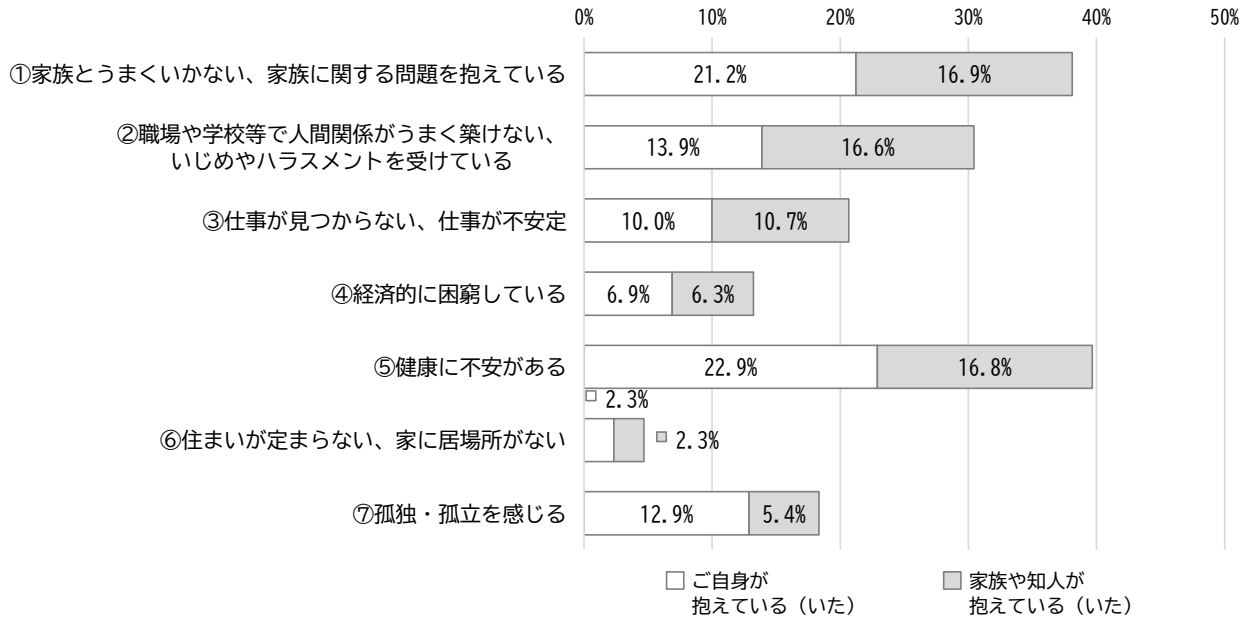
「その他」・・・将来が不安、任期満了で仕事をやめないといけない
結局問題のある人は男女共同参画など全くの無関心で、どうにもならない
としか思えない など

【女性のみ集計】

※回答割合が少ないため、「ご自身が抱えている（いた）」「家族や知人が抱えている（いた）」を合わせて『問題を抱えている（いた）』で掲載

■ 家族に関する問題は、「⑤健康に不安がある」が約4割

家族とうまくいかない、家族に関する問題について、女性のみで比較すると「⑤健康に不安がある」が『問題を抱えている（いた）』で、39.7%と最も多く、次いで「①家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」で、38.1%となっています。



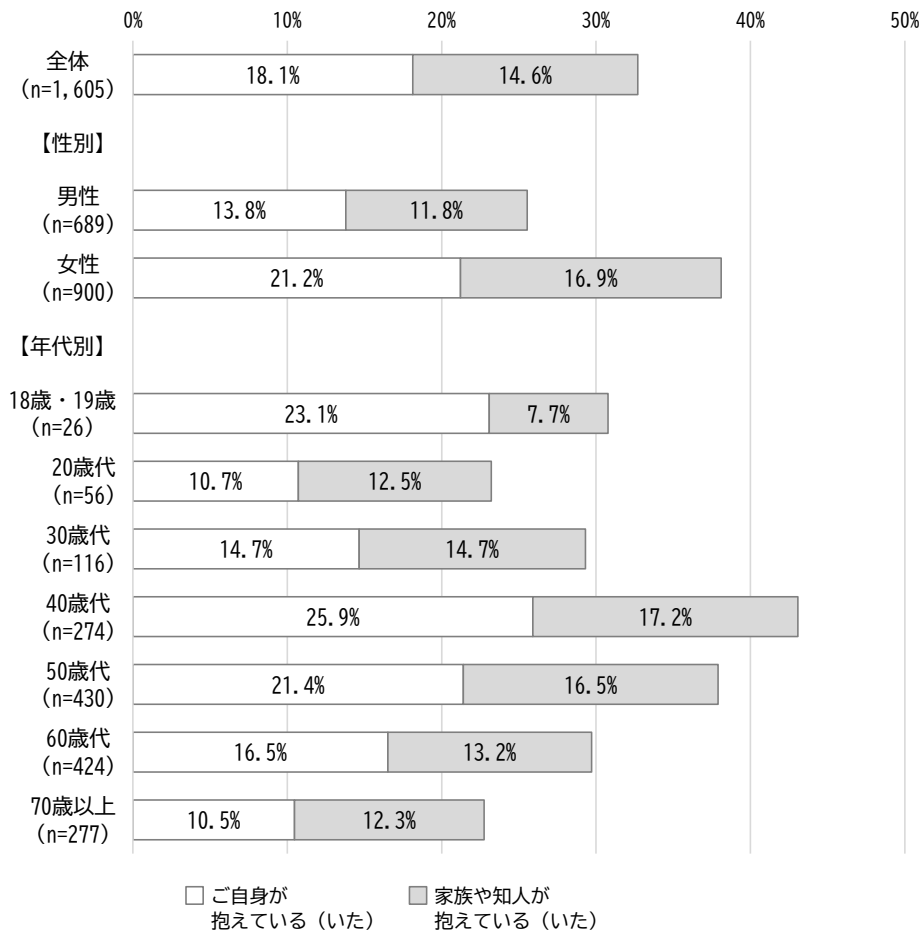
【性別・年代別集計】

① 家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている

■ 家族との『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性が多い

家族とうまくいかない、家族に関する問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性が12.5ポイント多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で40歳代が多くなっています。

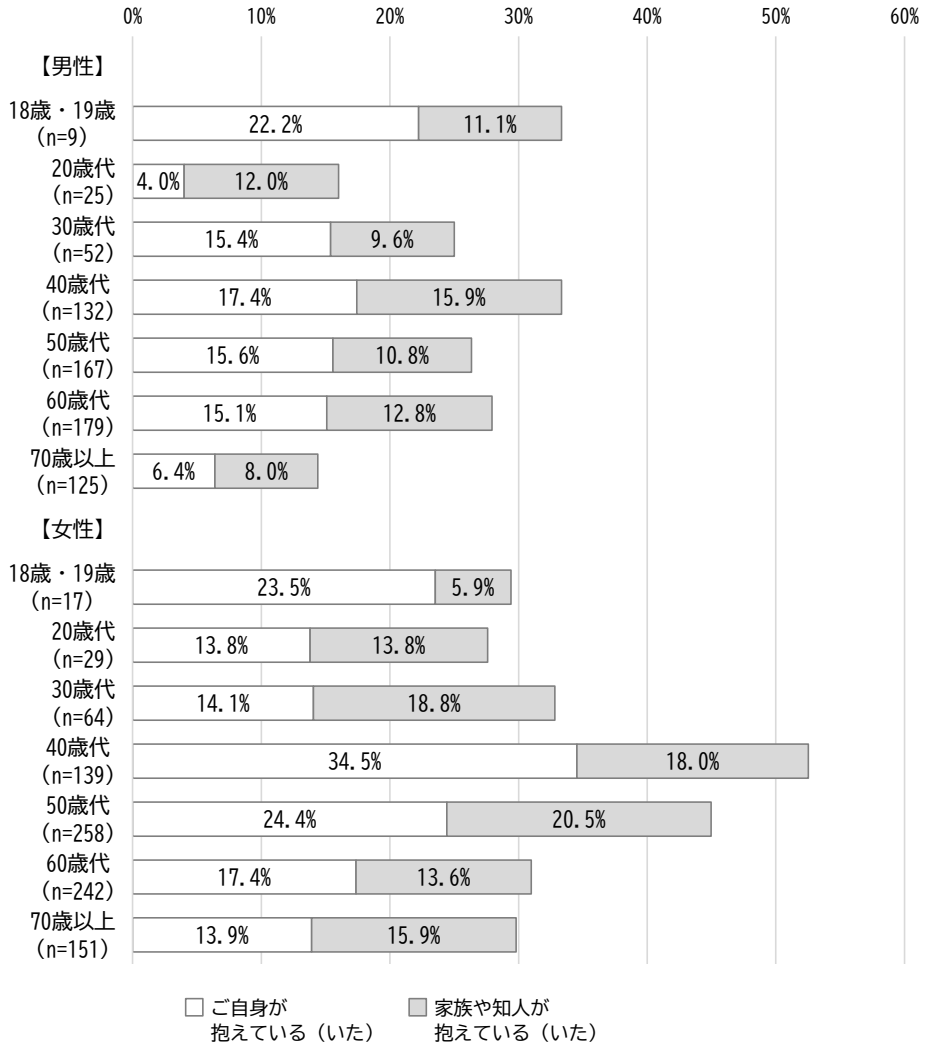


【男女年代別集計】

① 家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている

■ 家族との『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多い

家族とうまくいかない、家族に関する問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。



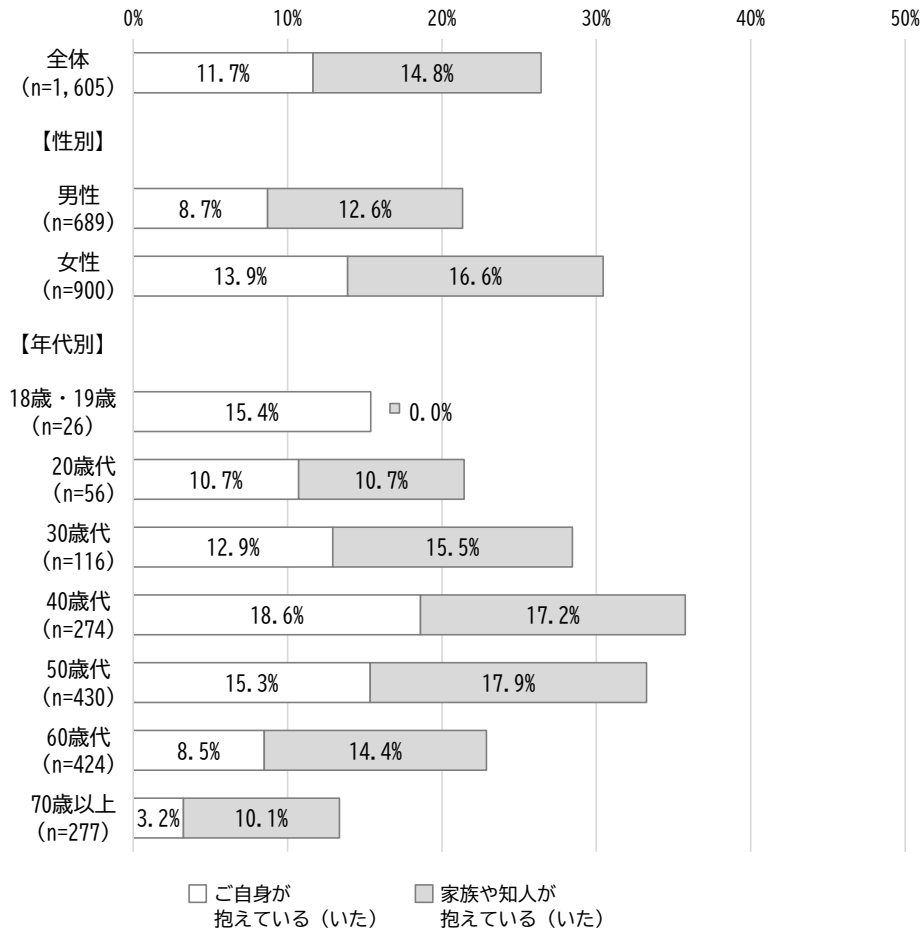
【性別・年代別集計】

② 職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている

■ 人間関係の『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性が多い

職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性が9.2ポイント多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で40歳代が多くなっています。

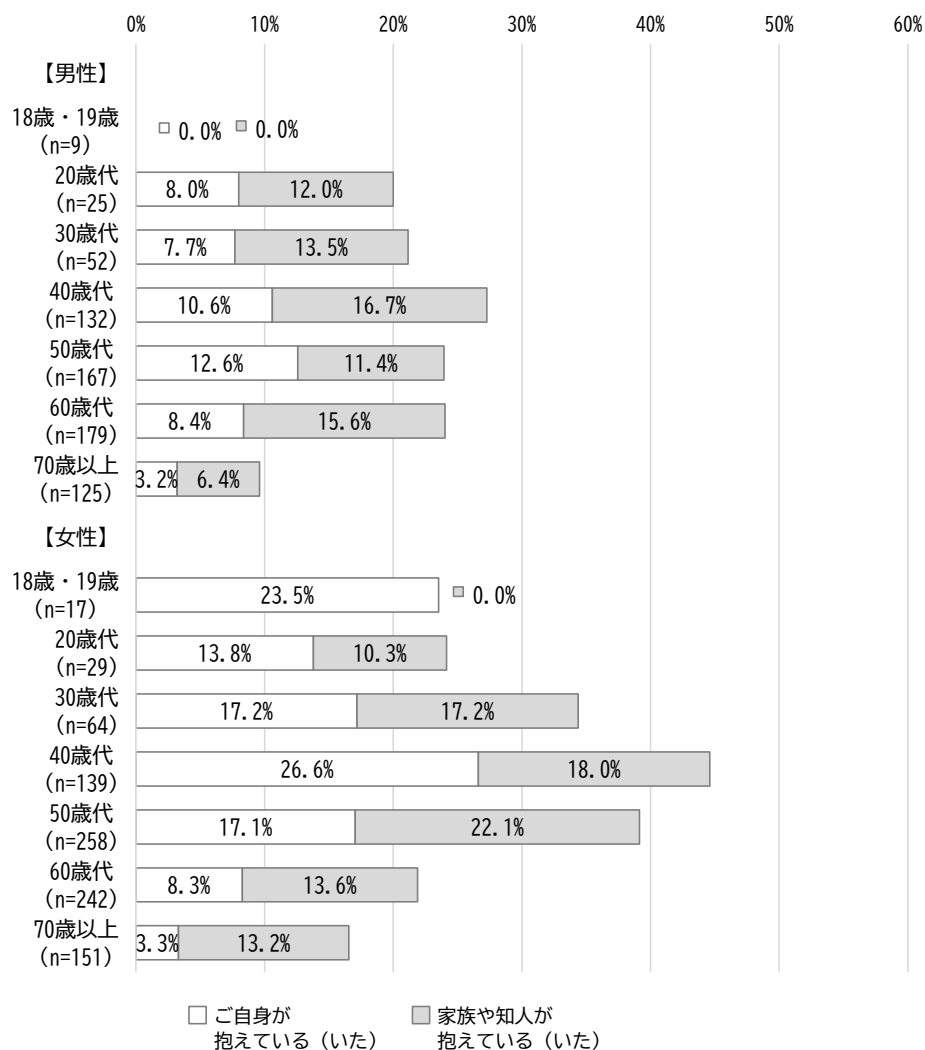


【男女年代別集計】

② 職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている

■ 人間関係の『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多い

職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。



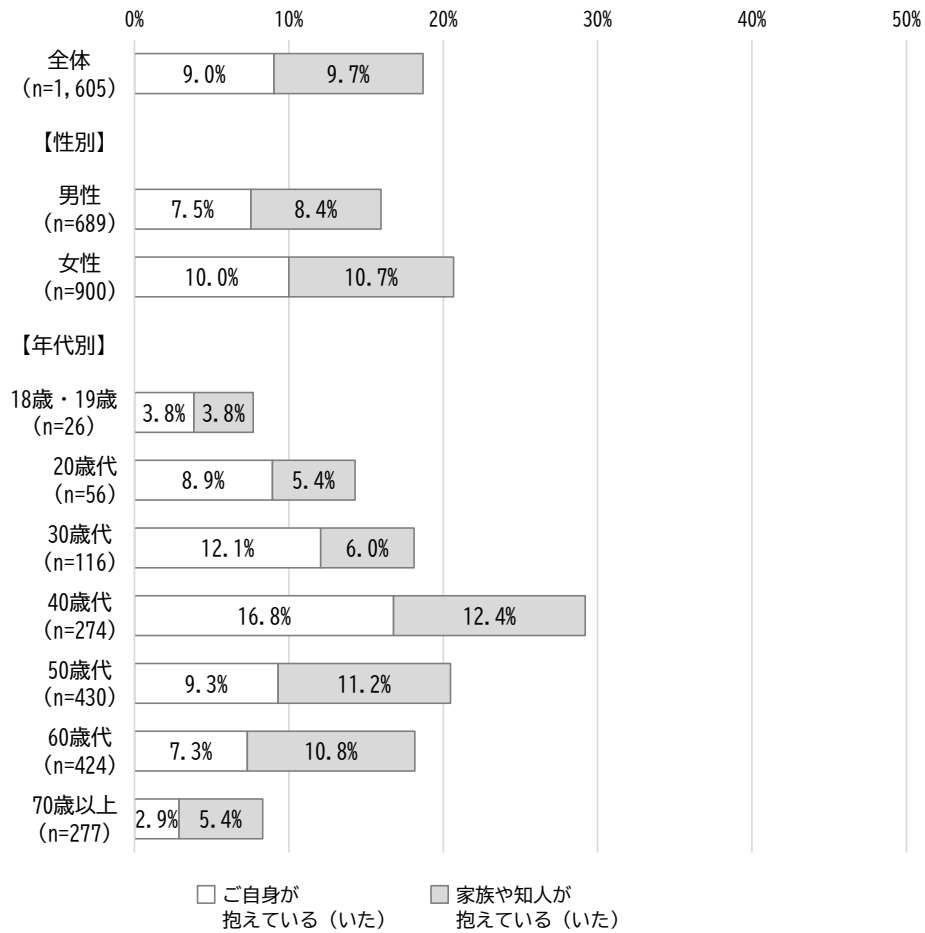
【性別・年代別集計】

③ 仕事が見つからない、仕事が不安定

■ 仕事の『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性がやや多い

仕事が見つからない、仕事が不安定の問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で40歳代が多くなっています。

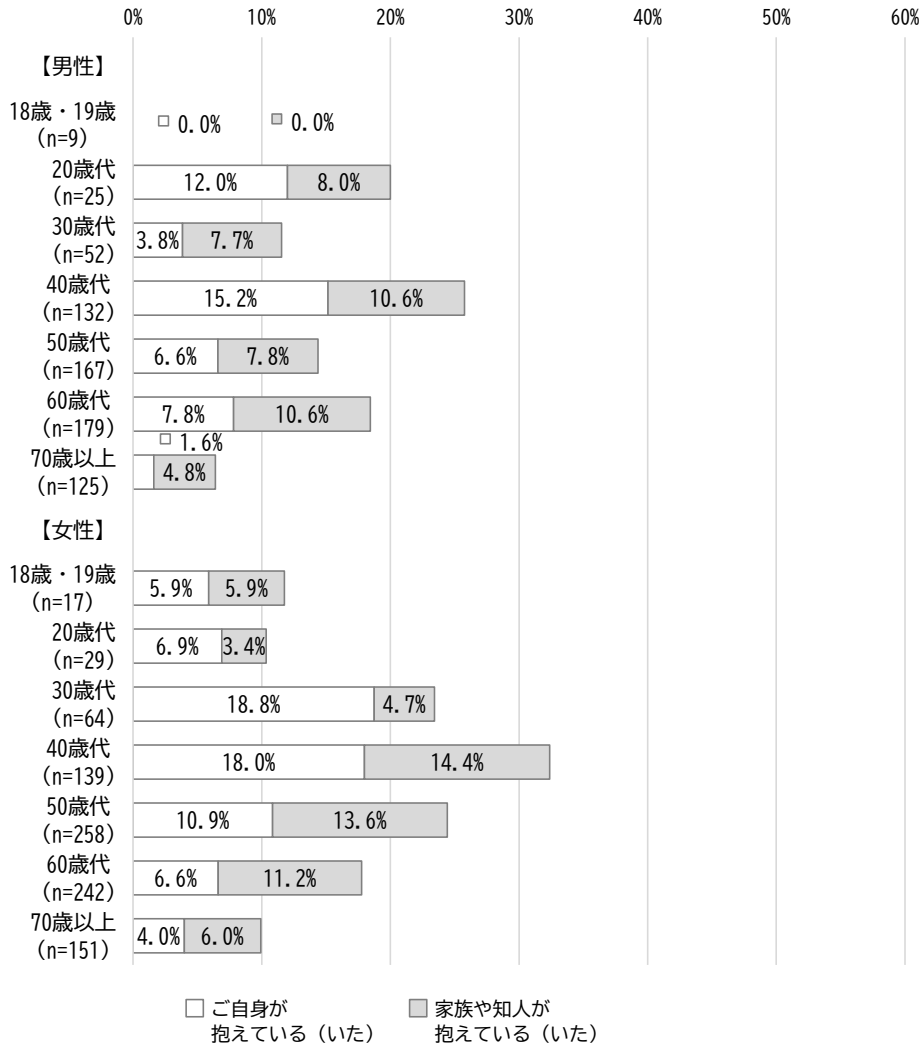


【男女年代別集計】

③ 仕事が見つからない、仕事が不安定

■ 仕事の『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多い

仕事が見つからない、仕事が不安定の問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。



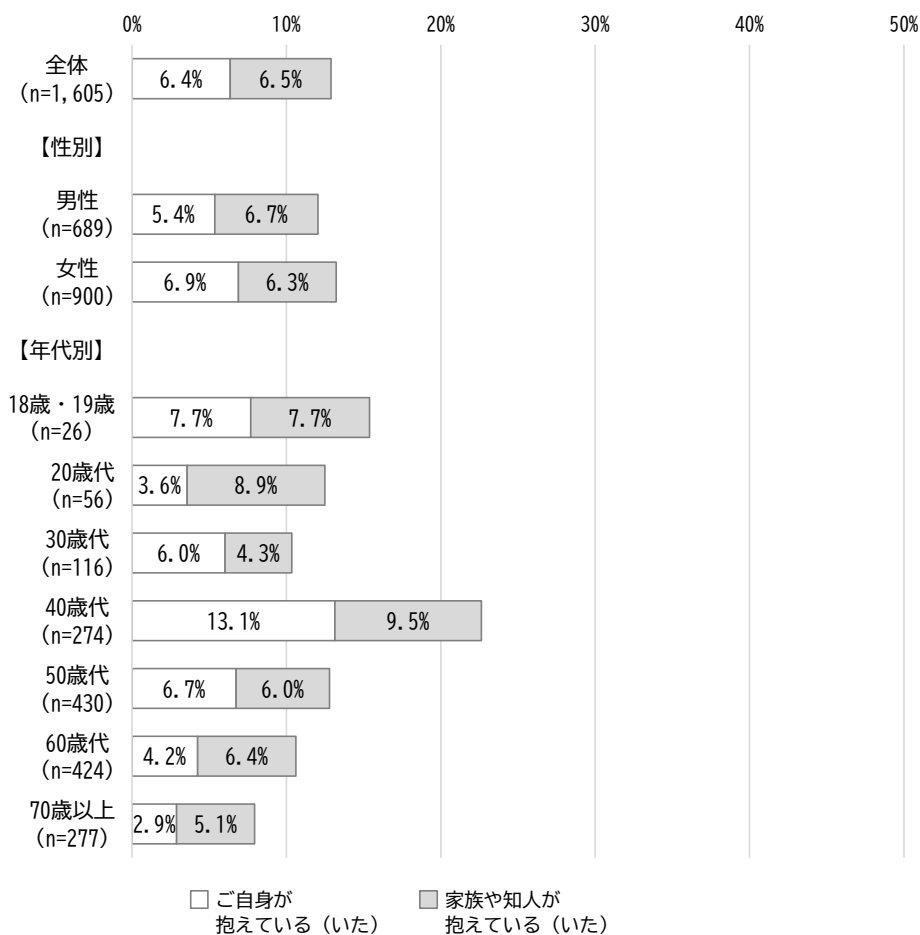
【性別・年代別集計】

④ 経済的に困窮している（食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど）

■ 経済的な『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性がやや多い

経済的に困窮している問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で40歳代が多くなっています。

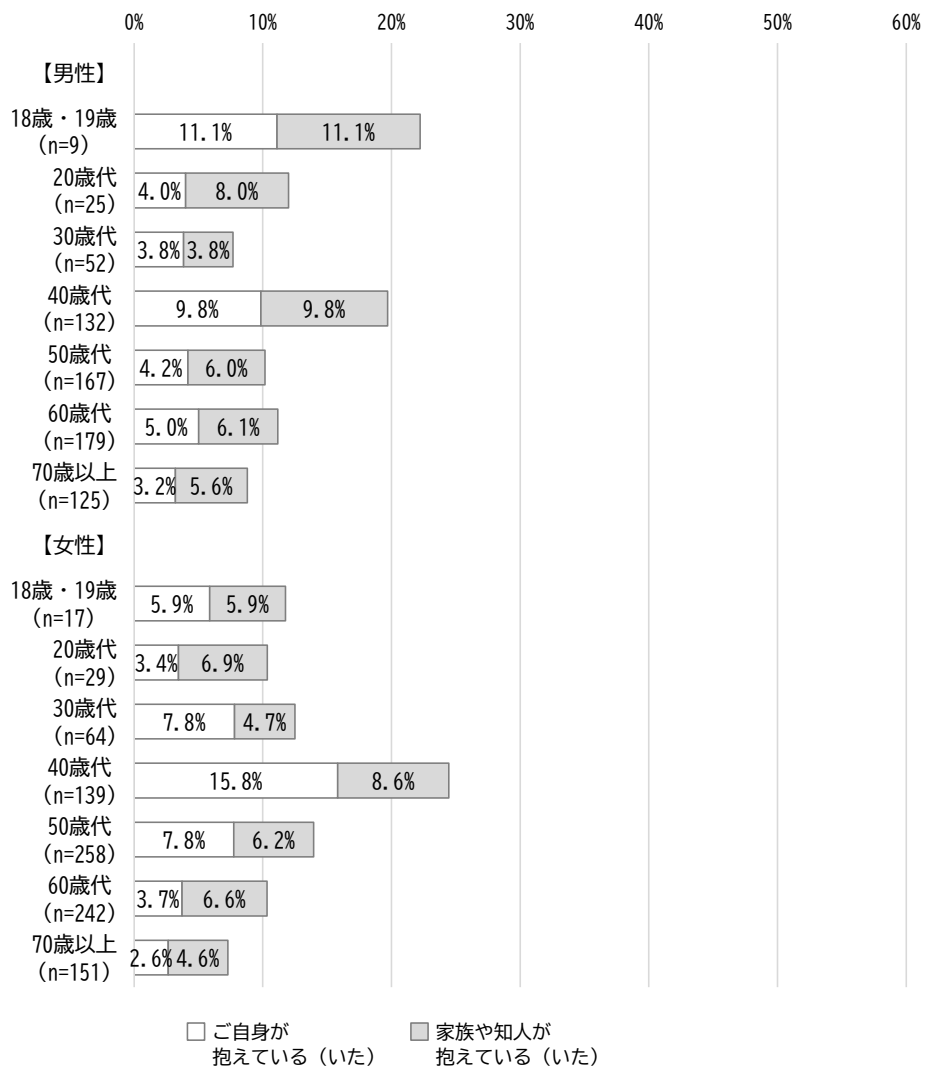


【男女年代別集計】

④ 経済的に困窮している（食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど）

■ 経済的な『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性がやや多い

経済的に困窮している問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。



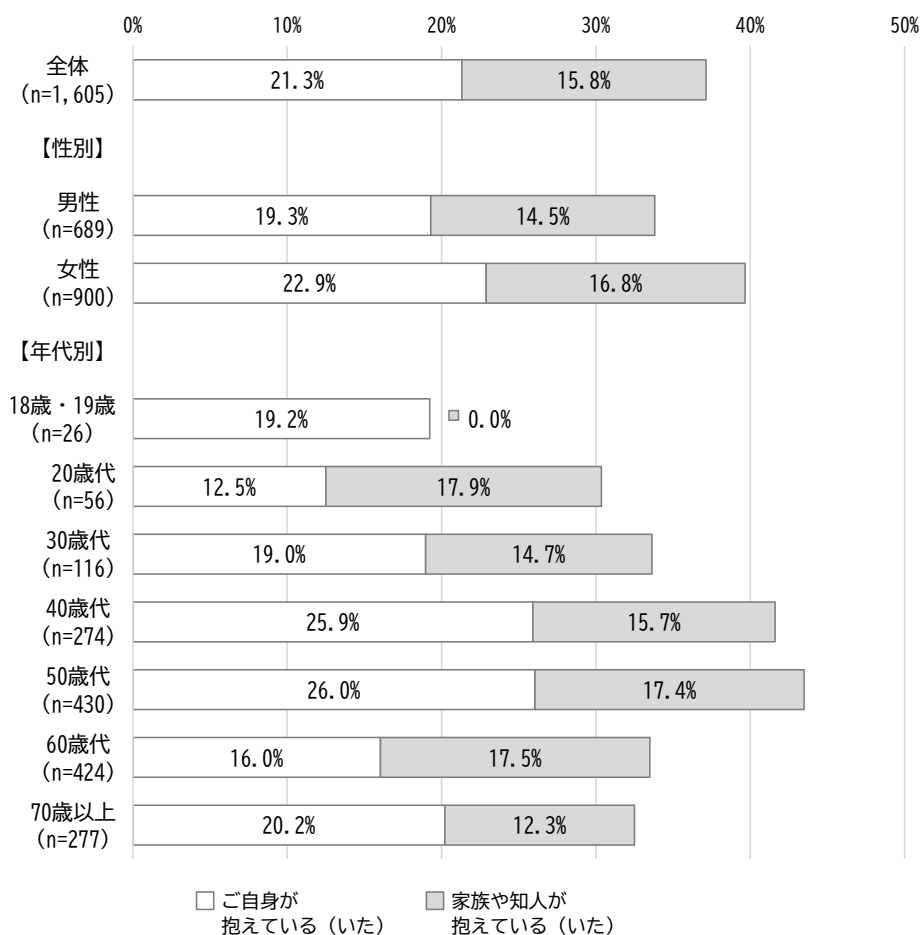
【性別・年代別集計】

⑤ 健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）

■ 健康に『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性がやや多い

健康に不安がある問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性が 5.9 ポイント多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で 40 歳代、50 歳代が多くなっています。

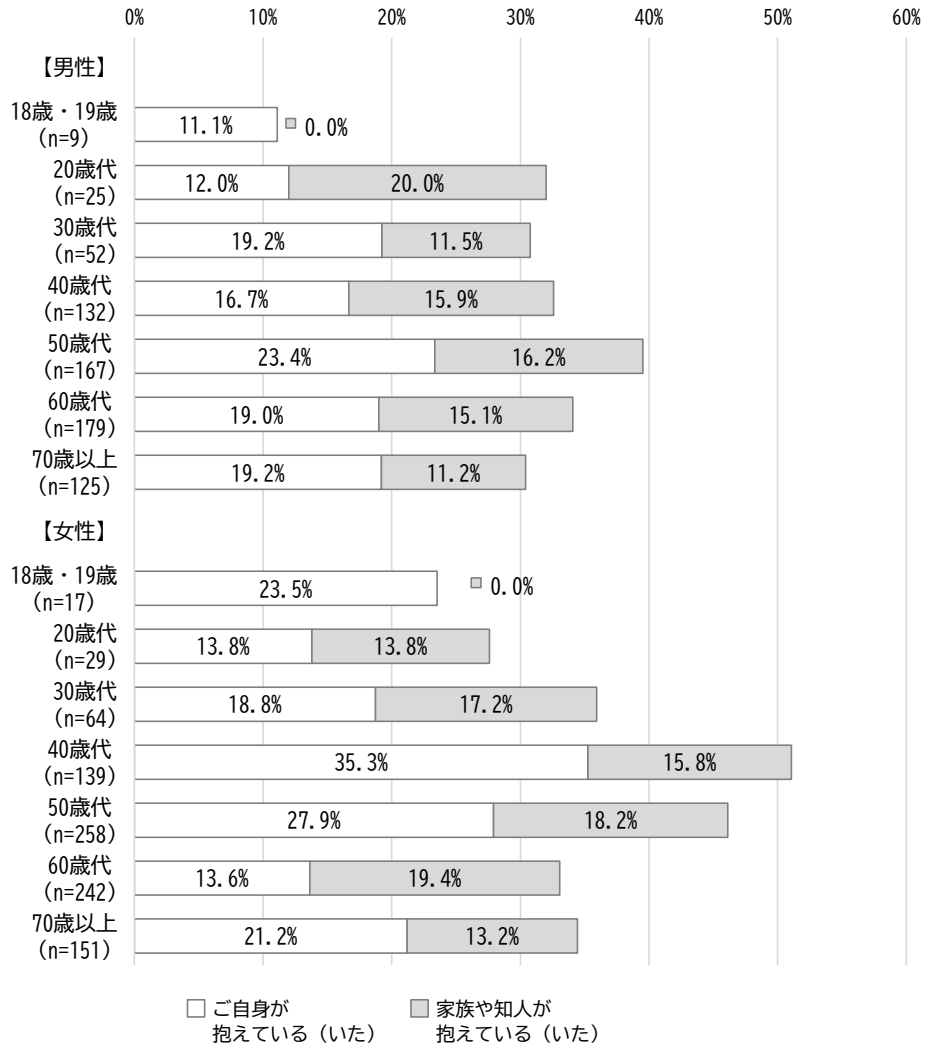


【男女年代別集計】

⑤ 健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）

■ 健康に『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多い

健康に不安がある問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。

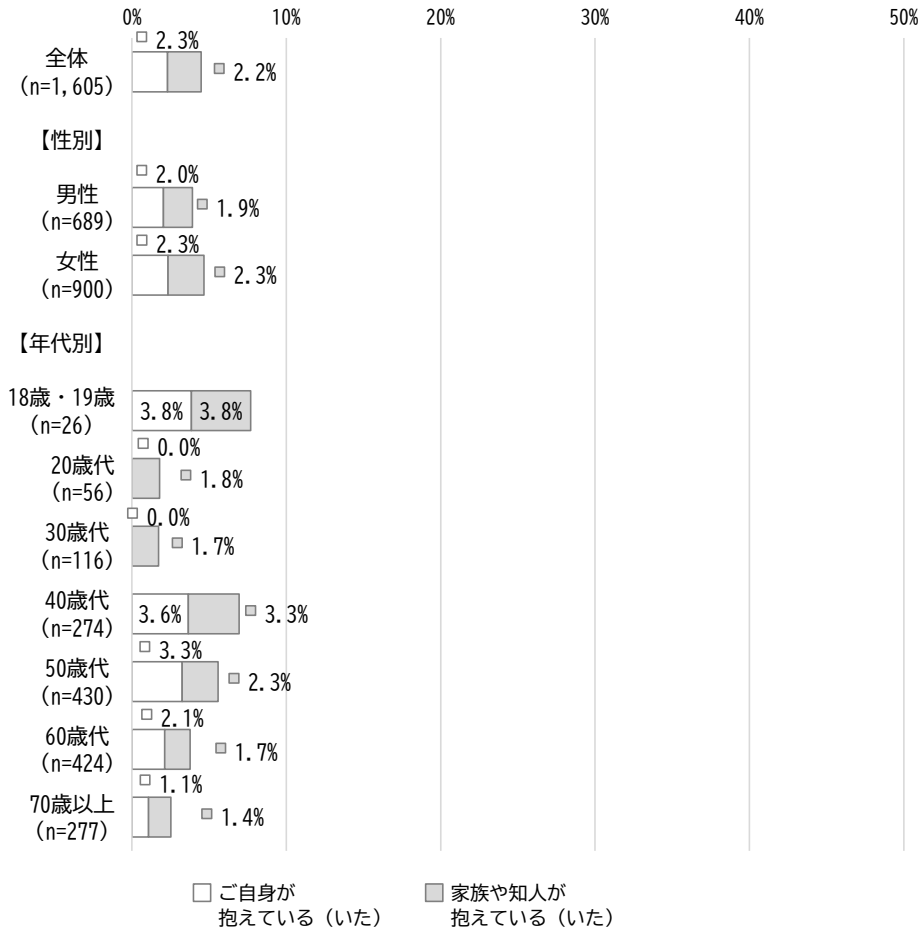


【性別・年代別集計】

⑥ 住まいが定まらない、家に居場所がない

■ 住まいの問題を「ご自身が抱えている(いた)」で 40 歳代がやや多い

住まいが定まらない、家に居場所がない問題について、性別で見るとあまり差はありませんでした。年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で 40 歳代がやや多くなっています。

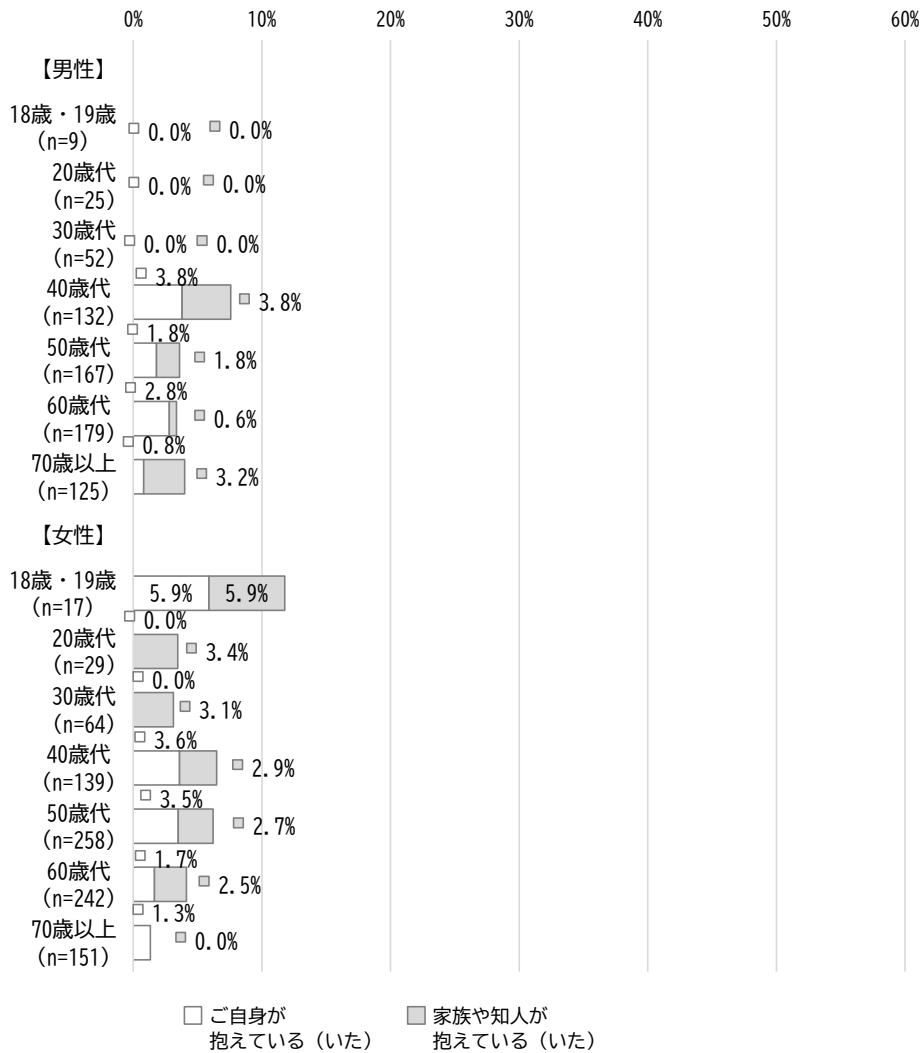


【男女年代別集計】

⑥ 住まいが定まらない、家に居場所がない

■ 住まいの『問題を抱えている(いた)』で18歳・19歳女性が多い

住まいが定まらない、家に居場所がない問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、回答者数が少ないですが、18歳・19歳女性が多くなっています。



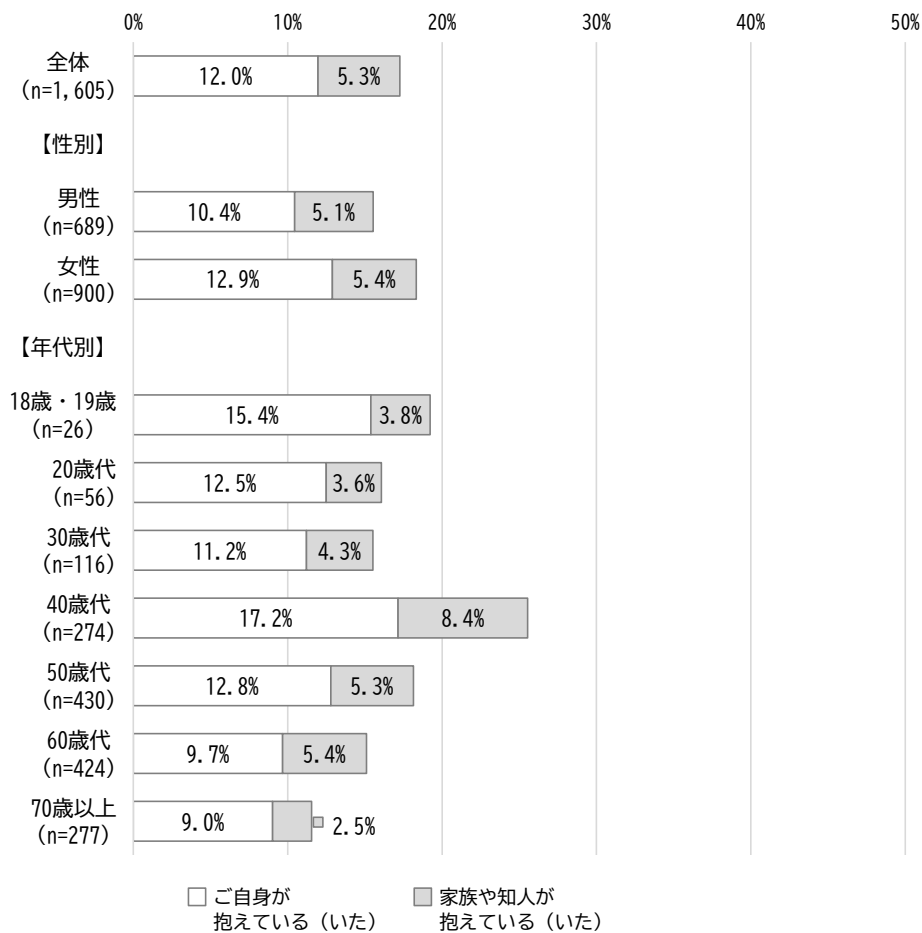
【性別・年代別集計】

⑦ 孤独・孤立を感じる

■ 孤独・孤立の『問題を抱えている(いた)』で、男性より女性がやや多い

孤独・孤立を感じる問題について、性別で見ると『問題を抱えている(いた)』で男性より女性がそれぞれやや多くなっています。

年代で見ると「ご自身が抱えている(いた)」で40歳代が多くなっています。

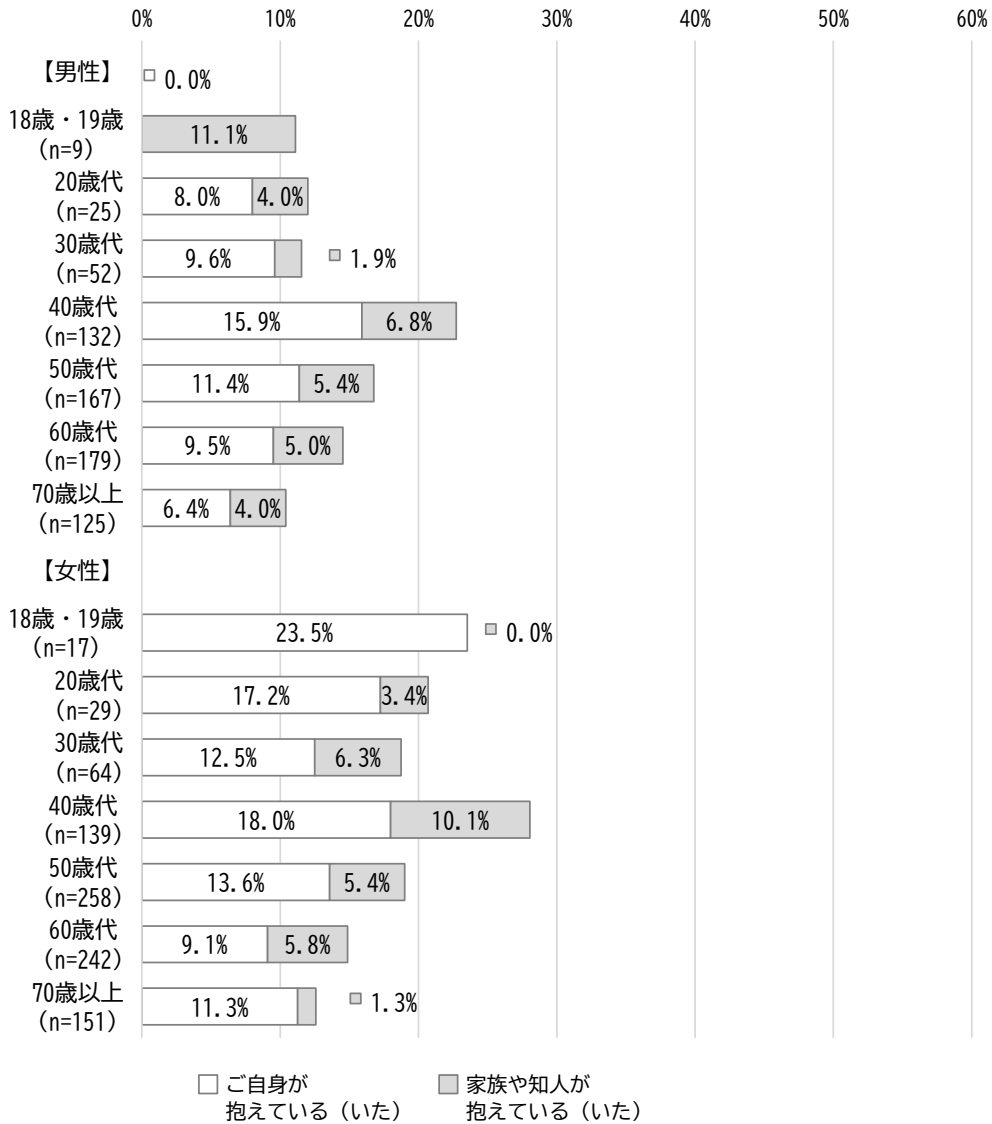


【男女年代別集計】

⑦ 孤独・孤立を感じる

■ 孤独・孤独の『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多い

孤独・孤立を感じる問題について、男女それぞれの年代別で見ると『問題を抱えている(いた)』で、40歳代女性が多くなっています。



(2) 抱えている困難や悩みの相談先

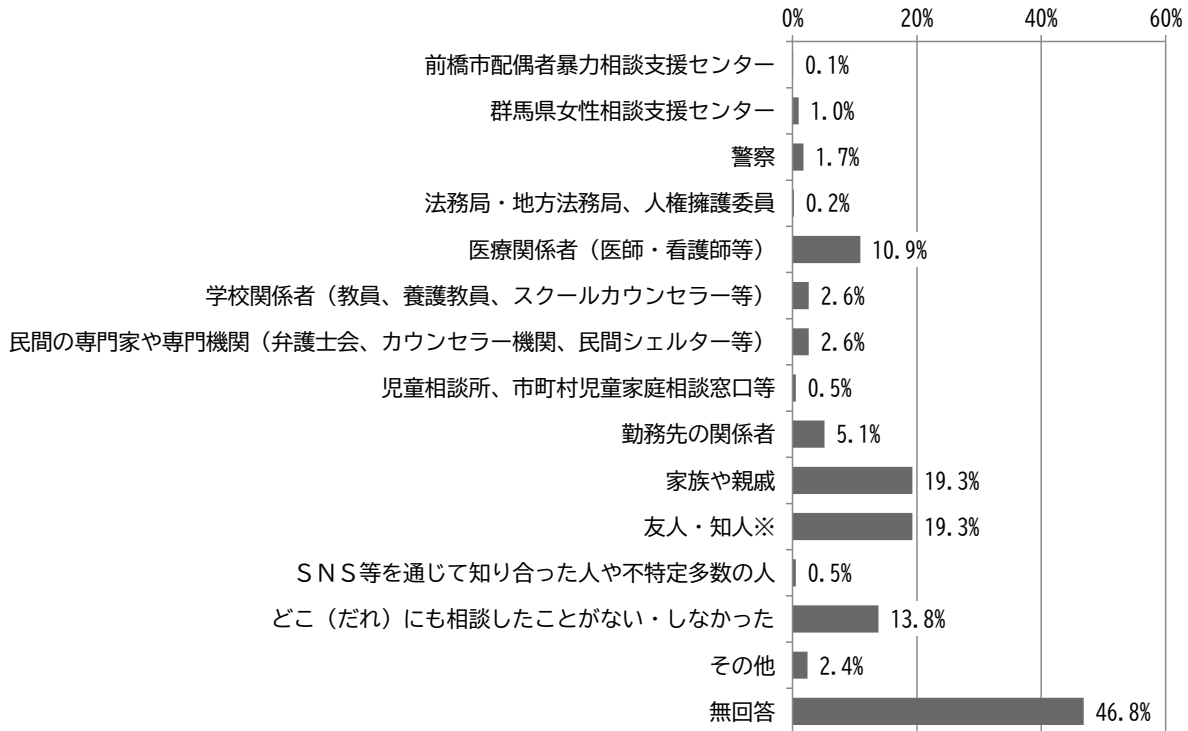
問 28①～⑦の質問で「ご自身が抱えている(いた)」「家族や知人が抱えている(いた)」と答えた方にお聞きします。

問 29 あなたや周りの人が抱える悩みについて、誰に(どこに)相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

■ 相談先は、「家族や親戚」「友人・知人」がそれぞれ約2割

自身や周りが抱える悩みについての相談先については、「家族や親戚」「友人・知人※」がともに19.3%と多く、次いで「医療関係者(医師・看護師等)」が10.9%となっています。

一方、「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」が13.8%となっています。



項目	度数	比率
前橋市配偶者暴力相談支援センター	1	0.1%
群馬県女性相談支援センター	9	1.0%
警察	16	1.7%
法務局・地方法務局、人権擁護委員	2	0.2%
医療関係者(医師・看護師等)	100	10.9%
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラー等)	24	2.6%
民間の専門家や専門機関(弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等)	24	2.6%
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	5	0.5%
勤務先の関係者	47	5.1%
家族や親戚	177	19.3%
友人・知人※	177	19.3%
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	5	0.5%
どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった	127	13.8%
その他	22	2.4%
無回答	430	46.8%
回答者数	918	

※学校や職場等で知り合った友人にSNSを通じて相談をした場合は「友人・知人」を選択してください。

「その他」・・・民生児童委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター
市役所(消費生活センター) など

【性別集計】

■ 「友人・知人」で、男性より女性が 15.1 ポイント多い

自身や周りが抱える悩みについての相談先について、性別で見ると「友人・知人」で男性より女性が 15.1 ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 相談先は、「家族や親戚」で、70歳以上が2割強

自身や周りが抱える悩みについての相談先について、年代で見ると「家族や親戚」で70歳以上で25.8%とやや多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=11)	20歳代 (n=28)	30歳代 (n=57)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=284)	60歳代 (n=222)	70歳以上 (n=132)
前橋市配偶者暴力相談支援センター	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
群馬県女性相談支援センター	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.4%	0.5%	2.3%
警察	9.1%	0.0%	3.5%	0.0%	1.1%	1.4%	5.3%
法務局・地方法務局、人権擁護委員	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%
医療関係者（医師・看護師等）	9.1%	3.6%	12.3%	7.1%	9.9%	10.8%	19.7%
学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）	9.1%	0.0%	3.5%	2.7%	2.8%	1.8%	3.0%
民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1.8%	3.2%	5.3%
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.8%
勤務先の関係者	0.0%	0.0%	3.5%	5.5%	7.7%	4.5%	2.3%
家族や親戚	27.3%	14.3%	17.5%	16.5%	18.0%	20.3%	25.8%
友人・知人	9.1%	14.3%	12.3%	17.0%	22.2%	18.5%	22.0%
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	9.1%	0.0%	1.8%	0.5%	0.4%	0.5%	0.0%
どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった	0.0%	0.0%	10.5%	11.0%	9.9%	18.9%	22.7%
その他	0.0%	0.0%	1.8%	1.6%	1.8%	2.3%	6.1%
無回答	54.5%	78.6%	59.6%	58.8%	52.5%	38.3%	20.5%

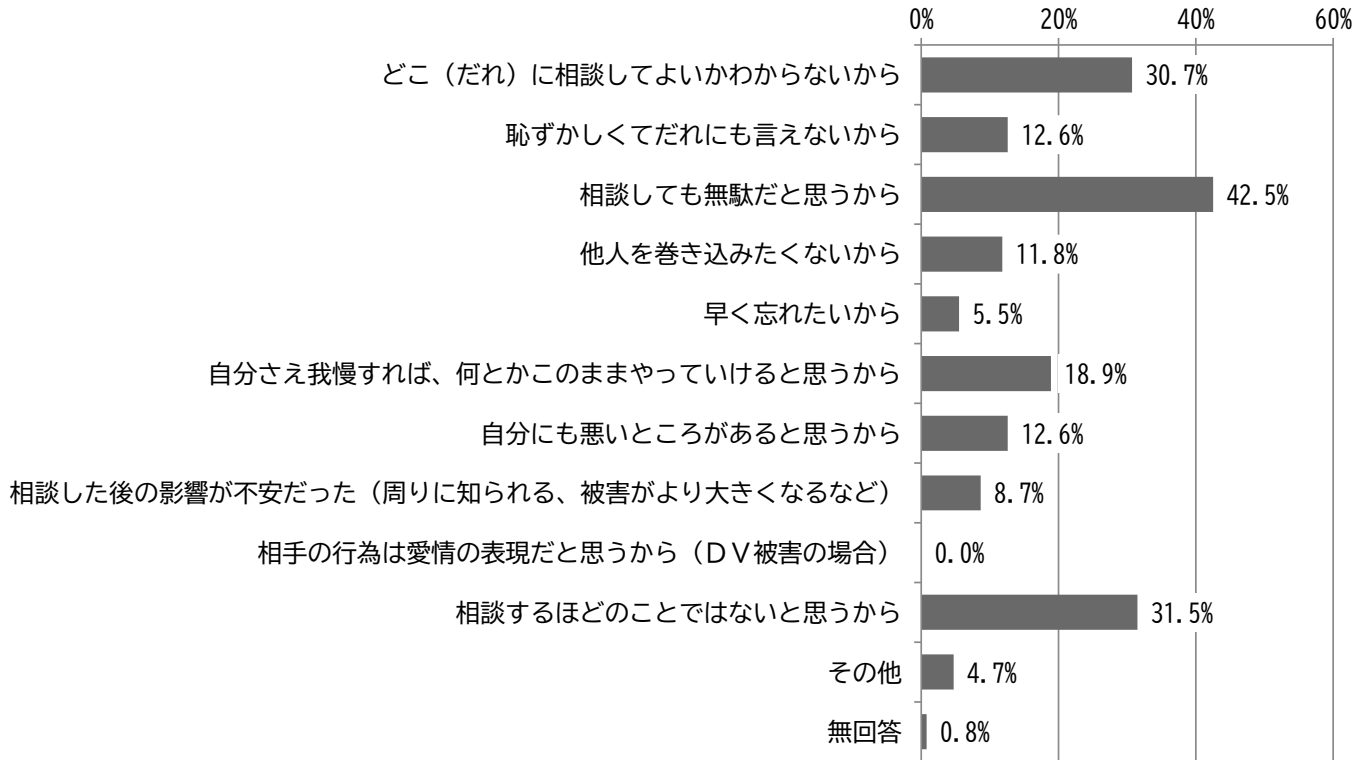
(3) 相談しない・しなかった理由

問29で「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」と答えた方にお聞きします。

問30 相談しない・しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

■ 相談しない理由は、「相談しても無駄だと思うから」が4割強

相談しない・しなかった理由については、「相談しても無駄だと思うから」が42.5%と最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思うから」が31.5%、「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」が30.7%となっています。



項目	度数	比率
どこ(だれ)に相談してよいかわからないから	39	30.7%
恥ずかしくてだれにも言えないから	16	12.6%
相談しても無駄だと思うから	54	42.5%
他人を巻き込みたくないから	15	11.8%
早く忘れたいから	7	5.5%
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	24	18.9%
自分にも悪いところがあると思うから	16	12.6%
相談した後の影響が不安だった(周りに知られる、被害がより大きくなるなど)	11	8.7%
相手の行為は愛情の表現だと思うから(DV被害の場合)	0	0.0%
相談するほどのことではないと思うから	40	31.5%
その他	6	4.7%
無回答	1	0.8%
回答者数	127	

「その他」・・・ハローワークで相談した

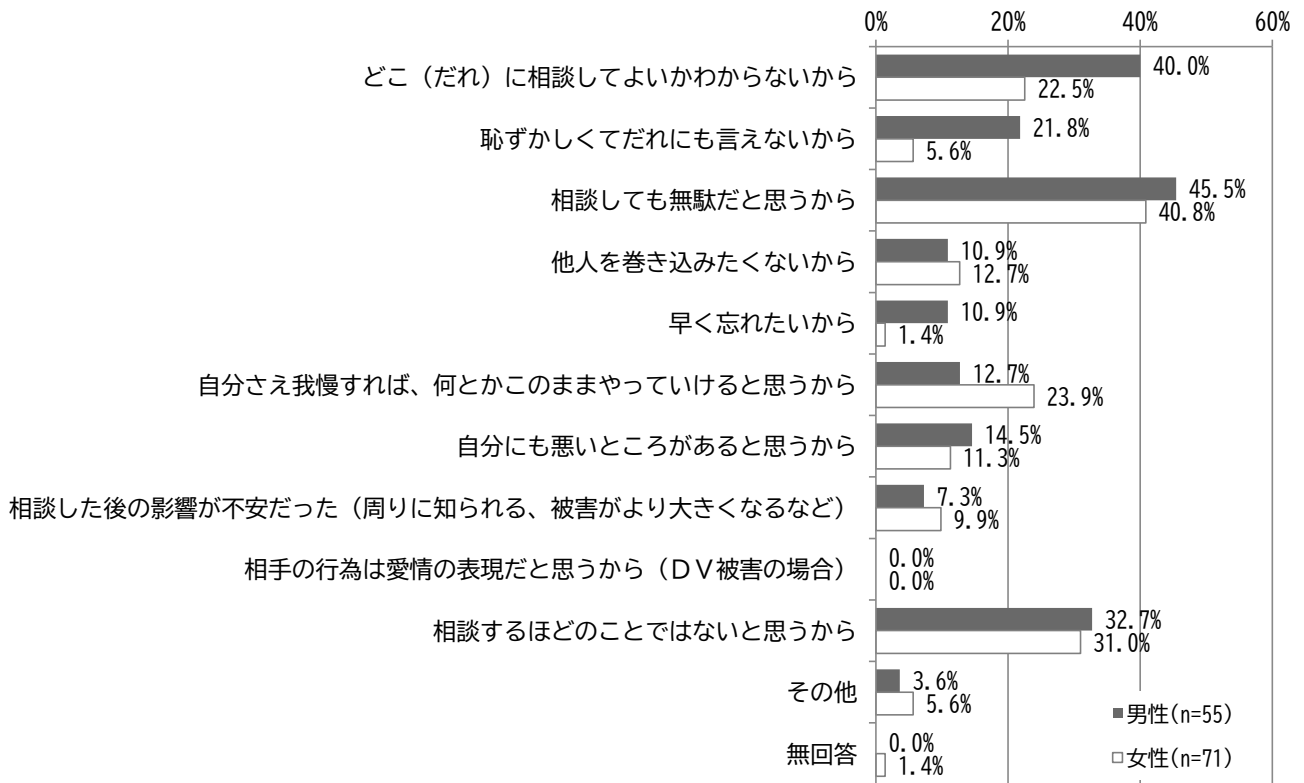
知人から聞いたが良いアドバイスが思いつかなかった など

【性別集計】

- 「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」「恥ずかしくてだれにも言えないから」で、女性より男性が多い

相談しない・しなかった理由について、性別で見ると、「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」で 17.5 ポイント、「恥ずかしくてだれにも言えないから」で 16.2 ポイント女性より男性が多くなっています。

また、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」で男性より女性が 11.2 ポイント多くなっています。



12 自由記述

(1) 男女共同参画等について感じる事

最後に、家庭や職場、地域における男女共同参画について、感じる事やご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

アンケートの最後に、自由記述形式で回答いただいたご意見の一部を紹介します。

■ 男女平等について

- ・男と女関係なく様々な取り組む姿勢が必要だと思う。(女性 18歳・19歳)
- ・男の方が上だと思っている働き世代が抜けない限り、まだそういう思考は消えないと思う。男と女では身体的な部分がどうしても、平等とまでいかない所もあると思う。(女性 20歳代)
- ・適材適所という言葉があるように、何でもかんでも男女を全く同じ扱いにするべきではないと思います。(男性 20歳代)
- ・男女共同参画など男女平等を掲げているが、それを優先するあまり逆に女性が優遇されている。会社などでも、管理職に無理に女性を採用して、男性が正当に評価されなくなっている。(男性 30歳代)
- ・群馬はジェンダーバイアスやパワハラに対する意識が低いと強く感じる。(女性 40歳代)
- ・男女平等とはいうが、やはり性別の差は認識して、できることや得意なことを認識したうえで、差別がないようにしていったほうが良いと思う。(男性 40歳代)
- ・単なる男女平等でなく、男性の特性、女性の特性をまじえたバランスある平等を目指すべきだと思う。(女性 50歳代)
- ・ジェンダー平等とは言っても、体格差・体力差は現実のものであり、男女関わらず個々の適正・能力に応じた共同参画であるべきかと思う。(女性 60歳代)

■ 結婚・家庭生活について

- ・家庭内での役割は、まだまだ女性が担うことが多いように思います。子供はそれを見て育つので、男性が嫌がらず積極的に行動したり、感謝や尊敬を持ち、言葉にするような習慣があれば良いのにと感じています。(女性 40歳代)
- ・根本的な男性優位の意識は、小さい頃からの家庭の環境や教育方針によるところが大きいと思う。職場、地域による改革ももちろん大切だが、ひとつひとつの家庭内で必要に応じた男女平等の意識を子供達にみせてあげることが一番大事なのではないかと考える。(女性 40歳代)

■ 子育て・介護について

- ・人々が、自分らしい働き方、生活を営む為には、それらを支援する職種の賃金の大幅な上昇が、不可欠だと考えます。特に介護士の賃金は大幅に上昇することが、必要だと考えます。団塊の世代の方々の高齢化があるためです。(男性 30歳代)
- ・育児休業の取得について。「夫に取得して欲しいですか？」という質問があってもいいのではないかと考えた。よほど家事や育児を進んでやらない限り、取得されても困る妻は多くいると思う。(女性 50歳代)
- ・育児については多くの子どもが母親との関わりを強く求める傾向があり、女性が中心となり男性がサポートする形でも問題ないと思います。経済時に豊かであれば精神的な余裕も生まれ、子どもと向き合う時間や心のゆとりが確保できると考えます。(女性 50歳代)
- ・子育てをする中で、育児のメインの担い手はまだまだ女性だと強く感じる。こどもに関する事(学校行事や看病等)で仕事を休まざるをえないことが多々あり、職場で肩身が狭い思いをすることもあつた。(女性 50歳代)

■ 職業と働き方について

- ・家庭や職場において、昔ほど男だから女だからというのはなくなってきたように感じます。職場では女性の管理職が増え、男性の育児休暇も取れています。(男性 40 歳代)
- ・職場における女性に求められる役割も平等になりつつあると感じます。今だに、古い考えにとらわれている方(男女ともに)も見受けられて、残念に思うこともあります。(女性 50 歳代)
- ・育児において男女平等であると感じたことはありません。育児中の女性は会社面接の際、子供が体調不良の時の預け先はあるかを聞かれるが男性が同じ質問をされることは無いです。性別・年齢問わず、男女共同参画の視点が必要であり考え直すべきです。(女性 60 歳代)
- ・上司として、指導するまたは教育していく上でなんでもパワハラと言われることで関わるのが難しい。部下についても、パワハラの正しい知識が必要だと思う。(女性 60 歳代)

■ 女性の社会参画について

- ・女性だから優遇するのではなく、機会を平等に与えること、挑戦しやすい環境をつくることが重要だと思います。(男性 20 歳代)
- ・女性が社会に進出して活躍することは良い事だと思いますが、子ども達はその犠牲になっているのではと思っています。子どもを預けられる様々な施設が充実するほど、低年齢から長時間施設に預けられてしまう子どもたちの気持ちは、置き去りにされてしまっているのではないのでしょうか。(女性 40 歳代)
- ・男女共同参画を進めれば進める程、少子化は加速します。大切なのは女性の機会をうばわないことであり、平等に社会に参加させることではないかと考えます。夫・妻のどちらかが働き、どちらかが子育てをすることが可能であれば、バランスのとれた社会になると思います。(女性 50 歳代)
- ・理工系の大学へ進学する女性を増やす取り組みが必要。製造業への女性の就職率が低い。理工系は男性が得意というジェンダーステレオタイプをなくす取り組みが必要と思う。(女性 50 歳代)
- ・管理職のオファーを断る女性も少なからず存在すると認識しています。女性の管理職数の目標値があるが、その前に女性で管理職を希望する人数を算出し、そこから目標値を定めるべきだと思います。(男性 50 歳代)
- ・無理矢理、女性を上位職に就けるのではなく、優秀な女性を上位職に就けることがより重要。その為には、優秀な女性を育てることが大事なことと思う。(男性 50 歳代)
- ・女性活用、女性活躍は必要な要素です。女性が男性と同等の継続的な責任(感)・能力・結果を発揮することを具現化させ、それを男性が素直に認める社会となることが大切であると考えています。(男性 60 歳代)

■ 市の施策について

- ・性別にかかわらず誰もが安心して暮らせる社会を作っていただきたい。(女性 30 歳代)
- ・昨今は物価が上がって共働きが必須になっている一方で、育児支援が十分でなく、時間的な制約があるという状況かと思っています。男女共同参画を実現するためにも、「経済的な安定と、ゆとりのある子育て」が出来る社会の実現をお願いします。(男性 30 歳代)
- ・確かに男女の社会的な性差を無くすのは大切ですが、これまでの人間社会で男性が担ってきた仕事、女性が担ってきた仕事、そして何故そういう仕組みの中で社会が成り立ってきたのか、男女の仕事の再評価をしつつ、どうすれば平等に分担していけるか考えると共に、共同参画への意識づけを学校教育等に絡めて、若い時期から育てていく事が重要だと思います。(男性 40 歳代)
- ・男女共同参画の数字を達成することが目的になっている。結果、参画している女性以外が差別され、不利益を被る状況が多々ある。(女性 50 歳代)

アンケート調査ご協力をお願い

男女共同参画に関する市民意識調査【一般用】

日頃より、男女共同参画施策の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
本市では、市民一人ひとりがお互いを大切に、性別にかかわらず個性を輝かせて生き生きと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指して、男女共同参画基本計画（第5次）を策定し、様々な取組を進めています。

本調査は、この取組をさらに充実させるため、満18歳以上の市民の方3,000人を無作為に選び、ご意見をお伺いすることで、次期基本計画の基礎資料と今後の男女共同参画事業の参考とするものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和7年9月

前橋市長 小川 晶

ご回答にあたってのお願い

※大きい設問は、30問あります。所要時間は、25分程度です。

※調査結果はすべて統計的に処理するため、個人が特定されることはありません。

1. 封筒のあて名のご本人が、ご自身のお考えで回答してください。

ご本人による記入が難しい場合は、ご家族が回答を聞き取るなど、回答の補助をお願いします。

2. アンケートの回答については、インターネットでの回答・郵送での回答のどちらかの方法で

9月26日(金)までにご回答いただきますようお願いいたします。

インターネットでの回答方法

①パソコン・スマートフォンなどで右の二次元コードを読み取るか、
下記URLにアクセスしてください。

<https://logoform.jp/f/hpfc>

②質問のページでは、画面の案内に従って最後までお答えください。



(二次元コード)

郵送での回答方法

◆この調査票に直接ご記入の上、同封の専用封筒に入れてポストに投函してください。

(切手は不要です)

①質問の答えを選択肢から選び、あてはまる番号を○で囲んでください。

②お答えの内容によって、次の質問が異なるところがあります。案内に従ってお進みください。

③選択肢の中にあてはまるものがなく、その他の答えがある場合は「その他」を選択し、()内に具体的に記入してください。

3. アンケート集計結果は、前橋市のホームページ等でお知らせする予定です。

<問い合わせ先> 前橋市 市民部 共生社会推進課 人権・男女共同参画係

電話 027-898-6517 FAX 027-221-6200

E-mail:sankaku@city.maebashi.gunma.jp

あなたご自身のことについてお聞きします。(アンケート結果を分析するための質問です)

A あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性 3. わからない・答えたくない

B あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

1. 18歳・19歳 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上

C あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1. 正社員・正職員 2. 非正規雇用者(パート、アルバイト、派遣社員など)
3. 自営業(商工業・農林水産業・サービス業など) 4. 専業主婦・主夫
5. 学生 6. 無職 7. その他()

D あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

1. している(事実婚を含む) 2. していない(未婚・非婚) 3. していた(離別、死別)

D-I Dで「1. している(事実婚を含む)」とお答えした方のみお聞きします。

あなたの配偶者・パートナーの職業はどれですか。(○は1つ)

1. 正社員・正職員 2. 非正規雇用者(パート・アルバイト・派遣社員など)
3. 自営業(商工業・農林水産業・サービス業など) 4. 専業主婦・主夫
5. 学生 6. 無職 7. その他()

E あなたの世帯状況はどれですか。(○は1つ)

1. 単身世帯(ひとり暮らし) 2. 一世帯世帯(夫婦またはパートナーのみ、兄弟姉妹のみ)
3. 二世帯世帯(親と子) 4. 三世帯世帯(親と子と孫など)
5. その他()

F あなたは、以下のようなお子さんがいますか。同居していないお子さんも含めます。

(あてはまるものすべてに○)

1. 乳児期(0~1歳6か月未満) 2. 幼児前期(1歳6か月~3歳未満)
3. 幼児後期(3歳~6歳) 4. 小学生 5. 中学生
6. 高校生以上の学生 7. 社会人 8. こどもはいない
9. その他()

G お子さんがいる方にお聞きします。あなたのお子さんは何人ですか。同居していないお子さんも含めます。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上

男女平等について

問1 あなたは、今の生活や社会の状況は、男女平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	男性のほう が優遇さ れている	どちらか といえば 男性のほう が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらか といえば 女性のほう が優遇さ れている	女性のほう が優遇さ れている	わからない
① 家庭	1	2	3	4	5	6
② 地域社会	1	2	3	4	5	6
③ 職場	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・ しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5	6

結婚・家庭生活について

問2 あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。(○はそれぞれ1ずつ)

項 目	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	どちらでも ない
① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい	1	2	3	4	5
③ 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	1	2	3	4	5
④ 選択的夫婦別姓(別苗字)の制度が法律で認められるとよい	1	2	3	4	5
⑤ 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるるとよい	1	2	3	4	5
⑥ 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるるとよい	1	2	3	4	5

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない 5. どちらでもない
--

問4 こどもの頃、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況でしたか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. そうだった 2. どちらかといえばそうだった 3. どちらかといえばそうではなかった 4. そうではなかった 5. どちらでもない
--

問5 あなたは、家庭内における役割について、次のことにどのくらい関わっていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	する	時々する	しない	あてはまらない
① 掃除	1	2	3	
② 洗濯	1	2	3	
③ 食事の準備	1	2	3	
④ 食事の後片付け	1	2	3	
⑤ ゴミ出し	1	2	3	
⑥ 日常の買い物	1	2	3	
⑦ 子育て	1	2	3	4
⑧ 家族の看護・介護	1	2	3	4
⑨ 自治会等の地域活動	1	2	3	4
⑩ 学校行事やPTA活動への参加	1	2	3	4
⑪ 家計の管理	1	2	3	4

子育て・介護について

問6 あなたは、男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得についてどう思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

【A 男性が取得することについて】

1. 男性も積極的に取得するほうがよい
2. 男性は、取得しないほうがよい
3. 取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい
4. その他()

【B 男性の育児休業等取得の環境について】

1. 環境が整っておらず、環境を整える必要がある
2. 環境は整っていないが、環境を整える必要はない
3. 環境は整ってきたが、さらに環境を整えたほうがよい
4. 環境が整っているので、これ以上環境を整える必要はない
5. その他()

問7 あなたは、男性が育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等を取得しない(できない)理由は何だと思えますか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 周囲に取った男性がいないから
2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから
5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから
6. 経済的に困るから
7. 育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから
8. その他()

問8 あなたは、男性の介護休業、介護休暇等の取得についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

【A 男性が取得することについて】

1. 男性も積極的に取得するほうがよい
2. 男性は、取得しないほうがよい
3. 取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい
4. その他()

【B 男性の介護休業等取得の環境について】

1. 環境が整っておらず、環境を整える必要がある
2. 環境は整っていないが、環境を整える必要はない
3. 環境は整ってきたが、さらに環境を整えたほうがよい
4. 環境が整っているので、これ以上環境を整える必要はない
5. その他()

問9 あなたは、男性が介護休業、介護休暇等を取得しない(できない)理由は何だと思いませんか。
(あてはまるものをすべてに○)

1. 周囲に取った男性がいないから
2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから
5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから
6. 経済的に困るから
7. 介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから
8. その他()

問10 あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いませんか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと
2. 男性が参加することへの抵抗感を女性がなくすこと
3. 夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること
4. 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考えを尊重すること
5. 男性が参加することへの社会的評価を高めること
6. 職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること
8. 男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること
10. 乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること
11. 特に必要だと思うことはない
12. その他()

職業や働き方について

問11 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 結婚するまでは、仕事を続けるほうがよい
2. こどもができるまでは、仕事を続けるほうがよい
3. こどもができても雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい
4. こどもができたら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい
(正規雇用から非正規雇用に変える等)
5. こどもができたら仕事を辞め、こどもが大きくなったら再就職するほうがよい
6. 女性は仕事に就かないほうがよい
7. そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない
8. その他()

問12 あなたは、女性が働く上で、問題となることは、主にどのようなことだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家事や育児、介護の負担が大きい
2. 家族の理解や協力が得られない
3. 育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない
4. 職場での男女格差(採用・昇格・昇進・賃金など)がある
5. 職場において結婚や出産による退職の慣例がある
6. 本人または配偶者の転勤がある
7. 長時間労働(残業・休日勤務)が多い、年次有給休暇が取りづらい
8. 就職先が少ない
9. 支障となることは特にない
10. その他()

問13 あなたは、進路や職業を選択する時、自分の性別を意識したことがありますか。(○は1つ)

1. かなり意識した
2. どちらかといえば、意識した
3. どちらかといえば、意識しなかった
4. まったく意識しなかった

問14 あなたは、男女が共に社会で能力を発揮しながら働き続けるためには、主にどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事に必要な知識、技術、能力を身につける
2. 「男は仕事、女は家庭」といった性別役割の意識が変わる
3. 採用、職場配置などにおいて、性別に関わらず、同じように活躍できる機会がある
4. 能力や実績に見合った評価(昇給、昇格、賃金等を含む)がされる
5. 家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する(育児休業、時差勤務など)
6. 育児休業や介護休業が取りやすい職場の理解と協力が得られる
7. 結婚・出産などにより、一旦退職した人が同じ職場に復帰できるようになる
8. その他()

問 15 現在、働いている方にお聞きます。あなたの職場で、次のようなことがありますか。

(○は「はい」か「いいえ」のどちらか1つずつ)

項 目	はい	いいえ
① 賃金に男女差がある	1	2
② 昇進、昇格に男女差がある	1	2
③ 男性の能力を正當に評価しない	1	2
④ 女性の能力を正當に評価しない	1	2
⑤ 女性は補助的業務や雑務が多い	1	2
⑥ 育児休業を取得できない、または取得しにくい	1	2
⑦ 有給休暇を取得できない、または取得しにくい	1	2
⑧ ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント※など)が存在する	1	2
⑨ ハラスメント防止のための規定や相談窓口がない	1	2
⑩ 結婚や出産すると働き続けにくい雰囲気がある	1	2
⑪ 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気がある	1	2
⑫ 希望の職種につく機会に男女差がある	1	2
⑬ 教育や研修を受ける機会に男女差がある	1	2
⑭ 男性と女性で違いはない	1	2
⑮ その他()		

※パタニティ・ハラスメント(パタハラ)・・・男性が育児休業などを希望した時に、職場で嫌がらせを受けること。

問 16 現在、働いている方にお聞きます。あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。(○は1つ)

1. 進んでいると思う 2. どちらかというに進んでいると思う 3. どちらかというに進んでいないと思う 4. 進んでいないと思う 5. わからない
--

問 17 現在働いている方にお聞きします。あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経営者や人事担当者の意識改革※
2. 性別に関わらない、能力に応じた登用
3. 女性管理職登用の数値目標の設定
4. 男女平等な人材育成機会の付与
5. 採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件(転勤など)の緩和
6. 目標としたい・見習いたい人となる女性管理職の育成
7. 女性が管理職になることへの、男性の意識改革※
8. 女性が管理職になることへの、女性の意識改革※
9. 特に必要だと思うことはない
10. その他()

※「意識改革」とは…アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)などを解消すること。
思い込みの例:「管理職は男性が担うもの」、「女性は補助的な仕事を務める」など

問 18 現在、働いていない方にお聞きします。あなたは、今後働きたいと思いますか。(○は1つ)

1. 正社員・正職員として働きたい
2. パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい
3. フリーランス※として独立して働きたい
4. 自分で、店や会社を起業したい
5. 在宅で働ける仕事をしたい
6. 今後も、働きたいとは思わない
7. その他()

※「フリーランス」とは…会社に属さず、個人で仕事をする人

女性の社会参画について

問 19 あなたは、行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で、どのようなことが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 女性議員を増やす
2. 女性が各分野で活躍し、実績を上げる
3. 女性団体が積極的に活動する
4. 国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす
5. 企業・官公庁で女性管理職を登用する
6. 職場で男女平等の取組みを進める
7. 男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する
8. 自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やす
9. その他()

男女共同参画を進めるための取組について

問 20 あなたは、次の用語について知っていますか。(○はそれぞれ1つつつ)

項 目	内容まで 知っている	言葉は 知っている	まったく 知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② ジェンダー (社会的・文化的につくられた性差)	1	2	3
③ ワークライフバランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
④ DV(配偶者などからの暴力)・ デートDV(交際相手などからの暴力)	1	2	3
⑤ 性的マイノリティ(LGBTQ)	1	2	3

問 21 男女共同参画社会を進めるために、あなたは、市では今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【育児】	1. 子育て環境の整備・充実(保育所(園)・放課後児童クラブ(学童保育)など)
	2. ひとり親家庭への支援
	3. 保育所(園)・幼稚園・認定こども園や学校における男女平等教育の充実
【地域生活】	4. 地域活動における男女共同参画の推進
	5. 防災・復興における男女共同参画の推進(女性の視点での防災・復興体制の強化)
	6. 外国人との交流や国際的な取組の情報提供などによる男女共同参画に関する市民の国際意識の向上
	7. 性的マイノリティ(LGBTQ)も含め、多様性を認め合い、あらゆる人が平等に暮らすための取組の強化
【職場生活】	8. 男女共同参画について理解を深めるための意識啓発事業の充実
	9. 職場における男女の均等な取扱いに関しての企業等への働きかけ
【その他】	10. 男女共同参画に関する学習や活動、情報ネットワークなどの拠点となる施設の設置
	11. 女性の就労機会が増えるような情報提供や職業訓練の機会の提供
	12. 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化
	13. その他()

防災について

問 22 防災活動や災害発生時の対応にも男女共同参画の視点が必要だと言われています。今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う
2. 防災計画に男女両方の視点を入れる
3. 町内会・自治会や地域の自主防災組織等など運営に男女がともに参画する
4. 災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する
5. 避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する
6. 男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する
7. 女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う
8. 特に必要ない
9. その他()

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

問 23 あなたは、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)がとれていると思いますか。(○は1つ)

1. とれている
2. どちらかというのとれている
3. どちらかというのとれていない
4. とれていない

問 24 今後、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を推進するために、必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 制度の充実(テレワーク※やフレックスタイム※など)
2. 制度を活用されるような職場環境づくり
3. 働き方の見直しや長時間労働の削減
4. 研修の充実
5. 子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実
6. その他()

※テレワーク…自宅などで働く働き方

フレックスタイム…働く時間を自分で調整できる制度

DV(配偶者等からの暴力)について

問 25 これまでに配偶者や交際相手などから、次にあげるような暴力を受けたことがありますか。

(○はそれぞれ1つつ)

項 目	何度も あった	1、2度 あった	まったく ない
① 命の危険を感じるくらいの身体的暴力(なぐる、けるなど)	1	2	3
② 医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力	1	2	3
③ 医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力	1	2	3
④ 精神的暴力(おどす、無視する、人格を否定するような言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど)	1	2	3
⑤ 性的暴力(性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど)	1	2	3
⑥ 経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)	1	2	3
⑦ こどもを巻き込んだ暴力(こどもの目の前での暴力・暴言など)	1	2	3

問 25-1 問 25 で「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方にお聞きます。

これまでに、だれ(どこ)かに相談しましたか。(○はどちらか1つ)

- | | |
|---------|--------------------|
| 1. 相談した | 2. 相談しなかった(できなかった) |
|---------|--------------------|

問 25-2 問 25-1 で「相談した」と答えた方にお聞きます。

だれ(どこ)に相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 警察
2. 前橋市配偶者暴力相談支援センター
3. 群馬県女性相談支援センター
4. 弁護士等
5. 民間の機関
()
6. 医療関係者(医師、看護師等)
7. 家族・親族
8. 友人・知人
9. 学校関係者(教員、養護教員等)
10. その他()

問 25-3 問 25-1 で「相談しなかった(できなかった)」と答えた方にお聞きます。

相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. どこに相談してよいかわからなかった
2. 人に知られたくなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しをされると思った
5. 相談することによって自分が不快な思いをすることになった
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
7. 被害を受けたことを忘れたかった
8. 相談するほどのことではないと思った
9. その他()

問 26 あなたは、DV 被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口、今後相談するとしたら、どのような配慮をしてほしいですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. メールやチャット、SNS などにより相談ができる
2. 通話料無料で電話相談ができる
3. 24 時間相談ができる
4. 専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる
5. 相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている
6. 同性の相談員がいる
7. 匿名で相談ができる
8. 法的知識や心理専門職など資格を有する相談員がいる
9. 特にない
10. その他()

問 27 DV 被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 気軽に話を聞いてもらえる相談窓口 (SNS 相談を含む)
2. 自分の困りごとを気がねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人
3. 同じような悩みを抱えている人と出会える場所
4. 相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り
5. 生活のための経済的支援
6. 就労支援 (就職先を探すサポート、資格取得支援など)
7. 弁護士等による法的支援
8. カウンセリング等の心理学的支援
9. DV 加害者に対するカウンセリングや立ち直りを支えるプログラムの実施
10. 特にない
11. その他()

前橋市では、相談先一覧を掲載した「DV相談窓口案内カード」を作成し、市内公共施設等の女子トイレに設置しています。
お困りの際は、ぜひご利用ください。

前橋市DV電話相談 ひとりで悩まずに相談してください

専用ダイヤル **027-898-6524**

月～金曜日 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

その他の相談先

- 群馬県女性相談支援センター
- DV相談電話 ☎027-261-4463
- 月～日曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

緊急を要する場合は、110番(警察)へ!

困難な問題を抱える方への支援について

問28 あなたは、次のようなことで困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことはありますか。
 または、家族や知人が抱えている悩みとして、見たり聞いたり相談されたりしたことがあるものは
 ありますか。(あてはまるものすべてに○)

項 目	ご自身 が抱えている (いた)	家族や知人 が抱えている (いた)	該当なし
① 家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	1	2	3
② 職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめや ハラスメントを受けている	1	2	3
③ 仕事が見つからない、仕事が不安定	1	2	3
④ 経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買え ないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	1	2	3
⑤ 健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	1	2	3
⑥ 住まいが定まらない、家に居場所がない	1	2	3
⑦ 孤独・孤立を感じる	1	2	3
⑧ その他()			

問29 問28①～⑦の質問で「ご自身が抱えている(いた)」「家族や知人が抱えている(いた)」と答えた方
 にお聞きます。あなたや周りの人が抱える悩みについて、誰に(どこに)相談しましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 前橋市配偶者暴力相談支援センター 2. 群馬県女性相談支援センター 3. 警察 4. 法務局・地方法務局、人権擁護委員 5. 医療関係者(医師・看護師等) 6. 学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラー等) 7. 民間の専門家や専門機関(弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等) 8. 児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等 9. 勤務先の関係者 10. 家族や親戚 11. 友人・知人 ※ 12. SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人 13. どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった 14. その他()

※学校や職場等で知り合った友人にSNSを通じて相談をした場合は「11 友人・知人」を選択してください。

問30 問29で「13. どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」と答えた方にお聞きします。
相談しない・しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. どこ(だれ)に相談してよいかわからないから
2. 恥ずかしくてだれにも言えないから
3. 相談しても無駄だと思うから
4. 他人を巻き込みたくないから
5. 早く忘れたいから
6. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから
7. 自分にも悪いところがあると思うから
8. 相談した後の影響が不安だった(周りに知られる、被害がより大きくなるなど)
9. 相手の行為は愛情の表現だと思うから(DV被害の場合)
10. 相談するほどのことではないと思うから
11. その他()

■最後に、家庭や職場、地域における男女共同参画について、感じることやご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

質問は、以上で終了です。ご協力ありがとうございました。
ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、
9月26日(金)までにポストに投函してください。
インターネットで回答された場合は、調査票の返送は不要です。

男女共同参画に関する市民意識調査報告書
令和8年3月

前橋市 市民部 共生社会推進課 人権・男女共同参画係
TEL：027-898-6517（直通）
E-mail：sankaku@city.maebashi.gunma.jp